

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第613集

田高<sup>たこう</sup>Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業白山地区関連遺跡発掘調査

2013

岩手県南広域振興局農政部農村整備室

(公財)岩手県文化振興事業団

# 田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業白山地区関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤整備事業白山地区に関連して平成22・23年度に発掘調査された田高Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では縄文時代前期後半の竪穴住居跡、土坑、平安時代のカマド状遺構、12世紀の溝跡、中世の掘立柱建物跡、堀跡、溝跡などが確認されました。今回の調査結果は、縄文時代から中世に至るまでの前沢地区の歴史を知る上で貴重な資料になることと思われまます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県県南広域振興局農政部農村整備室をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成25年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 池田 克典

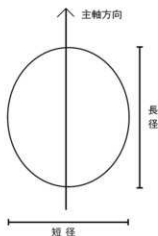
## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県奥州市前沢区白山字鍵取 59 番地ほかに所在する田高Ⅱ遺跡において、平成 22・23 年度に実施した発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、「経営体育成基盤整備事業白山地区」に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、岩手県南広域振興局農政部農村整備室の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。  
なお、費用負担は岩手県教育委員会が、岩手県南広域振興局農政部農村整備室に農家負担分を補助している。
- 3 岩手県遺跡情報検索システムに記載される遺跡番号は NE46-1375、遺跡略号は TKⅡ-10、TKⅡ-11 である。
- 4 野外調査の面積／期間／担当者、室内整理の期間／担当者は次のとおりである。  
平成 22 年度 野外調査  
調査面積：1,480㎡／調査期間：平成 22 年 11 月 8 日～12 月 17 日／担当者：北村忠昭・星雅之・中村絵美・西澤正晴・川又晋・小林弘卓・菅野梢  
平成 23 年度 野外調査  
調査面積：2,000㎡（本調査 1,500㎡、確認調査 500㎡）／調査期間：平成 23 年 4 月 25 日～7 月 28 日／担当者：北村忠昭・中村絵美・杉沢昭太郎  
平成 23 年度 室内整理  
期間：平成 23 年 10 月 3 日～平成 24 年 3 月 31 日／担当者：北村忠昭
- 5 本書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県南広域振興局農政部農村整備室、それ以外を北村忠昭が担当し、編集は北村が行った。
- 6 遺構写真は北村・中村・星・西澤・川又・杉沢が、遺物写真は矢羽々朗が撮影した。
- 7 本書で用いる方位は世界測地系による座標北を示す。レベル高は海拔である。なお、数値は平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以前のものを使用している。ただし、基準点には平成 23 年 5 月 31 日に国土交通省国土地理院が発表した改正成果を並記している。
- 8 各種委託業務は以下の機関に委託した（敬称略）。なお、放射性炭素年代測定・黒曜石の産地同定の結果報告は附編に収録している。  
石質鑑定：花崗岩研究会、金属製品の保存処理：岩手県立博物館、放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所、黒曜石の産地同定：株式会社 第四紀 地質研究所（平成 22 年度）・株式会社 古環境研究所（平成 23 年度）、遺物実測図化業務：株式会社 ラング、基準点測量：株式会社 東北プランニング（平成 22 年度）、株式会社 中央測量設計（平成 23 年度）、航空写真：東邦航空株式会社
- 9 野外調査、室内整理にあたり岩手県南広域振興局農政部農村整備室、奥州市教育委員会、奥州市総合政策部政策企画課 世界遺産登録推進室、近隣住民の方々の御理解と御協力をいただいた。
- 10 発掘調査や整理・報告書の作成は以下の方々に御教示・御協力を頂いた。（アイウエオ順、敬称略）及川真紀、明治大学文化財研究施設（杉原重夫・金成太郎・佐藤裕亮・弦巻千晶）、山口利男
- 11 本報告書では、国土地理院発行 1：50,000 地形図「水沢」、1：25,000 地形図「水沢」「前沢」を使用した。

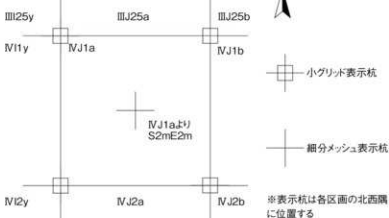
- 12 土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 色票監修「新版 標準土色帖」2002年度版に準拠した。
- 13 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 14 本報告書発行以前に平成22・23年度発掘調査報告書で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

## 凡 例

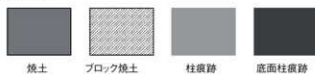
<遺 構>



グリッド表示方法



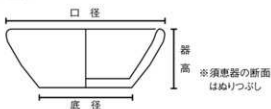
(使用トーン)



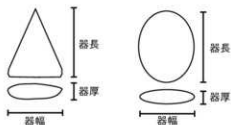
遺構の注記は「主」「副」の順で記載。  
例シルト質砂→シルトが主、砂が副  
表記には以下の略号を使用した。  
SI:シルト Sn:砂 C:粘土  
M:泥土 So:土 CSI:粘土質シルト  
SIS:シルト質砂 SIC:シルト質粘土

<遺 物>

土器類



石器類



(表現方法・使用トーン)



当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである。

大コンテナ: 42×32×30 cm 中コンテナ: 42×32×20 cm 小コンテナ: 42×32×10 cm

## 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地・環境	2
1	地理的環境	2
(1)	遺跡の位置と立地	2
(2)	遺跡周辺の地形と地質	2
(3)	基本層序	5
2	歴史的環境	7
III	調査の方法	11
1	野外調査	11
2	室内整理	20
IV	分類基準	21
1	土器類	21
2	石器・石製品	21
V	検出遺構と出土遺物	29
1	概要	29
2	検出遺構	29
(1)	竪穴住居跡(SI)	29
(2)	掘立柱建物跡(SB)	39
(3)	土坑(SK)	67
(4)	堀跡・溝跡(SD)	84
(5)	焼土遺構(SN)	135
(6)	不明遺構(SX)	137
(7)	柱穴(P)	143
3	出土遺物	166
(1)	土器(縄文時代)	166
(2)	土製品・粘土塊	184
(3)	石器(縄文時代)	184
(4)	石製品(縄文時代)	234
(5)	土器(平安時代)	241
(6)	かわらけ	241
(7)	陶器(中近世)	241
(8)	磁器(中近世)	241
(9)	石器(古代以降)	243
(10)	硯(古代以降)	246
(11)	銭貨	246
(12)	金属製品	246

VI ま と め	263
附編 田高Ⅱ遺跡の自然科学分析	273
放射性炭素年代測定	273
黒曜石産地同定1	283
黒曜石産地同定2	287
黒曜石産地同定3	297
報告書抄録	421

## 図版目次

第1図 遺跡位置図	1	第34図 SB45・46・51～53	61
第2図 調査区と周辺の地形	3	第35図 SB54～56	64
第3図 地形区分図	4	第36図 SB58～61	66
第4図 基本層序	6	第37図 SK (1)	85
第5図 周辺の遺跡	8	第38図 SK (2)	86
第6図 全体図・グリッド配置図	12	第39図 SK (3)	87
第7図 遺物取り上げグリッド図	13	第40図 SK (4)	88
第8図 遺構配置図部分1	14	第41図 SK (5)	89
第9図 遺構配置図部分2	15	第42図 SK (6)	90
第10図 遺構配置図部分3	16	第43図 SK (7)	91
第11図 土器分類図	25	第44図 SK (8)	92
第12図 石器分類図(1)	26	第45図 SK (9)	93
第13図 石器分類図(2)	27	第46図 SK (10)	94
第14図 石器分類図(3)	28	第47図 SD (1)	116
第15図 SI02	31	第48図 SD (2)	117
第16図 SI11	32	第49図 SD (3)	118
第17図 SI12	33	第50図 SD (4)	119
第18図 SI13	33	第51図 SD (5)	120
第19図 SI14・15	35	第52図 SD (6)	121
第20図 SI16	36	第53図 SD (7)	122
第21図 SI21	38	第54図 SD (8)	123
第22図 SB01・02	40	第55図 SD (9)	124
第23図 SB03・05	42	第56図 SD (10)	125
第24図 SB06・07	44	第57図 SD (11)	126
第25図 SB08	45	第58図 SD (12)	127
第26図 SB09	47	第59図 SD (13)	128
第27図 SB10	48	第60図 SD (14)	129
第28図 SB11	49	第61図 SD (15)	130
第29図 SB12・13	51	第62図 SD (16)	131
第30図 SB14・15	52	第63図 SD (17)	132
第31図 SB16・17	54	第64図 SD (18)	133
第32図 SB18～20	56	第65図 SD (19)	134
第33図 SB41～44	59	第66図 SN	136

第 67 図	SX (1) ……………	138	第 113 図	石器 (縄文時代11) ……………	200
第 68 図	SX (2) ……………	140	第 114 図	石器 (縄文時代12) ……………	201
第 69 図	SX (3) ……………	141	第 115 図	石器 (縄文時代13) ……………	202
第 70 図	柱穴 (1) ……………	143	第 116 図	石器 (縄文時代14) ……………	203
第 71 図	柱穴 (2) ……………	144	第 117 図	石器 (縄文時代15) ……………	204
第 72 図	柱穴 (3) ……………	145	第 118 図	石器 (縄文時代16) ……………	205
第 73 図	柱穴 (4) ……………	146	第 119 図	石器 (縄文時代17) ……………	206
第 74 図	柱穴 (5) ……………	147	第 120 図	石器 (縄文時代18) ……………	207
第 75 図	柱穴 (6) ……………	148	第 121 図	石器 (縄文時代19) ……………	208
第 76 図	柱穴 (7) ……………	149	第 122 図	石器 (縄文時代20) ……………	209
第 77 図	柱穴 (8) ……………	150	第 123 図	石器 (縄文時代21) ……………	210
第 78 図	柱穴 (9) ……………	151	第 124 図	石器 (縄文時代22) ……………	211
第 79 図	柱穴 (10) ……………	152	第 125 図	石器 (縄文時代23) ……………	212
第 80 図	柱穴 (11) ……………	153	第 126 図	石器 (縄文時代24) ……………	213
第 81 図	柱穴 (12) ……………	154	第 127 図	石器 (縄文時代25) ……………	214
第 82 図	柱穴 (13) ……………	155	第 128 図	石器 (縄文時代26) ……………	215
第 83 図	柱穴 (14) ……………	156	第 129 図	石器 (縄文時代27) ……………	216
第 84 図	柱穴 (15) ……………	157	第 130 図	石器 (縄文時代28) ……………	217
第 85 図	土器 (縄文時代 1) ……………	167	第 131 図	石器 (縄文時代29) ……………	218
第 86 図	土器 (縄文時代 2) ……………	168	第 132 図	石器 (縄文時代30) ……………	219
第 87 図	土器 (縄文時代 3) ……………	169	第 133 図	石器 (縄文時代31) ……………	220
第 88 図	土器 (縄文時代 4) ……………	170	第 134 図	石器 (縄文時代32) ……………	221
第 89 図	土器 (縄文時代 5) ……………	171	第 135 図	石器 (縄文時代33) ……………	222
第 90 図	土器 (縄文時代 6) ……………	172	第 136 図	石器 (縄文時代34) ……………	223
第 91 図	土器 (縄文時代 7) ……………	173	第 137 図	石器 (縄文時代35) ……………	224
第 92 図	土器 (縄文時代 8) ……………	174	第 138 図	石器 (縄文時代36) ……………	225
第 93 図	土器 (縄文時代 9) ……………	175	第 139 図	石器 (縄文時代37) ……………	226
第 94 図	土器 (縄文時代10) ……………	176	第 140 図	石器 (縄文時代38) ……………	227
第 95 図	土器 (縄文時代11) ……………	177	第 141 図	石器 (縄文時代39) ……………	228
第 96 図	土器 (縄文時代12) ……………	178	第 142 図	石器 (縄文時代40) ……………	229
第 97 図	土器 (縄文時代13) ……………	179	第 143 図	石器 (縄文時代41) ……………	230
第 98 図	土器 (縄文時代14) ……………	180	第 144 図	石器 (縄文時代42) ……………	231
第 99 図	土器 (縄文時代15) ……………	181	第 145 図	石器 (縄文時代43) ……………	232
第 100 図	土器 (縄文時代16) ……………	182	第 146 図	石器 (縄文時代44) ……………	233
第 101 図	土器 (縄文時代17) ……………	183	第 147 図	石器 (縄文時代45) ……………	234
第 102 図	土製品・粘土塊 ……………	183	第 148 図	石器 (縄文時代46)・石製品 (縄文時代 1) ……………	235
第 103 図	石器 (縄文時代 1) ……………	190	第 149 図	石製品 (縄文時代 2) ……………	236
第 104 図	石器 (縄文時代 2) ……………	191	第 150 図	石製品 (縄文時代 3) ……………	237
第 105 図	石器 (縄文時代 3) ……………	192	第 151 図	石製品 (縄文時代 4) ……………	238
第 106 図	石器 (縄文時代 4) ……………	193	第 152 図	石製品 (縄文時代 5) ……………	239
第 107 図	石器 (縄文時代 5) ……………	194	第 153 図	土器 (平安時代) ……………	240
第 108 図	石器 (縄文時代 6) ……………	195	第 154 図	かわらけ ……………	242
第 109 図	石器 (縄文時代 7) ……………	196	第 155 図	陶器 (中近世 1) ……………	242
第 110 図	石器 (縄文時代 8) ……………	197	第 156 図	陶器 (中近世 2) ……………	243
第 111 図	石器 (縄文時代 9) ……………	198	第 157 図	磁器 (中近世) ……………	243
第 112 図	石器 (縄文時代10) ……………	199			



第158 図	石器・石製品(中近世)……………	244	第162 図	縄文時代の遺構配置……………	264
第159 図	硯(古代以降)……………	245	第163 図	掘立柱建物分類図……………	268
第160 図	銭貨……………	245	第164 図	掘立柱建物主軸方向分布……………	269
第161 図	金属製品……………	245	第165 図	掘立柱建物分布図……………	270

## 表 目 次

第1 表	層名対応表……………	7	第10 表	石器計測表(縄文時代1~3)……………	258~260
第2 表	周辺の遺跡……………	9	第11 表	石製品計測表(縄文時代)……………	260
第3 表	遺構名対応表……………	18	第12 表	石器・石製品計測表(古代以降)……………	260
第4 表	遺構一覧……………	30	第13 表	土器観察表(平安時代)……………	261
第5 表	柱穴一覧(1~8)……………	158~165	第14 表	かわらけ観察表……………	261
第6 表	土器観察表(縄文時代1~5)……………	247~251	第15 表	石器・硯観察表(古代以降)……………	261
第7 表	土製品・粘土塊観察表……………	251	第16 表	陶磁器観察表(中近世)……………	262
第8 表	石器観察表(縄文時代1~6)……………	252~257	第17 表	銭貨・金属製品観察表……………	262
第9 表	石製品観察表(縄文時代)……………	257			

## 写真図版目次

写真図版 1	空撮(1)……………	317	写真図版 26	SK04-06-07-10……………	342
写真図版 2	空撮(2)……………	318	写真図版 27	SK13-16-17-23……………	343
写真図版 3	現況……………	319	写真図版 28	SK18-28-31……………	344
写真図版 4	層序……………	320	写真図版 29	SK29-30-36……………	345
写真図版 5	SI02……………	321	写真図版 30	SK38-53-55-56……………	346
写真図版 6	SI11……………	322	写真図版 31	SK57-59-61……………	347
写真図版 7	SI12……………	323	写真図版 32	SK64-67……………	348
写真図版 8	SI13……………	324	写真図版 33	SK69-71-73-南東区北……………	349
写真図版 9	SI14-15……………	325	写真図版 34	SK74-76-81……………	350
写真図版 10	SI16……………	326	写真図版 35	SK82-85-87……………	351
写真図版 11	SI21……………	327	写真図版 36	SK88-91……………	352
写真図版 12	SB01-03……………	328	写真図版 37	SK121-131-133……………	353
写真図版 13	SB04-06……………	329	写真図版 38	SK135-142-143-145……………	354
写真図版 14	SB07-09……………	330	写真図版 39	SD51……………	355
写真図版 15	SB10-12……………	331	写真図版 40	SD28……………	356
写真図版 16	SB13-15……………	332	写真図版 41	SD35-37……………	357
写真図版 17	SB16-18……………	333	写真図版 42	SD01-02-07-11……………	358
写真図版 18	SB19-20-41……………	334	写真図版 43	SD08-SX26……………	359
写真図版 19	SB42-44……………	335	写真図版 44	SD12-15-17-19-20-25……………	360
写真図版 20	SB45-46-51……………	336	写真図版 45	SD21-26-29……………	361
写真図版 21	SB52-54……………	337	写真図版 46	SD27-30-31-38-40……………	362
写真図版 22	SB55-56-58……………	338	写真図版 47	SD32-34-36……………	363
写真図版 23	SB59-61……………	339	写真図版 48	SD42-45……………	364
写真図版 24	SK41-137(1)……………	340	写真図版 49	SD52-54……………	365
写真図版 25	SK137(2)・141……………	341	写真図版 50	SD56-59……………	366

写真図版 51	SD61~64	367	写真図版 79	土器 (縄文時代14)・土製品・粘土塊 (縄文時代)	395
写真図版 52	SD65~69	368	写真図版 80	石器 (縄文時代1)	396
写真図版 53	SD70~73	369	写真図版 81	石器 (縄文時代2)	397
写真図版 54	SD93・101~104	370	写真図版 82	石器 (縄文時代3)	398
写真図版 55	SD105~108・111・113	371	写真図版 83	石器 (縄文時代4)	399
写真図版 56	SD112・114・117・119	372	写真図版 84	石器 (縄文時代5)	400
写真図版 57	SN11・16・SX23	373	写真図版 85	石器 (縄文時代6)	401
写真図版 58	SX01・02・21・22	374	写真図版 86	石器 (縄文時代7)	402
写真図版 59	SX24・25・27・28	375	写真図版 87	石器 (縄文時代8)	403
写真図版 60	調査区全景 (1)	376	写真図版 88	石器 (縄文時代9)	404
写真図版 61	調査区全景 (2)	377	写真図版 89	石器 (縄文時代10)	405
写真図版 62	調査区全景 (3)	378	写真図版 90	石器 (縄文時代11)	406
写真図版 63	調査区全景 (4)	379	写真図版 91	石器 (縄文時代12)	407
写真図版 64	調査区全景 (5)・現地説明会 (1)	380	写真図版 92	石器 (縄文時代13)	408
写真図版 65	現地説明会 (2)	381	写真図版 93	石器 (縄文時代14)	409
写真図版 66	土器 (縄文時代1)	382	写真図版 94	石器 (縄文時代15)	410
写真図版 67	土器 (縄文時代2)	383	写真図版 95	石器 (縄文時代16)	411
写真図版 68	土器 (縄文時代3)	384	写真図版 96	石器 (縄文時代17)	412
写真図版 69	土器 (縄文時代4)	385	写真図版 97	石器 (縄文時代18)	413
写真図版 70	土器 (縄文時代5)	386	写真図版 98	石製品 (縄文時代1)	414
写真図版 71	土器 (縄文時代6)	387	写真図版 99	石製品 (縄文時代2)	415
写真図版 72	土器 (縄文時代7)	388	写真図版 100	土器 (平安時代)	416
写真図版 73	土器 (縄文時代8)	389	写真図版 101	かわらけ・陶器 (1)	417
写真図版 74	土器 (縄文時代9)	390	写真図版 102	陶器 (2)・磁器	418
写真図版 75	土器 (縄文時代10)	391	写真図版 103	石器 (中近世)・硯・錢貨・金属製品	419
写真図版 76	土器 (縄文時代11)	392	写真図版 104	鉄滓	420
写真図版 77	土器 (縄文時代12)	393			
写真図版 78	土器 (縄文時代13)	394			

## I 調査に至る経過

田高Ⅱ遺跡は、「経営体育成基盤整備事業白山地区」のほか整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

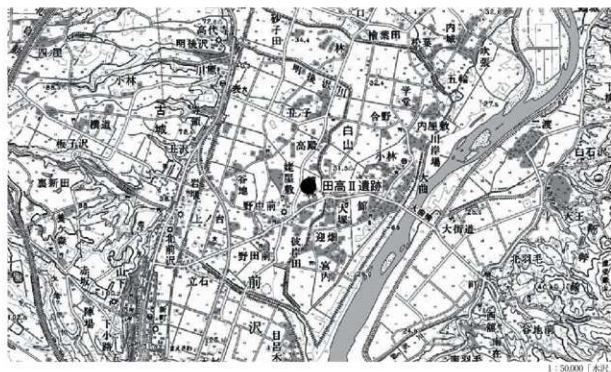
本地区は奥州市前沢区の中心部より北東4km程に位置し、現況は小区画・不整形な水田で、なおかつ幅員狭小な農道となっていることから、作業効率が悪く、また用排水兼用の土間溝水路のため、用水不足や排水不良となっており、維持管理に支障を来しているところである。このため、本事業地区においては、大区画ほ場整備を実施することで、農作業の効率化、生産コストの削減、生産性の向上等を図り、農地集積による安定した経営体および担い手農家の育成を目的として事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、県南広域振興局農政部農村整備室から平成21年10月7日付県南広農整第137-4号から平成22年10月29日付県南広農整第123-6号「経営体育成基盤整備事業白山地区に係る埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成21年11月16日から平成22年11月12日にかけてそれぞれ試掘調査を実施し、工事に着手するには田高Ⅱ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成22年1月29日付教生第1321号から平成22年12月13日付教生第1111号「経営体育成基盤整備事業白山地区予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」によりそれぞれ回答してきた。

その結果を踏まえ、当農村整備室は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成22年9月10日付け及び平成23年4月1日付けで（公益）財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの間で2か年にかけて委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（岩手県県南広域振興局農政部農村整備室）



第1図 遺跡位置図

## II 遺跡の立地・環境

### 1 地理的環境

#### (1) 遺跡の位置と立地

田高II遺跡の所在する奥州市前沢区は岩手県南部に位置し、北上川低地帯の中央部、北緯39度4分7秒、東経141度8分53秒付近に所在する。平成18年に旧水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の2市2町1村による広域合併により誕生した奥州市は、北は北上市・金ヶ崎町、南は一関市・平泉町と接している。面積では一関市に次いで県内第2位の規模を誇り、人口約12.5万人（平成24年2月現在）を抱える都市となっている。奥州市は北上川により齎された肥沃かつ広大な土壌を活かした農業が盛んであり、江刺金札米や江刺りんごをはじめとして前沢牛等の畜産物にも力を入れ、その名を全国に轟かせている。

前沢区は北上川西岸側にJR東北本線、国道4号線、東北縦貫自動車道が、東岸側にはJR東北新幹線が縦断しており、平泉町との市町村界付近には東北縦貫自動車道の平泉・前沢インターチェンジが開設されるなど、交通の要所となっている。

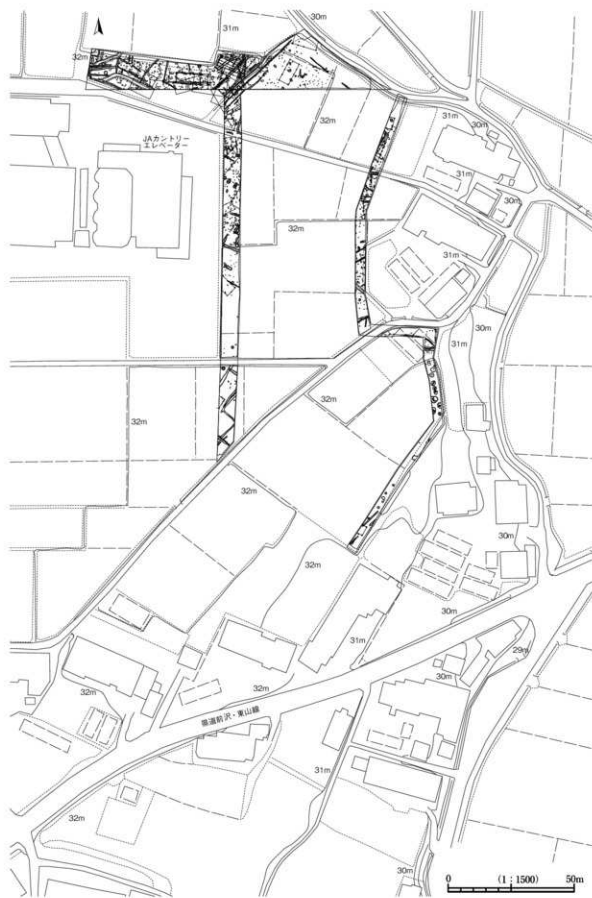
田高II遺跡は奥州市前沢総合支所の北東約2.5kmに位置し、前沢区北部の白山地区に所在する。北上川右岸の水沢高位段丘上に立地しており、調査前の現況は水田・畑地であった。遺跡の東側を南流する明後沢川により開析され、比高差1m程の段丘崖となっている。遺跡の標高は31~32m前後で、昭和30年代の圃場整備により地形変化を受け、ほぼ平坦な地形となっている。また、当初の遺跡範囲より遺構は北側に分布しているが、その北側は前述の圃場整備により、残存していない。本遺跡の約1km東には、北上川が南流している。現在の北上川河床面からの高さは約10mである。

#### (2) 遺跡周辺の地形と地質

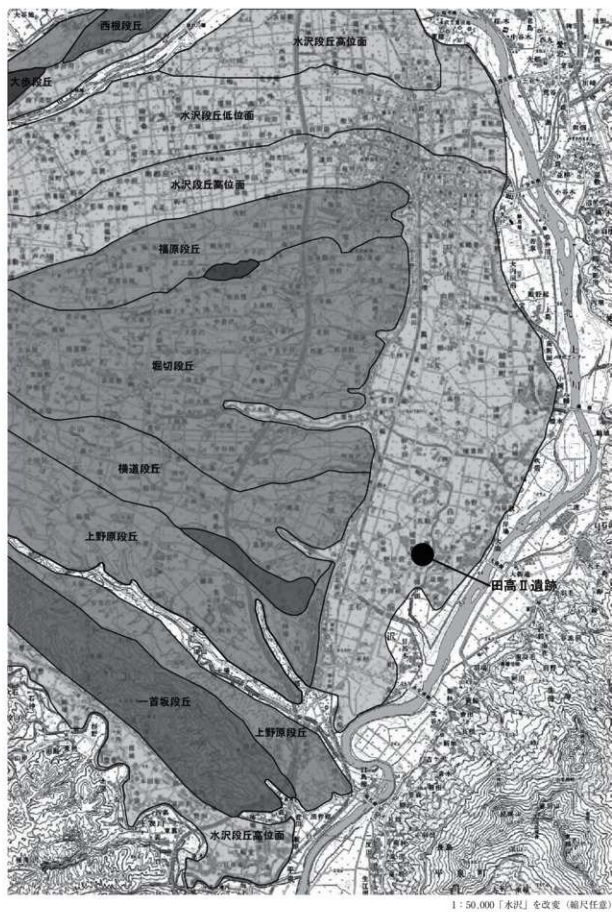
北上川は県北部の岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長243km、流域面積10,720km<sup>2</sup>、支流数216を数える、東北地方最大の一級河川であり、北上川の西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。この流域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐禅寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、北上市周辺は中流域の下部、北上盆地にあたる。北上盆地は北上川とその支流が形成している様々な扇状地や段丘によって構成され、東西は奥羽山脈から北上山地に及び、南北90kmにも及ぶ帯状の盆地である。北上川右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川中流域の地形は背後に控える山地構造の違いによって対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、北上川に注ぐ多くの支流を持ち、それぞれに多量の土砂を供給し、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地が複雑に入り組む扇状地状の広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化したものである。これに対して、老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵地縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

前沢区の地形区分は、東部の北上山地西縁の山麓丘陵地区、北上川西岸に発達する沖積低地及び低位段丘面を含む低地地区、西部に形成された段丘地区に3区分される（前沢町教委 1998）。北上川



第2図 調査区と周辺の地形



第3図 地形区分図

西岸には北上川流域で最大の扇状地形が発達しており、奥州市胆沢区市野々地区を扇頂として面積約200km<sup>2</sup>に達する胆沢扇状地が形成されている。胆沢扇状地は胆沢川の影響を受け段丘化しており、高位から順に大歩段丘、一首坂段丘、西根段丘、上野原段丘、横道段丘、堀切段丘、福原段丘、水沢高位段丘、水沢低位段丘と呼ばれており、田高II遺跡は水沢高位段丘の東側縁辺部に位置する。一方北上川東岸の生母地区においては段丘の発達は乏しく、大東町方向の山麓部に僅かに中位・低位段丘に比定できる平坦面が点在している。北上川の流路沿いには沖積地が形成されている。

### (3) 基本層序(第4図、写真図版4)

平成22年度の調査区以外には最大でも幅7m程の細い調査区が広範囲にわたっている。ほぼ平坦で、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が行った試掘の際の層序観察と大差がなかったため、基本的には、試掘のデータを基本とした。各層は以下のとおりである。

I層 現在の表土層、盛土層、旧耕作土層である。5層に分層したが、近年の堆積層であるため、遺物の取り上げ時には一括して扱っている。

I層 10YR2/3 黒褐 腐植土層。現在の表土層(耕作土層)である。層厚は約0~20cmである。I a層が観察される平成22年度調査区西側以外で確認できる。

I a層 10YR4/4 褐 粘土層。現代の盛土整地層である。φ3~20mmの黄褐色粘土ブロック、礫が混入する。層厚は約0~15cmである。主に、平成22年度調査区西側で観察される。

I b層 10YR5/6 黄褐 粘土層。地山粘土による現代の盛土整地層である。東側北半では厚く堆積しており、40~50cm程になる。層厚約0~50cm。

I b'層 10YR2/2.5 黒褐~暗褐 粘土質シルト層。現代の盛土整地層。φ5~20mmの黄褐色粘土ブロックが多量に混入する。近隣の方によると、耕作に使用しない表土を集めて盛り上げたもので、土器状を呈している。南東区南側北半のみで観察でき、層厚は最大で90cmである。

I c層 10YR4/3 ぶい黄褐 粘土質シルト層。層厚は3~5cmと薄く、水田の床土層と考えられる。I層直下やI b'層直下でも観察される。

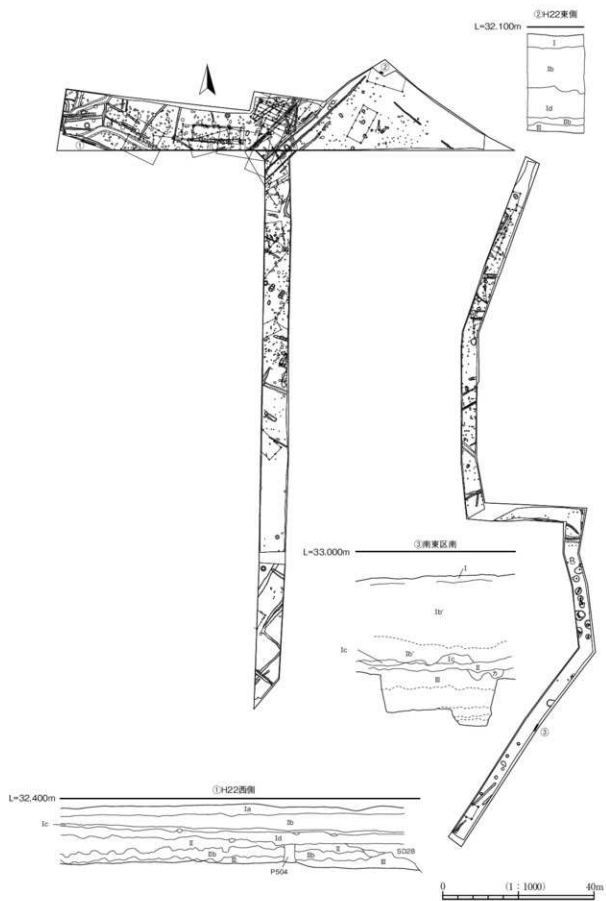
I d層 10YR2/3 黒褐 シルト質粘土層。圃場整備以前の表土層と考えられる。層厚は10~30cmである。主に、平成22年度調査区西側及び東側北半で観察される。

II層 主に、縄文時代前期後葉の遺物を包含する堆積層である。北東区以外で確認できる。層厚は約5~20cmである。

10YR2/2 黒褐 シルト質粘土 粘性中、しまりやや有。

平成22年度調査区西側と西区では、特に本層中に縄文土器の包含が確認され、縄文時代前期の包含層と考えていた。しかし、平成22年度調査区西側では、本来本層上面で検出されるべき中世期に帰属すると考えられる遺構が本層上面では不明瞭で、III層上面で検出されるものが多い傾向が見られ、本層がプライマリーなものであるか判断できないままに翌年度を迎えた。本格的な整理作業を行えなかった平成22年度と異なり、平成23年度の整理作業の中で、常滑産の陶器が包含することが確認された。また、14~15世紀に帰属するSD28は本層上面より構築されており、本層が少なくとも中世期において堆積したものであることが判明した。ただし、本層から出土した多くの縄文時代に帰属する遺物は検出された縄文時代前期の遺構との矛盾がなく、本遺跡の縄文時代を反映する遺物であると捉えている。

II b層 漸移層である。H22年度調査区東側西半から西側にかけて部分的に確認できる。層厚は約10cmである。遺物は出土していない。



第4図 基本層序



第1表 層名対応表

層名	現地名	日笠西側	日笠中央	日笠東側	北西区	西北区	西南区	南西区	北東区	東北区	東南区	南東区北	南東区南
I	深土層・I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Ia	深土層・Ia	○											
Ib	深土層	○	△	○	△	○	○	○					
Ic	深土層												○
Ie	床土層	○						○	○	△	△	△	○
Ig	貝殻土層			○									
II	II層	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○
III	III層												

○は部分的に確認できる層

S90

層名	現地名	層名	現地名
1層	1層	5層	4層
2層	2層	6層	6層
3層	3層	7層	7層
4層	3層	8層	8層

S108

層名	現地名	層名	現地名	層名	現地名
1層	3層	-	4層	6層	5層
2層	4層	-	5層	7層	6層
3層	5層	-			

10YR3.5/3.5暗褐～にぶい黄褐 粘土質シルト 粘性有、しまりやや有。

Ⅱ層 いわゆる「地山」と呼ばれる堆積層で、すべての遺構の検出面である。細分は可能であるが、本層以下では、遺構・遺物が確認できないため、一括している。Ⅱb層が残存しない場所では、本層上面で各種の遺物が出土しているが、本層に伴うものは皆無である。層厚は不明である。

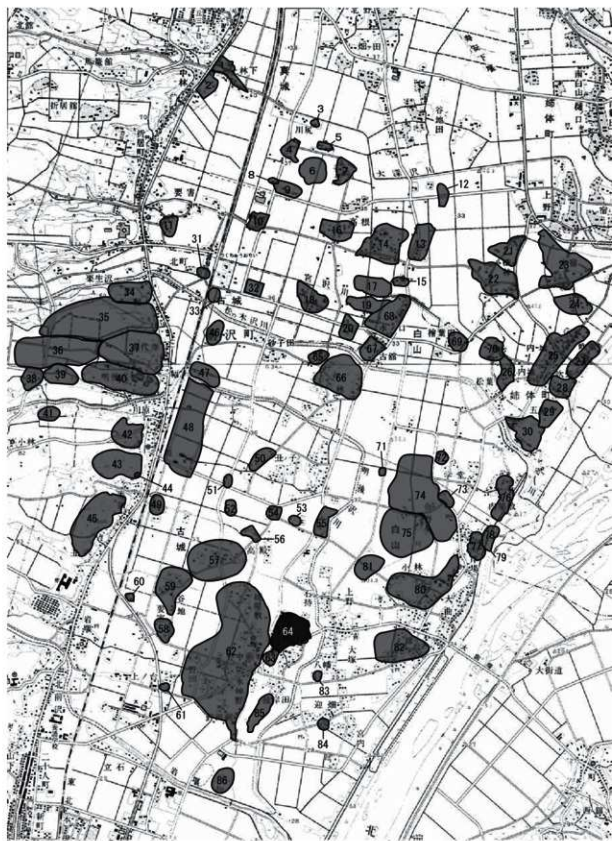
10YR5/7黄褐 粘土 粘性有、しまりやや有。

## 2 歴史的環境

奥州市前沢区内に所在する遺跡数は、平成17年12月末現在で140箇所に及ぶ（岩手県遺跡情報検索システム「水沢・一関・千厩地方振興局管内」による）。そのうち旧石器時代に該当する遺跡は北上川西岸地区では長根遺跡、北上川東岸地区では生母宿遺跡のみであったが、瀬ノ木遺跡（平成19年）、水尻遺跡（同21年：第5図52、以下第5図省略）の2遺跡が調査され、4遺跡となった。一首坂段丘上に所在する長根遺跡では、過去に旧石器時代の石刃と思われる石器が採取されたと言われているが詳細に関しては不明である（前沢市教委 2000）。水尻高段丘上に所在する生母宿遺跡は平成11年に前沢市教育委員会により発掘調査が行われており、ナイフ形石器等が出土したことで北上盆地南西部の流域で初の旧石器時代遺跡の調査例として注目される。また、胆沢区では上萩森遺跡、岩洞堤遺跡から旧石器が出土している。岩洞堤遺跡は平成18・19年に当センターによる発掘調査が行われており、後期旧石器時代のナイフ形石器等が出土したことで横渡段丘上に所在する遺跡で初めての旧石器出土例となった。近隣の市町村においては一関市のまつるべB遺跡、結渡遺跡、山田遺跡、水口遺跡、百目木遺跡、金森遺跡、金ヶ崎町の柏山館遺跡、細野北遺跡から旧石器の出土が確認されている。

縄文時代草創期から早期、前期前半に該当する古い時代の遺跡は一首坂段丘上に多く分布しており、六本松遺跡や照井館遺跡が知られている。照井館遺跡においては時代前期の土器や石器が採取されており、同時期の土器が採集されている近隣の南陣場遺跡との関連が予想されている。小林繁長遺跡(80)においては昭和61年には前沢町教育委員会、平成19年には当センターにより発掘調査が行われ、縄文時代中期前葉から中葉、晩期後半、弥生時代の遺物が確認されている。川岸場Ⅰ遺跡(77)、川岸場Ⅱ遺跡(78)からは晩期前葉の堅穴住居4棟、後期後葉から晩期にかけての遺物包含層等が検出されており、晩期末から弥生初頭と考えられる埋設土器が確認されている。

奈良時代に該当する遺跡は四反田Ⅱ遺跡(54)、迎畑遺跡(84)など数遺跡しか確認されていないが、平安時代に該当する遺跡としては大塚遺跡、目呂木本杉遺跡、泊ヶ崎遺跡等が挙げられるが、部分的な調査のみの詳細は不明である。白鳥館遺跡は安倍氏が築いた白鳥櫓に擬定されており、奥州藤原氏関



1:30,000 (1:25,000「本沢」「前沢」「古戸」を改変)

第5図 周辺の遺跡

第2表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代	所在地
1	上林下	散布地	古代	(水)真城字上林下
2	中林下	集落跡	平安	(水)真城字中林下
3	真城落合	散布地	平安	(水)真城字落合
4	土手北	散布地	平安	(水)真城字土手
5	土手南	散布地	平安	(水)真城字土手
6	二ッ洞	散布地	平安・中世	(水)真城字二ッ洞
7	二ッ洞北	散布地	平安	(水)真城字二ッ洞
8	二ッ洞南	散布地	平安	(水)真城字二ッ洞
9	谷地窟	散布地	平安	(水)真城字谷地窟
10	谷地	散布地・城館跡	平安・近世	(水)真城字谷地
11	要害	城館跡	中世・近世	(水)真城字要害
12	下植田	散布地	平安	(水)真城字下植田
13	南下田	散布地	平安	(水)真城字南下田
14	遊野Ⅰ	散布地	古代	(水)真城字遊野
15	遊野Ⅱ	散布地	古代	(水)真城字遊野
16	高根Ⅰ	散布地	古代	(水)真城字高根・砂川
17	高根Ⅱ	散布地	古代	(水)真城字高根
18	栗林	経塚・屋敷跡	中世・近世	(水)真城字八反町
19	堂田Ⅰ	散布地	古代	(水)真城字堂田
20	堂田Ⅱ	散布地	古代	(水)真城字堂田
21	漆林Ⅰ	散布地	縄文?・古代	(水)綿帯町字漆林
22	漆林Ⅱ	散布地	古代	(水)綿帯町字漆林
23	水宿遊畑	散布地	弥生	(水)綿帯町字遊畑
24	遊畑	散布地・城館跡?	平安?	(水)綿帯町字諏訪原敷
25	内城吹張	散布地	縄文～平安	(水)綿帯町字内城・野中
26	内城野中	散布地	縄文～平安	(水)綿帯町字内城・野中
27	吹張	散布地	平安	(水)綿帯町字吹張
28	吹張稻戸	散布地	平安	(水)綿帯町字吹張・稻戸
29	稻戸	散布地	古代	(水)綿帯町字稻戸
30	五輪	散布地	縄文	(水)綿帯町字五輪
31	北館	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字北館
32	北館東Ⅰ	散布地	古代	(前)古城字北館東
33	北館東Ⅱ	散布地	縄文・古代	(前)古城字北館東
34	畑野	散布地	平安	(前)古城字畑
35	稲	散布地・瓦窯跡?	縄文・平安	(前)古城字稲・雨道・志人沢
36	前堀	散布地	縄文・古代	(前)古城字前堀
37	八郎館	散布地・城館跡	縄文・平安・中世	(前)古城字高代寺
38	鳥子沢	散布地・城館跡	平安・中世	(前)古城字鳥子沢
39	明後沢	集落跡・城館跡	平安	(前)古城字明後沢・総沢
40	宗向館	城館跡	平安・中世	(前)古城字總沢
41	長者館	城館跡	中世	(前)古城字南上野
42	九郎館	城館跡	中世	(前)古城字南上野
43	寺ノ上	散布地	古代	(前)古城字寺ノ上
44	寺ノ上経塚	経塚	中世	(前)古城字寺ノ上
45	古城上野	散布地	縄文・中・古代	(前)古城字寺領上野

No.	遺跡名	種別	時代	所在地
46	砂子田	散布地	古代	(前)古城字砂子田
47	籠合下	散布地	平安	(前)古城字籠合下
48	下町	散布地	縄文・平安	(前)古城字下町・東見寺下・荒屋敷沖
49	寺領沖	散布地	古代	(前)古城字寺領沖
50	中畑城	城館跡	中世	(前)古城字水西
51	内ノ町	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字内ノ町
52	水尻	集落跡	旧石器・縄文・平安・近世	(前)古城字水尻
53	四反田Ⅰ	集落跡	奈良	(前)古城字四反田堀内
54	四反田Ⅱ	集落跡	奈良・平安・縄文	(前)古城字四反田堀内
55	古城方八丁	集落跡	縄文・古代	(前)古城字宿ノ前
56	高殿	集落跡	古代・近世	(前)古城字
57	埴田	散布地	縄文・平安	(前)古城字埴田ほか
58	要害	散布地・環濠屋敷跡	古代・中世	(前)古城字要害
59	要害Ⅱ	散布地・環濠屋敷跡	古代・中世	(前)古城字要害・龜田・谷地
60	龜田	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字龜田
61	上ノ台	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字上ノ台
62	安久沢	散布地	縄文	(前)古城字天神野ほか
63	田高Ⅰ	散布地	縄文	(前)白山字田高・蕨林
64	田高Ⅱ	集落跡・環濠屋敷跡	縄文・古・中	(前)白山字藤取
65	林Ⅰ	散布地	古代	(前)古城字林後
66	林Ⅱ	散布地	古代	(前)古城字林後
67	六日入	城館跡	古代・中世	(前)白山字古館
68	水ノ口	集落跡	縄文・平安	(前)白山字水ノ口
69	榎栗田	散布地	平安	(前)白山字榎栗田
70	松栗	散布地	平安	(前)白山字松栗
71	川前	集落跡	古代	(前)白山字川前
72	学堂	散布地	平安	(前)白山字学堂
73	学堂Ⅱ	散布地	古代	(前)白山字学堂
74	道上	集落跡	縄・平・中・近	(前)白山字道上
75	合野	集落跡	縄・平・近	(前)白山字合野
76	内屋敷	集落跡	平安	(前)白山字内屋敷
77	川岸場Ⅰ	集落跡	縄晩・弥・平	(前)白山字川岸場
78	川岸場Ⅱ	集落跡・環濠屋敷跡	縄晩・弥・平・近	(前)白山字川岸場
79	大塚経塚	一字一石経塚	中世末	(前)白山字川岸場
80	小林繁長	集落跡	縄中晩・弥・平	(前)白山字小林・古厩
81	白山上野	散布地	縄文後	(前)白山字上野
82	上麻生城	城館跡	古代・中世	(前)白山字館
83	八幡	集落跡	古代・中世	(前)白山字八幡
84	遊畑	散布地	奈良・平安	(前)白山字遊畑・宮内
85	熊厚田	散布地	縄文・平安	(前)白山字熊厚田
86	安倍館	城館跡?	古代・中世	(前)学安倍館

連の遺跡として注目される。その他注目すべき遺跡として、昭和38年に県史跡に指定された明後沢遺跡(39)がある。水沢区胆沢城跡、江刺区瀬谷子窟跡群と同関係にある瓦が大量に出土している。これまでの調査により、集落と粘土採掘坑が検出され、瓦、かわらけ、渥美・常滑窯産陶器、白磁、青磁が出土している。白山地区には、「禁制」木簡が出土した道上遺跡(74)がある。また、道上遺跡からは12世紀代に位置づけられる常滑窯産壺片や青白磁小壺の蓋、六器などが出土している。

源頼朝による奥州征伐により藤原氏が滅亡した後、当該地域は奥州総奉行葛西氏の支配下に置かれ、胆沢地方は柏山氏により治められた。この時代の遺跡としては柏山氏旗本の有力武将三田氏により築かれた前沢城、空堀や土盛りの痕跡が残る八郎館、九郎館が挙げられる。生母地区側には赤生津城、西館等が所在する。

近世の遺跡としては伊達藩の御蔵場や環濠屋敷であった川岸場Ⅱ遺跡、粟ヶ島遺跡が挙げられる。川岸場Ⅱ遺跡は平成8・9年に当センターによる発掘調査が行われており、約400年続いた大肝入の屋敷跡が確認されている。粟ヶ島遺跡は『安永風土記』に記載されている粟ヶ島地域の屋敷に相当すると考えられているが、近年まで確認できた土塁や環濠も開発事業により残存していない。

田高Ⅱ遺跡は平成8年度と平成14年度の2回、前沢町教育委員会によって発掘調査が行われた。平成8年度はカントリーエレベーター施設に伴うもので、本調査区とは東側の一部が接している。焼土遺構5基、土坑4基、陥し穴状遺構6基、井戸跡遺構5基、溝状遺構3条、集石遺構6基、多数の柱穴を検出し、大木5式、大木6式、円筒下層d式、大木7a式の縄文土器、ミニチュア土器、土師器、須恵器、てづくねかわらけ、渥美窯産陶器や常滑窯産陶器などの中世陶器、石器等の石器が出土している。中心となるのは方形区画(一時期には五角形状の区画)となる堀跡(報告書中では大溝遺構)と柱穴群である。掘立柱建物等の建物の認定はされていないが、堀内部の中心部であり、複数の建物が存在することは容易に想定される。平成14年度の調査は遺跡南東端に位置し、歩道整備工事に伴うもので、今回の調査区とは最短で40m離れている。平安時代の土坑、12世紀の溝跡、近世の土坑、近世の溝跡、柱穴等を検出し、縄文土器(前期)、土師器、須恵器、てづくねかわらけ、渥美窯産陶器や常滑窯産陶器などの中世陶器、近世陶磁器等が出土している。小規模な調査であったが、多種多様な遺構・遺物が確認され、断片的ではあるが、綿々と利用された地域であることが判明している。

### Ⅲ 調査の方法

#### 1 野外調査

**グリッドの設定** 過去に2回の発掘調査が行われており、本来は、その発掘調査に合わせてグリッドを設定するべきであるが、個別のグリッドを設定しているため、統一はしていない。初年度の野外調査は本遺跡の西側に所在する安久沢東遺跡と合わせて行われており、安久沢東遺跡も網羅するグリッドを設定した。X=-103,100,000、Y=26,300,000(東日本大震災前世界測地系)を基点として、一辺100mの大グリッドに区割りし、さらに、大グリッドを一辺4mの小グリッドに25分割した。大グリッドは東西方向にアルファベットの大文字を用いて、東にA・B・C・…、南北方向はローマ数字を用いて、南にI・II・III・…、とし、これらを組み合わせるとIA・II Bのように表示した。また、小グリッドは、東西方向にアルファベットの小文字を用いて、東にa・b・c・…・Y、南北方向に算用数字を用いて、南に1・2・3・…・25とし、これらを組み合わせると1a・2bのように表示した。実際のグリッドは大小グリッドの組み合わせにより、IA1aのように表示し、グリッド杭の名称はグリッド北西隅に与えた。このグリッドとは別に、調査範囲が広く、道路等で調査区が分かれており、試掘や表土除去の段階での遺物取り上げのために、区域名を付した。平成22年度は東西に長い調査区で、ⅢJ12e、ⅢJ11Jグリッドで変化点があるため、それぞれ、その変化点の南北方向を軸にして、西側から、西側、中央、東側とした。また、平成23年度は道路によって分けられた調査区を、北西区、西区、南西区、南東区、東区、北東区とした。西区、南東区、東区は細長いため、西区は田面の高低差を利用して、西区北と西区南に、南東区はIV K 22・23abグリッドの変化点で分けて、南東区北と南東区南に、東区はIV J1・2stグリッドの変化点で分けて、東区北と東区南に分けた。北西区と西区北の間の道路部分は西道路、東区北と北東区間の道路部分は東道路とした。

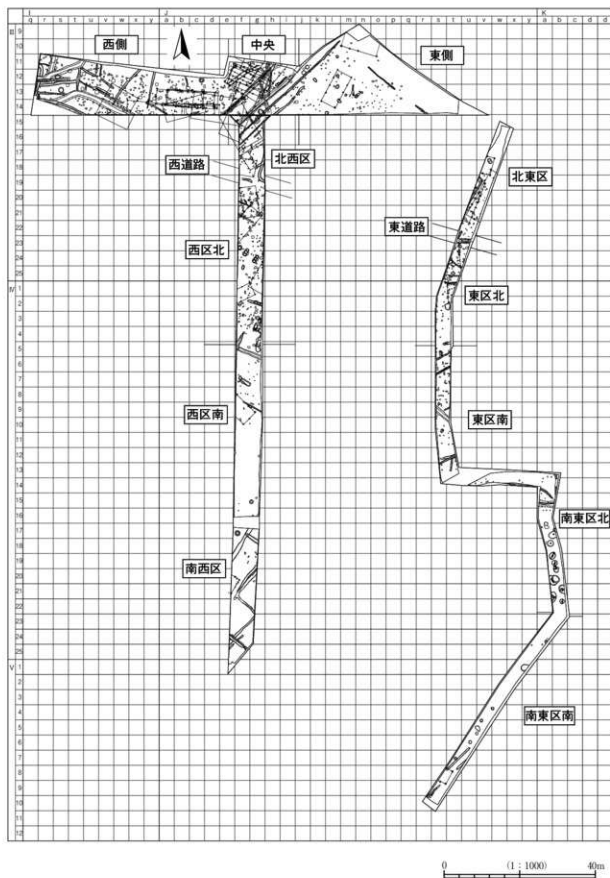
基準点はこれらの区域で少なくとも2点が確認できるように、世界測地系の基準点を以下のとおり施設した。

##### 平成22年度分

No 17	: X = -103,354,364, Y = 27,178,458	H = 31.892
No 18	: X = -103,347,593, Y = 27,196,390	H = 32.058
No 19	: X = -103,359,324, Y = 27,219,013	H = 32.584
No 20	: X = -103,357,910, Y = 27,258,676	H = 32.256
No 21	: X = -103,335,762, Y = 27,249,624	H = 31.262

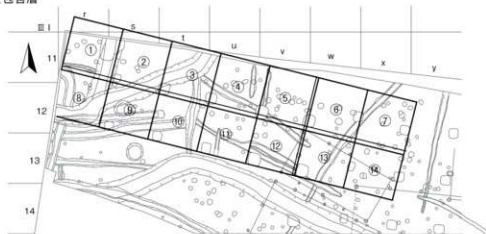
##### 平成23年度分

H23-301	: X = -103,351,275, Y = 27,235,012	H = 32.380
(新 H23-301	: X = -103,352,745, Y = 27,237,733	H = 32.245)
H23-302	: X = -103,521,787, Y = 27,249,131	H = 32.089
(新 H23-302	: X = -103,523,261, Y = 27,251,852	H = 31.954)
H23-401	: X = -103,380,000, Y = 27,230,000	H = 32.209
(新 H23-401	: X = -103,381,471, Y = 27,232,721	H = 32.074)
H23-402	: X = -103,505,000, Y = 27,230,000	H = 32.027
(新 H23-402	: X = -103,506,474, Y = 27,232,721	H = 31.892)

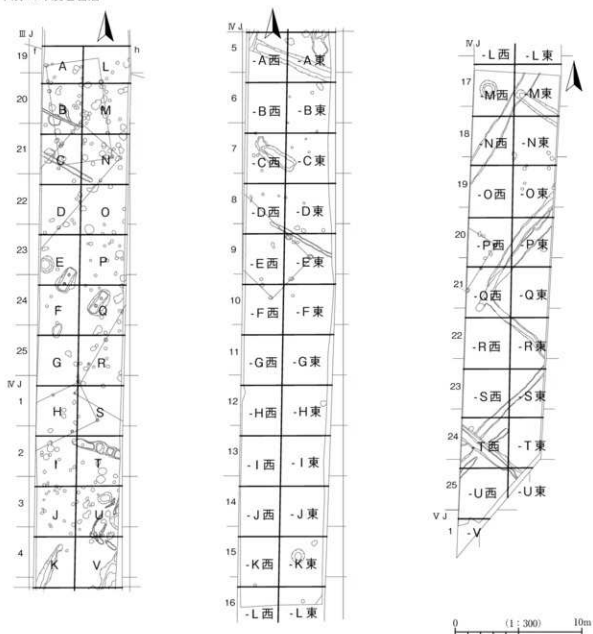


第6図 全体図・グリッド配置図

平成22年度包含層

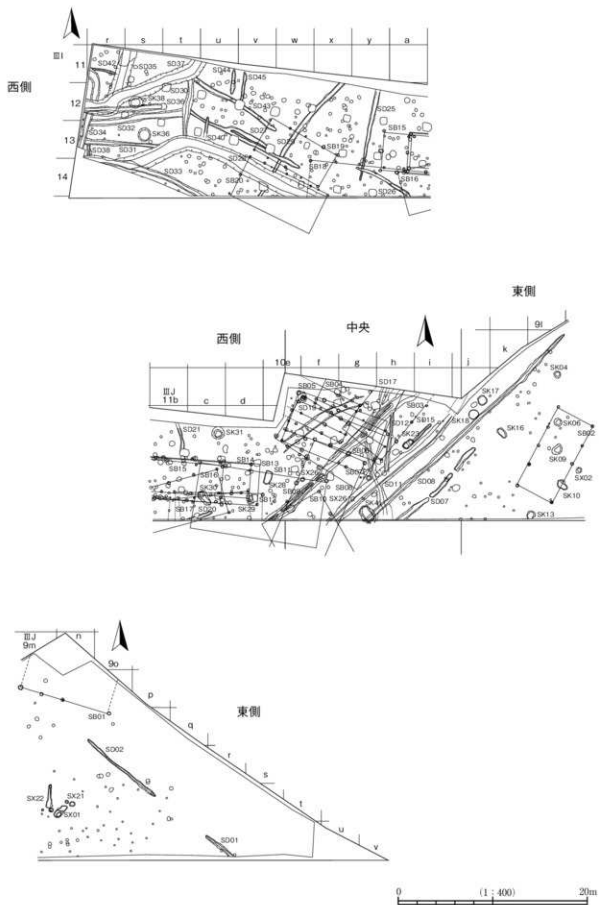


平成23年度包含層



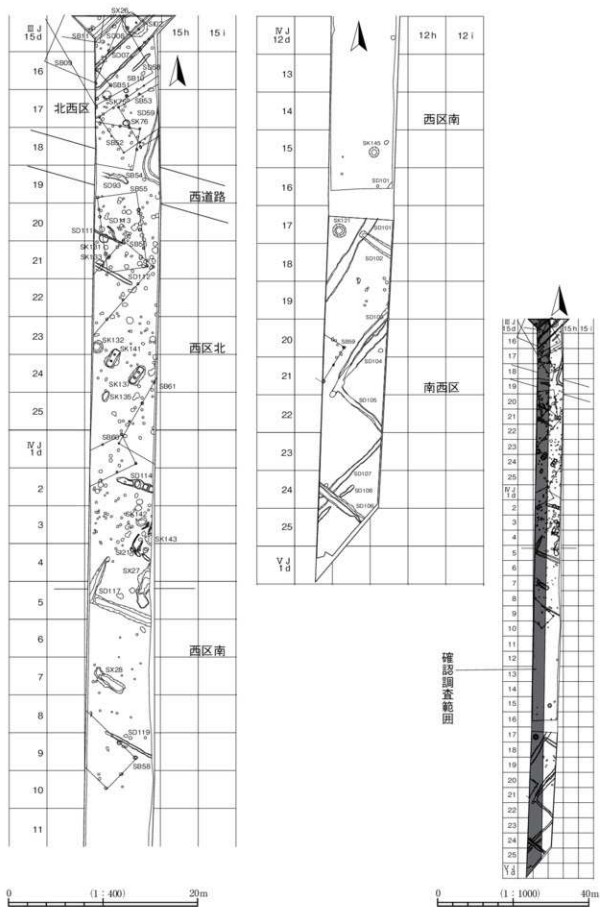
第7図 遺物取り上げグリッド図

1 野外調査

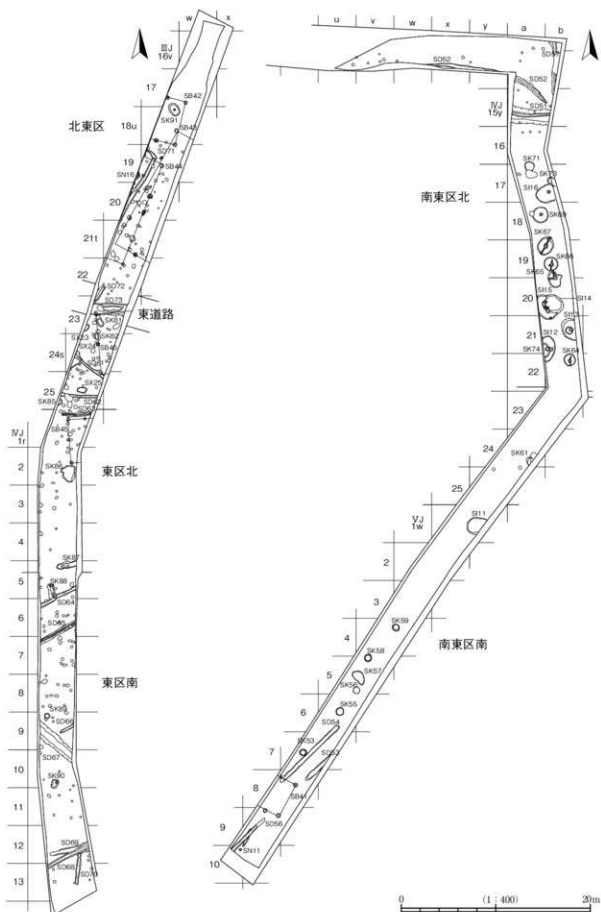


第8図 遺構配置図部分1





第9図 遺構配置図部分2



第10図 遺構配置図部分3

H23-403 : X = -103,456.064, Y = 27,299.120 H = 32.149
(新 H23-403 : X = -103,457.537, Y = 27,301.843 H = 32.014)
H23-404 : X = -103,487.297, Y = 27,302.862 H = 32.078
(新 H23-404 : X = -103,488.770, Y = 27,305.584 H = 31.943)
H23-405 : X = -103,504.549, Y = 27,290.655 H = 32.241
(新 H23-405 : X = -103,506.022, Y = 27,293.377 H = 32.106)
H23-406 : X = -103,523.828, Y = 27,277.668 H = 32.135
(新 H23-406 : X = -103,525.302, Y = 27,280.390 H = 32.000)
H23-407 : X = -103,380.000, Y = 27,280.000 H = 31.942
(新 H23-407 : X = -103,381.471, Y = 27,282.722 H = 31.807)
H23-408 : X = -103,410.000, Y = 27,272.000 H = 32.100
(新 H23-408 : X = -103,411.471, Y = 27,274.722 H = 31.965)
H23-409 : X = -103,440.000, Y = 27,272.000 H = 31.942
(新 H23-409 : X = -103,441.472, Y = 27,274.722 H = 31.807)
H23-410 : X = -103,505.000, Y = 27,272.000 H = 32.166
(新 H23-410 : X = -103,506.474, Y = 27,274.722 H = 32.031)
H23-411 : X = -103,410.000, Y = 27,230.000 H = 32.262
(新 H23-411 : X = -103,411.471, Y = 27,232.721 H = 32.127)
H23-412 : X = -103,440.000, Y = 27,230.000 H = 32.132
(新 H23-412 : X = -103,441.472, Y = 27,232.721 H = 31.997)
H23-413 : X = -103,472.000, Y = 27,230.000 H = 31.966
(新 H23-413 : X = -103,473.473, Y = 27,232.721 H = 31.831)

〔平成 23 年度に施設した基準点は平成 23 年 6 月 1 日付において、国土地理院の電子基準点が改測されたが、今回使用の四等三角点はまだ改測されていないことや、遺跡基準点成果として使用中なことから、新設 3 級基準点 (H23-301・H23-302) の 2 点がどのように変動されたか、検証を行った。したがって測量方法は、新設 3 級基準点を GPS 測量により測量を実施し、電子基準点 3 点を与点としてスタティック法による測量を行った。4 級基準点及び区画付杭については、ヘルマート変換方式により数値を算出〕(株式会社中央測量設計)している。本遺跡は東日本大震災の前後で発掘調査を行っており、震災前のデータと統合させるため、震災前のデータを使用している。

平成 22 年度の重機による表土除去及び平成 23 年度の試掘の結果、ほぼ全面に遺構が広がり、西側の西半 (H22) 及び西区北 (H23) には遺物 (縄文土器) が集中していることが判明した。この部分では遺物を包含している堆積層 (= II 層) 上面では遺構の確認が困難で、II 層を除去しないと、遺構の掘出ができないこと、初年度の発掘調査開始が 11 月で、時間的な制約があったこと、包含層の掘削を優先させたかったが、基準点の打設が間に合わず、全体のグリッドに合わせられなかったことにより、任意の遺物取り上げ用のグリッドを設定し、包含層 (II 層) の遺物の取り上げを行った。平成 22 年度は包含層を開くように 4 点を打設し、4×4 m を 1 区画としたグリッドを設定し、北西から①・②・③・④とした。これらのグリッドの南北方向は全体のグリッドの南北方向とは 13.98° 東に振れることとなる。また、平成 23 年度は、調査区の幅が狭く、II 層から遺物が出土する部分が限られることから、取り上げ用のグリッドを設定した。遺物が出土する範囲の南側に事業境界杭が 2 点 (FH60 と ww30) あり、この杭を結んだラインを東西方向の南端軸とし、4 m の区画を設定した。南

## 1 野外調査

第3表 遺構名対応表

No.	報告名	現場名	No.	報告名	現場名	No.	報告名	現場名	No.	報告名	現場名
1	SI02	SI02	45	SK04	SK04	89	SK132	SK132	133	SD58	SD58
2	SI11	SI11	46	SK06	SK06	90	SK133	SK133	134	SD59	SD59
3	SI12	SI12	47	SK09	SK09	91	SK135	SK135	135	SD61	SD61
4	SI13	SI13	48	SK10	SK10	92	SK137	SK137	136	SD62	SD62
5	SI14	SI14	49	SK13	SK13	93	SK141	SK141	137	SD63	SD63
6	SI15	SI15	50	SK16	SK16	94	SK142	SK142	138	SD64	SD64
7	SI16	SI16	51	SK17	SK17	95	SK143	SK143	139	SD65	SD65
8	SI21	SI21	52	SK18	SK18	96	SK145	SK145	140	SD66	SD66
9	SI01	SI01	53	SK23	SK23	97	SD01	SD01	141	SD67	SD67
10	SI02	SI02	54	SK28	SK28	98	SD02	SD02	142	SD68	SD68
11	SI03	SI03	55	SK29	SK29	99	SD07	SD07	143	SD69	SD69
12	SI04	SI04	56	SK30	SK30	100	SD08	SD08	144	SD70	SD70
13	SI05	SI05	57	SK31	SK31	101	SD11	SD11	145	SD71	SD71
14	SI06	SI06	58	SK36	SK36	102	SD12	SD12	146	SD72	SD72
15	SI07	SI07	59	SK38	SK38	103	SD15	SD15	147	SD73	SD73
16	SI08	SI08	60	SK41	SI01	104	SD17	SD17	148	SD93	SD93
17	SI09	SI09	61	SK53	SK53	105	SD19	SD19	149	SD101	SD101
18	SI10	SI10	62	SK55	SK55	106	SD20	SD20	150	SD102	SD102
19	SI11	SI11	63	SK56	SK56	107	SD21	SD21	151	SD103	SD103
20	SI12	SI12	64	SK57	SK57	108	SD25	SD25	152	SD104	SD104
21	SI13	SI13	65	SK58	SK58	109	SD26	SD26	153	SD105	SD105
22	SI14	SI14	66	SK59	SK59	110	SD27	SD27	154	SD106	SD106
23	SI15	SI15	67	SK61	SK61	111	SD28	SD28	155	SD107	SD107
24	SI16	SI16	68	SK64	SK64	112	SD29	SD29	156	SD108	SD108
25	SI17	SI17	69	SK65	SK65	113	SD30	SD30	157	SD111	SD111
26	SI18	SI18	70	SK66	SK66	114	SD31	SD31	158	SD112	SD112
27	SI19	SI19	71	SK67	SK67	115	SD32	SD32	159	SD113	SD113
28	SI20	SI20	72	SK69	SK69	116	SD33	SD33	160	SD114	SD114
29	SI41	SI41	73	SK71	SK71	117	SD34	SD34	161	SD117	SD117
30	SI42	SI42	74	SK73	SK73	118	SD35	SD35	162	SD119	SD119
31	SI43	SI43	75	SK74	SK74	119	SD36	SD36	163	SN11	SN11
32	SI44	SI44	76	SK75	SK75	120	SD37	SD37	164	SN16	SN16
33	SI45	SI45	77	SK76	SK76	121	SD38	SD38	165	SN01	SN01
34	SI46	SI46	78	SK81	SK81	122	SD40	SD40	166	SN02	SN02
35	SI51	SI51	79	SK82	SK82	123	SD42	SD42	167	SN21	SN21
36	SI52	SI52	80	SK85	SK85	124	SD43	SD43	168	SN22	SN22
37	SI53	SI53	81	SK86	SK86	125	SD44	SD44	169	SN23	SN23
38	SI54	SI54	82	SK87	SK87	126	SD45	SD45	170	SN24	SN24
39	SI55	SI55	83	SK88	SK88	127	SD51	SD51	171	SN25	SN25
40	SI56	SI56	84	SK89	SK89	128	SD52	SD52	172	SN26	SN26
41	SI58	SI58	85	SK90	SK90	129	SD53	SD53	173	SN26	SD13
42	SI59	SI59	86	SK91	SK91	130	SD54	SD54	174	SN27	SD16
43	SI60	SI60	87	SK121	SK121	131	SD56	SD56	175	SN28	SD18
44	SI61	SI61	88	SK131	SK131	132	SD57	SD57			

北方向は本調査区と確認調査区を境とした。名称は遺物が出土する範囲の北西隅からA・B・C・・・Vとした。A～Kが確認調査区内にあり、L～Vが本調査区内にある。このグリッドは全体のグリッドより、東西ラインが84cm南にずれている。

**試掘** 平成22年度は、本来ならば、試掘を行って、調査区全体の層序を確認した上で、表土掘削を行うべきであるが、調査日数が少なかったため、最初から重機による表土除去を行い、試掘は行っていない。平成23年度は調査区全体の表土掘削を行う前に、試掘を行っている。岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘は、作付け等の制限があり、部分的であったため、その試掘を補完するように、各区で試掘を行った。その結果、ほとんどのトレンチで遺構が検出され、調査区全体に遺構が分布することが予想された。また、西区北のトレンチではⅡ層から縄文土器がまとめて出土しており、平成22年度の西側と同様の包含層が存在することが予想された。

**表土掘削** 平成22年度は前述のとおりであるため、当初から重機による表土掘削を行った。重機による掘削開始時期には遺物の出土が少なかったため、Ⅲ層上面まで行った。しかし、西側のⅡ層中から縄文土器がまとめて出土したため、Ⅱ層を残すように表土掘削を行った。平成23年度は試掘によって遺物の出土が確認できた西区北以外ではⅢ層上面まで重機による掘削を行った。

**遺構検出・精査** 検出作業は人力による作業に頼った。鋤簾を使用して、遺構の確認を行なった後に、移植ゴテを使用して掘削を行った。調査区境で検出された堅穴住居跡や堀跡・溝跡はベルトを残した2分法を用い、土坑や柱穴などは半割法を用いた。遺構の中心は土坑や柱穴などの小規模なものであったため、半割法を中心に用いた。掘削の際には、適宜サブトレンチを設定し、堆積状況の把握を行っている。なお、北西区、西区、南西区の西側半分は確認調査区となっており、基本的には、検出した遺構の内容確認までに止めている。

**遺構の命名** 遺構名称は種別毎に略号を用い、検出順に01から使用した。また、平成23年度は遺構名が重ならないように、区域毎に番号を付した。なお、検出時に番号を付したため、多数の欠番が生じているが、遺物の注記が混乱しないようにするため、そのままにしている。また、精査によって検出時と名称を変更した遺構があるため、第3表に遺構名対応表を示した。使用した略号は次のとおりである。

S I：堅穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S K：土坑、S D：堀跡・溝跡、S N：焼土遺構、S X：不明遺構、P：柱穴（平成23年度はPPとしたが、室内整理時にPに統一）

平成23年度に使用した番号は次のとおりである。

S I：11～16（南東区）、21（西区）

S B：41（南東区南）、42～44（北東区）、45・46（東区北）、51～54（北西区）、55～58・60・61（西区）、59（南西区）

S K：51～74（南東区）、75・76（北西区）、81～90（東区）、91（北東区）、121（南西区）、131～145（西区）

S D：51～57（南東区）、58・59（北西区）、61～70（東区）、71（北東区）、72・73（東道路）、93（西道路）、101～108（南西区）、111～119（西区）

S N：11（南東区）、16（北東区）

S X：11～

P1001～

**実測記録** 遺構の実測は光波測量器と電子平板システム（Cubic社製実測支援システム「遺構くん」）を用いて平面図を作成し、断面図は従前通りの方法で作図を行った。

**写真記録** 野外調査の写真撮影にあたっては、中判カメラ（6×7判）1台（モノクローム）と一眼レフデジタルカメラ（Canon 社製 EOS50 D）1台を使用した。

## 2 室内整理

**遺構** 遺構図面は電子データの加工・修正を行い、版下を作成した。その際に、攪乱層にも番号が付されていたため、整理しなおして番号を変更している。遺物の観察表は変更後の名称を使用しているが、遺物の注記には変更前の名称が使用されているため、対応表を第1表に示した。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号・網掛け等は凡例に示した。

遺構の計測は電子データ上で、次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。④溝跡などの長大な遺構の長さは電子平板システム内で、遺構の中心線を3回計測した値の平均値を記載した。⑤溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測し、最大幅と最小幅を記載した。

**遺物** 出土遺物は水洗、仕分、出土地点の確認を行い、種類毎に次のとおりにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は凡例及び第11～14図に示した。番号は選別時に種類毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に変更している。掲載番号は本文、観察表、図版、写真図版すべて一致している。（土器類・土製品）取り上げてきた袋毎に重量計測（g単位：少数第1位を四捨五入）を行い、台帳に記載した。その後、注記を行い、接合作業と資料の選択・登録作業を行った。選択にあたっては全ての資料を登録・分類・図化する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定して行った。①全体の形状が把握できるもの、②口径もしくは底径が算出できる資料、③胴部破片で反転実測が可能資料、④口縁部もしくは底部の一部が残存する資料、⑤胴部の断片的な資料。基本的には①～③の基準で選別を行ったが、全体的に断片的な資料が多いことから、遺構内出土資料や文様のある資料、資料数の少ない器種については④や⑤から採用した。その後、必要に応じて石膏による復元作業を行い、拓影図作成を含む図化作業、トレース作業、写真撮影を行った。

〈石器・石製品〉1点毎に整理番号を付し、重量計測（g単位：少数第2位を四捨五入、大形の礫塊石器は少数第1位まで計測）を行い、台帳に記載した。その後、掲載遺物を選別し、図化・トレース作業を行った。縄文時代の剥片石器と打製石斧の作図は作業の効率化を優先して外部（株式会社ラング）に委託した。

〈金属製品〉まず、簡単に土砂の除去を行った後、X線写真撮影を行い、もとの形状を確認した。その上で、図化作業を行った。機械を使用した錆落としは行ってない。図化終了後、トレース作業、写真撮影を行った。

**写真** 野外調査時に撮影した遺構などの写真には6×7判モノクローム、デジタルデータがある。モノクローム写真は主に保存用に撮影したもので、アルバムに整理し、台帳を作成した。デジタルデータはRAWデータとJPEGデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、写真図版作成用に使用した。デジタルデータは当センターの規定に則った整理を行い、台帳を作成した。遺物写真は室内整理時にデジタルカメラでJPEG撮影モードの撮影を行った。これらの遺構写真と航空写真及び遺物写真で図版を作成した。なお、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。

## Ⅳ 分類基準

### 1 土器類

土器類には、縄文土器、土師器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器がある。縄文土器以外については、分類できるほどの数量がないため、個別に記載している。

縄文土器の器形は深鉢を主体とし、少量の鉢が存在する。鉢は少量であるため、分類基準を設けていない。深鉢は器形上の特徴から次のように分類基準を設定した(第11図)。

Ⅰ類：頸部が「く」の字状にくびれ、口縁は外反ないし外傾し、胴部は膨らむ。胴部径が頸部径と口縁部径より大きいもの。胴部上半に最大径があるものと胴部下半に最大径があるものがある。

Ⅱ類：頸部が「く」の字状にくびれ、口縁は外反ないし外傾し、胴部は膨らむ。胴部径が頸部径より大きく口縁部径より小さいもの。胴部上半に最大径があるものと胴部下半に最大径があるものがある。

Ⅲ類：胴部が球状に膨らみ、口縁部は外傾、胴部は円筒・円錐台状を呈するもの。頸部・胴部にそれぞれくびれを有する。

Ⅳ類：胴部上位に膨らみを持ち、頸部で緩やかにくびれ、口縁部が外傾するもの。

Ⅴ類：胴部が膨らみ、最大径を持つ。口縁部がやや内湾ないし内傾してすぼまるもの。

Ⅵ類：胴部が筒状もしくは開き気味で、頸部で「く」の字状ないし緩やかにくびれ、口縁部は外傾するもの。いわゆる「朝顔形」も含む。

Ⅶ類：底部から口縁にかけて外反ないし外傾するもの。ほぼ筒状を呈する。口縁部まで外反ないし外傾するもの、口縁部のみ小さく外反するものがある。

### 2 石器・石製品(第12~14図)

#### (1) 器種分類

出土石器の器種分類はこれまでの研究の中で確立し、一般に広く認識されているものを踏襲して下記のとおり分類した。表中では括弧内の略号を使用した。

石鏃(SAR) 素材剥片の片面または両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。概ね、扁平で左右対称である。器長が5cm以下のものを本類とした。

Ⅰ類：平基無茎鏃である。平面形が二等辺三角形を呈する。基部の縁辺が丸みを帯びるものも見られるが点数が少ないため一括した。

Ⅱ類：凹基無茎鏃で、基部の挟りが浅く、平面形が正三角形に近い形状を呈するもの。

Ⅲ類：凹基無茎鏃で、基部の挟りが浅く、平面形が二等辺三角形を呈するもの。器長に対して器幅が1/2以上のもの(Ⅲa)と1/2未満~1/3以上のもの(Ⅲb)がある。

Ⅳ類：凹基無茎鏃で、基部の挟りが浅いものであり、基部がやや丸みを帯びるもの。Ⅲb類のように器長に対して器幅が狭いものである。

Ⅴ類：凹基無茎鏃で、基部の挟りが深いもの。平面形が二等辺三角形を呈し、基部の挟りが台形状を呈するもの(Va)、平面形が二等辺三角形を呈し、脚部が丸みを帯びるもの(Vb)、平面形が正三角形形状を呈し、脚部が丸みを帯びるもの(Vc)、平面形が二等辺三角形を呈し、脚部が鋭角になるもの(Vd)がある。

Ⅵ類：凹基無茎鎌で、平面形が五角形を呈するもの。脚部が尖状を呈するものや丸みを帯びるものがある。

Ⅶ類：有茎鎌。平面形が三角形状を呈するもの（Ⅶa）と菱形を呈するもの（Ⅶb）がある。

Ⅷ類：円基のものを一括した。

Ⅸ類：上記以外のもの。

**尖頭器（PO）** 素材剥片の両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。

**スクレイパー類（SCR類）** スクレイパー類として扱うものは、二次加工が施されている石器の中から、一個縁の半分以上に連続的な二次加工を施して刃部が形成されている石器を抽出し、以下のように分類した。掻器、削器を一括して扱っている。分類は素材剥片の刃部形成箇所できさく行い、作出方法で細分した。刃部角の差が大きいものは最小値と最大値を計測した。

Ⅰ類：二次加工により一個縁に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（Ⅰa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（Ⅰb）、両面に刃部が形成されているもの（Ⅰc）がある。

Ⅱ類：二次加工により兩個縁に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（Ⅱa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（Ⅱb）、両面に刃部が形成されているもの（Ⅱc）がある。

Ⅲ類：二次加工により素材剥片末端部に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（Ⅲa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（Ⅲb）、両面に刃部が形成されているもの（Ⅲc）がある。

Ⅳ類：二次加工により複数の縁辺に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（Ⅳa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（Ⅳb）、両面に刃部が形成されているもの（Ⅳc）がある。

Ⅴ類：上記以外のものを一括した。

**挟入石器（NO）** 素材剥片の一部にえぐりの刃部を作出した石器。

**筥形石器（SSP）** 平面形が中軸線でほぼ左右対称の撥形もしくは楕円形を呈し、断面形がかまぼこ状、台形状、凸レンズ状で、一端に刃部が作出されている石器。平面形状により細分した。

Ⅰ類：短冊形を呈するもの。

Ⅱ類：撥形を呈するもの。

Ⅲ類：上記以外のもの。

**錐形石器（SAW）** 素材剥片の一部に二次加工を施して錐状の尖頭部を作出した石器。

Ⅰ類：摘まみ部を有するもの。

Ⅱ類：棒状を呈するもの。

Ⅲ類：素材剥片の一部に刃部のみを作出したもの。

**石匙（TSS）** 兩個縁から挟りを入れることで作出された摘まみ部と摘まみ部とは異なる個縁に刃部を有する石器。

Ⅰ類：縦形のもの。刃部の調整が片面のみのものと両面のものがある。摘まみ部が真っ直ぐになるもの（Ⅰa）と斜めになるもの（Ⅰb）がある。

Ⅱ類：横形のもの。摘まみ部が真っ直ぐになるもの（Ⅱa）と斜めになるもの（Ⅱb）がある。



**楔形石器 (PA)** 相対する縁辺に両極技法によって生じる線状もしくは点状を呈する特徴的な打面形状と細かい階段状の剥離痕が観察される石器。

**異形石器** 平面形は石鏃に類似するが、石匙のように先端に抉りを有するもの。

**二次加工のある剥片 (RF)** 素材剥片の一部に二次加工を施した石器で、石鏃、尖頭器、スクレイパー類、抉入石器、筧形石器、錐形石器、石匙、楔形石器、異形石器以外のものを一括した。

I類：一個縁のみに二次加工が施されるもの。

II類：二個縁に二次加工が施されるもの。

III類：上記以外のものを一括した。

**剥片 (F)** 上記の分類から外れたすべても剥片石器を対象とした。最大器長・最大器幅のいずれもが1.5cm未満のもの及び打点の不明瞭なものは砕片 (C) として報告した。

**石核 (CO)** 剥片を剥離したと考えられる石器。

**打製石斧 (AXc)** 両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。

**磨製石斧 (AXP)** 両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。

**礫器 (PT)** 礫の一端に剥離調整を施して刃部を作出した石器。

**磨石 (GS)** 礫に磨痕が観察される石器。

I類：磨面のみ観察されるもの。

II類：磨面と敲打痕が観察されるもの。

III類：磨面と凹部が観察されるもの。

IV類：礫の側面部に平坦な磨面をもつ所謂「特殊磨石」であるもの。

**凹石 (SWI)** 礫の平坦な面に敲打による凹み状の痕跡が観察される石器。

**敲石 (HS)** 礫の端部や側面にあばた状の敲打痕が形成されている石器。

I類：一端部に形成されるもの。

II類：両端部に形成されるもの。

**石皿 (GRSL)** 扁平礫に使用による平滑な面が観察される石器。

I類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

**台石 (AS)** 扁平礫に打撃痕が観察される石器。

I類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

**砥石 (WS)** 礫の片面もしくは両面または、一部に磨痕の観察される石器。

I類：一面の一部のみに磨痕の観察されるもの。

II類：一面全体に磨痕が観察されるもの。

III類：平坦な二面に磨痕が観察されるもの。

IV類：上記以外のものを一括した。

## (2) 石器 石材

本来であれば、資料全体で母岩別に分類するのが理想であると思われるが、接合資料が非常に少なく、原礫まで復元可能な個体が皆無であるため、母岩分類は行っていない。同じ石器石材でも産地・形成時期が異なっているため、以下のような記号で分類を行った。この分類は花崗岩研究会の鑑定を基準にしている。石器石材の後ろに番号がないものは、花崗岩研究会に鑑定を基に、調査担当者が分

## 2 石器・石製品

類したものである。

**安山岩 (an)** 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 奥羽山脈・新生代新第三紀～第四紀、3: 北上山地・古生代?

**ホルンフェルス (hor)** 1: 北上山地・古～中生代 (中生代白亜紀に変成)

**黒曜石 (ob)** 1: 小赤沢産 (株式会社第四紀地質研究所分析)、2: 北上系A (明治大学文化財研究施設分析)、3: 判別不可 (明治大学文化財研究施設分析)、4: 北上川折居1群 (株式会社古環境研究所分析)、5: 北上川折居2群 (株式会社古環境研究所分析)、6: 推定不可 (株式会社古環境研究所分析)

**砂岩 (san)** 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 北上山地・古～中生代

**頁岩 (sh)** 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 北上山地・古～中生代、3: 北上山地・古生代後期、4: 珪質頁岩

**赤色頁岩 (rsh)** 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀

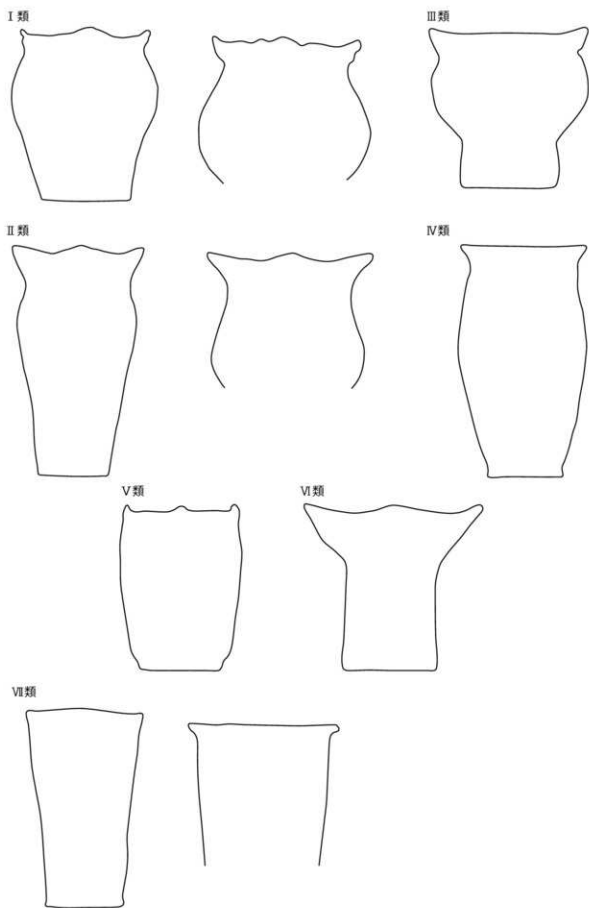
**凝灰岩 (tuf)** 1: 北上山地・古～中生代、2: 北上山地?・古～中生代、3: 奥羽山脈・新生代新第三紀

**溶結凝灰岩 (wetuf)** 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀

**滑石 (tal)** 1: 北上山地・古～中生代

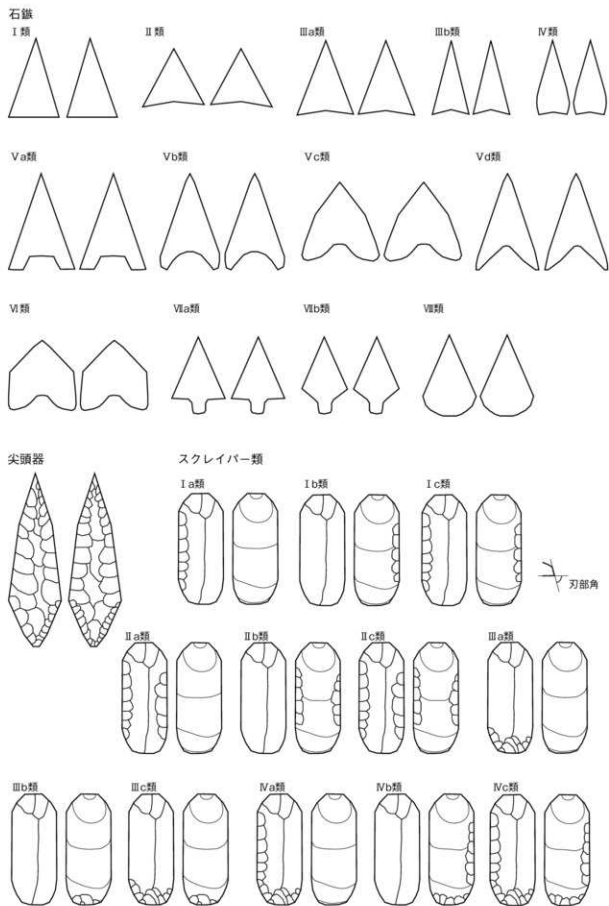
**細粒花崗閃緑岩 (figradio)** 1: 北上山地・中生代白亜紀

**デイサイト (dac)** 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 奥羽山脈・新生代新第三紀 (黒色鉱物が特徴的に含まれる)、3: 北上山地・中生代白亜紀?



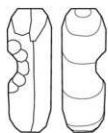
第11圖 土器分類圖

2 石器・石製品



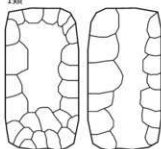
第12図 石器分類図(1)

挿入石器

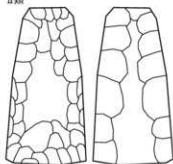


筒形石器

I類

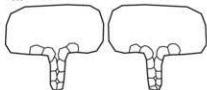


II類



錐形石器

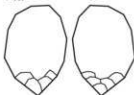
I類



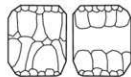
II類



III類

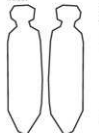


楔形石器

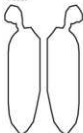


石匙

Ia類



Ib類



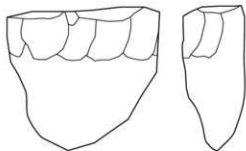
IIa類



IIb類

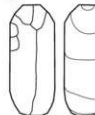


石核

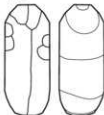


RF

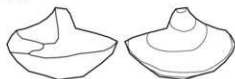
I類



II類



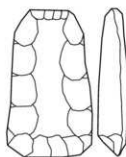
剥片



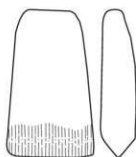
第13圖 石器分類圖(2)

2 石器・石製品

打製石斧

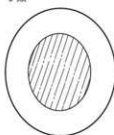


磨製石斧



磨石

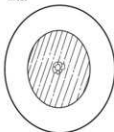
I類



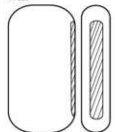
II類



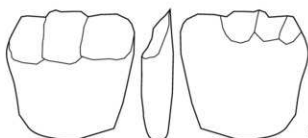
III類



IV類



礮器



敲石

I類



II類



凹石

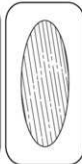
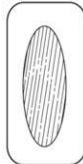


石皿

I類



II類



砥石

I類



II類

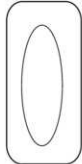


III類

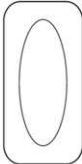


台石

I類



II類



第14圖 石器分類圖(3)

## V 検出遺構と出土遺物

### 1 概 要

平成22年と平成23年の2箇年に及ぶ発掘調査の結果、竪穴住居跡8棟、掘立柱建物跡36棟、土坑52基、堀跡・溝跡66条、焼土遺構2基、不明遺構11基、柱穴1002個で、出土遺物は縄文土器(大木6式を中心とする前期後葉～末葉が中心)が大コンテナ21箱、土製品4点、粘土塊1点、石鏃、尖頭器、スクレイパー類、抉入石器、籠形石器、錐形石器、石匙、楔形石器、二次加工のある剥片、打製石斧、磨製石斧、礫器、磨石、凹石、敲石、石皿、砥石、石錘等の石器が4662点、石刀・石剣類等の石製品が26点、土師器・須恵器が大コンテナ1箱、かわらけ6点、中世～現代の陶磁器が74点、刃物類、釘等の金属製品が12点、銭貨3点、鉄滓約1.3kg、炭化物34点が出土している。縄文時代に帰属する遺物は包含層としたⅡ層及び中世の遺構であるSD28から出土したものが大半である。

本来は遺構の帰属時代毎に報告すべきであるが、土坑や柱穴など帰属時代を特定するのが困難な遺構が多いため、遺構種別毎に報告する。遺構の一覧を第4表にまとめたので、参考して頂きたい。

### 2 検 出 遺 構

#### (1) 竪穴住居跡 (SI)

##### SI02 (第15図、写真図版5)

[位置] 平成22年度調査区中央から北西区にかけての、ⅢJ15gグリッド周辺に位置する。

[検出状況] 表土層から盛土層にあたる1層群除去後のⅢ層上面で炭化物粒や焼土粒を含む黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] SD08、P621に切られており、本遺構が古い。なお、同一時代の遺構との重複関係はない。

[規模] 2.80×2.32mの歪な楕円形である。

[埋土] 8層に分層した。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色シルトを主体とする。壁付近には地山の流入土と考えられる黄褐色粘土質シルト層が堆積している。

[壁・床の状況] 細かな凹凸は見られるが、大きな窪みは確認できない。壁は底面から緩やかに傾斜を持ちながら立ち上がる。検出面から床面の深さは最大で40cmである。

[炉] なし。

[付属施設] 中央付近で柱穴を2個検出した。Pit1は黒褐色シルトブロックが混在する褐色シルト質粘土層の単層で埋没しており、床面からの深さは最大で4cmである。Pit2は炭化物粒の混在する暗褐色シルト質粘土層の単層で埋没しており、床面からの深さは最大で13cmである。

[出土遺物] 埋土を中心に、縄文土器4970.5g、不明土製品1点、石鏃1点、RF1点、RF1点、剥片10点、磨石5点、有孔石器1点、礫類2点が出土し、縄文土器(1～8)、不明土製品(190)、石鏃(226)、RF(359)、磨石(472)、有孔石器(557)を掲載した。

[時代・時期] 縄文時代前期後葉に帰属する。

##### SI11 (第16図、写真図版6)

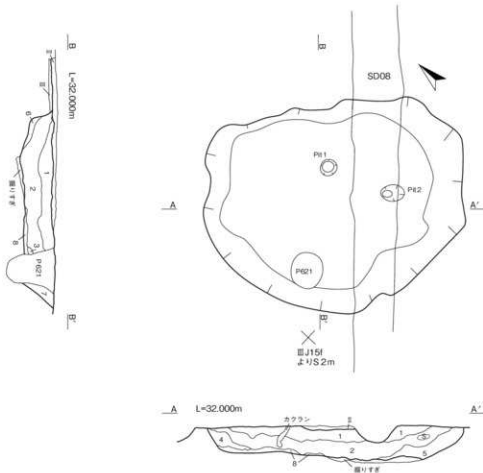
[位置] 南東区南、VJ1yグリッド周辺に位置する。東側は調査区外に広がっている。

## 2 檢出遺構

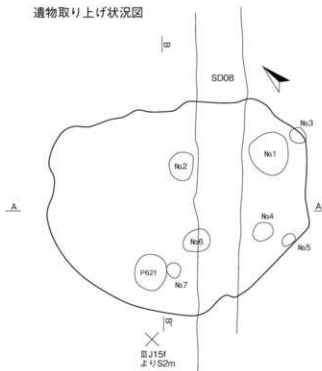
第4表 遺構一覧

報告名	本 線	区域	時代	報告名	本 線	区域	時代	報告名	本 線	区域	時代
SB02	○	江22 中央	縄文前	SK28	○	江22 西側	中世	SD45	○	江22 西側	中世
SB11	○	南東区南	縄文前	SK41	○	江22 中央	縄文前	SD36	○	江22 西側	不明
SB12	○	南東区北	縄文前	SK53	○	南東区南	縄文前	SD37	○	江22 西側	中世
SB13	○	南東区北	縄文前	SK55	○	南東区南	縄文前	SD38	○	江22 西側	中世
SB14	○	南東区北	縄文前	SK56	○	南東区南	縄文前	SD40	○	江22 西側	中世
SB15	○	南東区北	縄文前	SK57	○	南東区南	縄文前	SD42	○	江22 西側	中世
SB16	○	南東区北	縄文前	SK58	○	南東区南	縄文前	SD43	○	江22 西側	中世
SB21	○	西ノ北	縄文前	SK59	○	南東区南	縄文前	SD44	○	江22 西側	中世
SB01	○	江22 東側	中世	SK61	○	南東区南	不明	SD45	○	江22 西側	中世
SB02	○	江22 東側	中世	SK64	○	南東区北	縄文前	SD51	○	南東区北	江 C
SB03	○	江22 中央	中世	SK65	○	南東区北	縄文前	SD52	○	南東区北	不明
SB04	○	江22 中央	中世	SK66	○	南東区北	縄文前	SD53	○	南東区南	不明
SB05	○	江22 中央	中世	SK67	○	南東区北	縄文前	SD54	○	南東区南	不明
SB06	○	江22 中央	中世	SK69	○	南東区北	縄文前	SD56	○	南東区南	不明
SB07	○	江22 中央	中世	SK71	○	南東区北	不明	SD57	○	南東北	不明
SB08	○	江22 中央	中世	SK73	○	南東区北	縄文前	SD58	○	北西区	中世
SB09	○	江22 中央・北西区	中世	SK74	○	南東区北	縄文前	SD59	○	北西区	不明
SB10	○	江22 中央・北西区	中世	SK75	○	北西	中世	SD61	○	東区北	中世
SB11	○	江22 中央・西側・北西区	中世	SK76	○	北西	不明	SD62	○	東区北	中世
SB12	○	江22 西側	中世	SK81	○	東区北	不明	SD63	○	東区北	不明
SB13	○	江22 西側	中世	SK82	○	東区北	不明	SD64	○	東区南	中世
SB14	○	江22 西側	中世	SK85	○	東区北	不明	SD65	○	東区南	伊世
SB15	○	江22 西側	中世	SK86	○	東区南	不明	SD66	○	東区南	不明
SB16	○	江22 西側	中世	SK87	○	東区南	不明	SD67	○	東区南	不明
SB17	○	江22 西側	中世	SK88	○	東区南	不明	SD68	○	東区南	不明
SB18	○	江22 西側	中世	SK89	○	東区南	不明	SD69	○	東区南	不明
SB19	○	江22 西側	中世	SK90	○	東区南	不明	SD70	○	東区南	不明
SB20	○	江22 西側	中世	SK91	○	北東区	縄文	SD71	○	北東区	不明
SB41	○	南東区南	中世	SK121	○	南東区	中世	SD72	○	東道路	不明
SB42	○	北東区	中世	SK131	○	西区北	不明	SD73	○	東道路	不明
SB43	○	北東区	中世	SK132	○	西区北	中世	SD90	○	西道路	不明
SB44	○	北東区	中世	SK133	○	西区北	不明	SD101	○	西西区	近世
SB45	○	東区北	中世	SK135	○	西区北	不明	SD102	○	西西区	近世
SB46	○	東区北	中世	SK137	○	西区北	縄文	SD103	○	西西区	不明
SB51	○	北西区	中世	SK141	○	西区北	縄文	SD104	○	西西区	不明
SB52	○	北西区	中世	SK142	○	西区北	縄文?	SD105	○	西西区	不明
SB53	○	北西区	中世	SK143	○	西区北	縄文?	SD106	○	西西区	不明
SB54	○	北西区	中世	SK145	○	西区南	中世	SD107	○	西西区	不明
SB55	○	西区北	中世	SD01	○	江22 東側	不明	SD108	○	西西区	不明
SB56	○	西区北	中世	SD02	○	江22 東側	不明	SD111	○	西区北	不明
SB58	○	西区南	中世	SD07	○	江22 東側・北西区	中世	SD112	○	西区北	不明
SB59	○	西西区	中世	SD08	○	江22 東側・北西区	中世	SD113	○	西区北	不明
SB60	○	西区	中世	SD11	○	東側・北西区	中世	SD114	○	西区北	不明
SB61	○	西区	中世	SD12	○	江22 中央	不明	SD117	○	西区南	不明
SB04	○	江22 東側	不明	SD15	○	江22 中央	不明	SD119	○	西区南	不明
SB06	○	江22 東側	不明	SD17	○	江22 西側	不明	SD11	○	南東区南	平安
SB09	○	江22 東側	不明	SD19	○	江22 西側	不明	SD16	○	北東区	不明
SB10	○	江22 東側	不明	SD20	○	江22 西側	不明	SD01	○	江22 東側	平安
SK13	○	江22 東側	不明	SD21	○	江22 西側	平安	SD32	○	江22 東側	平安
SK14	○	江22 東側	不明	SD25	○	江22 西側	不明	SK21	○	江22 東側	平安
SK16	○	江22 東側	不明	SD26	○	江22 西側	不明	SK22	○	江22 東側	平安
SK17	○	江22 東側	不明	SD27	○	江22 西側	中世	SK23	○	東区北	不明
SK18	○	江22 東側	中世	SD28	○	江22 西側	中世	SK24	○	東区北	不明
SK23	○	江22 中央	不明	SD29	○	江22 西側	中世	SK25	○	東区北	不明
SK28	○	江22 西側	不明	SD30	○	江22 西側	中世	SK26	○	江22 東側・中央	中世
SK29	○	江22 西側	中世	SD31	○	江22 西側	中世	SK27	○	西区北	不明
SK30	○	江22 西側	不明	SD32	○	江22 西側	中世	SK28	○	西区南	不明
SK31	○	江22 西側	中世	SD33	○	江22 西側	不明				
SK36	○	江22 西側	中世	SD34	○	江22 西側	中世				





遺物取り上げ状況図



S102

- 1 75YR3/2.5黄褐～暗褐CSI 粘性やや有 L.中  
硬土灰(φ2-3mm)1%・炭化物粒(1<3mm)5-7%・  
地山小B(5-15mm)10%
- 2 75YR3/4-10YR3/4暗褐CSI 粘性 L.中やや有  
炭化物粒(φ1-2mm)2-3%・地山小B(φ5-10mm)2-3%
- 3 75YR3/3.5暗褐CSI 粘性 L.中  
炭化物粒(φ1-2mm)1%・地山小B(φ15-20mm)1-2%
- 4 10YR4/6褐SSs 粘性有 L.中やや有  
暗褐色シロ質砂B(φ10-15mm)7-10%
- 5 10YR2.5/4暗赤～暗CS 粘性有 L.中やや有  
地山B(5-20%・炭化物粒(φ1mm)1-2%
- 6 10YR4/6褐SSs 粘性やや無 L.中やや有  
暗褐色シロ小B(φ15-30mm)1-2%
- 7 10YR4/6褐SSs 粘性やや有 L.中  
暗褐色シロ小B(5%・黒褐色シルト粒(φ1-10mm)3-5%
- 8 10YR4/6褐SSs 粘性やや有 L.中  
暗褐色シロ小B(1-2%混入・酸化鉄集積5-7%

0 (1:40) 2m

第15図 S102

2 検出遺構

[検出状況] 遺物をほとんど含まない黒褐色シルト層であるⅡ層除去後のⅢ層上面で検出した。

[重複] なし。

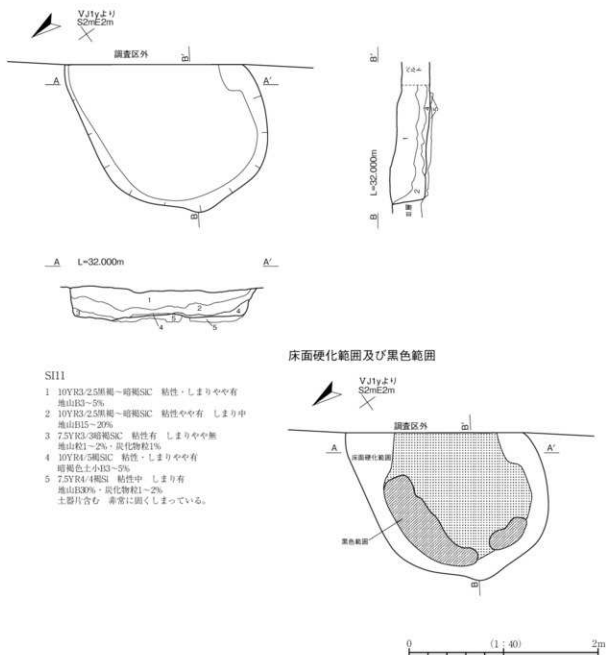
[規模] 確認できた規模は東西方向2.20m、南北方向1.90mで、楕円形を呈するものと考えられる。

[埋土] 5層に分類した。Ⅲ層を掘り込み、暗褐色シルトを混入する黄褐色粘土質シルト層(5層)を床面としている。埋土は大きく、地山ブロックを含む黒褐色シルトを主体とする上部～中部と少量の地山粒・炭化物粒を含む暗褐色シルトを主体とする下部に分けられる。

[壁・床の状況] Ⅲ層を深く掘りこんで、黄褐色粘土質シルトを貼って床面としている。検出面から床面までの深さは最大で39cmで、床面はほぼ平坦である。壁は床面から急角度で立ち上がる。

[竈] なし。

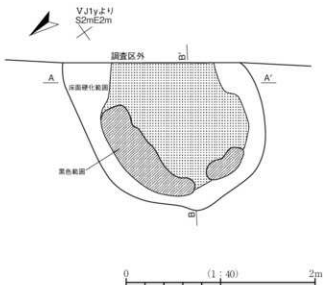
[付属施設] なし。



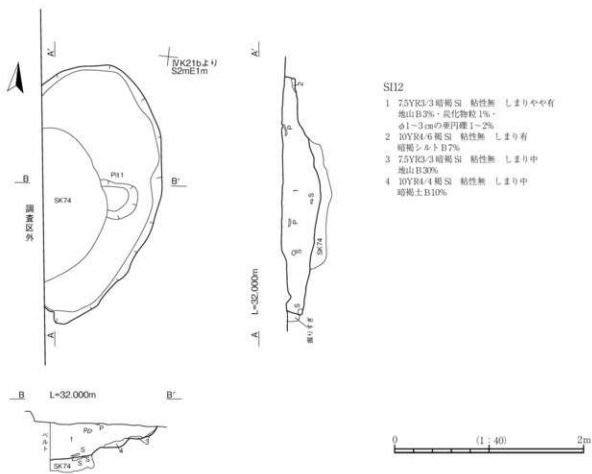
S11

- 1 10YR3/2.5細～暗褐SC 粘性・しまりやや有  
地山IS-5%
- 2 10YR3/2.5細～暗褐SC 粘性やや有 しまり中  
地山BIS-20%
- 3 7.5YR3/3暗褐SC 粘性有 しまりやや無  
地山粒1-2%・炭化物粒1%
- 4 10YR4/3暗SC 粘性・しまりやや有  
暗褐色土小IC1-5%
- 5 7.5YR4/4暗SC 粘性中 しまり有  
地山B30%・炭化物粒1-2%  
土器片含む 非常に固くまっている。

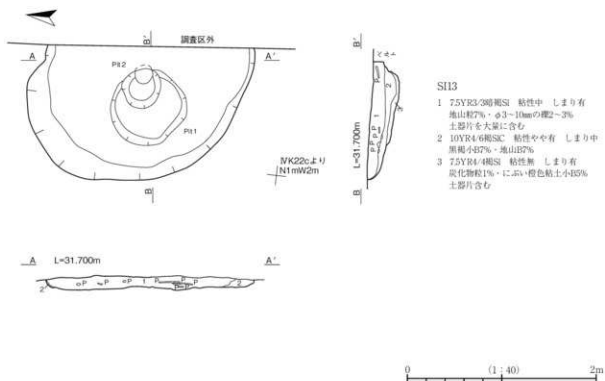
床面硬化範囲及び黒色範囲



第16図 S11



第 17 図 SI12



第 18 図 SI13

## 2 検出遺構

【出土遺物】縄文土器 124.2g、楔形石器 1点、RF2点、剥片 29点、黒曜石製破片 1点、石皿 2点が出土し、楔形石器 (340)、RF (360・361)、黒曜石製破片 (437)、石皿 (517) を掲載した。

【時代・時期】小破片であるため、詳細な時期は不明であるが、縄文時代に帰属するのは確かである。

### SH12 (第 17 図、写真図版 7)

【位置】南東区北、IV K21 b グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

【検出状況】表土層である I 層直下の III 層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】SK74 と重複しており、本遺構内に SK74 の壁が確認できず、本遺構がほぼ一括埋没していることから、本遺構が新しい可能性が高い。

【規模】確認できた規模は、東西方向 1.80m、南北方向 2.80m で、楕円形を呈するものと考えられる。

【埋土】4層に分層した。壁際に地山流入土層と考えられる黄褐色粘土質シルト層が見られるが、基本的には暗褐色シルトで埋没している。この埋土から大木 6 式の土器がまとも出土している。

【壁・床の状況】床面に明瞭な凹凸は見られないが、中央に向かってゆるやかにくぼんでいる。境界が明瞭な東側では底面から緩やかに立ち上がる。検出面から床面までの深さは最大で 44cm である。

【炉】なし。

【付属施設】SK74 と重複して柱穴を 1 個検出した。SK74 の外側に位置するため、本遺構に付属すると判断したが、断面の観察では SK74 との境に柱穴の立ち上がりを確認することはできなかった。底面からの深さは最大で 12cm で、埋土は暗褐色シルトの単層である。

【出土遺物】縄文土器 4074.6g、石鏃 2点、尖頭器 1点、剥片 43点、黒曜石製剥片 2点、打製石斧 1点、磨石 2点、石皿 2点、礫類 1点が出土し、縄文土器 (9-14)、尖頭器 (263)、黒曜石製剥片 (394、397)、打製石斧 (442)、石皿 (521、522) を掲載した。

【時代・時期】出土した遺物から、縄文時代前期の大木 6 式に帰属するものと考えられる。

### SH13 (第 18 図、写真図版 8)

【位置】南東区北、V K21 b グリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。

【検出状況】H22 年度の重機による表土除去後、III 層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。

【重複】なし。

【規模】確認した規模は、南西-北東 2.00m、北西-南東 2.50m で、平面形は楕円形を呈する。

【埋土】2層に分層した。壁際に初期の流入土層である黄褐色粘土質シルト層が見られるが、大部分は土器片を大量に包含する暗褐色シルトで一括埋没しており、人為的な堆積状況と考えられる。

【壁・床の状況】床面はほぼ平坦である。壁は床面からなだらかに立ち上がる。検出面から床面までの深さは最大で 25cm である。

【炉】なし。

【付属施設】西側の壁よりに土坑 1 基とその土坑の東壁寄り本遺構の中央付近にあたる部分で柱穴を 1 個検出した。土坑は直径 80cm の不整形で、床面からの深さは最大 13cm で、炭化物粒・土器片を含む褐色シルト層の単層で埋没している。柱穴は土器片を含む暗褐色シルトの単層で、床面からの深さは最大で 28cm である。

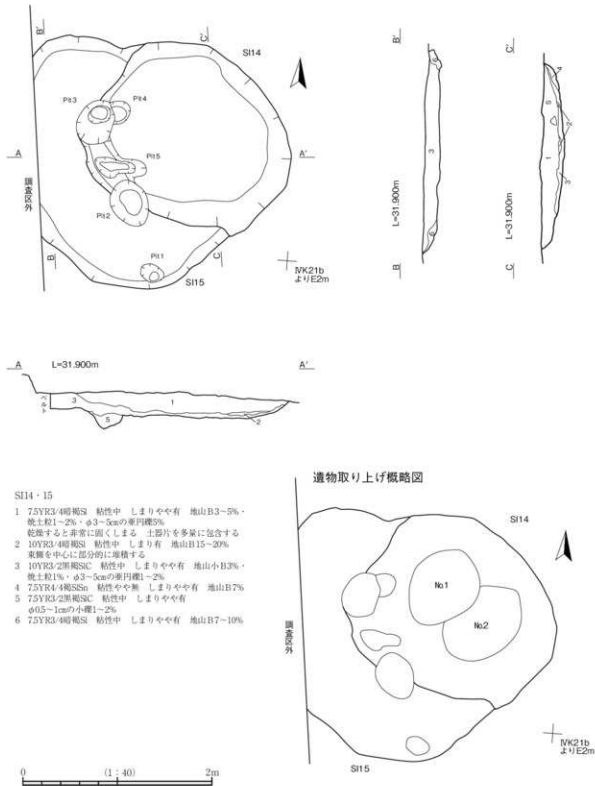
【出土遺物】暗褐色シルト層を中心に、縄文土器 19376g、剥片 12点が出土し、縄文土器 (15-29) を掲載した。

【時代・時期】出土した遺物から、縄文時代前期の大木 6 式に帰属するものと考えられる。

## SI14 (第19図、写真図版9)

[位置] 南東区北、IV K20b グリッド周辺に位置する。

[検出状況] H22年度の調査期間中に重機による表土除去後、Ⅲ層上面で縄文土器を多量に包含する暗褐色土の広がりとして検出した。



第19図 SI14・15

2 検出遺構

[重複] SI15と重複している。SI15との境で明瞭な壁を確認することはできなかったが、本遺構のプランと同調的に堆積土がレンズ状に堆積していることから本遺構が新しいと判断した。

[規模] 北西から南東方向で2.24m、北東から南西方向で2.00m、平面形は楕円形である。

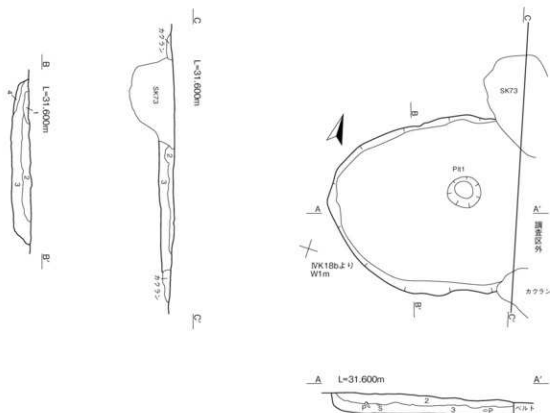
[埋土] 4層に分層した。SI15側から黒褐色シルトが薄く堆積している。その上部にブロック状に黄褐色シルト層が散見でき、大部分は縄文土器を多量に包含する暗褐色シルトで埋没している。上部に土器が集中しており、人為的な堆積の可能性が高い。

[壁・床の状況] 床面はほぼ平坦である。壁は床面から緩やかに立ち上がる。検出面から床面までの最大の深さは29cmである。

[炉] なし。

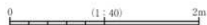
[付属施設] SI15との境で、柱穴3個と周溝を確認した。柱穴及び周溝は本遺構の西壁の外側に広がっており、SI15に伴う可能性が高い。

[出土遺物] 暗褐色シルト層を中心に、縄文土器8033.9g、剥片16点、磨石1点、SI15との重複部分から縄文土器1265.7g、石鏃2点、RF1点、剥片14点、黒曜石製剥片1点、打製石斧1点、磨石1点が出土し、縄文土器(30~39)、石鏃(260)、RF(362)、黒曜石製剥片(395)、打製石斧(443)、



SI16

- 1 10YR5-6黄褐色 粘性無 しまりやや有 暗褐色土小015%
  - 2 7.5YR3-4暗褐色 粘性無 しまりやや有 堆山粒10%・炭化物粒1~3%
  - 3 7.5YR3-3暗褐色 粘性中 しまりやや有 中 2層よりはやわらかく粘る 堆山小粒3%・炭化物粒1%・φ2~5cmの準角礫1%
  - 4 7.5YR3-2暗褐色 粘性中 しまりやや有 堆山粒2%
- P11 10YR3-3暗褐色 粘性無 しまりやや有 土器片包含



第20図 SI16

磨石(462、473)を掲載した。

[時代・時期] 出土した遺物から、縄文時代前期の大木6式に帰属するものと考えられる。

#### SI15 (第19図、写真図版9)

[位置] 南東区北、IV K20 a グリッド周辺に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] H22年度の調査期間中に重機による表土除去後、Ⅲ層上面で、SI14とともに検出した。

[重複] SI14と重複しており、前述の理由から本遺構が古いと判断した。

[規模] SI14に切られており、規模は不明である。

[埋土] SI14の床面にまで黒褐色シルト層が広がり、大半はこの黒褐色シルト層で埋没している。壁際には地山ブロックを含む暗褐色シルト層が三角形に堆積しているのが確認できる。

[壁・床の状況] SI14に切られており、一部しか残っていないが、確認できた部分で平坦である。壁は床面から緩やかに立ち上がる。確認できる検出面から床面までの最大の深さは21cmである。

[炉] なし。

[付属施設] 4個の柱穴を検出した。すべて暗褐色シルト層を主体とし、床面からの最大の深さはPit1が36cm、Pit2が23cm、Pit3が29cm、Pit4が13cmである。

[出土遺物] 縄文土器1.4g、剥片1点、礫類1点が出土した。前述のとおり、SI14との境界が不明瞭であるため、本来本遺構に帰属すべき遺物がSI14として報告している可能性を否定しきれない。

[時代・時期] 出土遺物が少なく、詳細な時期を特定しきれないが、SI14との関係からはほぼ同時期の遺構と考えられる。

#### SI16 (第20図、写真図版10)

[位置] 南東区北、IV K17 a b グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 表土層であるⅠ層直下のⅢ層上面で、暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複] SK73に切られており、本遺構が古い。

[規模] 確認した規模は、東西2.30m、南北1.90mで、平面形は歪な楕円形を呈する可能性が高い。

[埋土] 4層に分層したが、大きく、暗褐色シルトを主体とする上部層と極暗褐色シルト層を主体とする下部層に分かれる。北壁際には地山ブロックを含む暗褐色シルト層が三角計状に堆積している。

[壁・床の状況] ほぼ平坦である。確認できる壁は床面から直線的に外傾しながら立ち上がる。検出面から床面までの最大の深さは23cmである。

[炉] なし。

[付属施設] 中央付近で柱穴を1個検出した。土器片を含む暗褐色シルト層の単層で、床面からの深さは最大で22cmである。

[出土遺物] 縄文土器2598.9g、スクレイパー類2点、RF3点、剥片35点、磨石2点、礫類1点が出土し、縄文土器(40~44)、スクレイパー類(291)、RF(266、381)、磨石(506)を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から縄文時代前期後葉の大木6式期に帰属する。

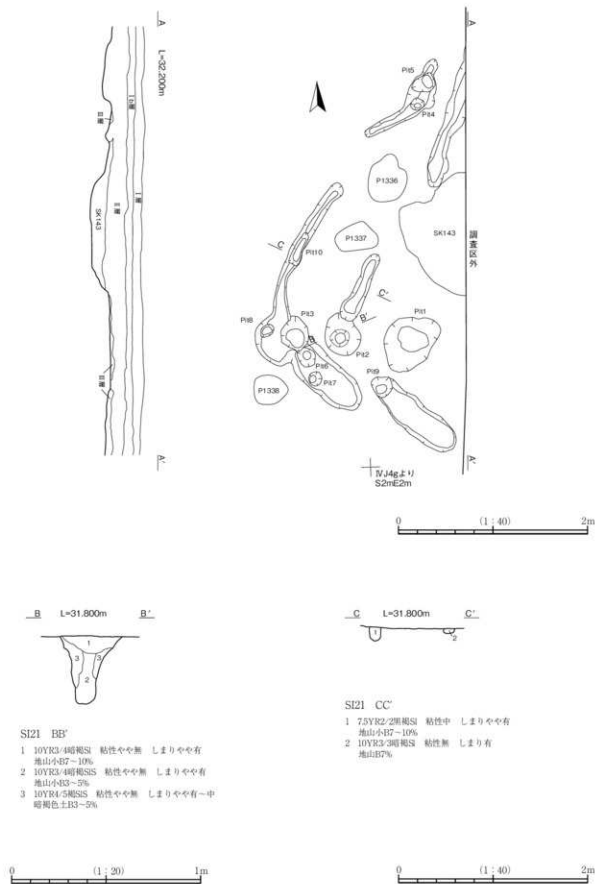
#### SI21 (第21図、写真図版11)

[位置] 西区北、IV J3 g グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] II層掘削後のⅢ層上面で、周溝と柱穴を確認した。

[重複] SK143、P336、P337とプランが重複しているが、接する部分が極わずかであるか、直接の切

2 検出遺構



S121 BB'

- 1 10YR3/4暗褐色 粘性やや無 しまりやや有  
堆山小砂7-10%
- 2 10YR2/4暗褐色 粘性やや無 しまりやや有  
堆山小砂3-5%
- 3 10YR4/5暗褐色 粘性やや無 しまりやや有-中  
暗褐色土R3-5%

S121 CC'

- 1 7.5YR2/2暗褐色 粘性中 しまりやや有  
堆山小砂7-10%
- 2 10YR3/3暗褐色 粘性無 しまり有  
堆山砂7%

第21図 S121



り合いがないため、新旧関係は不明である。しかし、P336とP337は中世の遺構である可能性が高いため、本遺構が古いと判断した。

[規模] 一隅のみの検出であるため、詳細な規模は不明である。

[埋土] 黒褐色シルトを主体としていると考えられるが、柱穴と周溝以外は確認できなかった。

[壁・床の状況] 本遺構は周溝と柱穴のみである。検出面が床面の可能性があるが、掘り込みが確認できなかったため、断定はできない。

[炬] なし。

[付属施設] 二重の周溝と柱穴10個を検出した。周溝の埋土は外側が地山ブロックを含む黒褐色シルトを主体とし、内側が地山ブロックを含む暗褐色シルトを主体とする。柱穴の埋土はPit1・3・5～10が黒褐色シルト、Pit2・4が暗褐色シルトを主体とする。検出面からの深さは最大で、Pit1から14cm、47cm、20cm、11cm、37cm、42cm、33cm、10cm、28cm、15cmである。

[出土遺物] 柱穴及び周溝から縄文土器321.8g、剥片3点、石皿2点が出土し、縄文土器(45)、石皿(523、527)を掲載した。

[時代・時期] 周溝や柱穴から出土した土器片を勘案すると、縄文時代前期に帰属すると考えられるが、詳細な時期は不明である。

## (2) 掘立柱建物跡 (SB)

### SB01 (第22図、写真図版12)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J101～110グリッド付近に位置する。本遺構のプランは北側に広がっている。

[検出状況] 1層直下のⅢ層上面で、にぶい黄褐色のプランとして検出した。

[柱穴] 4個の柱穴 (P080・079・085・073) を使用した。柱痕跡はすべてで検出できなかった。

[重複] なし。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN73°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き960cm (31.7尺:1尺≒30.3cm) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて240cm(7.9尺)である。240cmを6で割った40cmを用いて1尺' = 40cmと定めると、240cm=6尺'で、桁行きの960cm=24尺'となり切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺 (30.3cm) を用いず、1尺' = 40cmを基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB02 (第22図、写真図版12)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J12・13 1mグリッド付近に位置する。

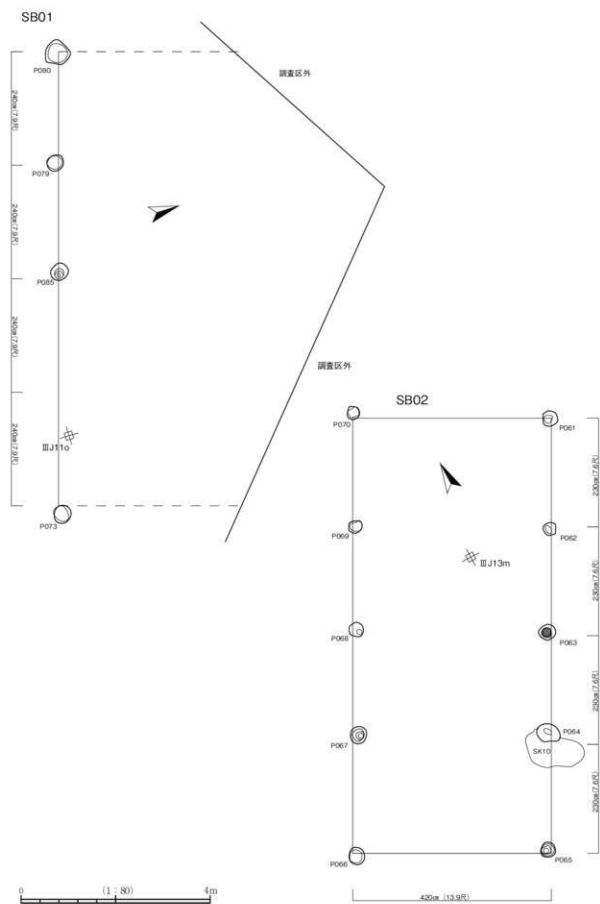
[検出状況] 1層直下のⅢ層上面で、暗褐色にぶい黄褐色のプランとして検出した。

[柱穴] 10個の柱穴 (P070・069・068・067・066・065・064・063・062・061) を使用した。P063は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] 本遺構を構成するP064がSK10を切っており、本遺構が新しい。また、SK06・SK09とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN28°Eである。

2 検出遺構



第 22 図 SB01・02

〔平面形式〕掘立柱建物である。規模は、桁行き920cm(30.4尺)、梁間420cm(13.9尺)で、面積は38.64㎡(11.7坪；1坪≒3.3㎡)である。桁行きと梁間の長さの比は、920：420=46：21である。

〔柱間寸法〕桁行きの柱間寸法はすべて230cm(7.6尺)である。230cmを6で割った38.3cmを用いて1尺=38.3cmと定めると、230cm=6尺で、桁行きの920cm=24尺、梁間の420cm=11尺となり、桁行き・梁間ともに切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺(30.3cm)を用いず、1尺=38.3cmを基準寸法とした可能性が考えられる。

〔出土遺物〕本遺構を構成する柱穴(P067とP069)から縄文土器12.5g、P061から剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB03 (第23図、写真図版12)

〔位置〕H22年度調査区の中央、ⅢJ11～13ghグリッド付近に位置する。本遺構のプランは北側に広がっている。

〔検出状況〕I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕7個の柱穴(P654・219・226・671・173・169・164)を使用した。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

〔重複〕SB04～SB08、SD11・12・17・19、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕桁行きの軸方位はN39°Eである。

〔平面形式〕掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き750cm(24.8尺)、梁間530cm(17.5尺)である。

〔柱間寸法〕桁行きの柱間寸法はすべて250cm(8.3尺)である。

〔出土遺物〕本遺構を構成する柱穴(P219とP654)から縄文土器5.4gが出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB04 (第23図、写真図版13)

〔位置〕H22年度調査区の中央、ⅢJ11・12f～hグリッド付近に位置する。本遺構のプランは北側に広がっている。

〔検出状況〕I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕4個の柱穴(P310・627・217・177)を使用した。P310は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕SB03・05・06、SD12・17・19、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

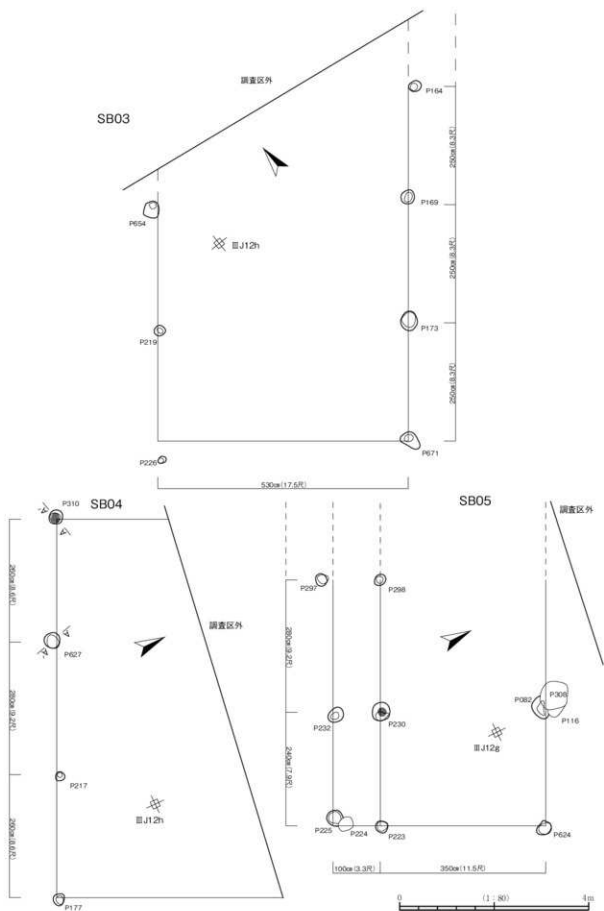
〔建物方位〕桁行きの軸方位はN65°Wである。

〔平面形式〕掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き800cm(26.4尺)である。

〔柱間寸法〕桁行きの柱間寸法は260cm(8.6尺)と280cm(9.2尺)の2種類である。

〔出土遺物〕本遺構を構成する柱穴(P627)から縄文土器46.9gが出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。



第 23 図 SB03~05

**SB05** (第23図、写真図版13)

〔位置〕H22年度調査区の中央、Ⅲ J11・12 e～g グリッド付近に位置する。本遺構のプランは西側に広がっている。

〔検出状況〕I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕8個の柱穴 (P082・624・223・230・298・225・232・297) を使用した。P230は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕P082がP116、P308に、P624がSD19に、P225がP224に切られており、本遺構を構成する柱穴が古い。また、SB03～SB08とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕桁行きの軸方位はN64°Wである。

〔平面形式〕掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き520cm (17.2尺)、梁間450cm (14.9) である。南面に庇を持つ構造である。

〔柱間寸法〕桁行きの柱間寸法は240cm (7.9尺) と280cm (9.2尺) の2種類である。

〔出土遺物〕本遺構を構成する柱穴 (P223・P225・P624) から縄文土器57.2g、P230からRF1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB06** (第24図、写真図版13)

〔位置〕H22年度調査区の中央、Ⅲ J11～13 e～g グリッド付近に位置する。

〔検出状況〕I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕10個の柱穴 (P317・240・235・105・184・218・626・309・313・315) を使用した。P235は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕P105がSX26道路状遺構を切る。P184がSD11に、P626がSD19に切られる。よって、本遺構はSX26道路状遺構より新しく、SD11、SD19より古い。また、SB03～SB09とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕桁行きの軸方位はN71°Wである。

〔平面形式〕掘立柱建物である。規模は、桁行き990cm (32.7尺)、梁間440cm (14.5尺) で、面積は43.56㎡ (13.2坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、990:440=9:4である。

〔柱間寸法〕桁行きの柱間寸法は220cm (7.3尺)、250cm (8.3尺)、270cm (8.9尺) の3種類で、一定ではない。梁間の柱間寸法は220cm (7.3尺) である。

〔出土遺物〕本遺構を構成する柱穴 (P218・235・240・313・317) から縄文土器353.6g、P218から剥片2点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB07** (第24図、写真図版14)

〔位置〕H22年度調査区の中央、Ⅲ J11～13 e～g グリッド付近に位置する。

〔検出状況〕I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕9個の柱穴 (P295・243・196・901 [SK26]・176・227・229・683・316) を使用した。

P227・P243は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕SB03・05・06・08・09、SD11・19、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成

する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN68°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1000cm(33尺)、梁間460cm(15.2尺)で、面積は46㎡(13.9坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1000:460=50:23である。

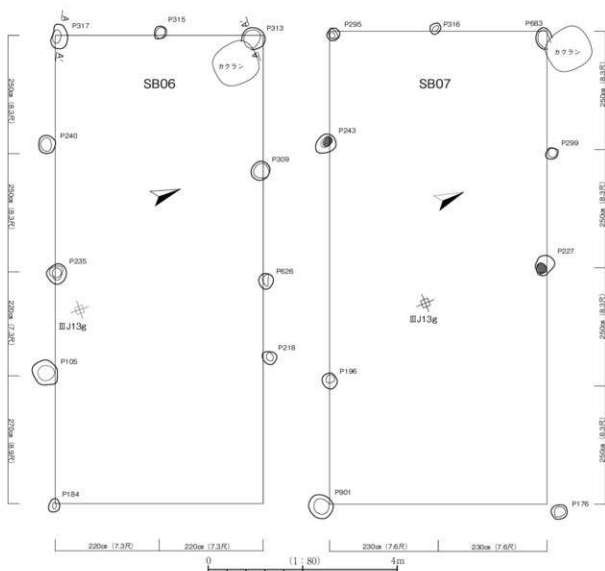
[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて250cm(8.3尺)である。250cmを6で割った41.7cmを用いて1尺'=41.7cmと定めると、250cm=6尺'で、桁行きの1000cm=24尺'、梁間の460cm=11尺'となり、桁行き・梁間ともに切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺(30.3cm)を用いず、1尺'=41.7cmを基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P196・P227・P243・P295)から縄文土器90.7gが出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB08 (第25図、写真図版14)

[位置] H22年度調査区の中央、ⅢJ11~13 e~h グリッド付近に位置する。



第24図 SB06・07

[検出状況] I層直下のIII層上面で検出した。

[柱穴] 9個の柱穴 (P318・633・250・501・179・221・628・311・684) を使用した。P221・628 は検出時に、P684 は底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

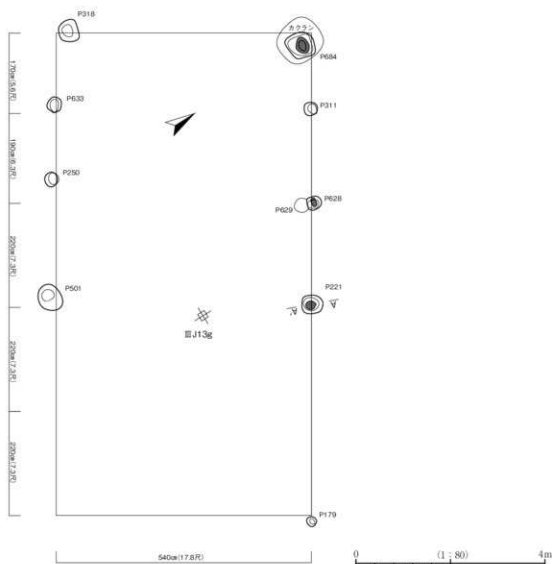
[重複] P633・628 がSD19に切られており、本遺構を構成する柱穴が古い。P501はP237と重複しているが、新旧関係を把握できなかった。SB03・05～07・09、SD11、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN58°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1020cm (33.7尺)、梁間540cm (17.8尺) で、面積は55.08㎡ (16.7坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1020:540=17:9である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は170cm (5.6尺)、190cm (6.3尺)、220cm (7.3尺) の3種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P221・P250・P318・P501・P684) から縄文土器174.7g、P221からRF1点、P250からRF1点、剥片1点、P684からRF2点、剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。



第25図 SB08

## 2 検出遺構

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB09 (第26図、写真図版14)

[位置] H22年度調査区の中央から北西区にかけてのⅢ J12~16 e~g グリッド付近に位置する。南西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 8個の柱穴 (P234・244・256・259・1111・1614・190・159) を使用した。P159・234・244は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P256がP257を切る。P1614がSD08に切られる。よって、本遺構はSD08より古く、P257より新しい。また、SB06~08・10・11・51、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN23°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1450cm (47.9尺)、梁間580cm (19.1尺) で、面積は84.1㎡ (25.5坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1450:580=5:2である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は200cm (6.6尺)、220cm (7.3尺)、290cm (9.6尺)、370cm (12.2尺) の4種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P244・256・1111) から縄文土器89.3g、P159から黒曜石製剥片1点、P190・244から剥片各1点、P1614から磨石3点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB10 (第27図、写真図版15)

[位置] H22年度調査区の中央から北西区にかけてのⅢ J14~17 f g グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 6個の柱穴 (P203・205・621・1617・1116・1117) を使用した。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] P621がSI02を切る。P1617がSD07に切られる。よって、本遺構はSD07より古く、SI02より新しい。また、SB09・11・51、SK75、SD08・58、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN30°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1060cm (35.0尺)、梁間700cm (23.1尺) で、面積は74.2㎡ (22.5坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1060:700=53:35である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は240cm (7.9尺)、270cm (8.9尺)、280cm (9.2尺) の3種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P621・1116・1117・1617) から縄文土器70.2g、P1116から石鏃1点、錐形石器1点、剥片5点、P1117から剥片3点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB11 (第28図、写真図版15)

[位置] H22年度調査区の中央部~西側、北西区にかけてのⅢ J13~15 c~f グリッド付近に位置する。

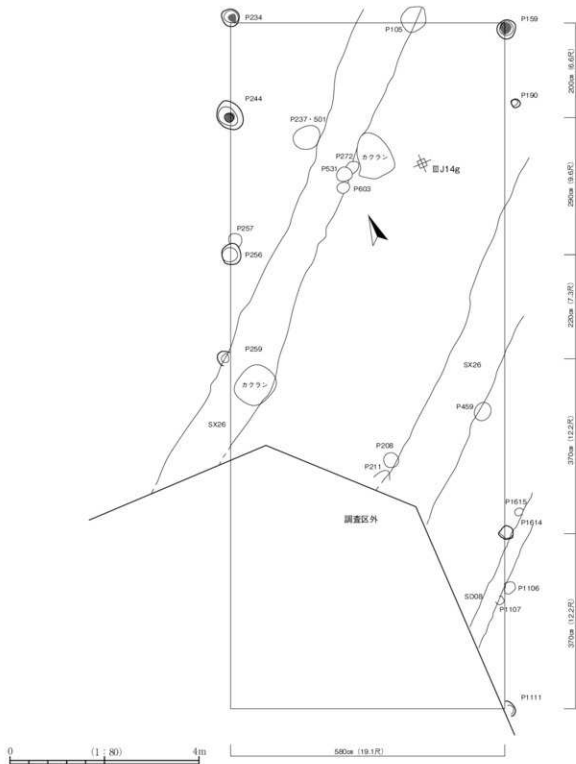


南西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 1層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 6個の柱穴 (P349・652・287・163・198・1101) を使用した。P163・349・1101 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P652 が P327 に切られる。よって、本遺構は P327 より古い。また、SB09・10・12～17、



第 26 図 SB09

## 2 検出遺構

SK28～30、SD20、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N81°W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1350cm (44.6 尺)、梁間 700cm (23.1 尺) で、面積は 94.5㎡ (28.6 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1350 : 700 = 27 : 14 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 270cm (8.9 尺) である。

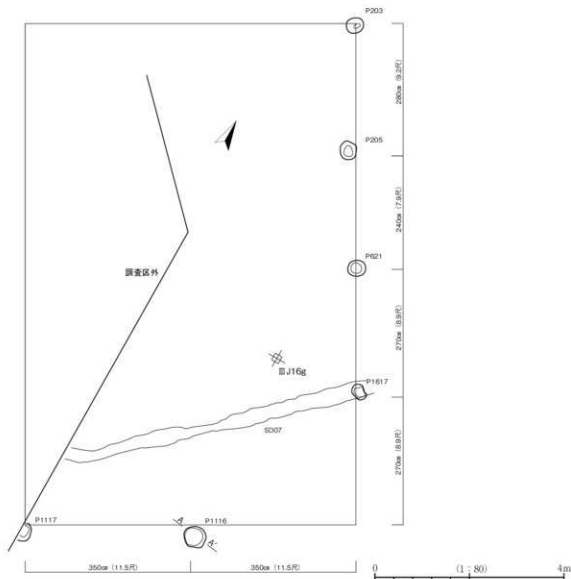
[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P163・198・287・349・1101) から縄文土器 139.35g、P198 から剥片 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB12 (第 29 図、写真図版 15)

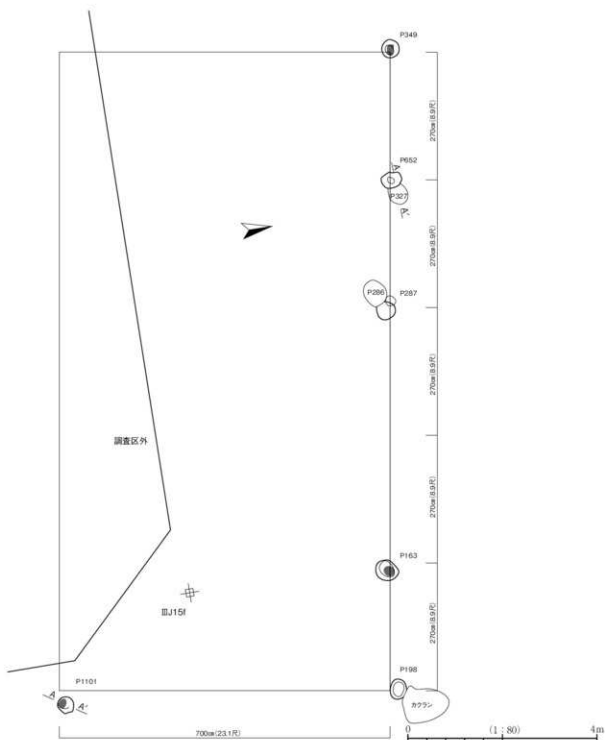
[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J14 b～d グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がる。

[検出状況] 1 層直下のⅢ層上面で検出した。



第 27 図 SB10

- [柱穴] 4個の柱穴（P354・662・634・667）を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。
- [重複] SB11・13～17、SK29・30、SD20とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。
- [建物方位] 桁行きの軸方位はN89°Wである。
- [平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き920cm（30.4尺）である。
- [柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて230cm（7.6尺）である。230cmを6で割った38.3cmを用いて1尺



第28図 SB11

## 2 検出遺構

=38.3cmと定めると、230cm=6尺'で、桁行きの920cm=24尺'となり切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺(30.3cm)を用いず、1尺'=38.3cmを基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P634・667)から縄文土器40.3g、P634から磨石3点、P667から剥片3点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB13 (第29図、写真図版16)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J13・14 a~d グリッド付近に位置する。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 10個の柱穴(P694・673・657・660・226・334・342・385・400・406)を使用した。P400・406は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P385がP384・679を、P673がP672・674を切る。P657がSB14を構成するP351に、P673がP378に切られる。よって、本遺構はSB14、P378より古く、P384・672・674・679より新しい。また、SB11・12・15~18、SK29・30とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN86°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1360cm(44.9尺)、梁間440cm(14.5尺)で、面積は59.84㎡(18.1坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1360:440=34:11である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は270cm(8.9尺)、300cm(9.9尺)、360cm(11.9尺)、430cm(14.2尺)の4種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P266・334・342・385・400・406・657・660)から縄文土器445.1g、P334から石匙1点、P342から磨石、敲石各1点、P385から磨石1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB14 (第30図、写真図版16)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J13・14 a~d グリッド付近に位置する。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 9個の柱穴(P692・373・351・659・288・655・345・336・402)を使用した。P336・345・351・402は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P351がSB13を構成するP657を切る。よって、本遺構はSB13より新しい。また、SB11・12・15~17、SK29・30とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN86°Wである。

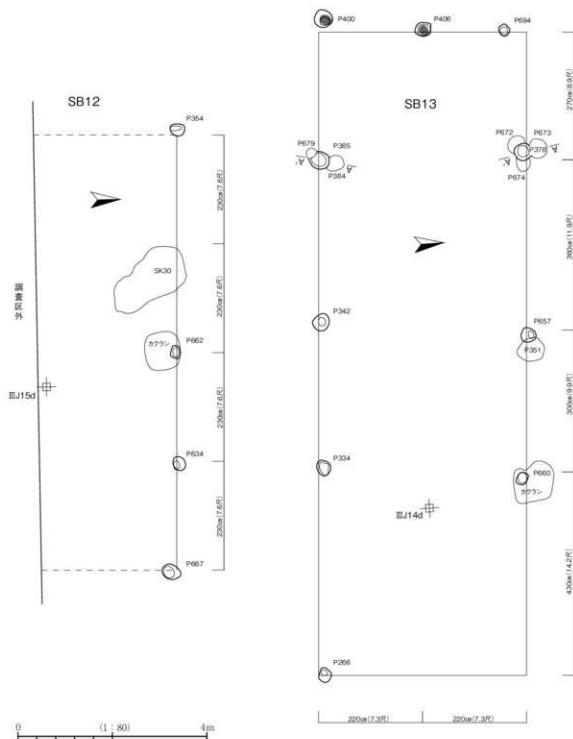
[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1240cm(40.9尺)、梁間360cm(11.9尺)で、面積は44.64㎡(13.5坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1240:360=31:9である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて310cm(10.2尺)である。310cmを6で割った51.7cmを用いて1尺'=51.7cmと定めると、310cm=6尺'で、桁行きの1240cm=24尺'、梁間の360cm=7尺'となり、桁行き・梁間ともに切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺

(30.3cm) を用いず、1尺' = 51.7cm を基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P288・351・373・402・655・659・692) から縄文土器 518.8g、P288 から石鏃 1点、P402 から原石、打製石斧各 1点、P655 から剥片 2点、P659 から剥片 1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。



第29図 SB12・13

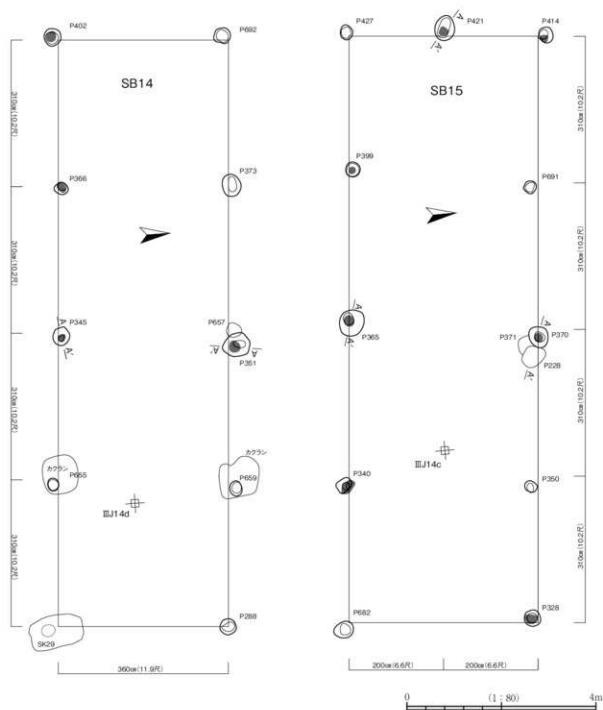
## SB15 (第30図、写真図版16)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ113・14y～Ⅲ113・14a～cグリッド付近に位置する。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 11個の柱穴 (P427・399・365・340・682・328・350・370・691・414・421) を使用した。本遺構を構成する半数以上の柱穴 (P328・340・365・370・399・414・421) では検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P370がP228・371を切る。よって、本遺構はP228・371より新しい。また、SB11～14・16～18、SK30とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係



第30図 SB14・15

は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN85°Wである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。規模は、桁行き1240cm(40.9尺)、梁間400cm(13.2尺)で、面積は49.6㎡(15.0坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1240:400=31:10である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法はすべて310cm(10.2尺)である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P328・340・350・365・399・414・421・427)から縄文土器1132.0g、P328から磨石1点、P340とP350から剥片各1点、P365から石匙1点、磨石2点、P370から磨製石斧2点、磨石1点、P414から打製石斧、磨石、石棒類各1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB16 (第31図、写真図版17)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、ⅢJ13・14a～dグリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕 I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 5個の柱穴(P418・368・586・329・270)を使用した。P368・418は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕 P368がP367を切る。よって、本遺構はP367より新しい。また、SB11～15・17・18、SK30、SD20・26とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN75°Eである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。規模は、桁行き1060cm(35.0尺)、梁間470cm(15.5尺)で、面積は49.82㎡(15.1坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1060:470=106:47である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法は250cm(8.3尺)と270cm(8.9尺)の2種類である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P418)から縄文土器20.8g、RF1点、剥片2点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB17 (第31図、写真図版17)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、ⅢJ13・14a～dグリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕 I層直下のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 5個の柱穴(P355・341・676・278・282)を使用した。P355は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕 SB11～16、SK30、SD20とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN84°Eである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き740cm(24.4尺)である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法は170cm(5.6尺)、180cm(5.9尺)、220cm(7.3尺)の3種類で、一定ではない。

2 検出遺構

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴（P341・355）から縄文土器 16.2 g、P355 から磨石 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

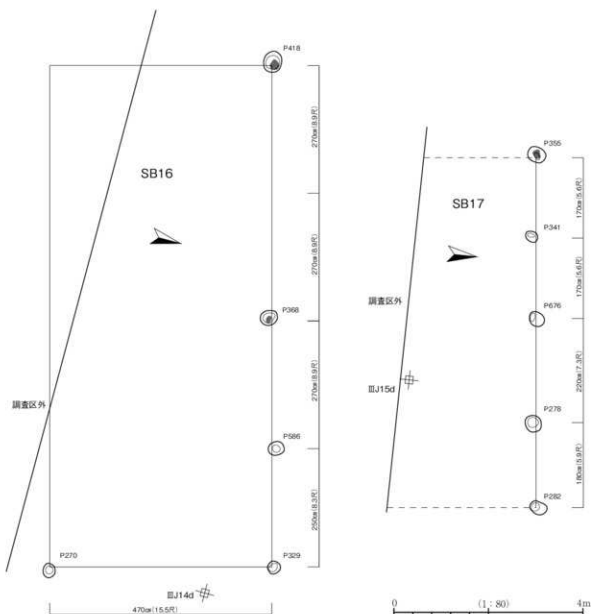
SB18（第32図、写真図版17）

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I14 x~y・Ⅲ J14 ab グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 西側の一部は掘削後のⅢ層上面で、その他はⅠ層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 7個の柱穴（P463・533・439・426・401・386・359）を使用した。P359・386・439・463は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB13・15・16・19・20、SD25・26・28とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との



第31図 SB16・17



直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN84°Wである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き1460cm(48.2尺)である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法は220cm(7.3尺)、240cm(7.9尺)、260cm(8.6尺)の3種類で、一定ではない。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P359・386・426・439・463・533)から縄文土器197.3g、P463から磨石1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB19 (第32図、写真図版18)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、Ⅲ I12~14 v-x グリッド付近に位置する。

〔検出状況〕 Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 10個の柱穴(P472・470・468・464・460・642・540・678・523・545)を使用した。P460・468・472は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕 SB18、SD27・29・43とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN60°Wである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。規模は、桁行き790cm(26.1尺)、梁間380cm(12.5尺)で、面積は30.02㎡(9.1坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、790:380=79:38である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法は170cm(5.6尺)、200cm(6.6尺)、220cm(7.3尺)の3種類で、一定ではない。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P464・468・470・472・642)から縄文土器63.3g、P472から磨石1点、P545から剥片3点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB20 (第32図、写真図版18)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、Ⅲ I13・14 u-x グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕 Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 7個の柱穴(P473・471・466・461・457・487・483)を使用した。P461・466・471・473・483では検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

〔重複〕 P473とP483がSD28と重複しているが、極一部であるため、新旧関係は不明である。また、SB18、SD29とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

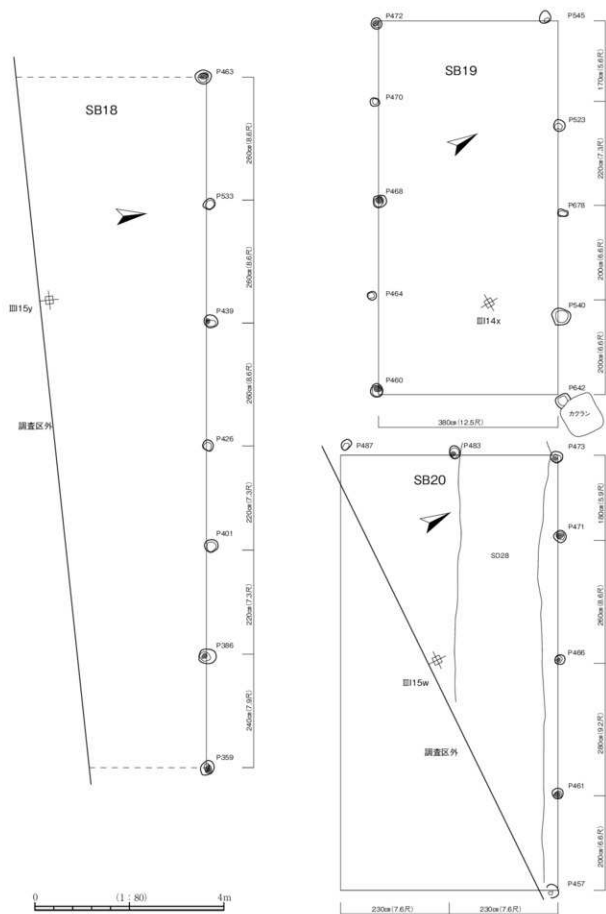
〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN64°Wである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。規模は、桁行き920cm(30.4尺)、梁間460cm(15.2尺)で、推定面積は42.32㎡(12.8坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、920:460=2:1である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法は180cm(5.9尺)、200cm(6.6尺)、260cm(8.6尺)、280cm(9.2尺)の4種類で、一定ではない。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P466・473・487)から縄文土器163.7gが出土しているが、異

2 検出遺構



第 32 図 SB18~20

時期の産物である。

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB41 (第33図、写真図版18)

【位置】南東区南、V J8・9 s t グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

【検出状況】I層直下のⅢ層上面で検出した。

【柱穴】4個の柱穴 (P1004・1003・1005・1006) を使用した。柱痕跡は検出できなかった。

【重複】SD54とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【建物方位】桁行きの軸方位はN62°Wである。

【平面形式】掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き180cm(5.9尺)、梁間380cm(12.5尺)である。

【柱間寸法】確認できた桁行きの柱間寸法は180cm(5.9尺)である。

【出土遺物】本遺構を構成する柱穴(P1003)から縄文土器2g、P1003から石鏃1点、P1004から剥片2点、P1005から剥片5点、黒曜石製砕片1点が出土しているが、異時期の産物である。

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB42 (第33図、写真図版19)

【位置】北東区、Ⅲ J17~19 v w グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

【検出状況】I層直下のⅢ層上面で検出した。

【柱穴】4個の柱穴 (P1402・1403・1407・1405) を使用した。P1407は検出時に、P1402は検出時と底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

【重複】SB43、SK91とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【建物方位】桁行きの軸方位はN76°Wである。

【平面形式】掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き200cm(6.6尺)、梁間470cm(15.5尺)である。

【柱間寸法】確認できた桁行きの柱間寸法は200cm(6.6尺)である。

【出土遺物】本遺構を構成する柱穴 (P1402・1405) から縄文土器10.6gが出土しているが、異時期の産物である。

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB43 (第33図、写真図版19)

【位置】北東区、Ⅲ J18~21 u v グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

【検出状況】I層直下のⅢ層上面で検出した。

【柱穴】5個の柱穴 (P1404・1410・1427・1444・1465) を使用した。P1427は検出時に、P1444とP1465は底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

【重複】SB42・44とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【建物方位】桁行きの軸方位はN29°Eである。

【平面形式】掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き1360cm(44.9尺)、梁間250cm(8.3尺)である。

- [柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は320cm(10.6尺)と360cm(11.9尺)の2種類である。  
 [出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1444)から磁器1点が出土した。このほかにも、P1427とP1444から縄文土器4.1g、P1404から黒曜石製剥片1点、P1427から磨石1点、P1444からスクレイパー類1点、剥片4点、磨石1点が出土しているが、異時期の産物である。  
 [時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB44** (第33図、写真図版19)

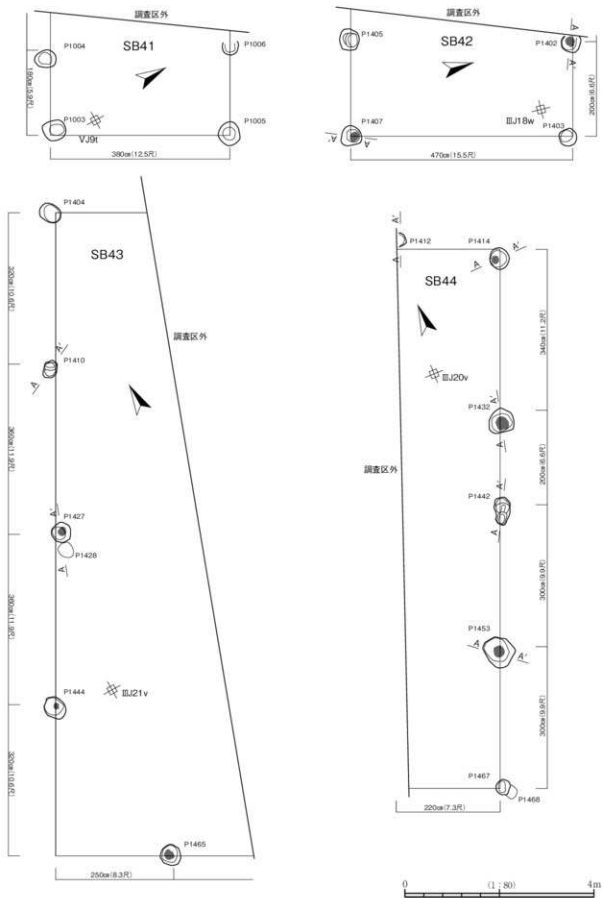
- [位置] 北東区、ⅢJ19~22uvグリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。  
 [検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。  
 [柱穴] 6個の柱穴(P1414・1432・1442・1453・1467・1412)を使用した。P1414・1453は検出時に、P1432は検出時と底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。  
 [重複] P1467がP1468を切っており、本遺構はP1468より新しい。また、SB43、SD71、SN16とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。  
 [建物方位] 桁行きの軸方位はN22°Eである。  
 [平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き1140cm(37.6尺)、梁間220cm(7.3尺)である。  
 [柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は200cm(6.6尺)、300cm(9.9尺)、340cm(11.2尺)の3種類で、一定ではない。  
 [出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1414・1432・1442)から縄文土器20.7g、P1432から剥片1点、P1442からスクレイパー類1点、P1453から磨石、石皿各1点が出土しているが、異時期の産物である。  
 [時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB45** (第34図、写真図版20)

- [位置] 東区北、ⅣJ1・2tグリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。  
 [検出状況] 遺物のほとんど伴わないⅡ層直下のⅢ層上面で検出した。  
 [柱穴] 4個の柱穴(P1528・1522・1511・1513)を使用した。柱痕跡は検出できなかった。  
 [重複] P1511とP1510が重複しているが、極一部であるため、新旧関係は不明である。  
 [建物方位] 桁行きの軸方位はN86°Eである。  
 [平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き180cm(5.9尺)、梁間460cm(15.2尺)である。  
 [柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法は180cm(5.9尺)、梁間の柱間寸法は230cm(7.6尺)である。  
 [出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1511・1522・1528)から縄文土器675.0g、P1528から剥片3点、磨石1点が出土しているが、異時期の産物である。  
 [時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB46** (第34図、写真図版20)

- [位置] 東区北、ⅢJ23~25tグリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。  
 [検出状況] 遺物のほとんど伴わないⅡ層直下のⅢ層上面で検出した。  
 [柱穴] 3個の柱穴(P1723・1488・1633)を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。  
 [重複] P1633がSD73に切れ、P1723がSD61を切る。よって、本遺構はSD61より新しく、SD73より古い。また、P1488とP1487が重複しているが、極一部であるため、新旧関係は不明である。さ



第 33 図 SB41~44

## 2 検出遺構

らに、SK81・82とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN85°Eである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、梁間640cm(21.1尺)である。

〔柱間寸法〕 梁間の柱間寸法は320cm(10.6尺)である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P1488・1633・1723)から縄文土器197.0g、P1488から石鏃3点、RF1点、磨石2点、敲石1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB51 (第34図、写真図版20)

〔位置〕 北西区、ⅢJ16・17fグリッド付近の確認調査区内に位置する。そのため、各柱穴の掘削は半截で終了している。西側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕 Ⅲ層上面で検出した。

〔柱穴〕 3個の柱穴(P1110・1114・1115)を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。

〔重複〕 P1110がP1109を切る。よって、本遺構はP1109より新しい。また、SB09・10、SD07とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位は不明である。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、南東面が200cm(6.6尺)、北東面が210cm(6.9尺)である。

〔柱間寸法〕 コーナーのみの確認であるため、桁行きと梁間の関係は不明であるが、隣接する掘立柱建物と比較すると、桁行きの柱間寸法が200cm(6.6尺)、梁間の柱間寸法が210cm(6.9尺)であると考えられる。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P1110・1114)から縄文土器6.5g、P1110とP1114から剥片各1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB52 (第34図、写真図版21)

〔位置〕 北西区、ⅢJ16～18fグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北東側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕 Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 7個の柱穴(P1119・1128・1127・1135・1144・1157・1153)を使用した。P1127・1135・1144は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

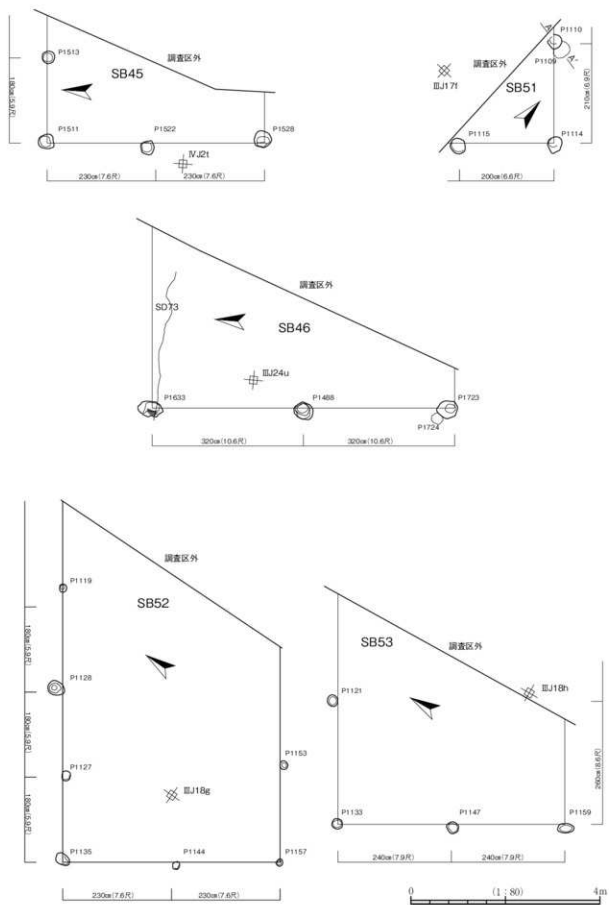
〔重複〕 SB53・54、SK76、SD59とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN55°Eである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き540cm(17.8尺)、梁間460cm(15.2尺)である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法はすべて180cm(5.9尺)である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴(P1119・1128)から縄文土器11.8g、P1128から剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。



第 34 図 SB45・46・51～53

## 2 検出遺構

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB53 (第34図、写真図版21)

【位置】北西区、Ⅲ J17・18 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北東側は調査区外に広がっている。

【検出状況】Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

【柱穴】4個の柱穴（P1121・1133・1147・1159）を使用した。P1133は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

【重複】SB52・54、SK76、SD59とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【建物方位】桁行きの軸方位はN60°Eである。

【平面形式】掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き260cm(8.6尺)、梁間480cm(15.8尺)である。

【柱間寸法】確認できた桁行きの柱間寸法は260cm(8.6尺)である。

【出土遺物】なし。

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB54 (第35図、写真図版21)

【位置】北西区～西道路、Ⅲ J17～19 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にあり、調査区外に広がっている。

【検出状況】Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

【柱穴】5個の柱穴（P1138・1146・1148・1158・1677）を使用した。P1138・1146は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

【重複】P1138がP1139に切られる。よって、本遺構はP1139より古い。また、SB52・53とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【建物方位】桁行きの軸方位はN80°Wである。

【平面形式】掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き440cm(14.5尺)、梁間440cm(14.5尺)である。

【柱間寸法】確認できた桁行きの柱間寸法はすべて220cm(7.3尺)である。

【出土遺物】本遺構を構成する柱穴（P1146）から縄文土器1.8g、石鏃1点が出土しているが、異時期の産物である。

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### SB55 (第35図、写真図版22)

【位置】西区北、Ⅲ J19～21 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。

【検出状況】Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

【柱穴】8個の柱穴（P1160・1165・1196・1219・1214・1205・1187・1172）を使用した。P1160・1165・1196・1219は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

【重複】SB56、SK131、SD111～113とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【建物方位】桁行きの軸方位はN08°Wである。



〔平面形式〕 掘立柱建物である。規模は、桁行き800cm (26.4尺)、梁間420cm (13.9尺)で、面積は33.6㎡ (10.2坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、800:420=40:21である。

〔柱間寸法〕 桁行きの柱間寸法はすべて200cm (6.6尺)である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴 (P1165・1172・1187・1196・1205・1214・1219) から縄文土器514.7g、P1165から剥片1点、P1172からRF1点、P1187から黒曜石製破片1点、P1196から石皿1点、P1205から磨石1点、P1219から剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB56 (第35図、写真図版22)

〔位置〕 西区北、Ⅲ J20~23fgグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。南西側は調査区外 (平成8年度前沢町調査区) に広がっている。

〔検出状況〕 Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 6個の柱穴 (P1211・1221・1226・1231・1197・1192) を使用した。P1197・1231は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

〔重複〕 SB55、SK133、SD111・112とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN41°Eである。

〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き750cm (24.8尺)、梁間420cm (13.9尺)である。

〔柱間寸法〕 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて250cm (8.3尺)である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴 (P1211) から縄文土器1.6g、P1192とP1197から磨石各1点、P1221とP1231から剥片各1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

#### SB58 (第36図、写真図版22)

〔位置〕 西区南、Ⅳ J8~10fgグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北西側は調査区外 (平成8年度前沢町調査区) に広がっている。

〔検出状況〕 Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

〔柱穴〕 5個の柱穴 (P1682・1359・1362・1366・1365) を使用した。P1365・1682は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

〔重複〕 SD119とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方位はN46°Wである。

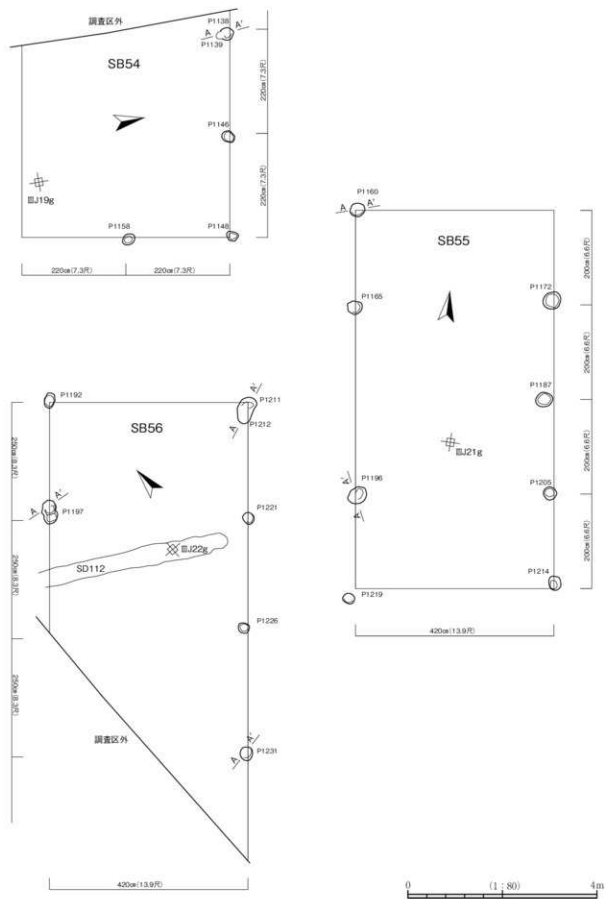
〔平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き720cm (23.8尺)、梁間440cm (14.5尺)である。

〔柱間寸法〕 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて240cm (7.9尺)である。

〔出土遺物〕 本遺構を構成する柱穴 (P1362・1366) から縄文土器87.6g、P1365から剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。

〔時期〕 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

2 検出遺構



第 35 図 SB54~56

**SB59** (第36図、写真図版23)

[位置] 南西区、IV J20・21efグリッド付近の確認調査区内に位置する。西側は調査区外に広がる。

[検出状況] II層掘削後のIII層上面で検出した。

[柱穴] 3個の柱穴 (P1387・1390・1391) を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。

[重複] なし。

[建物方位] 桁行きの軸方位は不明である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、南西面が440cm (14.5尺) である。

[柱間寸法] 一部のみの確認であるため、桁行きと梁間の関係は不明であるが、確認できた柱間寸法は220cm (7.3尺) である。この寸法は桁行き・梁間ともに用いられており、どちらか判断できない。

[出土遺物] なし。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB60** (第36図、写真図版23)

[位置] 西区北、IV J1・2fgグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。南西側は調査区外 (平成8年度前沢町調査区) に広がっている。

[検出状況] II層掘削後のIII層上面で検出した。

[柱穴] 5個の柱穴 (P1285・1286・1288・1282・1280) を使用した。P1282・1286・1288は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] P1288はP1289と重複するが、埋土が類似しており、新旧関係は不明である。また、SB61とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN64°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き440cm (14.5尺)、梁間340cm (11.2尺) である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて220cm (7.3尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1280・1285・1286) から縄文土器333.9g、P1280からRF、剥片各1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

**SB61** (第36図、写真図版23)

[位置] 西区北、III J24・25g、IV J1fグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] II層掘削後のIII層上面で検出した。

[柱穴] 4個の柱穴 (P1261・1266・1274・1283) を使用した。P1283は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

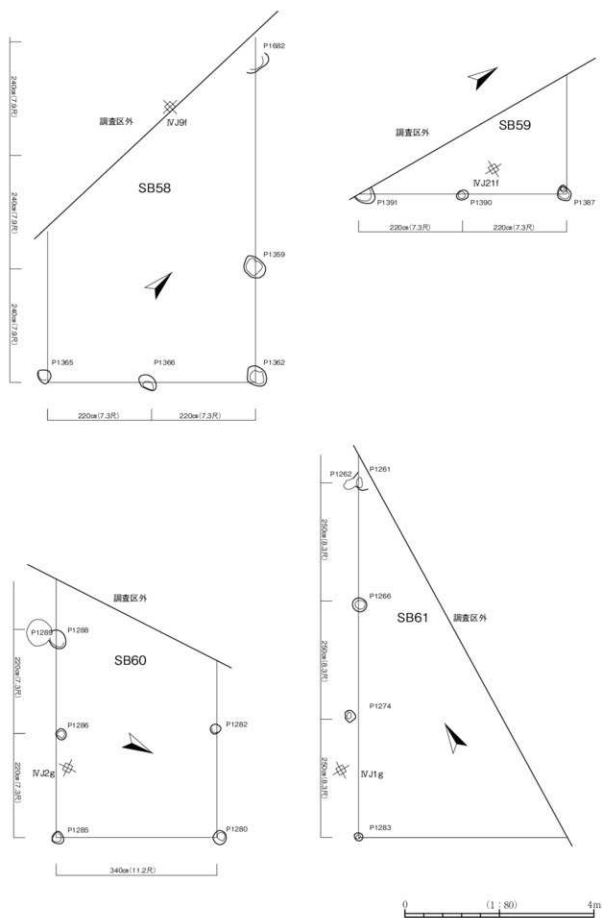
[重複] P1261がP1262を切る。よって、本遺構がP1262より新しい。また、SB60とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN30°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き750cm (24.8尺) である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて250cm (8.3尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1261・1274) から縄文土器87.1gが出土しているが、異時期



第36図 SB58~61

の産物である。

【時期】詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

### (3) 土 坑 (SK)

#### SK04 (第37図、写真図版26)

【位置】H22年度調査区の東側、Ⅲ J111グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

【重複】なし。

【規模】開口部で0.80×0.70mの楕円形で、検出面から底面までの残存深度は42cmである。

【埋土】全体的に基本層序では確認できない暗褐色シルトを主体とする。中間部には地山の流入土層と考えられる褐色シルト層の堆積が確認できる。全体的に炭化物等の混入物が少なく、三角形の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦で、壁は底面から直線的に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器(66.8g)、剥片2点が埋土から出土しているが、異時代のものである。

【出土遺物】掲載遺物なし。

【時代・時期】時代の特定できる遺物が伴わず帰属時代は不明である。

#### SK06 (第37図、写真図版26)

【位置】H22年度調査区の東側、Ⅲ J121グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

【重複】SB02とブランが重複するが、SB02を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【規模】開口部で0.85×0.80mの円形で、検出面から底面までの残存深度は77cmである。

【埋土】7層に分層した。全体的に基本層序では確認できない暗褐色シルト層を主体とする。ある程度埋没したあとの壁際には地山の流入土層と考えられる黄褐色粘土質シルト層の堆積が確認できる。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦で、壁は底面から直立気味に立ち上がる。

【出土遺物】なし。

【時代・時期】時代の特定できる遺物が伴わず帰属時代は不明である。

#### SK09 (第37図、写真図版26)

【位置】H22年度調査区の東側、Ⅲ J131グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

【重複】SB02とブランが重複するが、SB02を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【規模】開口部で1.27×0.94mの歪な楕円形で、検出面から底面までの残存深度は35cmである。

【埋土】3層に分層した。底面付近に薄く褐色シルトが堆積し、大部分は暗褐色シルトを主体とし、混入物・しまり等で明確に分層できた。

【壁・底面の状況】底面は北に向かって緩やかにくぼんでいる。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

【遺物出土状況】剥片3点が出土している。

【出土遺物】掲載遺物なし。

## 2 検出遺構

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代は不明である。

### SK10 (第37図、写真図版26)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J131グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] 本遺構がSB02を構成するP064に切られる。よって、本遺構がSB02より古い。

[規模] 開口部で1.30×0.79mの歪な楕円形で、検出面から底面までの残存深度は25cmである。

[埋土] 2層に分層した。壁際に初期の流入土層である黄褐色粘土質シルト層が確認できるが、大半は暗褐色シルト層で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面にはゆるやかであるが、波打っている。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(5.8g)が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

### SK13 (第37図、写真図版27)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J14 k1グリッドに位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 確認できた規模は、開口部で0.97×0.88mの不整形で、検出面から底面までの残存深度は25cmである。

[埋土] 2層に分層した。暗褐色シルト層を主体とする。下部は炭化物、黄褐色シルトブロックを含み、上部は黒褐色シルトブロックを含むことで容易に分層できる。

[壁・底面の状況] 底面は皿状を呈する。そのため、壁も緩やかに立ち上がっている。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

### SK16 (第37図、写真図版27)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J12 kグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.22×0.68mの楕円形で、検出面から底面までの残存深度は18cmである。

[埋土] 2層に分層した。上半部は地山ブロックを含む黒褐色シルト層を主体とし、下半部は地山ブロックを含む暗褐色シルト層を主体とする。

[壁・底面の状況] ほぼ平坦である。南側の壁は直立気味に立ち上がるが、北側の壁は浅く聞き気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

### SK17 (第38図、写真図版27)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J11 jグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.00×0.94 mの垂な円形で、検出面から底面までの残存深度は16cmである。

[埋土] 2層に分層した。上半部は地山ブロックを含む暗褐色シルト層を主体とし、下半部は褐色シルト層を含む黄褐色シルト層を主体とする。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、壁は底面から開き気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

#### SK18 (第38図、写真図版28)

[位置] H22年度調査区の東側、Ⅲ J12j グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] SD08に切られる。よって、本遺構はSD08より古い。

[規模] 開口部で1.07×1.03 mの円形で、検出面から底面までの残存深度は42cmである。

[埋土] 5層に分層した。混入物、しまり・粘性が異なる暗褐色シルトを主体とする。埋土掘削中に南側半分は掘りきってしまい、平面図に反映することができなかったが、中間部には炭化物層(4層)がほぼ全面に確認できた。

[壁・底面の状況] 底面は中央部がくぼんでいる。壁は一部でオーバーハングするものの、ならかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(827.3g)、石鏃1点、剥片3点、黒曜石裂剥片1点が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 埋土から出土した縄文土器1点と黒曜石裂剥片1点を掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 中世に帰属すると考えているSD08より古いことは確かであるが、詳細な帰属時代は不明である。

#### SK23 (第38図、写真図版27)

[位置] H22年度調査区の中央、Ⅲ J12・13h グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SD15を切る。よって、本遺構はSD15より新しい。

[規模] 開口部で1.28×0.75 mの垂な楕円形で、検出面から底面までの残存深度は23cmである。

[埋土] 3層に分層した。上部に薄く暗褐色シルト層が堆積しているが、大部分は地山起源のシルト質粘土層で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(11.4g)が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

#### SK28 (第38図、写真図版28)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J13・14e グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で褐色の隅丸長方形の広がりとして確認した。

## 2 検出遺構

[重複] SB11とプランが重複するが、SB11を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で1.49×0.80mの重な隅丸長方形で、検出面から底面までの残存深度は7cmである。

[埋土] 褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。非常に残存状態が悪いので、壁は一部しか確認できない。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

### SK29 (第38図、写真図版29)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J14 d グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SB14を構成する柱穴を切っている。よって本遺構が新しい。また、SB12・13・17とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で1.18×0.70mの重な隅丸長方形で、検出面から底面までの残存深度は35cmである。

[埋土] 2層に分層した。南側底面付近に黒褐色シルトがブロック状に観察されるが、大部分は暗褐色シルトで埋没している。人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に外傾しながら立ち上がる。

[遺物出土状況] 底面付近から洪武通寶1点と天祐通寶1点が貼り付いたもの、小片であるため、銭種の不明なもの1点が出土した。また、埋土から縄文土器(17.0g)が出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 銭貨(604)を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から墓塚の可能性が高く、中世に帰属する。

### SK30 (第38図、写真図版29)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J14 c グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SB12~17とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で1.85×1.00mの洋梨形で、検出面から底面までの残存深度は40cmである。

[埋土] 2層に分層した。下半部に地山起源の褐色シルト質粘土層が堆積しているが、大半は地山ブロック・炭化物・焼土ブロックを含む黒褐色シルト質粘土層で埋没している。断面図には反映されていないが、下部に焼土ブロックや炭化物が広がる面が確認された。

[壁・底面の状況] 細かな凹凸が観察される。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(316.8g)、RF1点が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 埋土から出土した縄文土器1点を掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

### SK31 (第39図、写真図版28)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J12 c グリッドに位置する。北側は調査区外に広がるが、昭和以降の圃場整備により消失している。



〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色の円形の広がりとして確認した。

〔重複〕なし。

〔規模・平面形〕確認できた規模は、開口部で1.34×0.95mの円形で、検出面から底面までの残存深度は120cmである。

〔埋土〕6層に分層した。大きく上・中・下部に分けられる。上部は黒褐色シルト層を主体とする。中間部は地山ブロックを含む暗褐色シルト層を主体とする。下部は地山起源の黄褐色もしくは褐色シルト層を主体とする。下部は上中部と比較するとしまりがいい。

〔壁・底面の状況〕底面は平坦で、下部の壁は直立し、上半はロート状に開いて立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器(6.4g)が埋土から出土しているが、異時代のものである。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕形態的な特徴からSK121等の中世に帰属すると考えている土坑と類似しており、同時期の遺構の可能性が高いが、年代を特定しうる遺物が伴わないため、詳細な時期は不明である。

#### SK36 (第39図、写真図版29)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢI13sグリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色粘土の円形の広がりとして確認した。

〔重複〕なし。

〔規模・平面形〕開口部で1.42×1.34mの円形で、検出面から底面までの残存深度は約23cmである。

〔埋土〕上下に大別した。上部は黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色粘土を主体とし、下部は黒褐色粘土質泥土である。上部は混入物が多く、人為堆積と判断したが、下部は混入物がなく、自然堆積の可能性が高いと考えられるが、決定的な根拠は見出せなかった。

〔底面・壁の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がり、断面形が浅鉢状を呈する。

〔遺物出土状況〕縄文土器(119.5g)、RF2点・剥片1点・磨石1点が埋土上部を中心に全般から出土している。

〔出土遺物〕埋土から出土した磨石を掲載したが、異時代のものである。

〔時代・時期〕詳細な時期は不明であるが、中世の可能性が高いと考えている。

#### SK38 (第39図、写真図版30)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢI12sグリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、堀跡・溝跡に挟まれるように黒色のプランが円形状に広がっていることで確認した。

〔重複〕SD36・37に切られる。よって、本遺構はSD36・37より古い。

〔規模・平面形〕開口部で1.47×1.25mの楕円形で、底面までの残存深度は約130cmである。

〔埋土〕4層に分層した。オリブ黒色粘土質泥質土を主体に黄褐色粘土がブロック状に多量に混入する。土層の堆積様相から、人為堆積と判断される。

〔底面・壁の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は直立気味に立ち上がり、断面形が筒状を呈する可能性が高い。

〔遺物出土状況〕埋土から砥石が1点出土している。この他にも、縄文土器(1099.3g)やスクレイパー類1点、鏡形石器1点、RF3点、剥片8点、磨石1点が埋土全般から出土しているが、異時代のものである。

## 2 検出遺構

[出土遺物] 砥石(601)を掲載した。またこの他にも縄文土器、スクレイパー類、筈形石器、RFを掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 埋土の様相からは縄文期の遺構とは考え難く、中世と推定しておきたい。

### SK41 (第39図、写真図版24)

[位置] H22年度調査区の中央、ⅢJ14gグリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SD08に切られ、本遺構が古い。

[規模] 開口部で2.20×1.50mの楕円形で、底面までの残存深度は80cmである。主軸方向はN38°Wである。

[埋土] 6層に分層した。壁際から最下部には地山の流入土層と考えられる黄褐色粘土質シルト層が確認でき、極暗褐色シルト、黒褐色シルト、黒褐色～暗褐色シルトの順で堆積している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 埋土から磨石が1点出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 形態的な特徴から陥し穴の可能性が高い。よって、縄文時代中期以前に帰属するものと考えられる。

### SK53 (第39図、写真図版30)

[位置] 南東区南、VJ7tグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で0.78×0.70mの円形で、底面までの残存深度は約60cmである。

[埋土] 4層に分層した。中央部に地山ブロックを多く含む層があるため、大きく3層に分けたが、暗褐色シルトを主体とする人為的な一括埋没の可能性が高い。上半は剥片を多く含んでいる。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(46.9g)、円盤状土製品1点、石鏃1点、スクレイパー類1点、RF4点、剥片234点、黒曜石製剥片2点、打製石斧1点、磨石1点、礫類1点が埋土から出土している。

[出土遺物] 円盤状土製品(193)、石鏃(254)、スクレイパー類(267)、RF(363、364)、黒曜石製剥片(398、399)、磨石(494)を掲載した。

[時代・時期] 詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期の可能性が高いと考えている。

### SK55 (第40図、写真図版30)

[位置] 南東区南、VJ6uグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で0.85×0.83mの円形で、底面までの残存深度は約55cmである。

[埋土] 5層に分層した。暗褐色シルトが底面付近に堆積し、地山の流入土と考えられる黄褐色シルト質粘土層が三角形に堆積しているのが確認できる。その後、暗褐色シルト主体で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（21.1g）、剥片18点、黒曜石製剥片1点、打製石斧1点、磨石1点、凹石1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕黒曜石製剥片（400）、打製石斧（444）、凹石（508）を掲載した。

〔時代・時期〕詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期の可能性が高いと考えている。

#### SK56（第40図、写真図版30）

〔位置〕南東区南、V J5uv グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で0.63×0.63mの歪な円形で、底面までの残存深度は約42cmである。

〔埋土〕6層に分層した。暗褐色シルトが底面付近に堆積し、地山の流入土と考えられる黄褐色シルト質粘土層が三角形に堆積しているのが確認できる。その後は暗褐色シルト主体で埋設している。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁はオーバーハングしており、いわゆる「フラスコ状」を呈している。

〔遺物出土状況〕縄文土器（6.8g）、剥片1点、磨石1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕形態的な特徴から、縄文時代に帰属するのは確実であるが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまつまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

#### SK57（第40図、写真図版31）

〔位置〕南東区南、V J5uv グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で1.67×0.98mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約17cmである。

〔埋土〕2層に分層した。底面付近には褐色シルトがブロック状で散在しているが、大部分は暗褐色シルトで埋設している。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（38.3g）、剥片6点、磨石2点、石皿1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕磨石（496）、石皿（524）を掲載した。

〔時代・時期〕詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期の可能性が高いと考えている。

#### SK58（第40図、写真図版31）

〔位置〕南東区南、V J4・5v グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で0.83×0.78mの円形で、底面までの残存深度は約78cmである。

〔埋土〕断面図には4層まで記載しているが、実際には5層に分層した。最下層に暗褐色シルトがやや厚く堆積し、その上部に地山の流入土と考えられる褐色シルトが三角形に堆積しているのが確認できる。酸化鉄斑が確認できる暗褐色シルトが薄く堆積し、亜円礫を含む黒褐色～暗褐色シルト層で

## 2 検出遺構

大部分は埋没している。上部2層はSK59と類似している。

[壁・底面の状況]底面はほぼ平坦である。壁は中間部でくびれ、上部で緩やかに開きながら立ち上がっている。

[遺物出土状況]縄文土器(17.0g)、剥片4点、黒曜石製剥片1点が埋土から出土している。

[出土遺物]黒曜石製剥片(401)を掲載した。

[時代・時期]形態的特徴から、縄文時代に帰属すると考えているが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまつまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

### SK59 (第40図、写真図版31)

[位置]南東区南、V J4v v グリッドに位置する。

[検出状況]Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複]なし。

[規模]開口部で0.85×0.73mの楕円形で、底面までの残存深度は約45cmである。

[埋土]3層に分層した。壁際には地山の流入土層と考えられる褐色シルト層が確認でき、大部分は黒褐色～暗褐色シルトを主体とした堆積土で埋没している。

[壁・底面の状況]底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況]縄文土器(0.5g)、RF1点、剥片4点が埋土から出土している。

[出土遺物]RF(348)を掲載した。

[時代・時期]形態的特徴から、縄文時代に帰属すると考えているが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまつまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

### SK61 (第41図、写真図版31)

[位置]南東区南、IV K24 a グリッドに位置する。北東側は後世の掘削によって消失しており、東側は調査区外に広がっている。

[検出状況]Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複]なし。

[規模]確認できた規模は、開口部で0.80×0.53mで、底面までの残存深度は約27cmである。

[埋土]2層に分層した。大半は後世の攪乱層で、南西側では壁際に亜円礫や地山ブロックを含む区褐色シルトが確認でき、その後、暗褐色シルト質粘土層で埋没している。

[壁・底面の状況]底面はほぼ平坦である。北側の壁は底面からならかに立ち上がり、南側の壁はオーバーハングしている。

[遺物出土状況]縄文土器(38.3g)、剥片3点が埋土から出土している。

[出土遺物]掲載遺物なし。

[時代・時期]時代を特定しうる遺物が伴わないため、時代・時期とも不明である。

### SK64 (第41図、写真図版32)

[位置]南東区北、IV K22 b グリッドに位置する。

[検出状況]Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】なし。

【規模】開口部で1.20×1.20 mの円形で、底面までの残存深度は約16cmである。

【埋土】黒褐色粘土質シルトの単層である。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦である。中央南寄りに1個のPitが伴い、北と南に溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器（5.3g）、剥片3点、磨石2点が埋土から出土している。

【出土遺物】磨石（463）を掲載した。

【時代・時期】形態的な特徴から、縄文時代に帰属するフラスコ状土坑の底面付近のみが残存する遺構と考えているが、詳細な時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまともまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

#### SK65（第41図、写真図版32）

【位置】南東区北、IV K19・20 b グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】SK66と重複しているが、一部であるため、新旧関係は不明である。

【規模】開口部で1.90×1.10 mの楕円形で、底面までの残存深度は約16cmである。

【埋土】断面図の記載はないが、暗褐色シルトの単層である。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦である。中央には1個のPitが伴い、北と西に溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器（0.7g）、RF1点、剥片2点が埋土やPitの埋土から出土している。

【出土遺物】RF（349）を掲載した。

【時代・時期】形態的な特徴から、縄文時代に帰属するのは確実であるが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまともまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

#### SK66（第41図、写真図版32）

【位置】南東区北、IV K19 b グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】SK65と重複しているが、一部であるため、新旧関係は不明である。

【規模】開口部で1.47×1.47 mの円形で、底面までの残存深度は約12cmである。

【埋土】2層に分層した。壁際の一部には地山起源の褐色シルト層が三角形に堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦である。中央には1個のPitが伴い、北・南・西に溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器（32.4g）、剥片3点、磨石1点が埋土やPitの埋土から出土している。

【出土遺物】磨石（464）を掲載した。

【時代・時期】形態的な特徴から、縄文時代に帰属するのは確実であるが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまともまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

**SK67** (第41図、写真図版32)

〔位置〕南東区北、IV K18・19 a b グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で2.08×1.10 mの円形で、底面までの残存深度は約16cmである。

〔埋土〕2層に分層でき、壁際には地山起源の褐色シルト層が三角形に堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。堆積状況はSK66と酷似している。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。中央及び長軸端に各1個、計3個のPitが伴い、Pitを連結するように溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器(181.8g)、RF1点、剥片4点が埋土やPitの埋土から出土している。

〔出土遺物〕RF(350)を掲載した。

〔時代・時期〕出土遺物や形態的な特徴から、縄文時代前期後葉に帰属すると考えられる。

**SK69** (第41図、写真図版33)

〔位置〕南東区北、IV K18 a b グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で1.70×1.65 mの円形で、底面までの残存深度は約17cmである。

〔埋土〕2層に分層した。壁際の一部には地山起源の褐色シルト層が堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦で、中央に1個のPitが伴う。壁は底面から直線的に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器(58.2g)、RF1点、剥片4点、磨石1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕磨石(465)を掲載した。

〔時代・時期〕出土遺物や形態的な特徴から、縄文時代前期後葉に帰属すると考えられる。

**SK71** (第42図、写真図版33)

〔位置〕南東区北、IV K16 a グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で1.00×1.00 mの円形で、底面までの残存深度は約15cmである。

〔埋土〕2層に分層した。全体的に暗褐色シルトを主体とするが、壁際から底面にかけては地山ブロックの混入が多く確認できる。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器(2.0g)が埋土から出土しているが、異時代のものである。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SK73** (第42図、写真図版33)

〔位置〕南東区北、IV K17 b グリッドに位置する。南東側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕SI16と重複し、本遺構が新しい。

〔規模〕確認できた規模は、開口部で1.13×0.80mの隅丸長方形で、底面までの残存深度は約50cmである。

〔埋土〕5層に分層した。底面には地山起源の黄褐色砂質シルトが部分的に確認でき、底面付近には黒褐色シルト層が薄く堆積している。その後、暗褐色シルト、黒褐色シルト、暗褐色シルトの順で埋没している。最上部は包含層の堆積層に類似している。

〔壁・底面の状況〕長軸方向に対して斜めに検出しているため、断定はできないが、確認できた部分ではほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（88.1g）、剥片2点、礫器1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕礫器（461）を掲載した。

〔時代・時期〕小破片が多いため詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期に帰属する可能性が高いと考えられる。

#### SK74（第42図、写真図版35）

〔位置〕南東区北、IV K16aグリッドに位置する。西側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕SI12の西側が深く掘り込まれていることより、別遺構と判断した。

〔重複〕SI12と重複し、本遺構が古い。

〔規模〕確認できた規模は、開口部で1.70×0.80mで、底面までの残存深度は約35cmである。

〔埋土〕2層に分層したが、暗褐色シルトを主体とする。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（49.5g）が埋土から出土している。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕SI12より古いため、縄文時代前期後葉以前である。

#### SK75（第42図、写真図版34）

〔位置〕北西区、Ⅲ J17fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあり、北側半分の掘削は行っていない。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕SB10とプランが重複するが、SB10を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕開口部で0.95×0.93mの円形で、底面までの残存深度は約63cmである。

〔埋土〕5層に分層した。常に湧水があるため、最下層の観察は困難であったが、暗褐色もしくは極暗褐色シルト主体で埋没している。最上部には重円礫を含む黒褐色シルトで完全に埋没している。

〔壁・底面の状況〕底面は非常に狭く平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

〔出土遺物〕なし。

〔時代・時期〕遺物が伴わないが、SK121と形態的に類似しており、中世に帰属する可能性が高いものと考えられる。

#### SK76（第42図、写真図版34）

〔位置〕北西区、Ⅲ J17gグリッドに位置する。西側半分は確認調査の範囲にあるが、通常の遺構と同じ調査を行った。

## 2 検出遺構

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕SB52・53とプランが重複するが、SB52・53を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕開口部で0.78×0.67mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約22cmである。

〔埋土〕地山ブロック・黒褐色土ブロック・炭化物粒を含む暗褐色シルトの単層である。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器(48.3g)、剥片1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SK81 (第42図、写真図版34)

〔位置〕東区、Ⅲ J23 t u グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕P1483・1635と重複し、本遺構が新しい。また、SB46とプランが重複するが、SB46を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕開口部で0.99×0.65mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約40cmである。

〔埋土〕地山ブロックを含む暗褐色シルトの単層である。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器(43.4g)、剥片1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SK82 (第43図、写真図版)

〔位置〕東区、Ⅲ J23・24 t グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕P1485と重複し、本遺構が古い。また、SB46、P1636とプランが重複するが、SB46を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、P1636とは切り合い関係が極一部であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕開口部で0.87×0.60mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約24cmである。

〔埋土〕3層に分層した。中央部に貫入するように黒褐色シルト層(2層)が確認できるが、大部分は暗褐色シルトを主体(1・3層)で埋没している。

〔壁・底面の状況〕底面は中央部が浅くくぼんでいる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。

〔遺物出土状況〕黒曜石製剥片1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕黒曜石製剥片(418)を掲載した。

〔時代・時期〕時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SK85 (第43図、写真図版35)

〔位置〕東区、Ⅲ J25 s グリッドに位置する。西側の大部分が調査区外に広がっている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。



- [規模] 一部のみの確認であるため、規模は不明である。確認できた残存深度は約16cmである。
- [埋土] 地山ブロックを含む暗褐色シルトの単層である。
- [壁・底面の状況] 底面の中央部にマウント状の高まりが確認でき、周縁がやや深くなっている。壁は底面から直立気味に立ち上がる。
- [遺物出土状況] 楔形石器1点が埋土から出土している。
- [出土遺物] 楔形石器(346)を掲載した。
- [時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

## SK86 (第43図、写真図版35)

- [位置] 東区、IV J 2st グリッドに位置する。
- [検出状況] III層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。
- [重複] P1803と重複し、本遺構が新しい。
- [規模] 開口部で1.86×1.63mの不整形で、底面までの残存深度は約16cmである。
- [埋土] 黒褐色シルトの単層である。
- [壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。
- [遺物出土状況] 縄文土器(604.4g)、石匙2点、RF1点、剥片4点、石皿1点が埋土から出土している。
- [出土遺物] 縄文土器(97)、石匙(338)、RF(352)、石皿(525)を掲載した。
- [時代・時期] 出土遺物から縄文時代に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

## SK87 (第43図、写真図版35)

- [位置] 東区、IV J 4t・5st グリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。
- [検出状況] III層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。
- [重複] なし。
- [規模] 開口部で2.26×0.80mの不整形で、底面までの残存深度は約38cmである。
- [埋土] 主体となる堆積土の色調や地山ブロックの混入量により3層に分層したが、混入物が多く人為堆積の可能性が高いと考えられる。
- [壁・底面の状況] 底面は凹凸が目立つ。特に中央部はビット状にくぼんでいる。壁は底面からなだらかに立ち上がる。
- [遺物出土状況] 縄文土器(141.7g)、RF1点、磨石1点、土師器(4.62g)が埋土から出土している。
- [出土遺物] RFと磨石を掲載したが、異時代の遺物の可能性が高い。
- [時代・時期] 土師器が出土しており、少なくとも平安時代以降であることは確実であるが、詳細な時代・時期は不明である。

## SK88 (第43図、写真図版36)

- [位置] 東区、IV J 5・6st グリッドに位置する。
- [検出状況] III層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。
- [重複] SD64と重複し、本遺構が古い。
- [規模] 開口部で1.65×0.86mの不整形で、底面までの残存深度は約30cmである。
- [埋土] 地山ブロックの有無と混入量で3層に分層したが、黒褐色シルトを主体とする。
- [壁・底面の状況] 底面の南北両端にビット状のくぼみがあり、浅い凹凸が確認できる。壁は底面か

## 2 検出遺構

ら直線的に立ち上がる。

【出土遺物】なし。

【時代・時期】遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SK89 (第44図、写真図版36)

【位置】東区、IV J9s グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】P1578と重複するが、重複部分が極一部であるため、新旧関係は不明である。

【規模】開口部で0.62×0.59mの円形で、底面までの残存深度は約42cmである。

【埋土】2層に分層した。下部は地山ブロックを含む暗褐色シルトを主体とし、上部は黒褐色シルトを主体とする。堆積土三角形もしくはレンズ状に堆積しており、自然堆積の可能性が高い。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器(712.6g)が埋土から出土している。

【出土遺物】縄文土器(98)を掲載した。

【時代・時期】出土遺物から縄文時代に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

### SK90 (第44図、写真図版36)

【位置】東区、IV J10・11s グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】なし。

【規模】開口部で1.06×0.76mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約21cmである。

【埋土】地山ブロックの有無により2層に分層したが、黒褐色シルトを主体とする。

【壁・底面の状況】底面は凹凸が見られ、特に北東隅には、ビット状のくぼみを確認できる。壁は底面から直線的に立ち上がる。

【出土遺物】なし。

【時代・時期】遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SK91 (第44図、写真図版36)

【位置】北西区、Ⅲ J17v・18v グリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】SB42とプランが重複するが、SB42を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明であるが、本遺構が縄文時代の遺構の可能性が高いことを考慮すると、本遺構が古いこととなる。なお、同時代の遺構との重複関係はない。

【規模】開口部で1.43×1.05mの楕円形で、底面までの残存深度は約45cmである。主軸方向はN37°Wである。

【埋土】4層に分層した。底面及び壁付近には地山起源の褐色シルトや暗褐色シルトが堆積し、その上部に叩くと金属音がするかたくしまった黒褐色～暗褐色を呈するシルト層がレンズ状に厚く堆積している。最後には地山ブロックを含む暗褐色シルトで完全に埋没している。

【壁・底面の状況】底面は皿状を呈し、中央にPitが1個伴う。底面からの深さは最大で29cmで、埋土は暗褐色シルトの単層である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 形状は陥し穴に類似している。そのため、縄文時代に帰属する可能性が高い。

#### SK121 (第44図、写真図版37)

[位置] 南西区、ⅣJ17fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、通常の遺構と同じ調査を行った。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.45×1.39mの円形で、底面までの残存深度は約100cmである。

[埋土] 6層に分層した。最下部には壁の崩落土と考えられる黄褐色土が三角形に堆積し、その上部には人為堆積と考えられる地山ブロックを多量に混入するにぶい黄褐色土が堆積している。4層は混入物が少ないが、上面が水平になっており、人為的に埋め戻された可能性が想定される。上半部は暗褐色土主体で埋没している。3層は地山ブロックとの混合層で人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁の下部は直立し、上部で外傾しながら立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(8.8g)、土師器(15.76g)、須恵器(43.82g)、常滑1点が埋土から出土している。

[出土遺物] 常滑(576)を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から中世に帰属する可能性が高い。

#### SK131 (第44図、写真図版37)

[位置] 西区、ⅢJ20・21fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、通常の遺構と同じ調査を行った。

[検出状況] Ⅲ層上面で、地山とは異なる焼土粒を含む褐色の広がりとして検出した。

[重複] SD111に切られ、本遺構が古い。また、SB55とプランが重複するが、SB55を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で1.03×0.94mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約10cmである。

[埋土] 褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。残存状態が悪く、壁はわずかしか確認できない。

[遺物出土状況] 縄文土器(36.9g)、剥片5点、黒曜石製剥片1点、不明石製品1点が埋土から出土している。

[出土遺物] 不明石製品を掲載したが、異時代の遺物の可能性が高い。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

#### SK132 (第45図、写真図版37)

[位置] 西区、ⅢJ23fグリッドに位置する。確認調査の範囲にある。西側は1次調査区内に広がっているが、1次調査では検出されていない。

[検出状況] Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 確認できた部分から判断すると、開口部で直径1.40mの円形を呈するものと考えられる。底面までの残存深度は約76cmである。

[埋土] 6層に分層した。地山起源の壁の崩落土層と考えられる黄褐色土層を間に挟むが、下半は暗

褐色土を主体とする。三角形状やレンズ状の堆積をしており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。上半は焼土粒・炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色土で埋没している。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦である。壁は底面から開き気味に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器（162.9g）、剥片2点が埋土から出土している。

【出土遺物】掲載遺物なし。

【時代・時期】縄文土器が出土しているが、形態的な特徴はSK121と類似しており、本遺構も中世に帰属するものと考えている。

#### SK133（第45図、写真図版37）

【位置】西区、ⅢJ21fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、複数の遺構と重複しており、通常の遺構と同じ調査を行った。

【検出状況】Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】SD112、P1064に切られ、本遺構が古い。また、SB56とプランが重複するが、SB56を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【規模】部分的にしか残存しておらず、規模は不明である。平面形は、残存する部分から判断すると、楕円形を呈するものと考えられる。底面までの残存深度は約10cmである。

【埋土】暗褐色シルトの単層である。

【壁・底面の状況】底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

【遺物出土状況】縄文土器（14.9g）が埋土から出土している。

【出土遺物】掲載遺物なし。

【時代・時期】時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

#### SK135（第45図、写真図版38）

【位置】西区、ⅢJ24・25fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあり、北側半分の掘削は行っていない。

【検出状況】Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】P1254と重複するが、切り合い関係が不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

【規模】開口部で1.16×0.74mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約20cmである。

【埋土】暗褐色シルトの単層である。

【壁・底面の状況】底面は中央部がやや浅くぼんでいる。壁は底面からならかに立ち上がる。

【出土遺物】なし。

【時代・時期】遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

#### SK137（第45図、写真図版24・25）

【位置】西区、ⅢJ24gグリッドに位置する。

【検出状況】Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

【重複】なし。

【規模】開口部で2.33×1.24mの長楕円形で、底面までの残存深度は約80cmである。主軸方向はN35°Eである。

【埋土】5層に分層した。暗褐色土を主体とする。下部には三角形状に地山起源の褐色土が堆積しており、壁の崩落土層と考えられる。基本的にレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が

高いと考えられる。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦で、長軸方向に2個のPitが確認された。2個ともいふ黄褐色土の単層である。壁の下部は直立気味に立ち上がり、上部で外傾しながら立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（28.3g）が埋土から出土している。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕縄文時代の陥し穴である。形態的な特徴から縄文時代前期に帰属する可能性が高い。

#### SK141（第46図、写真図版25）

〔位置〕西区、ⅢJ23・24fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、底面の構造確認のため、通常の遺構と同じ調査を行った。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で2.14×1.54mの長楕円形で、底面までの残存深度は約71cmである。主軸方向はN29°Eである。

〔埋土〕6層に分層した。6層は逆茂木の痕跡で、3層堆積まで残存していたことが見て取れる。下部は地山起源の褐色土もしくはいふ黄褐色土を主体とする。中～上部は暗褐色土を主体とする。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦で、長軸方向に2個のPitが確認された。Pit1は暗褐色土の単層、Pit2はいふ黄褐色土の単層である。壁の下部は直立気味に立ち上がり、中間部に変化点があり、そこから大きく開きながら立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（46.9g）、剥片1点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕掲載遺物なし。

〔時代・時期〕縄文時代の陥し穴である。形態的な特徴から縄文時代前期に帰属する可能性が高い。

#### SK142（第46図、写真図版38）

〔位置〕西区、ⅣJ3gグリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、極暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕なし。

〔規模〕開口部で1.20×0.83mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約23cmである。

〔埋土〕極暗褐色シルトの単層である。

〔壁・底面の状況〕底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

〔遺物出土状況〕縄文土器（663.4g）、石鏃1点、石匙1点、剥片8点、磨石2点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕石鏃（537）、石匙（330）を掲載した。

〔時代・時期〕出土遺物から縄文時代前期に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

#### SK143（第46図、写真図版38）

〔位置〕西区、ⅣJ3・4gグリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕SI21とプランが重複するが、SI21と直接切り合わないため、新旧関係は不明である。重複する部分がないことを考慮すると、SI21を構成する遺構の一部である可能性も考えられる。

〔規模〕確認できた規模は、開口部で1.32×0.72mで、円形基調の可能性が高い。底面までの残存

## 2 検出遺構

深度は約 20cm である。

〔埋土〕 黒褐色シルトの単層である。

〔壁・底面の状況〕 底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

〔遺物出土状況〕 縄文土器（698.9g）、剥片 3 点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕 掲載遺物なし。

〔時代・時期〕 出土遺物から縄文時代前期に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

### SK145（第 46 図、写真図版 41）

〔位置〕 西区、IV J15 f g グリッドに位置する。

〔検出状況〕 III 層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔重複〕 なし。

〔規模〕 開口部で 1.11×1.06 m の円形で、底面までの残存深度は約 72cm である。

〔埋土〕 9 層に分層した。黒褐色土主体で埋没している。最下部は有機質のものが多いのか、黒みが強く、酸化鉄の集積が見られる。7 層は地山起源の堆積層で壁の崩落土の可能性が高い。1~3 層は地山ブロックが多く混入し、人為堆積の可能性が高い。

〔壁・底面の状況〕 底面はほぼ平坦である。壁の下半は直立気味に立ち上がり、上半で開き気味に立ち上がる。

〔遺物出土状況〕 縄文土器（5.0g）、磨石 1 点が埋土から出土している。

〔出土遺物〕 掲載遺物なし。

〔時代・時期〕 少量の縄文土器が出土しているが、類似する形態の遺構である SK121 が中世に帰属する可能性が高いため、本遺構も中世に帰属すると考えている。

## （4）掘跡・溝跡（SD）

### SD01（第 47 図、写真図版 42）

〔位置〕 H22 年度調査区の東側、III J14 r グリッド付近に位置する。南東側は調査区外に延びているが、北東区では確認されなかった。

〔検出状況〕 III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。北西側の延長線上に SD02 を検出しており、同一遺構の可能性が高いと考えていたが、途切れる部分があったため、別遺構として登録した。

〔重複〕 P012・013 と重複しており、本遺構が P012 より新しいのは確かであるが、P013 との関係は不明である。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは 3.89 m、上幅は最大で 0.52 m である。検出面からの深さは最大で 18cm で、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 暗褐色砂の単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

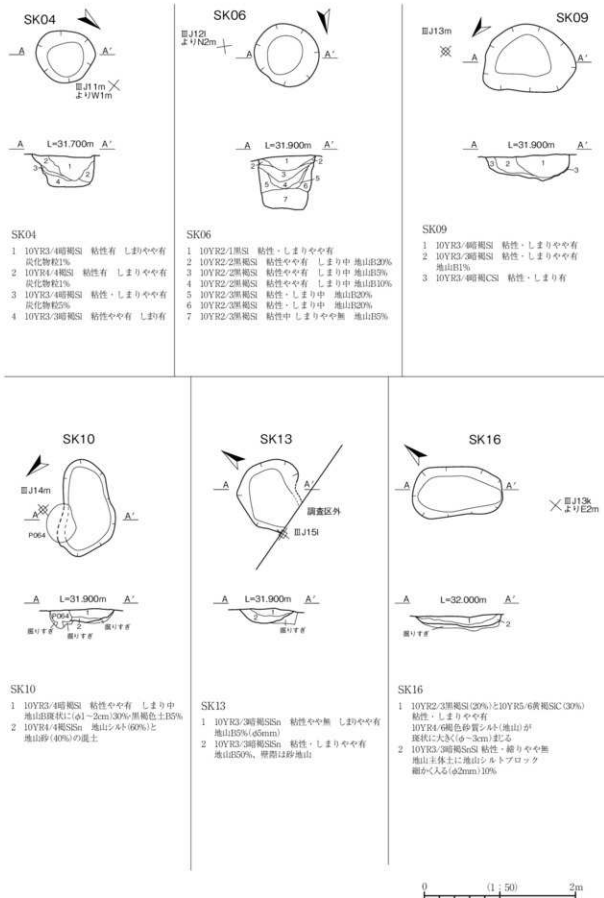
〔その他〕 現況の等高線に平行するように構築されている。区画溝の可能性が高い。

〔出土遺物〕 なし。

〔時代・時期〕 P012 より新しいことは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

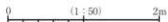
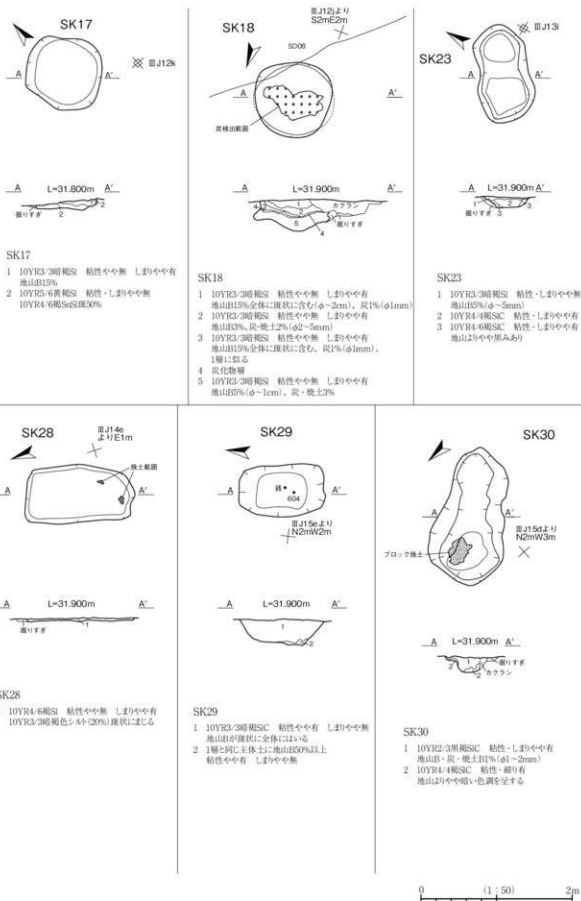
### SD02（第 47 図、写真図版 42）

〔位置〕 H22 年度調査区の東側、III J14 r グリッド付近に位置する。南東側は調査区外に延びているが、



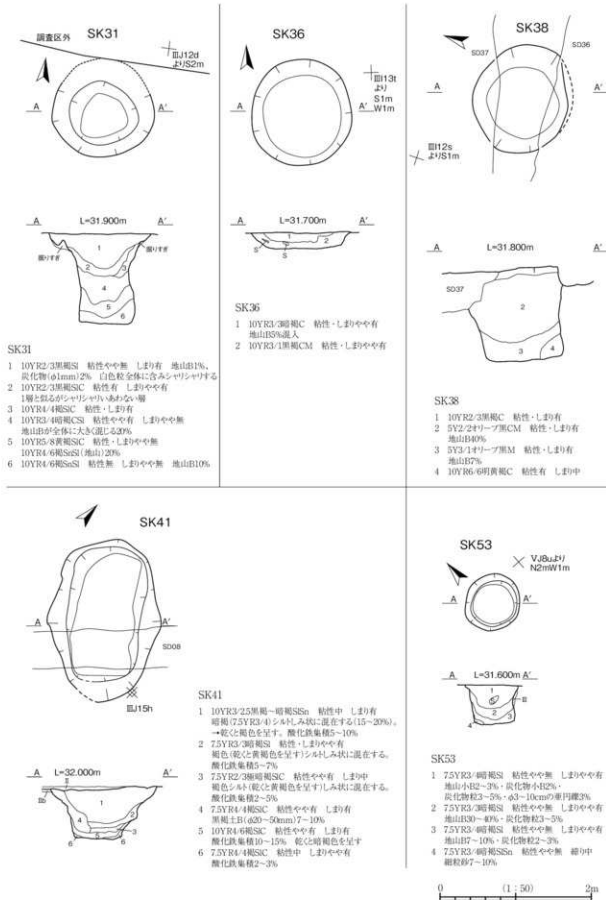
第37図 SK(1)

2 検出遺構



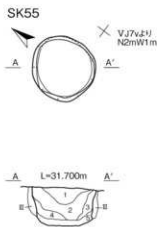
第38図 SK(2)





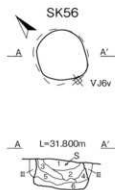
第 39 図 SK (3)

2 検出遺構



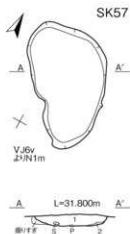
SK55

- 7.5YR3/4暗褐色 粘性中 L2ありや全有  
焼土B10-15%・ $\phi$ 3-5cmの準円礫2%
- 7.5YR3/4暗褐色 粘性・L2ありや全有  
地山B15%・焼土粒1-2%・炭化物粒1%
- 10YR5/6黄褐色SIC 粘性や全有 L2あり  
黒褐色土小B3%
- 10YR5/6黄褐色SIC 粘性中 L2あり  
黒褐色土大B15%
- 7.5YR3/4暗褐色SIC 粘性・L2ありや全有  
地山小B3-5%・焼土粒・炭化物粒1%



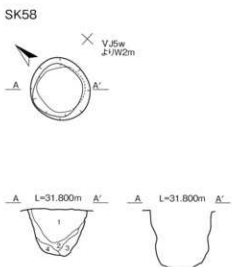
SK56

- 7.5YR3/4暗褐色 粘性や全無 L2あり  
地山B70±10%・炭化炭粒見られる
- 7.5YR3/4暗褐色 粘性・L2ありや全有  
地山B20-25%・焼土粒1%
- 10YR4/6褐色SIC 粘性中 L2ありや全有  
黒褐色シムB15-20%
- 10YR5/6黄褐色SIC 粘性や全有 L2あり  
黒褐色土小B2%
- 10YR5/6黄褐色SIC 粘性や全有 L2あり  
黒褐色土B3-5%
- 7.5YR3/3暗褐色 粘性・L2ありや全有  
地山小B3-5%・炭化物粒1%



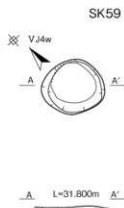
SK57

- 7.5YR3/4暗褐色 粘性や全無 L2あり  
地山B3%
- 7.5YR4/4褐色SIC 粘性中 L2ありや全有  
暗褐色シムB15%・地山B7%



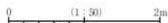
SK58

- 10YR3/2.5黒褐-暗褐色SIC 粘性中 L2あり  $\phi$ 5-10mmの準円礫7-10%  
10YR3/3.5暗褐色SIC 粘性や全有 L2あり 炭化炭が顕状に見られる。
- 10YR4/6褐色SIC 粘性・L2ありや全有 主に黄褐色土粒7%・黒褐色土小B3%
- 10YR4/6褐色SIC 粘性や全有 L2あり 黒褐色土小B3-5%

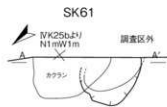


SK59

- 10YR3/2.5黒褐-暗褐色SIC 粘性・L2あり  
 $\phi$ 5-20mmの準円礫15-20%
- 10YR3/3.5暗褐色SIC 粘性や全有 L2あり  
炭化炭が顕状に見られる。
- 10YR4/6褐色SIC 粘性中 L2ありや全有  
主に黄褐色土粒10-15%



第40図 SK (4)

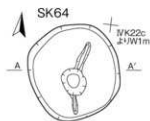


L=32.000m



SK61

- 10YR3/3暗褐色SIC 粘性やや有 しまり中  
黒褐色土小15-7%・堆山小43-5%・  
φ3-5cmの穿孔1%
- 10YR2/3暗褐色SIC 粘性やや有 しまりやや無  
堆山10-15%・φ5-10cmの穿孔1-2%

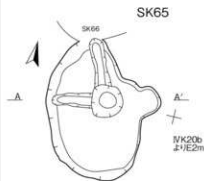


L=31.800m

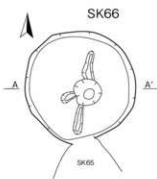


SK64

- 7.5YR3/2暗褐色SIC 粘性中 しまりやや有  
堆山小43%



L=31.700m

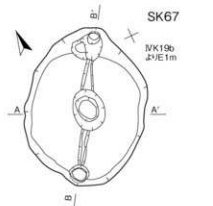


L=31.700m



SK66

- 7.5YR3/3暗褐色SIC 粘性無 しまりやや有  
堆山12-3%・炭化物粒1-2%・  
焼土粒1%・φ1-3cmの穿孔%
- 10YR4/6褐色SIC 粘性やや無 しまり有  
暗褐色土小43-5%
- 7.5YR3/4暗褐色SIC 粘性中 しまり有  
堆山小43-5%
- 7.5YR3/4暗褐色SIC 粘性やや有 しまりやや無  
堆山小425%



L=31.700m

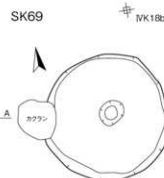


L=31.700m



SK67

- 7.5YR3/3暗褐色SIC 粘性やや無  
しまりやや有 堆山12-3%・  
炭化物粒1-2%・φ3-5cmの穿孔1%
- 10YR4/6褐色SIC 粘性やや無 しまり有  
暗褐色土17-10%
- 7.5YR3/4暗褐色SIC 粘性中 しまり有  
堆山10%・炭化物粒1%



L=31.700m



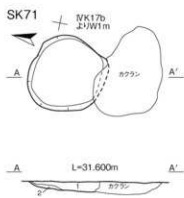
SK69

- 7.5YR2/3暗褐色SIC 粘性無 しまりやや有  
堆山小43%・焼土11%・  
φ1-3cmの穿孔1-2%
- 10YR4/6褐色SIC 粘性無 しまりやや有  
黒褐色土で汚れている。

0 (1:50) 2m

第41図 SK(5)

2 検出遺構



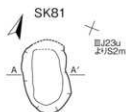
SK71

- 1 10YR3-3暗褐色 粘性無 しまり有 地山小17%
- 2 10YR3-3暗褐色 粘性無 しまり有 地山B40%



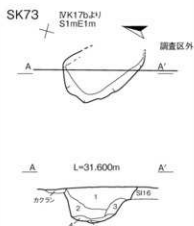
SK76

- 1 7.5YR3-3暗褐色 粘性・しまりやや有 地山B5-7%・黒褐色土B7-10%・炭化物粒2-3%・焼土粒1%



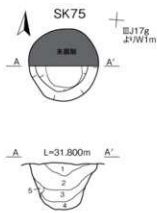
SK81

- 1 10YR3-3暗褐色 粘性・しまりやや有 地山B小一大粒を50%含



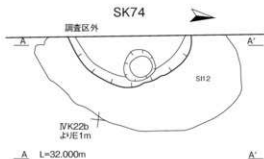
SK73

- 1 7.5YR3-3暗褐色 粘性中 しまりやや有 地山小B3-5%・炭化物粒1%・焼土粒1-2%
- 2 7.5YR3-2黄褐色 粘性・しまり中 地山細との混合層 炭化物粒1-2%
- 3 7.5YR3-4暗褐色 粘性やや無 しまり有 地山小B2%・地山細粒3-5%・炭化物粒1%
- 4 7.5YR3-2黄褐色 粘性中 しまりやや有 黒細砂10%
- 5 10YR5-6黄褐色 粘性無 しまりやや無



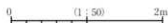
SK75

- 1 7.5YR3-2黄褐色 粘性・しまり中 φ10-20mmの黒角礫1-2%
- 2 7.5YR3-3暗褐色 粘性やや有 しまり中 地山B1-10%・φ10-30mmの黒角礫2-3%
- 3 7.5YR2-3暗褐色 粘性・しまりやや有
- 4 7.5YR3-4暗褐色 粘性・しまりやや有 地山粒2-3%
- 5 7.5YR3-4暗褐色 粘性・しまりやや有 地山B40%

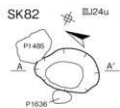


SK74

- 1 10YR4-6褐色 粘性中 しまりやや有 暗褐色土B30%・溝側の一部のみに見られる
- 2 7.5YR3-4暗褐色 粘性・細りやや有 地山B1-2%・炭化物粒1%



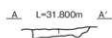
第42図 SK (6)



## SK82

- 1 10YR3/3暗黒S 粘性・L約やや有  
地山田(大粒)40~50%含
- 2 10YR2/2黒黒S 粘性・L約やや有  
地山田(小粒)5%含
- 3 10YR3/4暗黒S 粘性・L約やや有  
地山田(中~大粒)40~50%含

## SK85



## SK85

- 1 10YR3/3暗黒S 粘性無 L約有  
地山田(小粒)63%含

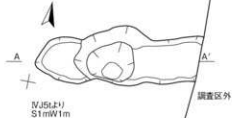
## SK86



## SK86

- 1 10YR2/2黒黒S 粘性・L約やや有  
地山田(中~小粒)25%・炭粒2%

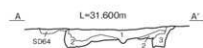
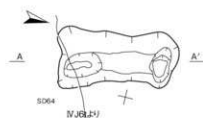
## SK87



## SK87

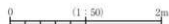
- 1 10YR3/2黒黒S 粘性・L約やや有  
地山田(小粒)6%含
- 2 10YR3/3暗黒S 粘性・L約やや有  
地山田(中~大粒)50%含
- 3 10YR4/4暗黒S 粘性・L約やや有  
地山田(小~中粒)30%含

## SK88

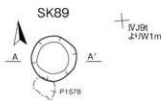


## SK88

- 1 10YR2/2黒黒S 粘性・L約やや有
- 2 10YR3/2黒黒S 粘性・L約やや有 地山田(小粒)20%含
- 3 10YR2/2黒黒S 粘性・L約やや有 地山田(小粒)10%含

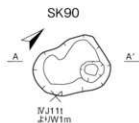


2 検出遺構



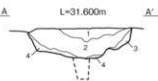
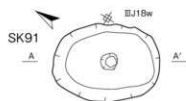
SK89

- 1 10YR2/3黒褐色 粘性・L2約やや有 地山混(小粒)50~60%含
- 2 10YR3/3暗褐色 粘性・L2約やや有 地山混(大粒)50%含



SK90

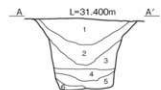
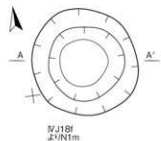
- 1 10YR2/3黒褐色 粘性・L2約やや有
- 2 10YR2/3黒褐色 粘性・L2約やや有 地山混(大粒)50%含



SK91

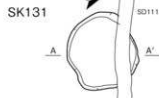
- 1 7.5YR3/4暗褐色 粘性無 L2約有 地山混15% 全体ニ酸化鉄質少量見出
- 2 7.5YR3/2.5暗褐色~暗褐色 粘性無 L2約有 毒害にしまっている
- 3 7.5YR3/4暗褐色 粘性無 L2約有 地山混25~30%
- 4 10YR4/6暗褐色 粘性やや無 L2約有 地山混50%

SK121



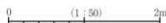
SK121

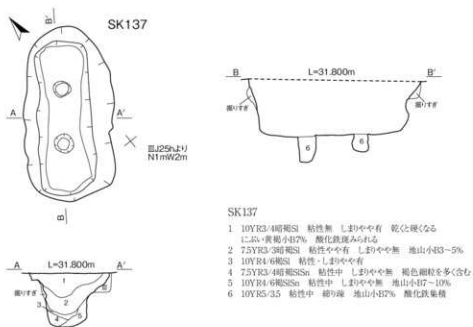
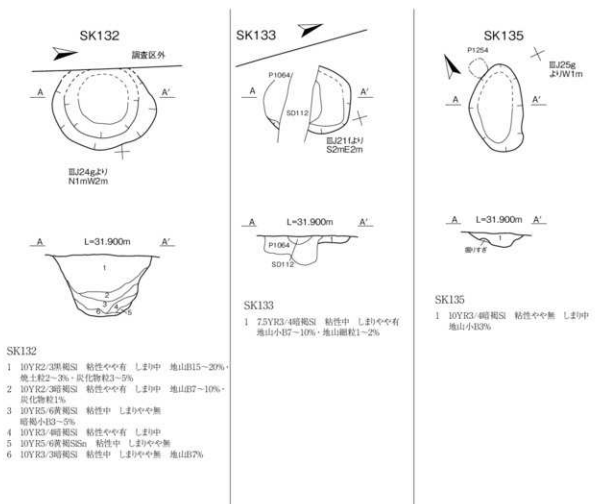
- 1 10YR2/3暗褐色 粘性やや無 L2約やや有 地山混15~20%・炭化物粒1%・焼土粒1%
- 2 10YR2/3.5暗褐色 粘性やや無 L2約やや有 地山小粒2~3% 垂直線(φ2mm)1%
- 3 10YR2/3暗褐色 粘性中 L2約やや有 地山大粒50%
- 4 10YR2/1黒褐色SC 粘性やや有 L2約中 地山混3~5%
- 5 10YR4/3.5~黄褐色SC 粘性有 L2約やや無 地山混40~50%
- 6 10YR5/6黄褐色SC 粘性有 L2約やや無 黒褐色粘土粒7~10%



SK131

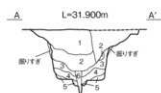
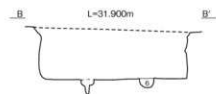
- 1 7.5YR4/4暗褐色 粘性中 L2約やや有 地山小粒10~15%・焼土粒1~2%





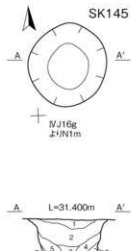
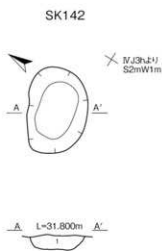
0 (1:50) 2m

第45図 SK(9)



SK141

- 1 10YR2/4暗褐色 粘性無 しまりやや有 非常に硬くなっている  
黒褐色10%・Lに赤・黄褐色10% 酸化鉄混入される
- 2 7.5YR2/4暗褐色Ss 粘性やや有 しまり中 黄褐色砂粒を全体的に含む
- 3 10YR2/6に赤・黄褐色Ss 粘性中 しまりやや無 地山小石5~7%
- 4 7.5YR4/4褐色Ss 粘性中 しまりやや無 地山小石5~7%
- 5 10YR4/6褐色Ss 粘性・しまり中
- 6 10YR4/3に赤・黄褐色 粘性中 しまりやや無



SK142

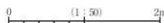
- 1 7.5YR2/3暗褐色S 粘性中 しまりやや無 地山小石2%・炭化物粒1~2%

SK143

- 1 7.5YR2/2黒褐色S 粘性中 しまりやや有 地山小石5~7%・炭化物粒1~2%・焼土粒1%

SK145

- 1 10YR3/3暗褐色S 粘性・しまりやや有 地山石5~30%
- 2 10YR4/3に赤・黄褐色S 粘性やや有 しまり中 地山石40%
- 3 10YR3/2黒褐色S 粘性やや有 しまりやや無 地山石40%
- 4 10YR3/2黒褐色S 粘性やや有 しまりやや無 地山石7%・地山石3~5%
- 5 10YR2/2黒褐色S 粘性やや有 しまり中 地山小石5~7%・褐色土15%
- 6 10YR3/3暗褐色S 粘性やや有 しまりやや無 褐色土120%
- 7 10YR6/8暗黄褐色C 粘性・しまり有 黒褐色土17~10%
- 8 10YR2/1黒褐色C 粘性中 しまり有 地山小石15~20%・9層との境には褐色土が1~2cmの厚さで層状存在している
- 9 10YR2/1.5黒・黒褐色C 粘性やや有 しまり有 褐色土小石7~10% 酸化鉄の集積が見られる





北東区では確認されなかった。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。南東側の延長線上にSD01を検出しており、同一遺構の可能性が高いと考えていたが、途切れる部分が高いため、別遺構として登録した。

〔重複〕P178と重複しており、本遺構が新しい。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは3.89m、上幅は最大で0.52mである。検出面からの深さは最大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色砂の単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔その他〕現況の等高線に平行するように構築されている。区画溝の可能性が高い。

〔出土遺物〕なし。

〔時代・時期〕P178より新しいことは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

#### SD07 (第47図、写真図版42)

〔位置〕H22年度調査区の中央～北西区、ⅢJグリッドに位置する。南西側は調査区外に延びているが、第1次調査では確認されておらず、途切れるか、西方向に曲がるものと考えられる。

〔検出状況〕Ⅲ層上面でいよいよ黄褐色もしくは暗褐色のプランとして確認した。北東側では残存状態が悪く、2箇所途切れている。

〔重複〕SB10 (P1617)、SD11、P698～700・1616～1619と重複している。本遺構がSB10を構成するP1617やP1616を切っており、本遺構が新しい。SD11やその他の遺構とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB51とプランが重複するが、SB51を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは約23.5m、上幅は最大で0.74mである。検出面からの深さは最大で16cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕北東側ではいよいよ黄褐色～褐色シルト質粘土、南西側では暗褐色シルトを主体としている。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器 (49.2g)、剥片2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないが、中世の帰属する可能性が高いSX26と平行しており、本遺構も中世に帰属する可能性が想定される。

#### SD08 (第48図、写真図版43)

〔位置〕H22年度調査区の西側～中央～北西区、ⅢJグリッドに位置する。南西側は調査区外に延びているが、第1次調査では確認されておらず、途切れるか、西方向に曲がるものと考えられる。

〔検出状況〕Ⅲ層上面でいよいよ黄褐色もしくは暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SI02、SB09 (P1614)、SK18・41、SD11、P083・084・125・136・156・1106・1107・1601・1615と重複している。本遺構がSI02、SK18・41、SD11を切っており、本遺構が新しい。その他については、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB10・51とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは約32.3m、上幅は最大で0.70mである。検出面からの深さは最大で19cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕北東側ではいよいよ黄褐色～褐色シルト質粘土、南西側では暗褐色シルトを主体とし、SD07

## 2 検出遺構

と類似している。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(205.3g)、剥片3点、黒曜石製剥片1点、石核1点、磨石2点、敲石1点、石皿2点、石棒類1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないが、中世の帰属する可能性が高いSX26と平行しており、本遺構も中世に帰属する可能性が想定される。

### SD11 (第48図、写真図版42)

〔位置〕H22年度調査区の中央～北西区、ⅢJグリッドに位置する。南側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色～褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SB06 (P184)、SD07・08、SX26、P686と重複している。本遺構がSD08に切られており、本遺構が古い。SB06 (P184)、SD07、SX26、P686とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB07・08とプランが重複するが、それぞれの掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは約9.7m、上幅は最大で1.11mである。検出面からの深さは最大で35cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕地山の混入具合により2層に分層したが、暗褐色～褐色シルトを主体とする。下部は地山の混入量が多いが、人為堆積の根拠は見いだせなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(423.0g)、石鏃1点、剥片9点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないが、中世に帰属する可能性が高いと捉えている。

### SD12 (第48図、写真図版43)

〔位置〕H22年度調査区の中央、ⅢJ12・13hグリッド付近に位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SX26、P175・687と重複している。本遺構がSX26を切っており、本遺構が新しい。P175・687とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03とプランが重複するが、SB03を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは6.15m、上幅は最大で0.54mである。検出面からの深さは最大で12cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトの単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(7.9g)、RF1点、剥片2点が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SX26との重複関係から中世もしくは中世以降である。

### SD15 (第48図、写真図版44)

〔位置〕H22年度調査区の中央、ⅢJ12iグリッド付近に位置する。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SK23に切られているため、本遺構が古い。

〔規模〕確認できた長さは2.79m、上幅は最大で0.40mである。検出面からの深さは最大で8cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトの単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わず、本遺構より新しいSK23の帰属時代が不明であるため、本遺構の帰属時代も不明である。

#### SD17 (第49図、写真図版44)

[位置] H22年度調査区の中央、Ⅲ J11hグリッドに位置する。北側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SX26、P653・677・689と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03とプランが重複するが、SB03を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは2.67m、上幅は最大で0.98mである。検出面からの深さは最大で30cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 断面図の作成は行っていないが、暗褐色シルトの単層である。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(3.9g)、磨石2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

#### SD19 (第49図、写真図版44)

[位置] H22年度調査区の中央、Ⅲ J12fグリッド付近に位置する。残存状態が悪く、後世の掘削により両端は消失している。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色～褐色のプランとして確認した。

[重複] SB04(P627)、SB05(P624)、SB06(P626)、SB08(P628・633)、P242・300・623・625・629～632・635・636・685と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03・07とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは10.14m、上幅は最大で1.06mである。検出面からの深さは最大で15cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2層に分層した。壁付近には壁の崩壊土と考えられる褐色シルトが三角形に堆積し、暗褐色～褐色シルト層で埋没している。2層は自然堆積の可能性が高いが、全体的には層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 砥石1点(597)が埋土から出土している。この他に、縄文土器(53.5g)、石匙、RF、剥片、敲石、石皿各1点、磨石3点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

#### SD20 (第49図、写真図版44)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J14cグリッド付近に位置する。南西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P337を切っているため、本遺構が新しい。また、SB11・12・16・17とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは2.76m、上幅は最大で0.50mである。検出面からの深さは最

大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕なし。

〔時代・時期〕遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

**SD21** (第49図、写真図版45)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢJ12・13bグリッドに位置する。北側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは3.30m、上幅は最大で0.46mである。検出面からの深さは最大で10cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルト質粘土の単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕柱状高台のかわらけ1点(98.49g:571)が底面から出土している。

〔時代・時期〕出土遺物より11世紀代の遺構の可能性が高い。

**SD25** (第50図、写真図版44)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢI12~14yグリッドに位置する。北側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面でいよいよ黄褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD26、P431・649と重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは9.89m、上幅は最大で0.57mである。検出面からの深さは最大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕いよいよ黄褐色粘土質シルトの単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(160.3g)、剥片4点、石棒類1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

**SD26** (第49図、写真図版45)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢI14y~ⅢJ14aグリッドに位置する。南東側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD25、P428・582~585と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB16とプランが重複するが、SB16を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは6.47m、上幅は最大で0.44mである。検出面からの深さは最大で12cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(63.6g)、凹石1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

## SD27 (第50図、写真図版46)

〔位置〕H22年度調査区の西側、Ⅲ1グリッドに位置する。

〔検出状況〕Ⅱb層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD29を切り、SD30・40に切られているため、SD29より新しく、SD30・40より古い。また、SB19とプランが重複するが、柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕確認できた長さは13.13m、上幅は最大で1.08mである。検出面からの深さは最大で15cmで、断面形はW字状を呈している。

〔埋土〕黒褐色粘土の単層である。堆積土観察箇所では確認できなかったが、炭化物の混入湯が確認できた。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔その他〕盛岡南新都市開発事業関連遺跡の調査で検出されている、いわゆる「断面形がW字状の溝跡」と同種の遺構と想定され、埋土も硬いことから道路跡の可能性もある。

〔出土遺物〕珠洲系陶器1点(111.65g・585)が埋土から出土している。その他に縄文土器(652.8g)、石鏃1点、剥片4点、磨石1点、石皿2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕出土量が少ないため、断定はできないが、出土遺物から、14世紀～15世紀に帰属する可能性が高い。

## SD28 (第51図、写真図版40)

〔位置〕H22年度調査区の西側、Ⅲ1グリッドに位置する。南側(両端)は調査区外に延びている。平成8年度に調査された大溝遺構の一部と考えられる。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐～暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SB20(P473・483)、SD29～31・33、P147・474と重複している。SD29・31を切り、SD33に切られているため、SD29・31より新しく、SD33より古い。また、SB20(P473・483)、P147・474とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは24.5m、上幅は最大で1.90mである。検出面からの深さは最大で64cmで、断面形は逆台形状を呈している。

〔埋土〕6層に分層した。底面の壁付近に三角形状に地山ブロックが混入する黒褐色土が見られ、壁の崩落土と考えられる。その上部には黒褐色を主体とする堆積土がレンズ状に堆積している。これら下部の堆積土はどの地点でも共通の様相を呈しており、自然堆積の可能性が高い。上部は黒褐色、中部は西側では暗オリーブ褐色粘土主体、東側では黄灰色粘土主体で、異時代の遺物が多量に出土している。また、東側断面(B)の3層中央に亜円礫が列状に密集する部分があり、一時的に人為的に埋め戻された可能性が想定される。なお、東側の底面では常時湧水が確認でき、湿った状態での観察となった。

〔出土遺物〕縄文土器(52138.8g)、石鏃7点、尖頭器1点、スクレイパー類10点、鏡形石器1点、錐形石器3点、石匙6点、楔形石器1点、RF28点、剥片197点、黒曜石製剥片4点、石核3点、原石1点、打製石斧2点、磨製石斧3点、磨石111点、凹石4点、敲石5点、石皿50点、石錘1点、不明石製品2点、土師器(121.31g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。また、帰属する時代を特定できないが、砥石8点、鉄滓2点が出土し、砥石3点(598～600)を掲載した。

〔時代・時期〕今回の調査では遺構の帰属時期を特定できる遺物は出土していないが、前沢町教育委員会による過年度の調査成果から、14世紀～15世紀に帰属すると推定される。

**SD29** (第50図、写真図版45)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、Ⅲ1グリッドに位置する。南北両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕 Ⅱb層～Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 SD27・28、P074・443・477・520・600と重複しており、SD27・28、P074に切られている。よって、これらの遺構より本遺構が古い。その他の遺構とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB19・20とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは15.09m、上幅は最大で0.63mである。検出面からの深さは最大で17cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 暗褐色粘土質シルトの単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕 縄文土器(1151.9g)、スクレイパー類1点、剥片10点、黒曜石裂片1点、磨石2点、石皿3点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 SD28との重複関係から14世紀～15世紀以前であることは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD30** (第50図、写真図版46)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、Ⅲ112・13tグリッド付近に位置する。

〔検出状況〕 Ⅱb層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 SD37に切れ、SD27・32を切っており、本遺構がSD37より古く、SD27・32より新しい。また、SD28・43とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは6.11m、上幅は最大で0.90mである。検出面からの深さは最大で21cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 黒褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕 縄文土器(974.8g)、錐形石器1点、剥片15点、磨石2点、石皿2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SD28やSD37との重複関係から中世に帰属する可能性が高い。

**SD31** (第52図、写真図版46)

〔位置〕 H22年度調査区の西側、Ⅲ113rsグリッド付近に位置する。西側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕 Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 SD28・34に切れ、SD38を切る。よって、前者より古く、後者より新しい。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは8.48m、上幅は最大で0.82mである。検出面からの深さは最大で21cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕 縄文土器(55.6g)、RF1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明であるが、SD28との重複関係から14世紀～15世紀以前であることは確かである。

## SD32 (第52図、写真図版47)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD30・34に切られ、本遺構が古い。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは10.73m、上幅は最大で0.87mである。検出面からの深さは最大で23cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕黒褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(659.5g)、石匙1点、RF3点、剥片4点、石皿2点、土師器(28.06g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明であるが、SD30やSD34との重複関係から中世に帰属する可能性が高い。

## SD33 (第52図、写真図版47)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢIグリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD28・38を切っており、本遺構が新しい。また、P499とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは13.70m、上幅は最大で0.95mである。検出面からの深さは最大で25cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(136.8g)、楔形石器1点、RF1点、剥片1点、磨石9点、石皿1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕SD28より新しい。中世若しくはそれ以降と推定される。

## SD34 (第53図、写真図版47)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。両端(西側)は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD36・37に切られ、SD31・32・38・42を切っている。よって、SD36・37より古く、SD31・32・38・42より新しい。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは8.65m、上幅は最大で1.02mである。検出面からの深さは最大で25cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕2層に分層した。黒褐色粘土を主体とする。西面の調査区境で暗褐色粘土質シルト層が観察できる。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(462.9g)、RF1点、剥片3点、磨石2点、凹石1点、石皿2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明であるが、SD37との重複関係から、中世に帰属する可能性が高い。

## SD35 (第53図、写真図版41)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。西側及び北側は調査区外に延びている。

## 2 検出遺構

〔検出状況〕現代の盛土層を掘り下げた部分で、直にⅢ層が露出し、にぶい黄褐色のプランとして確認した。全体的には1 d層を除去した段階が検出面である。

〔重複〕SD36・37、P026に切られ、SD42を切っており、SD36・37、P026より古く、SD42より新しい。また、P336・374とも重複するが、切り合いが不明瞭なため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは9.23 m、上幅は最大で1.63 mである。検出面からの深さは最大で54 cmで、断面形は逆台形状を呈している。

〔埋土〕6層に分層した。最下層には土質から水成堆積と推定される褐灰色土層が観察でき、暗褐色粘土、にぶい黄褐色粘土の順で埋没している。中上部には地山ブロックの混入が見られ、人為堆積と推察される。

〔出土遺物〕縄文土器(3308.7 g)、不明土製品1点、円盤状土製品1点、石鏝1点、石匙1点、RF1点、剥片16点、磨石14点、凹石1点、石皿4点、加工礫1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕出土遺物からは時代・時期を言及できないが、重複遺構との新旧関係やSD28と類似することから14世紀～15世紀に帰属するものと考えている。

### SD36 (第54図、写真図版47)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SK38、SD34・35・37、P580を切っており、本遺構が新しい。また、P138・144とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは8.89 m、上幅は最大で0.73 mである。検出面からの深さは最大で32 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕土層観察断面は2地点で図化した。西側調査区境では黒褐～褐灰色粘土による単層として把握した。それより東で作成した断面図においては、1～5層に細分を試みた。概ね埋土上位に黒褐色粘土、埋土下位に暗褐色粘土が堆積する。人為堆積の可能性があるものの、明確には分からなかった。なお、重複するSD37の埋土と比較して、やや黒味が強い色調である。

〔出土遺物〕縄文土器(1977.6 g)、スクレイパー類1点、錐形石器2点、RF2点、剥片8点、磨石3点、石皿1点、土師器(4.28 g)、須恵器(6.0 g)が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は言及できないが、SD37より確実に新しい。中世もしくはそれ以降と推定される。

### SD37 (第54図、写真図版41)

〔位置〕H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。西側及び北側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕1 d層を除去した段階で、Ⅲ層が露出し、その上面において、黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD36に切られ、SK38、SD30・34・35・43を切る。よって、本遺構はSD36より古く、SK38、SD30・34・35・43より新しい。また、P336とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは13.62 m、上幅は最大で1.70 mである。検出面からの深さは最大で68 cmで、断面形は逆台形状を呈している。



[埋土] 断面図は2地点で作成した。調査区境西側では3層、それより東側のセクションでは9層に分層した。大別すると、埋土上位は暗褐色粘土質シルトが、埋土下位に褐色泥質土が堆積する。何れも自然堆積と推定したいが、埋土上位は断定できない。東側断面の2~4層では酸化鉄の集積が顕著に観察される。

[出土遺物] 縄文土器(6480.6g)、石鏃3点、莢形石器1点、石匙1点、RF3点、剥片29点、黒曜石製剥片1点、磨石27点、凹石2点、敲石1点、石皿7点、砥石2点、石錘1点、不明石製品1点、土師器(13.63g)、須恵器(9.72g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 出土遺物からは時代・時期を言及できないが、重複遺構との新旧関係やSD28と類似することから14世紀~15世紀に帰属するものと考えている。

#### SD38 (第55図、写真図版46)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I13qr グリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。なお、検出プランでは一部分が幅広く、土坑が存在し、重複も想定されたが、精査結果からは土坑の存在は認められなかった。

[重複] SD31・33・34に切られ、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは2.62m、上幅は最大で0.48mである。検出面からの深さは最大で22cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 南側では黒褐色粘土質シルト、西側ではいぶい黄褐色粘土が堆積する。何れの地点でも非常に硬い。人為堆積と推定される。

[出土遺物] 縄文土器(20.1g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時期は不明であるが、重複遺構との新旧関係から中世に帰属するものと考えている。

#### SD40 (第55図、写真図版46)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I13u グリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅱb層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD27を切っており、本遺構が新しい。南側はSD28と重複しているものと考えられるが、残存状態が悪く、確認できなかった。

[規模] 確認できた長さは1.72m、上幅は最大で0.35mである。検出面からの深さは最大で10cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色粘土の単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(13.3g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世の遺構が集中している部分であるため、中世に帰属するものと考えている。

#### SD42 (第55図、写真図版48)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I11r グリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色~暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD34・35に切られ、本遺構が古い。また、P57とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

## 2 検出遺構

【規模】調査区内で確認できた長さは2.64m、上幅は最大で0.31mである。検出面からの深さは最大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

【埋土】黒褐色～暗褐色粘土の単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

【出土遺物】縄文土器（92.5g）が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

【時代・時期】SD35との重複関係から14世紀～15世紀以前であることは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SD43（第56図、写真図版48）

【位置】H22年度調査区の西側、ⅢIグリッド付近に位置する。

【検出状況】西側はI d層を除去した段階でⅢ層面において、暗褐色のプランとして確認した。東側はⅢ層上面が検出面である。

【重複】SD37に切られており、本遺構が古い。SD30、P526・617・668・669とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB19とプランが重複するが、SB19を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

【規模】確認できた長さは10.45m、上幅は最大で0.57mである。検出面からの深さは最大で22cmで、断面形は皿状を呈している。

【埋土】暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土ブロックもしくは粘土塊が混入するほぼ単層の堆積土である。人為堆積と推定される。

【出土遺物】縄文土器（589.1g）、石鏃1点、RF1点、剥片10点、磨石4点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

【時代・時期】SD37との重複関係から中世もしくは中世以前であることは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SD44（第55図、写真図版48）

【位置】H22年度調査区の西側、ⅢI11・12uグリッドに位置する。

【検出状況】I d層を除去した段階のⅢ層面において、暗褐色のプランとして確認した。

【重複】P517と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

【規模】確認できた長さは2.50m、上幅は最大で0.47mである。検出面からの深さは最大で8cmで、断面形は不定形を呈している。

【埋土】暗褐色粘土質シルトの単層である。今まで掘った同類の溝跡（浅くで道路跡との関連が想起される類）と比較して、埋土は硬くない。底面には暗褐色粘土質シルトで埋没している小ピット状の痕跡が確認できる。

【出土遺物】縄文土器（10.5g）、RF1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

【時代・時期】時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世の遺構が集中している部分であるため、中世に帰属するものと考えている。

### SD45（第55図、写真図版48）

【位置】H22年度調査区の西側、ⅢI11・12vグリッド付近に位置する。

【検出状況】I d層を除去した段階でのⅢ層面において、暗褐色のプランとして確認したが、付近の

現況は木根擾乱や旧地形面の凹凸が激しいことから、プランが判然としない。

〔重複〕 P598 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、本遺構の南側は、本来は SD43 と重複している可能性が高いが、重複部分に基礎跡と考えられる近年の擾乱があり新旧関係を捉えることはできなかった。

〔規模〕 確認できた長さは 3.05 m、上幅は最大で 0.39 m である。検出面からの深さは最大で 11 cm で、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 暗褐色粘土質シルトの単層。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕 縄文土器 (29.2 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世の遺構が集中している部分であるため、中世に帰属するものと考えている。

#### SD51 (第 56 図、写真図版 39)

〔位置〕 南東区北、IV K15 a グリッド付近に位置する。東西両端とも調査区外に延びている。

〔検出状況〕 III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 P1036・1037 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは 4.09 m、上幅は最大で 1.82 m である。検出面からの深さは最大で 56 cm で、断面形は中央部に浅いくぼみがあるが、総じて逆台形状を呈している。

〔埋土〕 5 層に分層した。暗褐色シルトを主体とする。底面の中央部分が一段低くなっており、5 層は底面からその低い部分に堆積している。3・4 層は壁際に見られる堆積土で粘性・しまりが大きく異なる。2 層には酸化鉄の集積が見られ、1 層との境には炭化物が面的に確認できる。全体的に炭化物・焼土粒・地山ブロック等の混入が見られ、人為堆積の可能性が高いと考えられる。

〔出土遺物〕 手づくねかわらけ (77.96 g)、渥美産陶器 1 点 (45.37 g)、不明鉄製品 5 点、鉄滓 (1251.91 g) が出土している。この他に縄文土器 (627.5 g)、石鏃 1 点、RF2 点、剥片 26 点、黒曜石製剥片 2 点、黒曜石製砕片 2 点、石核 1 点、打製石斧 2 点、磨石 18 点、石皿 6 点、砥石 1 点、須恵器 (76.57 g) も出土している。かわらけ (572~574)、渥美産陶器 (583)、不明鉄製品 (605~608)、鉄滓 (615、616) を掲載した。

〔時代・時期〕 出土遺物から 12 世紀後半期の遺構と考えられる。

#### SD52 (第 56 図、写真図版 49)

〔位置〕 南東区北、IV J~IV K グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕 III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 P1038 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは 14.29 m、上幅は最大で 0.63 m である。検出面からの深さは最大で 16 cm で、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 東側の断面観察箇所では底面の壁付近に地山ブロックを多く混入する層があり、2 層に分層したが、概して、暗褐色シルトを主体とする。混入物が少なく、自然堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 縄文土器 (61.0 g)、剥片 2 点、土師器 (0.55 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD53** (第57図、写真図版49)

[位置] 南東区南、V J 7・8 t u グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは3.84 m、上幅は最大で0.57 mである。検出面からの深さは最大で17cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルトの単層で、酸化鉄斑が観察される。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] RF1点、磨石1点、土師器(79.19 g)、須恵器(24.24 g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD54** (第57図、写真図版49)

[位置] 南東区南、V J グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] SB41とプランが重複するが、SB41を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

[規模] 長さは8.57 m、上幅は最大で0.54 mである。検出面からの深さは最大で18cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルトの単層で、酸化鉄斑が観察される。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 須恵器(12.91 g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD56** (第57図、写真図版50)

[位置] 南東区南、V J 9・10 r s グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] SN11を切っており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは4.79 m、上幅は最大で0.45 mである。検出面からの深さは最大で12cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルトの単層で、酸化鉄斑が観察される。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 不明である。

**SD57** (第57図、写真図版50)

[位置] 南東区北、IV K13-15 b グリッドに位置する。南北両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは5.66 m、上幅は最大で0.77 mである。検出面からの深さは最

大で41cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 不明である。

#### SD58 (第57図、写真図版50)

[位置] 北西区、Ⅲ J16 g グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SB10とプランが重複しているが、SB10を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

[規模] 長さは2.59m、上幅は最大で0.36mである。検出面からの深さは最大で9cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(2.0g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SX26と平行しており、同時期の遺構の可能性が考えられる。

#### SD59 (第58図、写真図版50)

[位置] 北西区～西道路、Ⅲ J17～19g グリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SB52・53とプランが重複しているが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは8.77m、上幅は最大で0.86mである。検出面からの深さは最大で34cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2層に分層した。底面の壁際ににぶい黄褐色～褐色シルト層が三角形もしくはレンズ状に堆積し、暗褐色シルトで埋没している。自然堆積の可能性が高いと判断した。

[出土遺物] 縄文土器(435.8g)、石鏃1点、RF3点、剥片17点、黒曜石製剥片1点、磨石4点、敲石1点、石皿1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

#### SD61 (第58図、写真図版51)

[位置] 東区北、Ⅲ J24 t グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SB46(P1723)、P1724に切れ、SX24を切っている。よって、本遺構はSB46、P1724より古く、SX24より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは3.91m、上幅は最大で0.45mである。検出面からの深さは最大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(72.7g)、剥片1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] SB46を構成するP1723・1724との重複関係から、中世に帰属する可能性が高い。

**SD62** (第58図、写真図版51)

〔位置〕東区北、Ⅲ J25 t グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕P1704 に切られており、本遺構が古い。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは3.94 m、上幅は最大で0.41 mである。検出面からの深さは最大で11 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(4.2 g)、剥片1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

**SD63** (第58図、写真図版51)

〔位置〕東区北、Ⅳ J1 s t グリッドに位置する。東側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕P1644・1708・1710に切れ、本遺構が古い。また、P1509・1510と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは3.23 m、上幅は最大で0.51 mである。検出面からの深さは最大で26 cmで、断面形はピーカー状を呈している。

〔埋土〕底面の壁際に壁の崩落土と考えられる褐色シルト層が堆積し、暗褐色シルトで埋没している。炭化物の混入が見られるが、人為堆積との積極的な根拠は見いだせなかった。

〔その他〕狭い底面には小ピット状のくぼみが多く見られ、縄文時代の堅穴住居跡の周溝のような溝跡であるが、対応する溝は検出されなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(310.8 g)、剥片5点が出土しているが、遺構の時期を積極的に特定できるものではない。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

**SD64** (第59図、写真図版51)

〔位置〕東区南、Ⅳ J5 r グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕P1646・1647に切れ、SK88を切っている。よって、本遺構はP1646・1647より古く、SK88より新しい。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは4.33 m、上幅は最大で0.46 mである。検出面からの深さは最大で11 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕なし。

〔時代・時期〕遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

**SD65** (第59図、写真図版52)

〔位置〕東区南、IV J 6 s グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕P1721に切られ、本遺構が古い。また、P1649・1650と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは4.40 m、上幅は最大で0.61 mである。検出面からの深さは最大で14 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器（119.8 g）が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

**SD66** (第59図、写真図版52)

〔位置〕東区南、IV J 9 s t グリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは1.70 m、上幅は最大で0.32 mである。検出面からの深さは最大で8 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕なし。

〔時代・時期〕遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD67** (第59図、写真図版52)

〔位置〕東区南、IV J 9 s グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは5.11 m、上幅は最大で1.52 mである。検出面からの深さは最大で33 cmで、断面形は逆台形状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトを主体とし、地山ブロックの有無により2層に分層した。レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕縄文土器（349.2 g）、RF2点、剥片7点、磨製石斧1点、磨石1点、砥石1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD68** (第60図、写真図版52)

〔位置〕東区南、IV J12 s t グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD69・70を切っており、本遺構が新しい。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは4.88 m、上幅は最大で0.65 mである。検出面からの深さは最大で19 cmで、断面形は皿状を呈している。

## 2 検出遺構

〔埋土〕 暗褐色シルトの単層である。中央部に拳大の礫が並んでおり、明らかにSD69と区別が可能である。人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 縄文土器(539.2g)、RF1点、剥片1点、磨石6点、敲石2点、石皿4点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SD69 (第60図、写真図版52)

〔位置〕 東区南、IV J12stグリッドに位置する。東側は調査区外に延びている。

〔検出状況〕 Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 SD68に切られ、SD70を切っている。よって、本遺構はSD68より古く、SD70より新しい。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは4.22m、上幅は最大で1.03mである。検出面からの深さは最大で16cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 暗褐色シルトの単層である。SD68の埋土で記述した通り、SD68とは礫の混入の有無で容易に区別が可能である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕 縄文土器(4.2g)、剥片1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SD70 (第60図、写真図版53)

〔位置〕 東区南、IV J12・13tグリッドに位置する。

〔検出状況〕 Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 SD68・69に切られており、本遺構が古い。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは3.36m、上幅は最大で0.49mである。検出面からの深さは最大で15cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕 縄文土器(384.6g)、剥片2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

### SD71 (第60図、写真図版53)

〔位置〕 北東区、Ⅲ J19・20uvグリッド付近に位置する。両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕 Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕 SN16、P1418・1440・1622・1623に切られ、本遺構はこれらの遺構より古い。また、SB44とプランが重複しているが、柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕 調査区内で確認できた長さは8.76m、上幅は最大で0.51mである。検出面からの深さは最大で17cmで、断面形は逆台形状を呈している。

〔埋土〕 黒褐色シルトを主体とし、地山ブロックの混入量により2層に分層した。レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 縄文土器(718.3g)、RF1点、剥片11点、打製石斧1点、磨石5点、土師器(5.95g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。この他に石皿2点が出土し、そのうち1点(S96)を掲載した。

〔時代・時期〕 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に属



属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

#### SD72 (第60図、写真図版53)

〔位置〕東道路、Ⅲ J22・23 t グリッド付近に位置する。南東側は調査区外に延びている。北側は後世の掘削により消失している。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕P1476に切られ、SD73を切っている。よって、本遺構はP1476より古く、SD73より新しい。また、P1631・1632とも重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは1.94 m、上幅は最大で0.55 mである。検出面からの深さは最大で13 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトを主体とし、混入物の違いにより2層に分層した。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(46.1 g)、磨石1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

#### SD73 (第61図、写真図版53)

〔位置〕東道路、Ⅲ J23 t u グリッドに位置する。東西両端は調査区外に延びている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD72に切られ、SB46 (P1633) を切っている。よって、本遺構はSD72より古く、SB46より新しい。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは3.86 m、上幅は最大で1.35 mである。検出面からの深さは最大で17 cmで、断面形はW字状を呈している。

〔埋土〕底面に地山ブロックを多く含む暗褐色シルト層が確認できるため、2層に分層したが、大半は混入物の少ない暗褐色シルトで埋没している。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔その他〕「断面形がW字状の溝跡」と報告される遺構と同種の遺構と想定され、道路跡の可能性もある。しかし、同種の遺構と比較すると、底面の硬化が見られない等の相違点もあり、断定はできない。

〔出土遺物〕縄文土器(29.6 g)、石鏃1点、RF1点、剥片4点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。この他に青銅製の不明製品(614)が出土している。

〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

#### SD93 (第61図、写真図版54)

〔位置〕西道路、Ⅲ J19 f g グリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。本遺構の大部分は確認調査の範囲にあるが、規模は小さいため、通常の調査を行った。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは2.63 m、上幅は最大で0.64 mである。検出面からの深さは最大で20 cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。  
〔出土遺物〕縄文土器（185.4g）、剥片8点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。  
〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

**SD101**（第61図、写真図版54）

〔位置〕西区南端～南西区、IV J グリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。全体的に残存状態が悪く、特に北側では層高が数cmしか確認できない。西側は確認調査の範囲にある。  
〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。  
〔重複〕SD102を切っており、本遺構が新しい。  
〔規模〕調査区内で確認できた長さは14.33m、上幅は最大で1.30mである。検出面からの深さは最大で9cmで、断面形は不定形を呈している。  
〔埋土〕暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。  
〔出土遺物〕縄文土器（1.9g）、常滑1点（8.5g：577）、肥前産磁器1点（3.86g：592）が出土している。  
〔時代・時期〕出土遺物より、18世紀後半の遺構と考えられる。

**SD102**（第61図、写真図版54）

〔位置〕南西区、IV J17・18 f g グリッドに位置する。東側は調査区外に延びている。  
〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。  
〔重複〕SD101に切られており、本遺構が古い。  
〔規模〕調査区内で確認できた長さは4.15m、上幅は最大で1.10mである。検出面からの深さは最大で25cmで、断面形は逆台形状を呈している。  
〔埋土〕暗褐色シルトを主体とし、混入物の違いにより2層に分層した。2層は底面付近、壁際でブロック状に見られる。大部分は混入物の少ない暗褐色シルトで埋没している。人為堆積の積極的な根拠は見いだせなかった。  
〔出土遺物〕縄文土器（48.5g）、須恵器（24.62g）が出土したが、遺構とは異時期の産物である。  
〔時代・時期〕時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SD101との重複関係から、18世紀以前の遺構と考えられる。

**SD103**（第62図、写真図版54）

〔位置〕南西区、IV J グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。  
〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。  
〔重複〕SD104に切れ、本遺構が古い。  
〔規模〕調査区内で確認できた長さは9.03m、上幅は最大で0.76mである。検出面からの深さは最大で29cmで、断面形は逆台形状を呈している。  
〔埋土〕2層に分層した。北側の層高がある部分では底面から壁際にぶい黄褐色シルト質粘土の堆積が確認できるが、南側では上部の暗褐色シルト質粘土層のみ確認できる。混入物が少なく、レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。  
〔出土遺物〕縄文土器（19.1g）、石炭1点、磨石2点、土師器（0.36g）、須恵器（20.57g）、かわらけ（0.44g）、砥石2点が出土し、砥石1点（602）を掲載した。

[時代・時期] かわらけが出土しており、中世に帰属する可能性が考えられるが、極めて小さい破片であるため、断定はできない。

#### SD104 (第62図、写真図版54)

[位置] 南西区、ⅣJグリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色～暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1071に切れ、SD103を切っている。よって、本遺構はP1071より古く、SD103より新しい。また、SD105とも重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは9.70m、上幅は最大で0.98mである。検出面からの深さは最大で15cmで、断面形は皿状を呈しているが、底面が不安定である。

[埋土] 南側より北側の残存状態が良く、2層に分層した。下部は地山ブロックを多く含む暗褐色シルト質粘土であり、南側はこの層のみが確認される。北側では黒褐色シルト質粘土層で完全に埋没している。全体的に酸化鉄の集積が顕著である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(71.7g)、磨石1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、遺構の掘り込み面も特定できていない。そのため、時代を特定するには至らなかった。

#### SD105 (第63図、写真図版55)

[位置] 南西区、ⅣJグリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD104と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは6.34m、上幅は最大で0.69mである。検出面からの深さは最大で15cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルト質粘土の単層。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 土器1点、土師器(0.75g)、須恵器(51.41g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

#### SD106 (第63図、写真図版55)

[位置] 南西区、ⅣJグリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD107・108、P1393を切っており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは6.15m、上幅は最大で1.08mである。検出面からの深さは最大で23cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2層に分層した。底面にブロック状にぶい黄褐色シルト質粘土が見られるが、大部分は暗褐色シルト層で埋没している。酸化鉄の集積が見られる。乾燥するとコンクリートのように硬くなる。

[出土遺物] 土師器(1.09g)、RF、磨石各1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み

面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

**SD107** (第63図、写真図版55)

〔位置〕南西区、ⅣJグッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD106に切られており、本遺構が古い。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは7.73m、上幅は最大で0.69mである。検出面からの深さは最大で22cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕灰黄褐色シルト質粘土の単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(1.2g)、磨石1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

**SD108** (第64図、写真図版55)

〔位置〕南西区、ⅣJ24・25efグリッドに位置する。南西側は調査区外に延びている。確認調査の範囲にある。全体的に残存状態が悪く、SD106との重複部分で途切れている。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SD106に切られ、本遺構が古い。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは5.48m、上幅は最大で0.46mである。検出面からの深さは最大で11cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕黒褐色シルトの単層である。酸化鉄の集積が見られる。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕なし。

〔時代・時期〕今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

**SD111** (第64図、写真図版55)

〔位置〕西区北、ⅢJに位置し、西側は調査区外に延びている。大部分が確認調査の範囲にある。

〔検出状況〕Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

〔重複〕SK131、SD113を切っており、本遺構が新しい。P1194とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB55・56とプランが重複しているが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

〔規模〕調査区内で確認できた長さは3.65m、上幅は最大で0.22mである。検出面からの深さは最大で11cmで、断面形は皿状を呈している。

〔埋土〕暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器(1.5g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

〔時代・時期〕今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

## SD112 (第64図、写真図版56)

[位置] 西区北、ⅢJグリッドに位置し、西は調査区外に延びる。大半が確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SK133、P1064を切り、本遺構が新しい。また、SB55・56とプランが重複しているが、直接切り合う柱穴がなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは4.43m、上幅は最大で0.46mである。検出面からの深さは最大で8cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(84.2g)、剥片2点、石皿1点が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

## SD113 (第64図、写真図版55)

[位置] 西区北、ⅢJグリッドに位置し、西側は調査区外に延びる。確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD111に切られ、本遺構が古い。また、SB55とプランが重複しているが、直接切り合う柱穴がなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは1.85m、上幅は最大で0.21mである。検出面からの深さは最大で6cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 敲石1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

## SD114 (第64図、写真図版56)

[位置] 西区北、ⅣJグリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。一部が確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1672と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは4.12m、上幅は最大で0.98mである。検出面からの深さは最大で28cmで、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 混入物の違いにより2層に分層したが、暗褐色シルトを主体とする。全体的に酸化鉄が集積している。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

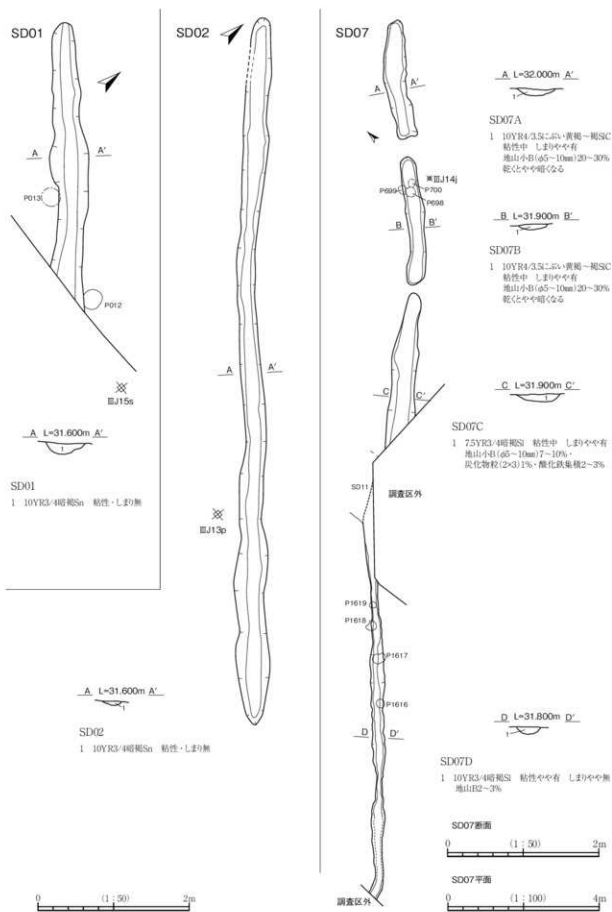
[出土遺物] 縄文土器(1009.0g)、石鎌3点、錐形石器1点、楔形石器2点、RF3点、剥片50点、黒曜石製剥片1点、石核1点、磨石3点、土師器(2.46g)が出土しているが、本遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

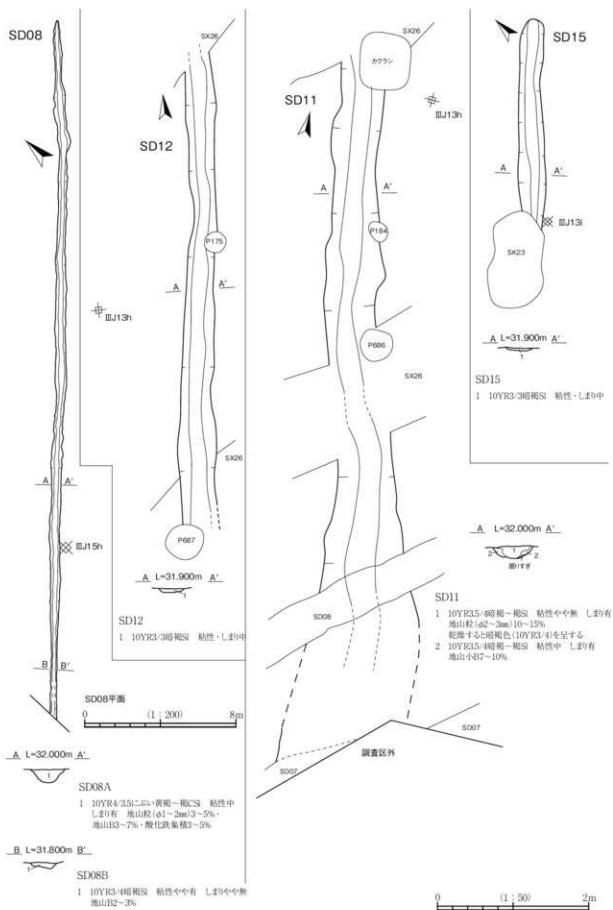
## SD117 (第65図、写真図版56)

[位置] 西区、ⅣJグリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。西側が確認調査の範囲にある。

2 検出遺構

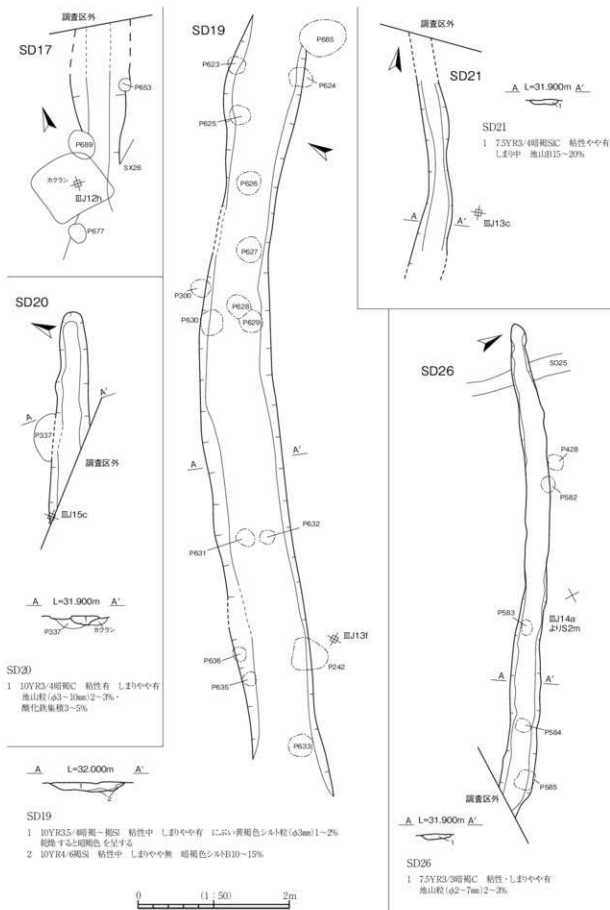


第47図 SD(1)



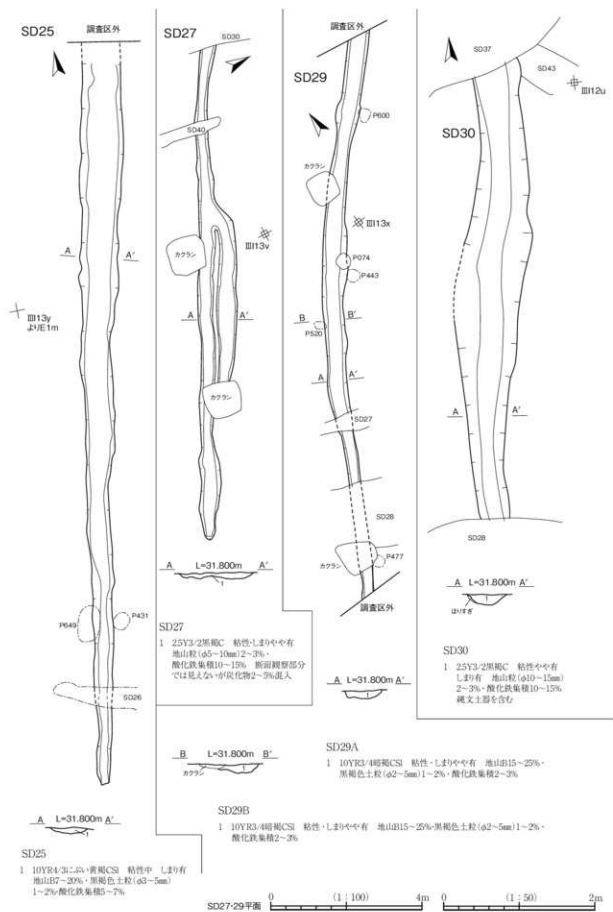
第48図 SD (2)

2 検出遺構



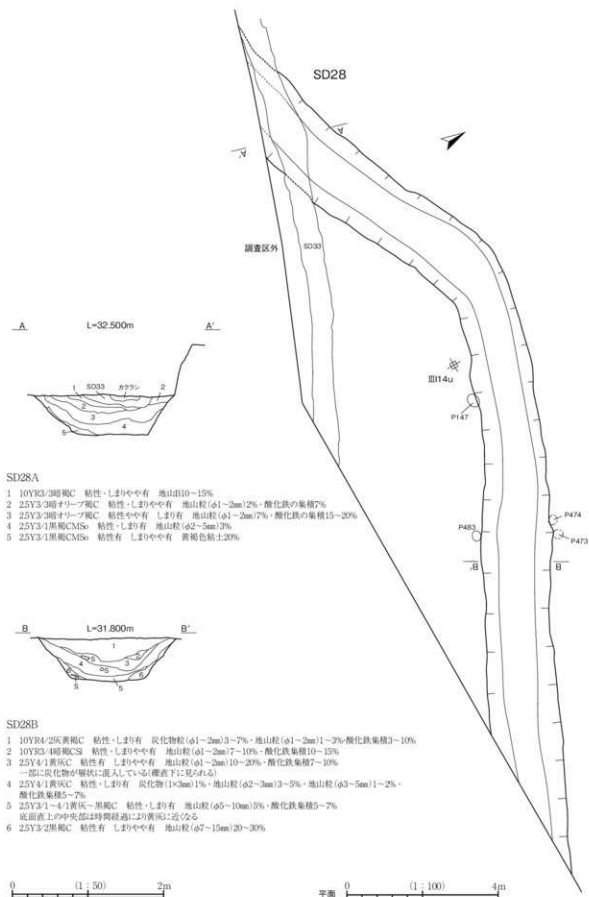
第49図 SD (3)



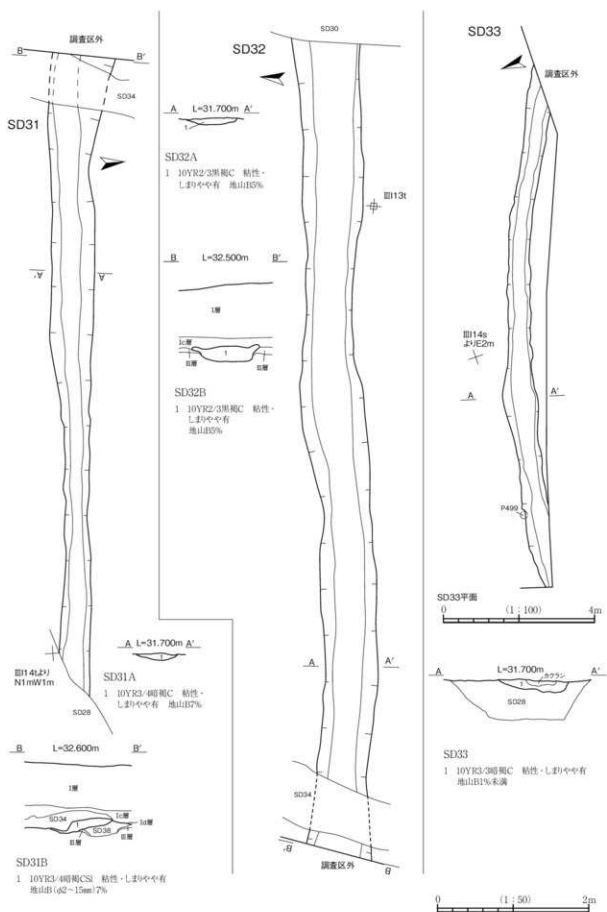


第50図 SD(4)

2 検出遺構

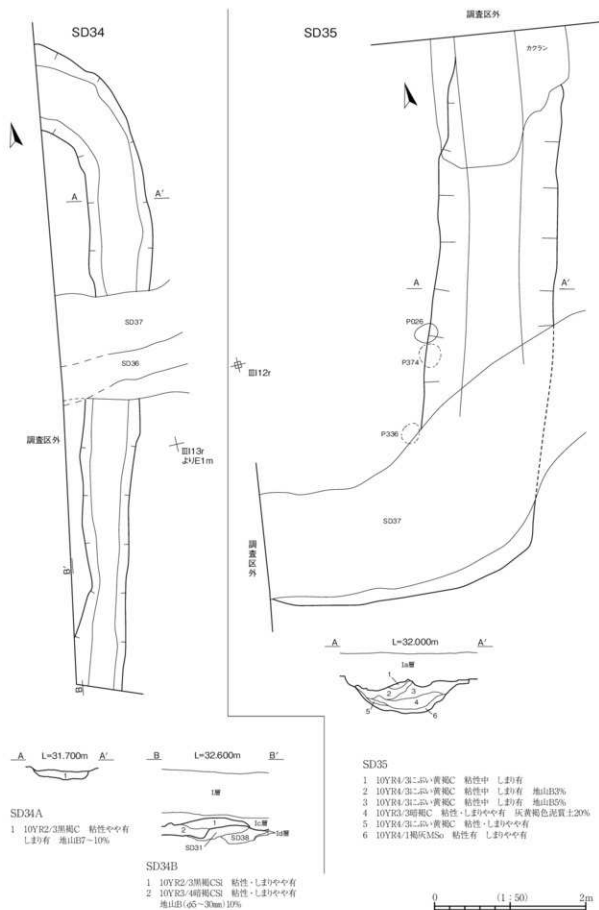


第51図 SD (5)



第52図 SD(6)

2 検出遺構



SD34A

- 1 10YR2/3照面CS 粘性中・Lよりやや有  
Lより有 地山比約10%

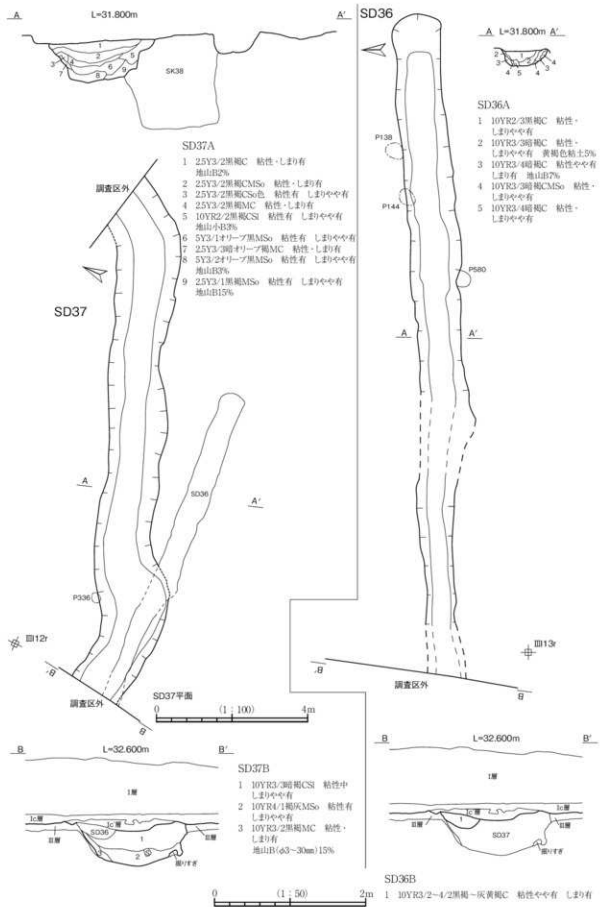
SD34B

- 1 10YR2/3照面CS 粘性・Lよりやや有
- 2 10YR2/4照面CS 粘性・Lよりやや有  
地山比(φ5-30mm)10%

SD35

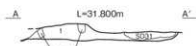
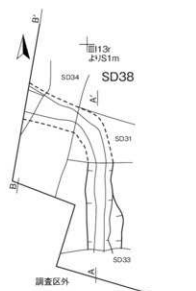
- 1 10YR4/3照面CS+黄泥C 粘性中・Lより有
- 2 10YR4/3照面CS+黄泥C 粘性中・Lより有 地山比3%
- 3 10YR4/3照面CS+黄泥C 粘性中・Lより有 地山比5%
- 4 10YR2/3照面CS 粘性・Lよりやや有 灰黄褐色泥質土20%
- 5 10YR4/3照面CS+黄泥C 粘性・Lよりやや有
- 6 10YR4/1照面CSa 粘性有・Lよりやや有

第53図 SD(7)

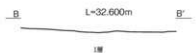


第54図 SD(8)

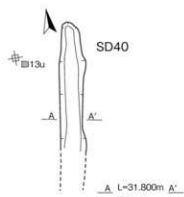
2 検出遺構



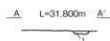
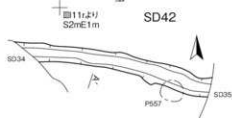
SD38A  
1 10YR4/3(土)黄褐色 粘性・L砂有



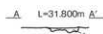
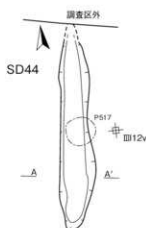
SD38B  
1 10YR2/3黒褐色CS 粘性やや有 L砂有



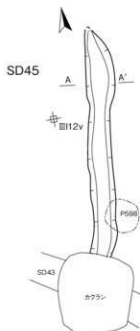
SD40  
1 2.5Y3/2黒褐色C 粘性・L砂中  
L土・黄褐色粘土粒(6.5-10  
5-7%, 酸化鉄5-10%)



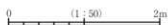
SD42  
1 10YR2.5/3暗褐色~黒褐色 粘性・L砂やや有



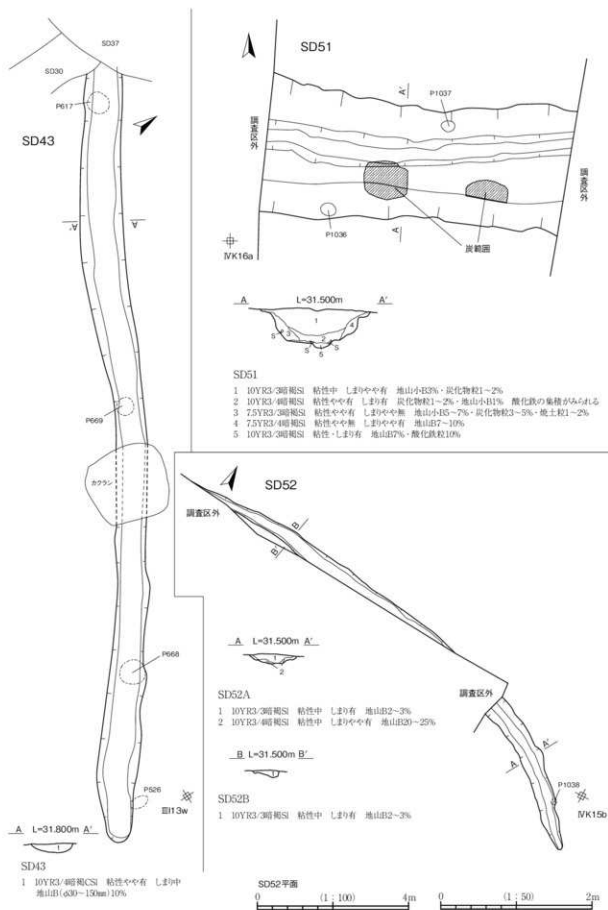
SD44  
1 10YR3/4暗褐色CS 粘性・L砂やや有



SD45  
1 10YR3/4暗褐色CS 粘性・L砂やや有

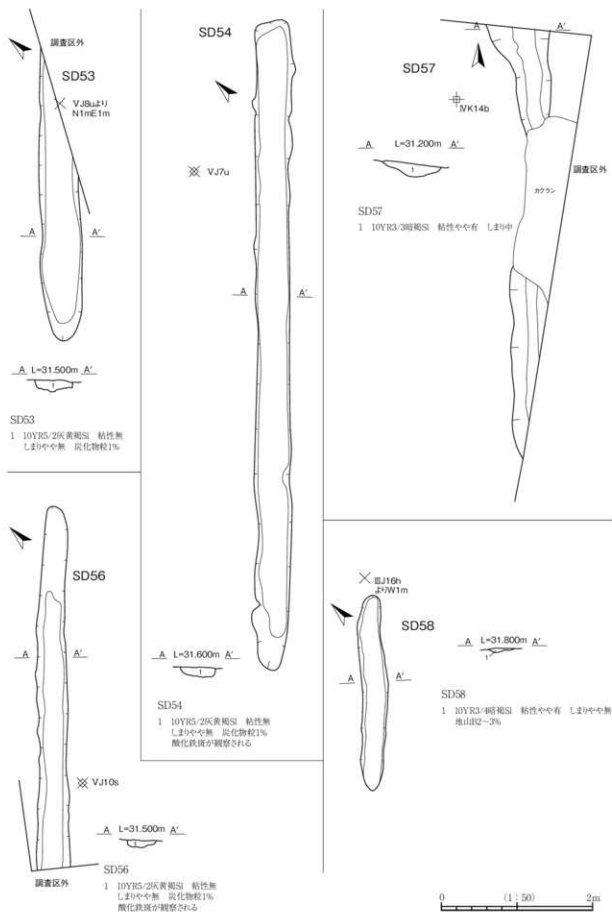


第55図 SD(9)



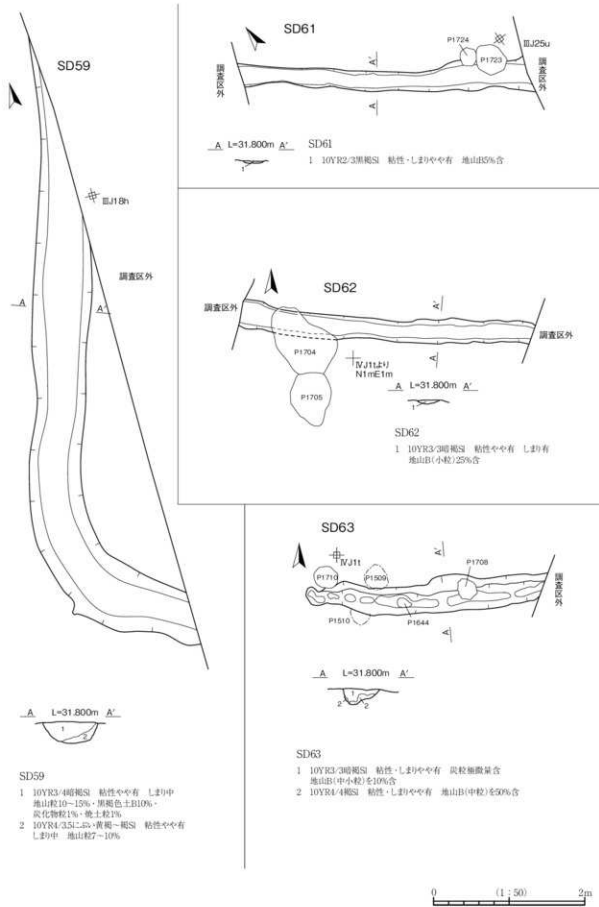
第56図 SD (10)

2 検出遺構



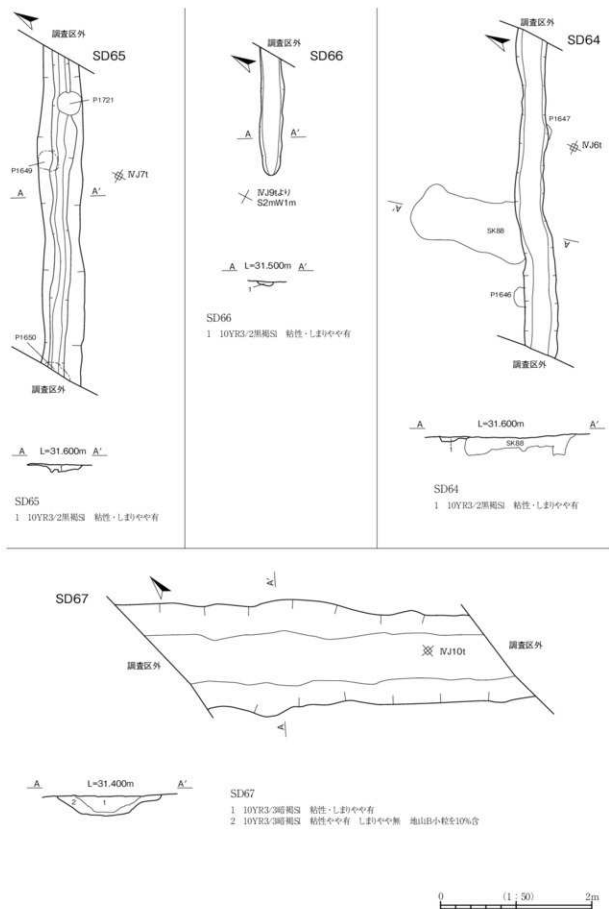
第57図 SD (11)



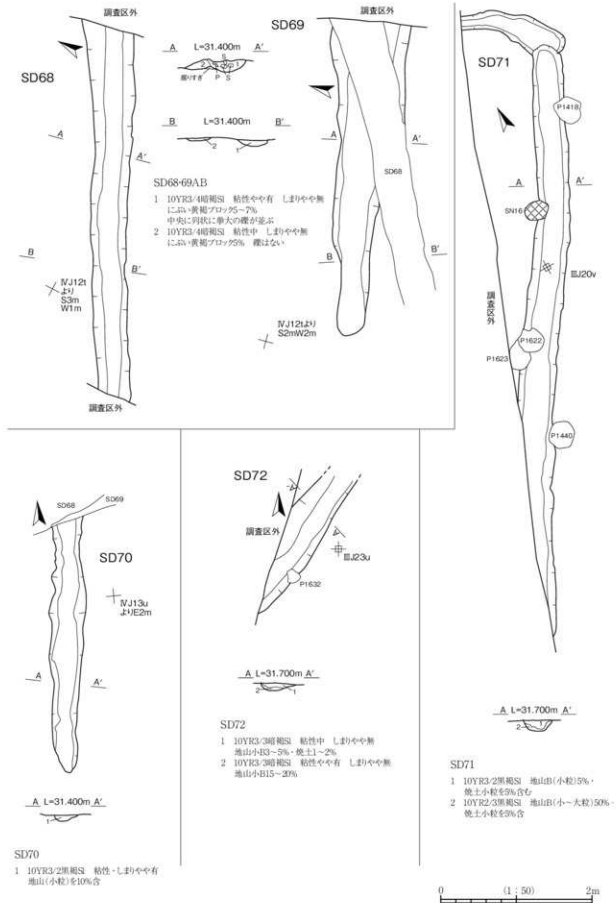


第58図 SD (12)

2 検出遺構

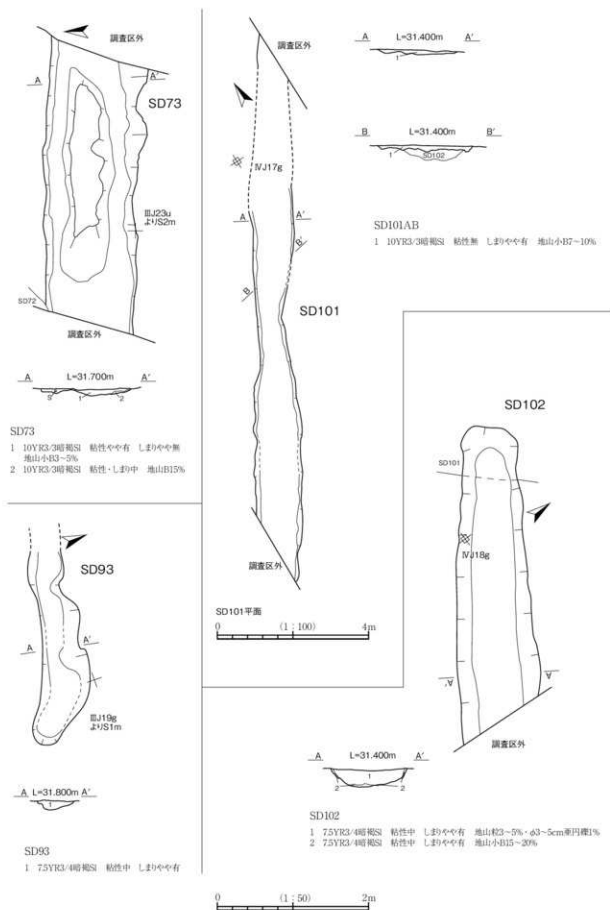


第59図 SD (13)

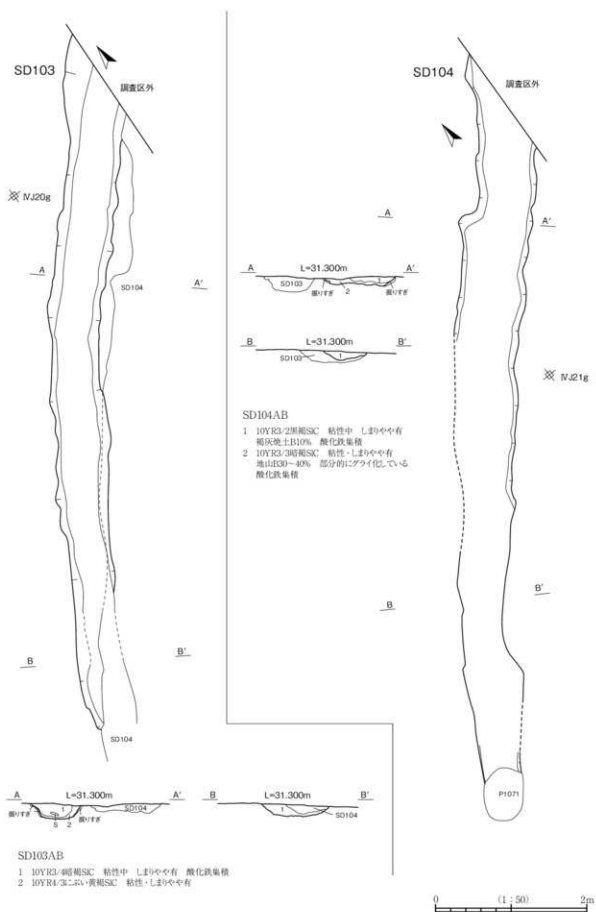


第60図 SD (14)

2 検出遺構

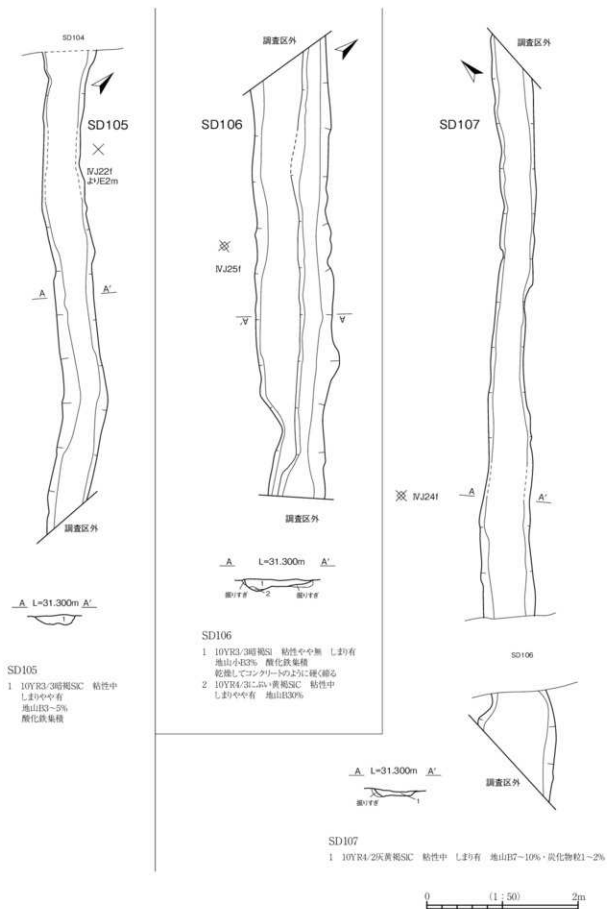


第61図 SD (15)

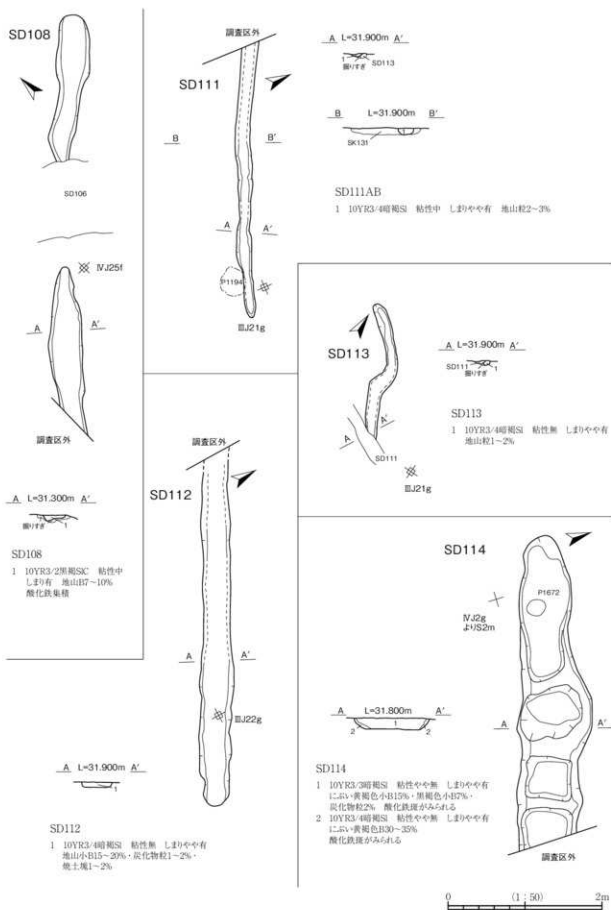


第62図 SD (16)

2 検出遺構

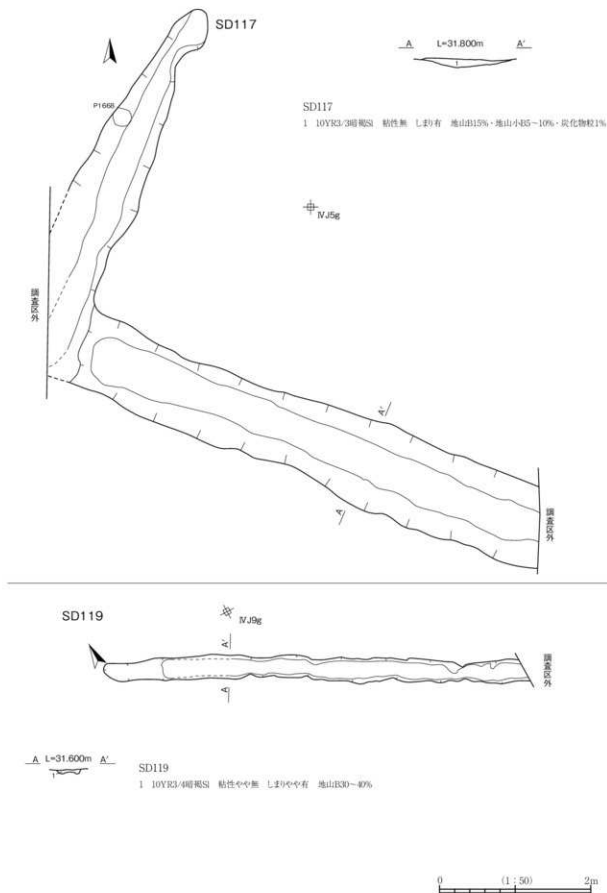


第63図 SD (17)



第64図 SD (18)

2 検出遺構



第65図 SD (19)



- [検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。ⅣJ5fグリッドで直角に曲がる。  
 [重複] P1668と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。  
 [規模] 調査区内で確認できた長さは11.56m、上幅は最大で1.22mである。検出面からの深さは最大で17cmで、断面形は皿状を呈している。  
 [埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。  
 [出土遺物] 縄文土器(523.5g)、RF1点、剥片21点、磨石1点、石皿2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。  
 [時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

## SD119 (第65図、写真図版56)

- [位置] 西区南、ⅣJグリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。一部が確認調査の範囲にある。  
 [検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。  
 [重複] SB58とプランが重複するが、直接切り合う柱穴がないため、新旧関係は不明である。  
 [規模] 調査区内で確認できた長さは5.61m、上幅は最大で0.33mである。検出面からの深さは最大で15cmで、断面形はW字状を呈している。  
 [埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。  
 [出土遺物] 縄文土器(90.4g)、剥片1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。  
 [時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

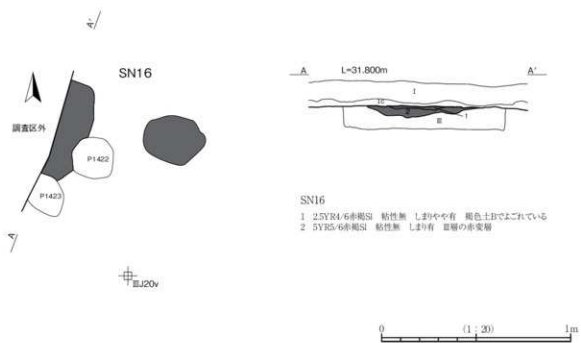
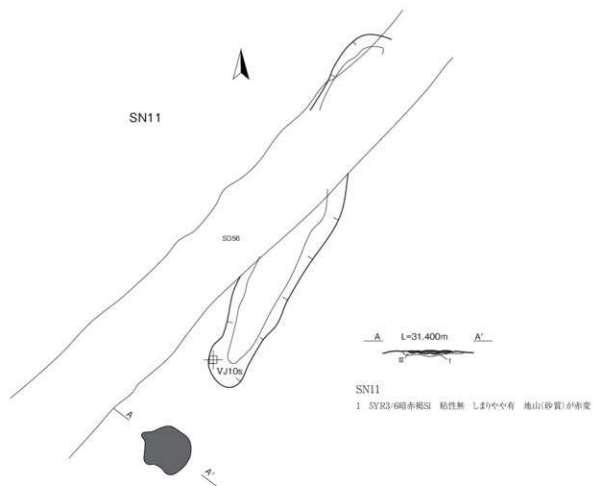
## (5) 焼土遺構 (SN)

## SN11 (第66図、写真図版57)

- [位置・検出状況] 南東区南、VJ10rグリッド付近に位置する。Ⅲ層が赤変している。  
 [重複] SD56に切られており、本遺構が古い。  
 [規模] 0.28×0.24mの不整形に赤変している。その北東には2.02×0.40mの焼土塊・炭化物粒・地山塊を含む暗褐色シルトで埋め戻された溝状のプランが確認でき、一連のものと判断した。  
 [埋土・焼土] 掘り込みは認められない。赤変している厚さは4cmである。  
 [出土遺物] 焼成面に貼りつくように土師器(23.79g)が出土している。また、縄文土器(17.7g)、剥片1点も出土している。  
 [時代・時期] 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

## SN16 (第66図、写真図版57)

- [位置・検出状況] 北東区、ⅢJ19uvグリッドに位置し、西側は調査区外に広がっている。Ⅲ層が赤変している。  
 [重複] P1422・1423に切られ、SD71を切っている。よって、柱穴より古く、SD71より新しい。また、SB44のプランと重複するが、直接切り合う柱穴がないため、新旧関係は不明である。  
 [規模] 調査区外に広がるため、詳細な規模は不明である。  
 [埋土・焼土] 掘り込みは認められない。確認できる赤変している厚さは13cmである。  
 [出土遺物] なし。



〔時代・時期〕 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

#### (6) 不明遺構 (SX)

##### SX01 (第67図、写真図版58)

〔位置・検出状況・重複〕 H22年度調査区の東側、Ⅲ J13 m n グリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

〔規模〕 開口部で1.65×0.81 mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は最大で51cmである。

〔埋土〕 断面図の作成は行っていないが、炭化物粒や地山塊の混入する黒褐色シルトの単層である。

〔壁・底面の状況〕 長軸の中間部で段があり、南西側が深くなっている。壁は底面から直線的に立ち上がっている。

〔出土遺物〕 縄文土器 (170.3 g)、剥片1点、土師器 (203.4 g) が出土し、土師器 (559) を掲載した。

〔時代・時期〕 出土遺物より、平安時代の遺構と考えられる。

##### SX02 (第67図、写真図版58)

〔位置・検出状況・重複〕 H22年度調査区の東側、Ⅲ J13 m グリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色～暗褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

〔規模〕 開口部で0.69×0.61 mの楕円形で、底面までの残存深度は最大で18cmである。

〔埋土〕 炭化物・地山塊・焼土塊を含む黒褐～暗褐色シルトの単層である。人為堆積の可能性が高い。

〔壁・底面の状況〕 小規模な遺構で底面はすり鉢状を呈する。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時代・時期〕 遺物が伴わないため、断定はできないが、SX01、SX21、SX22 と一連の遺構の可能性が高く、これらの遺構と同時期と考えられる。

##### SX21 (第67図、写真図版58)

〔位置・検出状況・重複〕 H22年度調査区の東側、Ⅲ J13 n グリッドに位置する。Ⅲ層上面で土師器片や焼土ブロックを多量に混入する褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

〔規模〕 円形のプランが並列しており、西側が開口部で0.42×0.33 m、東側が開口部で0.61×0.52 mである。底面までの残存深度は最大で西側10cm、東側16cmである。

〔埋土〕 どちらも焼土ブロック・炭化物粒を含む褐色シルトの単層で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。土器の混在する量が異なるため2層に分層した。

〔壁・底面の状況〕 底面はすり鉢状を呈しており、壁はなだらかに立ち上がる。

〔出土遺物〕 縄文土器 (614.2 g)、土師器 (587.76 g) が出土し、土師器 (560～562) を掲載した。

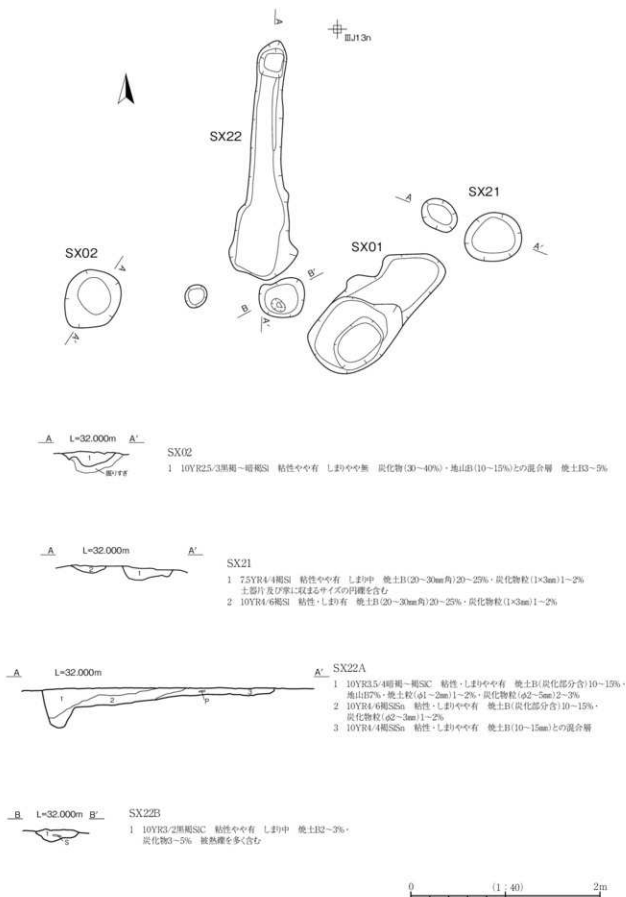
〔時代・時期〕 出土遺物より、平安時代の遺構と考えられる。

##### SX22 (第67図、写真図版58)

〔位置・検出状況・重複〕 H22年度調査区の東側、Ⅲ J13 m グリッドに位置する。Ⅲ層上面で暗褐～褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

〔規模〕 開口部で2.55×0.74 mの南側が影らむ溝状を呈する。北側に向かって傾斜しているため、深さは一定ではないが、北側の一番深い部分で45cm、その他では最大で22cmである。

2 検出遺構



第 67 図 SX (1)

【埋土】3層に分層した。2・3層は地山起源の堆積層で2層は天井部、3層は外壁の崩壊土層の可能性が高いと考えられる。被熱した壁の一部と考えられる焼土ブロックの混入も見られる。断面図には反映されていないが、南側の一部に被熱層が残存している。1層は天井部崩壊後の堆積層と考えられる。混入物が多く人為堆積の可能性が高い。

【壁・底面の状況】底面は平坦で、北側へ傾斜している。壁は底面からならだかに立ち上がる。

【性格・その他】カマド状遺構である。底面の傾斜方向、被熱層の残存を考慮すると、南側が焚き口と考えられる。南側に0.50×0.50mの不整形のピットが隣接している。被熱礫・炭化物・焼土ブロックを含む黒褐色シルト質粘土で埋没している。

【出土遺物】縄文土器(141.4g)、磨石1点、石皿2点、土師器(44.87g)が出土し、土師器(563)を掲載した。

【時代・時期】出土遺物より、平安時代の遺構と考えられる。

#### SX23 (第68図、写真図版57)

【位置・検出状況・重複】東区北、ⅢJ23tグリッドに位置する。西側の一部が調査区外に広がっている。Ⅲ層上面で焼土塊を含む暗褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

【規模】確認できた規模は開口部で0.80×0.42mである。底面までの残存深度は最大で13cmである。

【埋土】暗褐色シルトを主体とする。焼土はブロック状に散在している。

【壁・底面の状況】底面は不安定で、凹凸が目立つ。壁は底面からならだかに立ち上がる。

【出土遺物】磨石1点が出土している。

【時代・時期】今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

#### SX24 (第68図、写真図版59)

【位置・検出状況・重複】東区北、ⅢJ24tグリッドに位置する。西側が調査区外に広がっている。

Ⅲ層上面で赤褐色焼土と地山が混在するプランとして検出した。SD61に切られ、本遺構が古い。

【規模】確認できた規模は開口部で1.60×1.44mである。底面までの残存深度は最大で12cmである。

【埋土】壁周辺には地山ブロックと赤褐色焼土が混在しており、中央部は暗褐色シルト主体である。

【壁・底面の状況】底面は不安定で、凹凸が目立つ。壁はならだかに内湾しながら立ち上がる。

【出土遺物】縄文土器(3.5g)、スクレイパー類1点、石皿1点が出土している。

【時代・時期】今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

#### SX25 (第68図、写真図版59)

【位置・検出状況・重複】東区北、ⅢJ25tグリッドに位置する。Ⅲ層上面で明赤褐色焼土が散在する暗褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

【規模】開口部で1.07×0.64mの歪な楕円形である。底面までの残存深度は最大で12cmである。

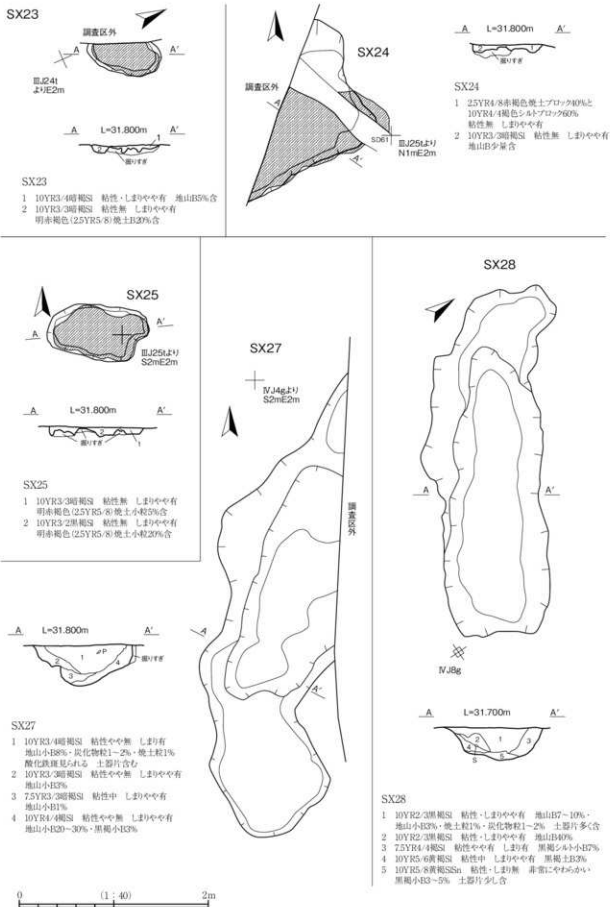
【埋土】東側では暗褐色、西側では黒褐色シルトに明赤褐色焼土が散在している。

【壁・底面の状況】底面は不安定で、凹凸が目立つ。壁は直線的に外傾しながら立ち上がる。

【出土遺物】縄文土器(33.7g)が出土している。

【時代・時期】今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み

2 検出遺構



第68図 SX(2)



面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

#### SX26 (第69図、写真図版43)

[位置・検出状況・重複] H22年度調査区中央、ⅢJグリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。Ⅲ層上面で暗褐色～褐色のプランとして確認した。SD12に切られ、本遺構が古い。SD11・17、P105・158・204・208・211・237・259・272・459・501・531・603・641・645・647・677・686～688と重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03～11とプランが重複するが、切り合う柱穴がないため、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは22.23m、最大幅は6.64mである。検出面からの深さは最大で30cmである。  
[埋土] 土質や混入物により分層しているが、暗褐色～褐色土を主体とする。下部層は地山ブロックの混入が多く人為堆積の可能性が高い。

[性格] 道路状遺構である。西側の底面は不安定で凹凸が目立つ。

[出土遺物] 縄文土器(348.0g)、スクレイパー類2点、銚形石器2点、両面調整石器1点、RF5点、剥片27点、黒曜石製剥片3点、打製石斧1点、磨石20点、敲石1点、石皿4点、台石1点、土師器(1.78g)、須恵器(54.37g)、常滑1点(41.94g)が出土し、常滑(578)を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物より、12世紀～15世紀の遺構と考えられる。

#### SX27 (第68図、写真図版59)

[位置・検出状況・重複] 西区北～西区南、ⅣJグリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。重複する遺構はない。

[規模] 確認できた規模は開口部で5.00×2.09mで、底面までの残存深度は最大で51cmである。

[埋土] 4層に分層した。東側に偏っているが、最下部に褐色シルトが堆積している。混入物が異なるため3層に細分したが、大部分が暗褐色シルトで埋没している。

[壁・床の状況] 底面は中央が窪んでおり、安定していない。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[出土遺物] 縄文土器(9697.1g)、石匙1点、RF1点、剥片41点、石核1点、磨石9点、石皿2点、不明石製品1点が出土し、縄文土器(165～172)、RF(375)、磨石(492)、石皿(518)、不明石製品(552)を掲載した。

[時代・時期] 縄文土器が出土しているが、遺構形状が不安定で、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を断定するには至らなかった。

#### SX28 (第68図、写真図版59)

[位置・検出状況・重複] 西区南、ⅣJ7iグリッド周辺に位置する。西側は確認調査の範囲にある。Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。重複する遺構はない。

[規模] 開口部で3.81×1.35m、底面までの残存深度は最大で40cmである。

[埋土] 5層に分層した。下部は地山起源の堆積層である。上部は黒褐色シルトを主体とし、地山ブロックや土器片が混入しており、人為堆積の可能性が高い。

[壁・床の状況] 底面はほぼ平坦で、北西側に一段高い平坦部を持つ。壁は底面からゆるやかに内湾しながら立ち上がる。

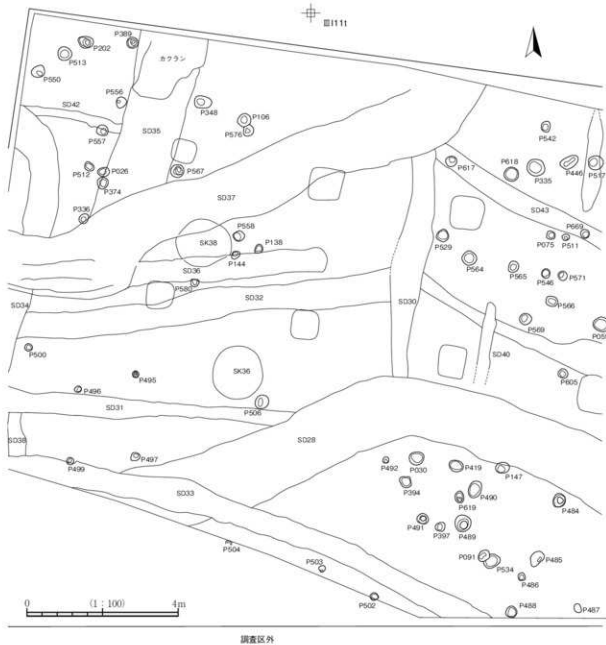
[出土遺物] 縄文土器(4422.2g)、石鏃1点、RF1点、剥片9点、原石1点が出土し、縄文土器(173・174)、石鏃(240)、RF(376)を掲載した。



[時代・時期] 縄文土器が出土しているが、遺構形状が不安定で、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を断定するには至らなかった。

### (7) 柱 穴 (P)

掘立柱建物跡や柱穴列等の遺構にならなかった(組めなかった)柱穴である。平成 22 年度調査区で 467 個(東側 100 個、中央 105 個、西側 262 個)、北西区～西区で 278 個、南西区で 20 個、北東区～東区で 211 個、南東区で 26 個、計 1002 個を検出した。この中には、掘り方が非常に浅く、平面形が不明瞭なものも含まれるが、一括している。以下、区域毎に概観する。個別の観察事項は第 5 表を参照して頂きたい。



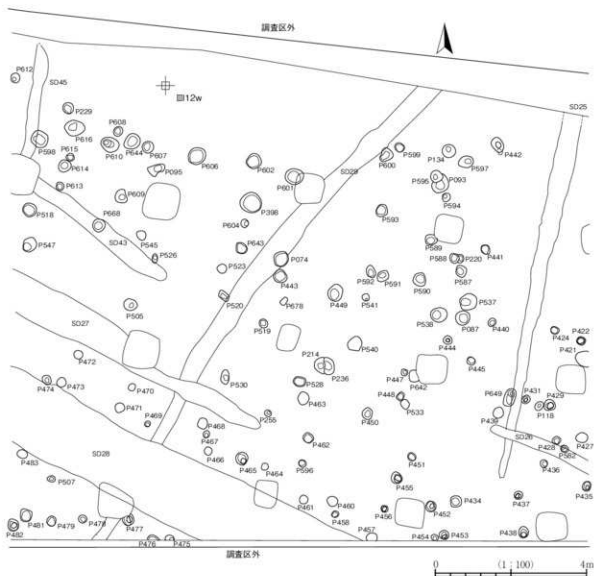
第70図 柱穴(1)

## 平成 22 年度調査区 (第 70~76 図)

西側の包含層周辺のものはⅡb層上面で検出したが、大多数はⅢ層上面で検出した。SD28の北側からSD35・37の西側の堀の外側にあたる部分に集中している。検出時の色調は黒褐色～暗褐色が大半である。柱穴の直径は東側では17~76cm、中央では18~86cm、西側では20~86cmの範囲に収まり、20~39cmが半数以上を占めるのは変わらないが、東側では20~29cmが55%、中央では20~29cmが40%と比較的小形のものが多いのに対して、20~29cmが29%、30~39cmが34%、40cm以上が26%と大形のものが多い傾向が見られる。建物として認識できなかったが、柱痕跡のある柱穴が相当数確認されており、認識できなかった遺構が複数存在する可能性が高い。

## 北西区～西区 (第 77~79 図)

本区域で検出された柱穴はすべてⅢ層上面が検出面である。北西区～西区北に分布は集中しており、西区南は散発的である。埋土は、6割程が黒褐色シルト主体で、他は暗褐色シルト主体である。柱穴の直径は16~92cmの範囲に収まり、20~29cmのものが大半を占める。しかし、深さは規模による大きな差は見られない。SB52・53・56・61もしくはSB10の桁行きの軸方向と並行する柱穴の並びが



第 71 図 柱穴 (2)

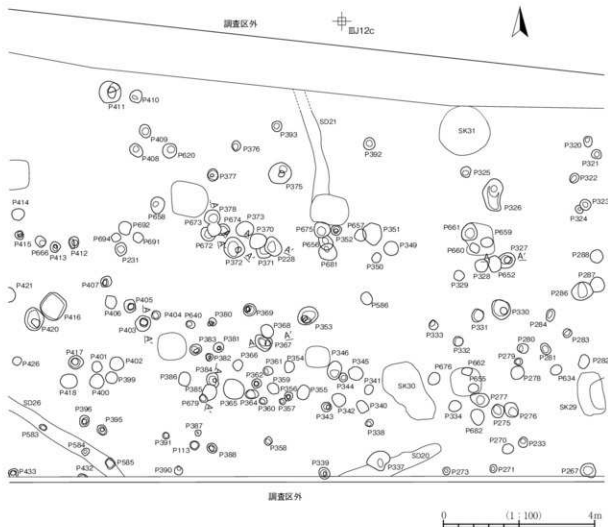
確認でき、建物として認識できなかった遺構が複数存在する可能性が高い。なお、本区域には確認調査の範囲があり、その区域にあるものは基本的に半載に止めている。

#### 南西区 (第79図)

Ⅲ層上面で柱穴を検出している。埋土はP1382・1383が暗褐色シルト主体である以外は、黒褐色シルトを主体としている。柱穴の直径は22~72cmの範囲に収まる。検出個数が少なく、遺構外に広がるものもあるため、傾向はつかめない。平面形が不定形のものが多い。

#### 南東区 (第79・80図)

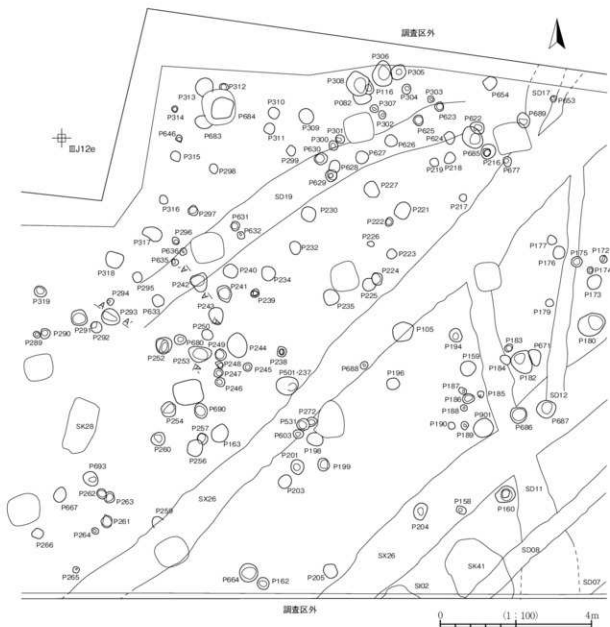
検出面はⅢ層上面である。26個の柱穴を検出したが、SI11の北側の2個以外は南東区北側で検出したものである。本区域には縄文時代の遺構が集中しているが、その範囲からはほとんど柱穴が検出されていない。そのため、縄文時代に帰属する柱穴は少ないものと考えられる。他の区域では黒褐色シルトを主体とする柱穴が多いのに対して、本区域では暗褐色シルト主体とするものが半数以上を占める。柱穴の直径は19~36cmの範囲に収まり、他の区域で確認されるような50cm以上のものは見られない。調査範囲が細いこともあって規則的な配置になりうるものは確認できなかった。



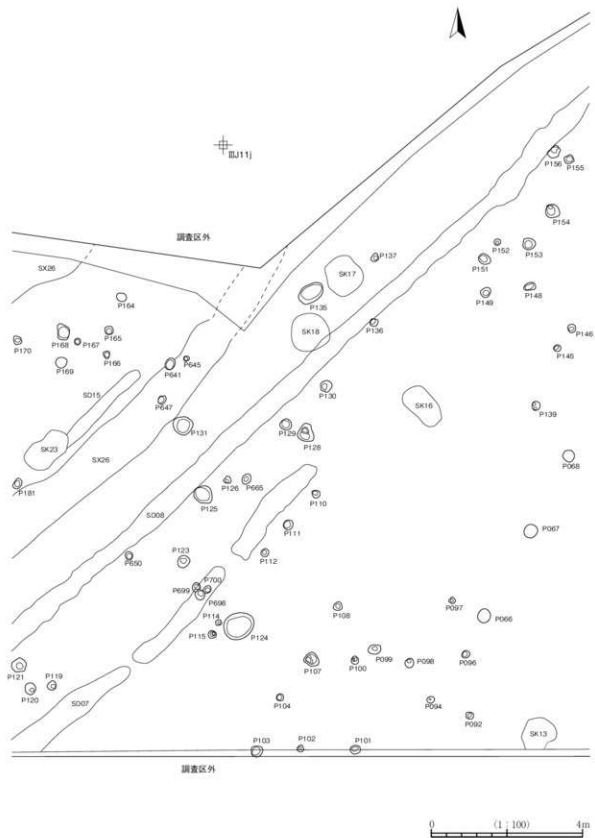
第72図 柱穴 (3)

北東区～東区 (第 80・81 図)

検出面はⅢ層上面である。本区域の八割弱の柱穴が黒褐色シルト主体の埋土である。北東区・東道路の柱穴の直径は 14～72cm、東区の柱穴の直径は 18～90cm の範囲に収まり、20～39cm のものが六割程を占めている。深さも規模による大きな差は見られない。ただし、北東区の直径 30～40cm のものには柱痕跡が確認できるものが多く、建物として認識しきれなかった遺構が複数存在する可能性が高い。なお、東区南のものは不定形のものも多く、柱穴以外のものが含まれている可能性が高い。

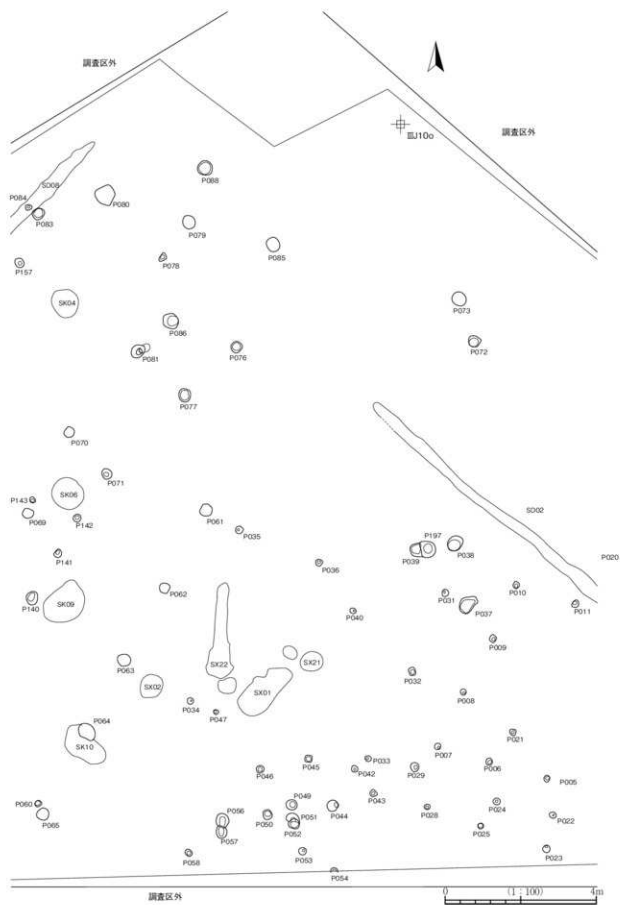


第 73 図 柱穴 (4)

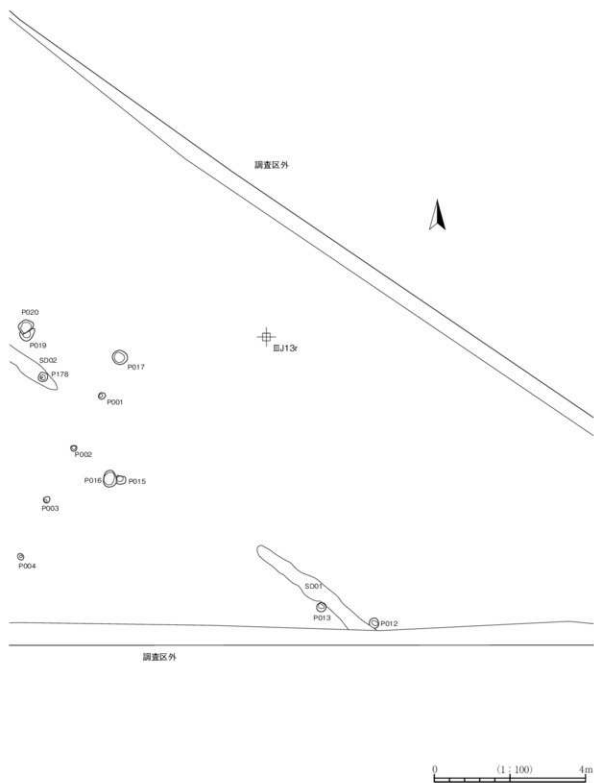


第74図 柱穴(5)

2 検出遺構

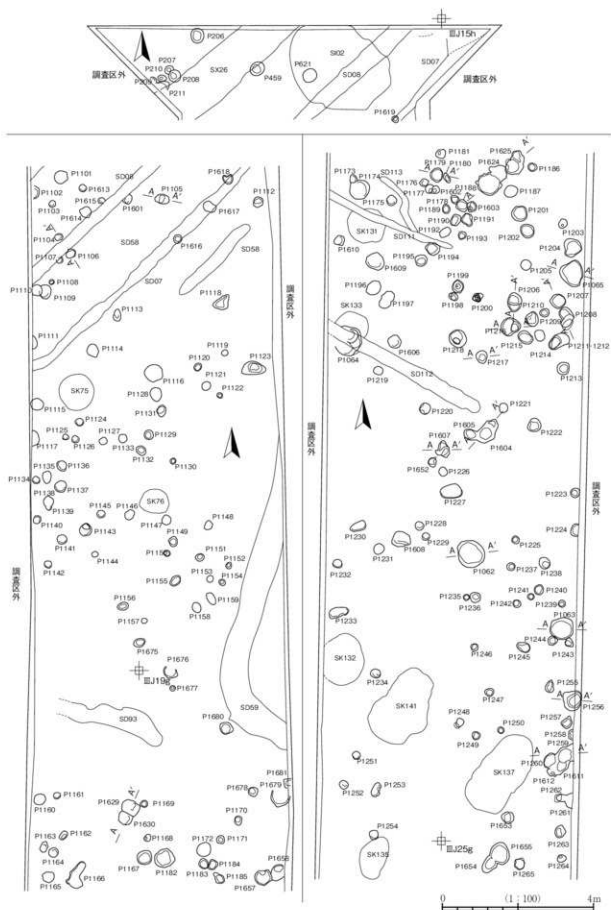


第75図 柱穴(6)



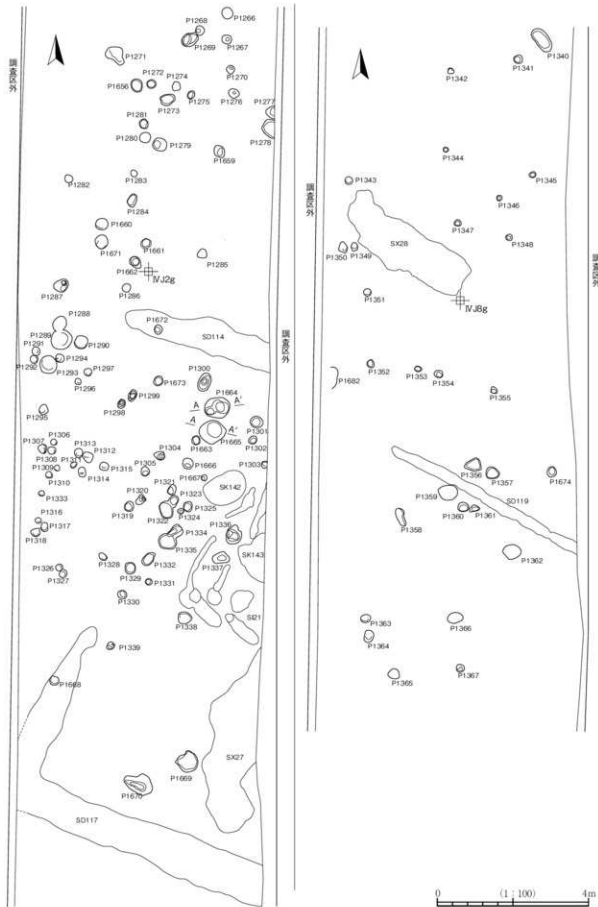
第76図 柱穴(7)

2 検出遺構

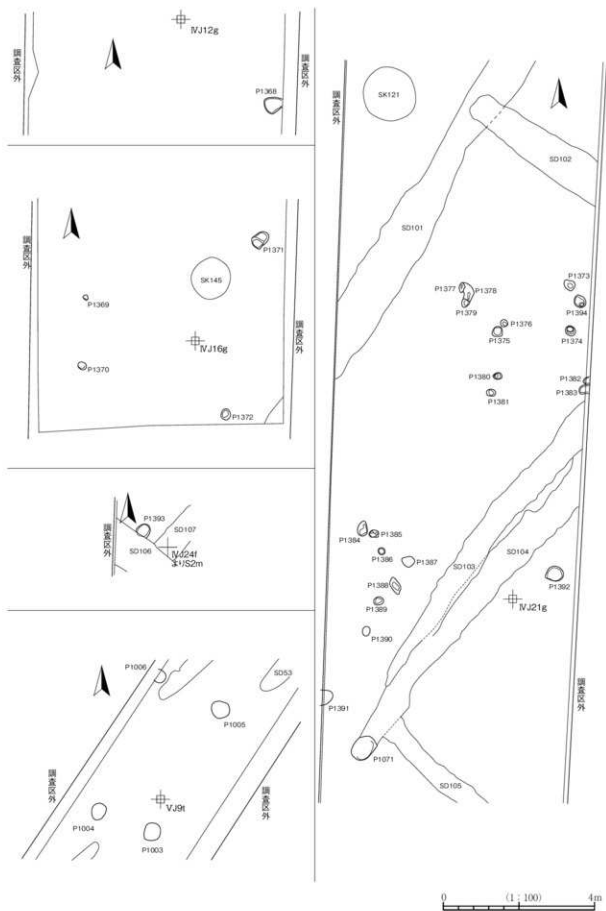


第77図 柱穴(8)

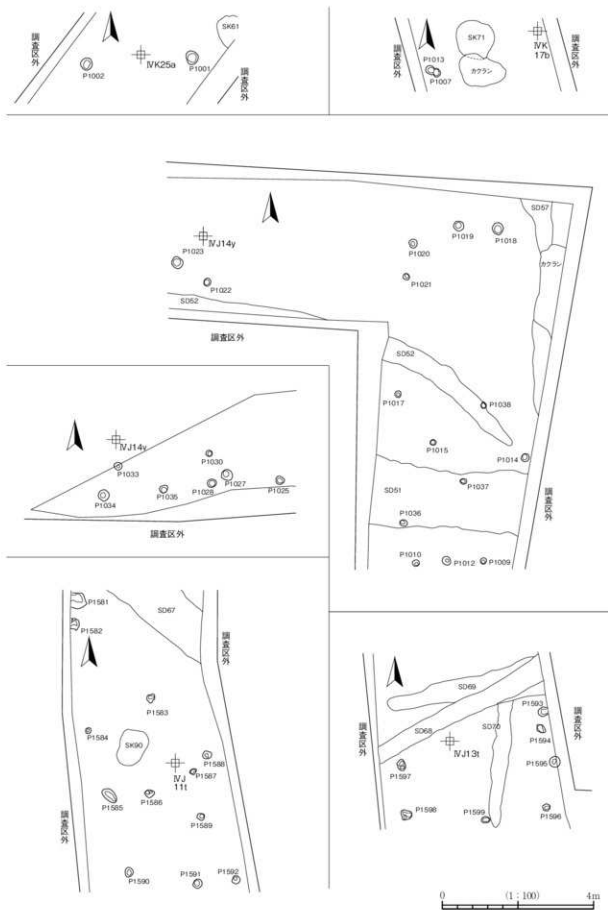




第78図 柱穴(9)

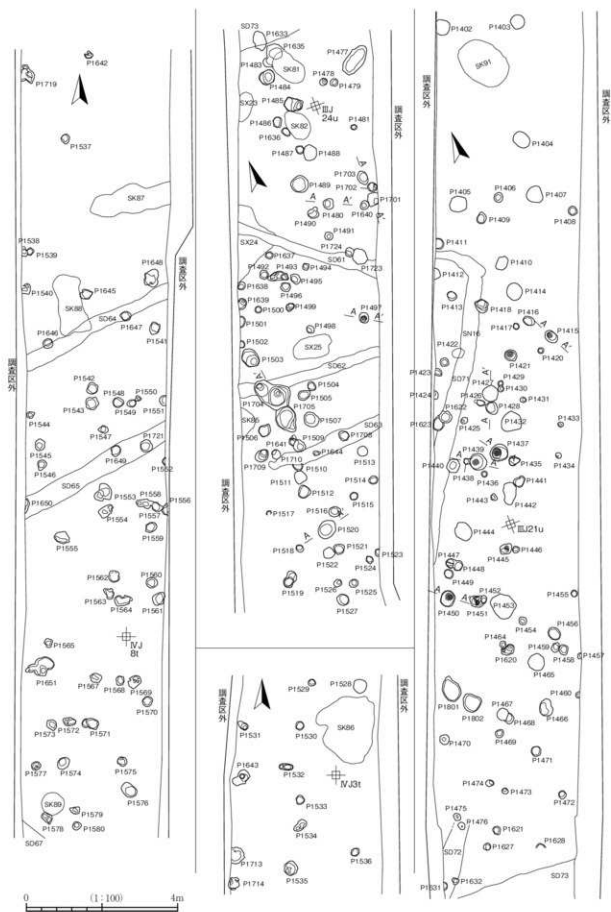


第 79 図 柱穴 (10)

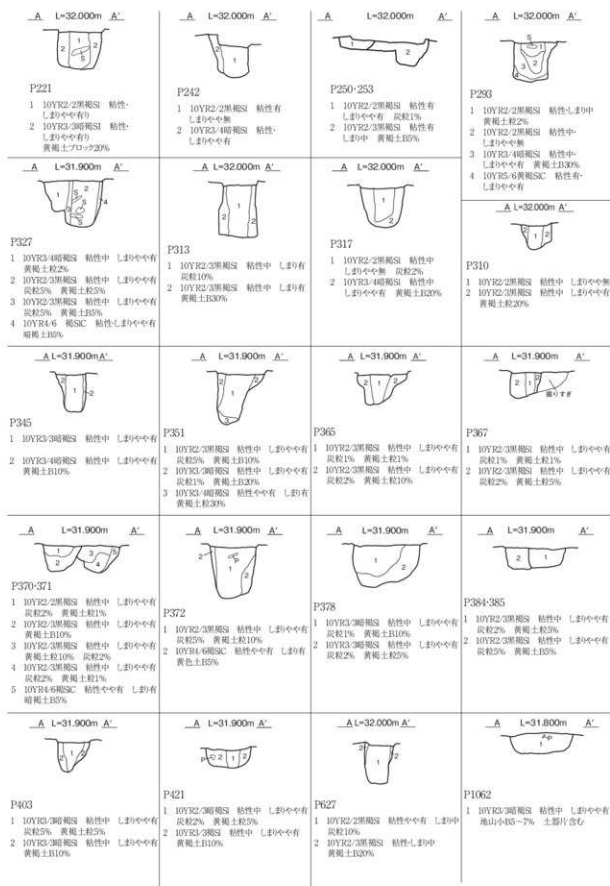


第80図 柱穴(11)

2 検出遺構

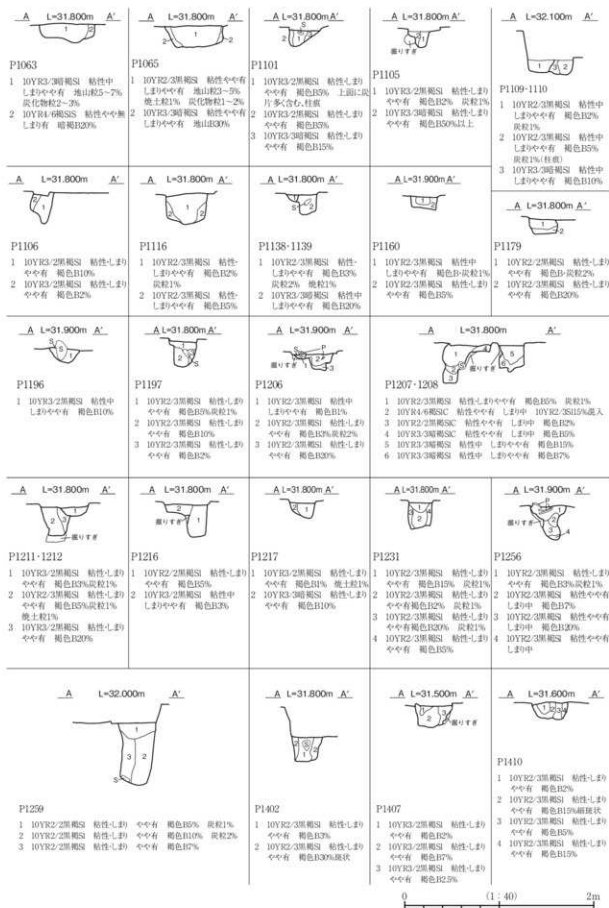


第81図 柱穴(12)

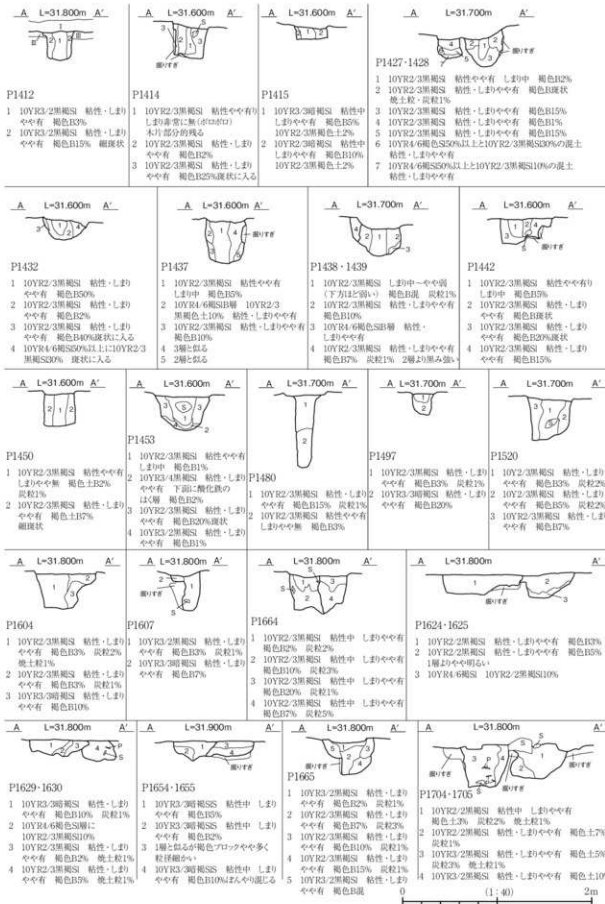


第82図 柱穴(13)

2 検出遺構



第83図 柱穴 (14)



第84図 柱穴 (15)













第5表 柱穴一覧(6)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面傾斜	備考
1234	ⅡJ20	30	28	24.9	○F1	
1235	ⅡJ20g	20	18	9.1	○F1	
1236	ⅡJ20g	20	18	19.3	○F1	
1237	ⅡJ20g	25	22	31.509		
1238	ⅡJ20g	33	29	27.3	○F1	
1239	ⅡJ20g	22	22	20.2	○F1	
1240	ⅡJ20g	28	25	11.2	○F1	
1241	ⅡJ20g	18	17	8.9	○F1	
1242	ⅡJ20g	21	18	13.4	○F1	
1243	ⅡJ20g	126	104	6.655	F09G1 ~ P1243	
1244	ⅡJ20g	124	100	15.0	F09G1 ~ P1244	
1245	ⅡJ20g	30	26	7.8	○F1	
1246	ⅡJ20g	24	22	19.1	○F1	
1247	ⅡJ21 ~ 24g	28	24	10.2	○F1	
1248	ⅡJ20g	24	22	6.4	○F1	
1249	ⅡJ20g	25	24	7.2	○F1	
1250	ⅡJ20g	24	20	11.1	○F1	
1251	ⅡJ20	24	24	13.7	○F1	
1252	ⅡJ20	26	24	21.8	○F1	
1253	ⅡJ20	41	24	9.2	○F1	
1254	ⅡJ20	26	26	11.3	○F1	
1255	ⅡJ21 ~ 24g	35	24	11.1	○F1	
1256	ⅡJ20g	60	38	37.1	○F1	
1257	ⅡJ20g	38	37	15.6	○F1	
1258	ⅡJ20g (27)	112	12	17.7	○F1	
1259	ⅡJ20g (53)	180	69.4	31.009	F1200 ~ M11 ~ M12 ~ P1259 ○F1 柱上員1名	
1260	ⅡJ20g (42)	132	44.3	31.217	P1259 ~ M11 ~ M12 ~ P1260 ○F1	
1261	ⅡJ20g (42)	124	41.0	31.333	P1261 ~ P1262	
1262	ⅡJ20g (27)	122	36.6	31.430	P1261 ~ P1262	
1263	ⅡJ20g	33	30	26.1	○F1	
1264	ⅡJ20g	24	21	25.3	○F1	
1265	ⅡJ20g	30	25	35.3	○F1	
1266	ⅡJ20g	34	32	23.9	○F1	
1267	ⅡJ20g	28	26	25.7	○F1	
1268	ⅡJ20g (28)	124	30.5	31.495	P1268 ~ P1269	
1269	ⅡJ20g (45)	141	39.9	31.436	P1268 ~ P1269	
1270	ⅡJ20g	24	24	17.9	○F1	
1271	ⅡJ20g	40	42	11.8	○F1	
1272	ⅡJ20g	28	24	17.3	○F1	
1273	ⅡJ20g	42	32	18.5	○F1	
1274	ⅡJ20g	33	30	28.5	○F1	
1275	ⅡJ20g	24	22	16.9	○F1	
1276	ⅡJ20g	32	27	10.4	○F1	
1277	ⅡJ20g (134)	1269	11.1	31.628		
1278	ⅡJ20g + ⅡJ1g (47)	145	17.6	31.567	○F1	
1279	ⅡJ1g	42	36	34.2	○F1	
1280	ⅡJ1g	32	32	42.5	○F1	
1281	ⅡJ20 + ⅡJ1g	28	26	15.3	○F1	
1282	ⅡJ1g	26	28	11.9	○F1	
1283	ⅡJ1g	22	21	16.6	○F1	
1284	ⅡJ1g	40	27	15.3	○F1	
1285	ⅡJ1g	28	28	25.2	○F1	
1286	ⅡJ1g	26	25	17.3	○F1	
1287	ⅡJ1g	42	36	34.3	○F1	
1288	ⅡJ2 (166)	151	12.6	31.639	P1288 ~ P1288	
1289	ⅡJ2 (41)	140	24.4	31.528	P1288 ~ P1288	
1290	ⅡJ2	40	38	30.9	○F1	
1291	ⅡJ2	24	24	24.0	○F1	
1292	ⅡJ2	25	24	21.7	○F1	
1293	ⅡJ2	50	50	26.5	○F1	
1294	ⅡJ2	26	24	22.0	○F1	
1295	ⅡJ2	30	29	27.3	○F1	
1296	ⅡJ2	20	20	20.0	○F1	
1297	ⅡJ2	25	24	30.0	○F1	
1298	ⅡJ2	35	25	31.7	○F1	
1299	ⅡJ2	34	24	37.5	○F1	
1300	ⅡJ2g	54	35	34.3	○F1	
1301	ⅡJ2 ~ 3g	38	34	21.8	○F1	
1302	ⅡJ2g	32	24	13.7	○F1	
1303	ⅡJ2g (21)	117	38.9	31.267		
1304	ⅡJ2g	36	32	22.4	○F1	
1305	ⅡJ2g	28	23	22.3	○F1	
1306	ⅡJ2g	24	18	17.9	○F1	
1307	ⅡJ2	27	26	35.5	○F1	
1308	ⅡJ2	25	23	18.0	○F1	
1309	ⅡJ2	30	18	22.5	○F1	

1310	ⅡJ2	24	18	7.7	○F1	
1311	ⅡJ2	20	18	9.5	○F1	
1312	ⅡJ2	32	30	20.8	○F1	
1313	ⅡJ2	29	20	10.4	○F1	
1314	ⅡJ2	28	24	16.9	○F1	
1315	ⅡJ2	28	25	35.9	○F1	
1316	ⅡJ2	17	16	18.6	○F1	
1317	ⅡJ2	22	18	15.7	○F1	
1318	ⅡJ2	24	23	22.2	○F1	
1319	ⅡJ2	30	28	14.2	○F1	
1320	ⅡJ2g	30	26	21.5	○F1	
1321	ⅡJ2g (47)	137	13.7	31.603	P1322 ~ P1323	
1322	ⅡJ2g (13)	125	15.2	31.576	P1322 ~ P1323	
1323	ⅡJ2g	50	36	12.1	○F1	
1324	ⅡJ2g	18	18	16.3	○F1	
1325	ⅡJ2	117	117	12.6	○F1	
1326	ⅡJ3 ~ 4f (21)	119	22.6	31.513	P1326 ~ P1327	
1327	ⅡJ3 ~ 4f (21)	119	22.6	31.513	P1326 ~ P1327	
1328	ⅡJ3	31	18	6.9	○F1	
1329	ⅡJ3 ~ 4f (34)	30	34.0	31.482	○F1	
1330	ⅡJ4	26	23	20.9	○F1	
1331	ⅡJ4g	21	20	10.4	○F1	
1332	ⅡJ4g	44	29	14.3	○F1	
1333	ⅡJ3	22	19	7.7	○F1	
1334	ⅡJ3g (42)	136	27.3	31.477	P1334 ~ P1335	
1335	ⅡJ3g (45)	144	31.9	31.296	P1334 ~ P1335	
1336	ⅡJ3g	54	42	58.4	○F1	
1337	ⅡJ3g	48	35	17.4	○F1	
1338	ⅡJ4	41	37	13.1	○F1	
1339	ⅡJ4	25	25	17.7	○F1	
1340	ⅡJ4g	74	28	10.2	○F1	
1341	ⅡJ4g	26	25	32.0	○F1	
1342	ⅡJ4g	10	18	27.1	○F1	
1343	ⅡJ7	22	19	11.7	○F1	
1344	ⅡJ6 ~ 7	18	17	6.8	○F1	
1345	ⅡJ7	23	21	6.7	○F1	
1346	ⅡJ7	18	18	14.3	○F1	
1347	ⅡJ7	23	21	8.1	○F1	
1348	ⅡJ7	20	20	11.1	○F1	
1349	ⅡJ7	25	21	7.4	○F1	
1350	ⅡJ7	31	25	13.4	○F1	
1351	ⅡJ7	24	25	12.3	○F1	
1352	ⅡJ8	25	22	10.0	○F1	
1353	ⅡJ8	22	20	4.4	○F1	
1354	ⅡJ8	23	23	15.4	○F1	
1355	ⅡJ8	23	20	11.7	○F1	
1356	ⅡJ8g	48	38	11.6	○F1	
1357	ⅡJ8g	40	36	12.4	○F1	
1358	ⅡJ9	52	30	10.4	○F1	
1359	ⅡJ9	54	42	11.3	○F1	
1360	ⅡJ9g	32	28	6.0	○F1	
1361	ⅡJ9g	30	23	16.6	○F1	
1362	ⅡJ9g	51	43	10.6	○F1	
1363	ⅡJ9g	25	21	15.9	○F1	
1364	ⅡJ10	35	28	12.8	○F1	
1365	ⅡJ10	33	30	13.1	○F1	
1366	ⅡJ10g	44	31	38.3	○F1	
1367	ⅡJ10g	22	22	18.2	○F1	
1368	ⅡJ10g	140	14.1	31.204		
1369	ⅡJ15	16	14	11.0	○F1	
1370	ⅡJ16	24	19.2	31.180		
1371	ⅡJ16g	53	35	18.4	○F1	
1372	ⅡJ16g	34	29	10.3	○F1	
1373	ⅡJ16g	34	30	16.9	○F1	
1374	ⅡJ18	30	21.7	31.082		
1375	ⅡJ19	33	30	16.2	○F1	
1376	ⅡJ19	23	22	13.8	○F1	
1377	ⅡJ19 (26)	17	17.3	31.149	P1377 ~ P1378	
1378	ⅡJ19 (13)	130	14.7	31.168	P1378 ~ P1377 ~ 1379	
1379	ⅡJ19 (12)	122	14.3	31.172	P1378 ~ P1379	
1380	ⅡJ19	26	23	18.0	○F1	
1381	ⅡJ19	24	24	24.9	○F1	
1382	ⅡJ19g (19)	181	3.3	31.265	P1382 ~ P1383	
1383	ⅡJ19g (20)	124	8.2	31.231	P1382 ~ P1383	
1384	ⅡJ20	42	30	15.1	○F1	
1385	ⅡJ20	28	22	15.3	○F1	
1386	ⅡJ20	22	21	8.1	○F1	





## 3 出土遺物

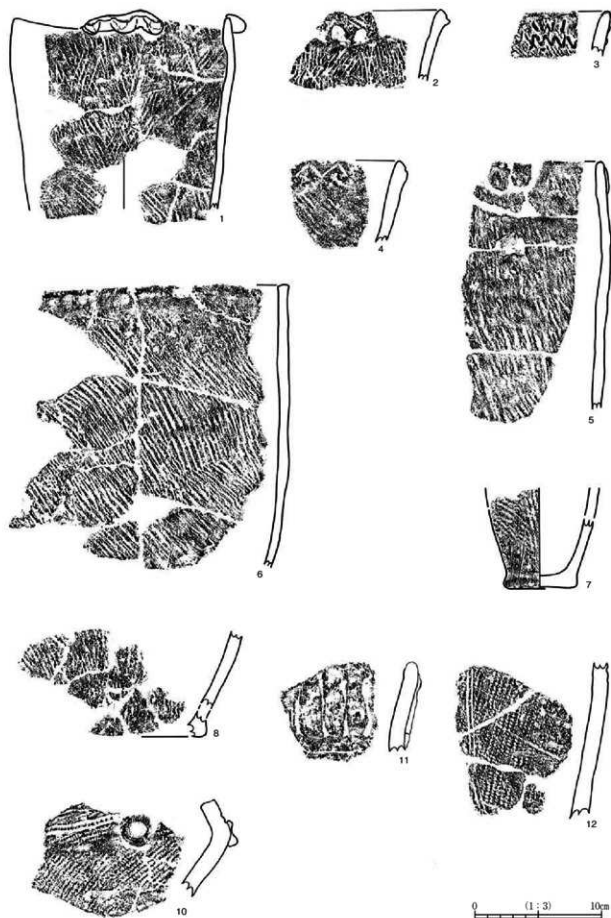
## (1) 土器(縄文時代)(第85~101図、写真図版66~79)

**竪穴住居跡出土遺物**(1~45) 1~8はSI02から出土した土器である。口唇部にはM字状の鋸歯状装飾体が観察でき(1・2・4)、地文には単軸絡条体を用いられる。大木5式に相当するものと考えられる。9~14はSI12から出土した土器である。口縁部上部に太い粘土紐が貼り付けられ(11)、半載竹管等による沈線文が施されている(9・10)。大木6式に相当するものと考えられる。15~29はSI13から出土した土器である。口唇部には縦・横・斜め等の太い粘土紐(15~17・19・20)や環状の粘土紐(17・20・21)が貼り付けられる。口縁部文様帯や区画には半載竹管等による重層沈線文を主体とし、ボタン状貼付が施されるもの(21等)、隆帯が施されるもの(17・19)がある。大木6式に相当するものと考えられる。30~37はSI14から、38・39はSI14・SI15と重複する部分から出土したものである。口唇部には各種の太い粘土紐の貼り付けが施され、口縁部文様帯には半載竹管等による各種の重層沈線文が施される。口縁部と胴部の文様帯の区画には鋸歯状の沈線文と隆帯を用いられる。胴部文様帯にも半載竹管等による沈線文が施され、沈線文の交点にはボタン状貼付が施される。大木6式に相当するものと考えられる。40~44はSI16から出土した土器である。40・41は、口縁部に太い粘土紐が貼り付けられ、その上に単軸絡条体が施文されている。42は鋸歯状の重層沈線文が施文されている。その他にも半載竹管等による沈線文や隆帯が施されるのが共通する特徴で、大木6式に相当するものと考えられる。45はSI21のPitから出土したものである。地文のみで詳細は不明である。

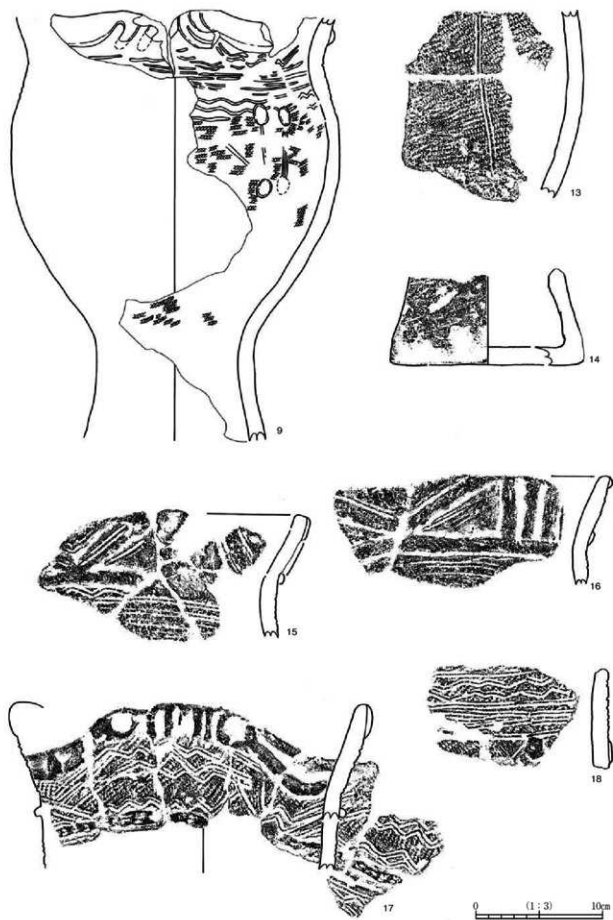
**包含層出土遺物**(46~96) 46~54は大木5式に相当するものと考えられる土器である。器形全体を復元できる資料は確認できなかった。46~50は鋸歯状の細い粘土紐を施すのを共通の特徴とする。50は区画に刺突文を施した隆帯を用いている。51は無文で、輪積みの痕跡を有するものである。52・53は口唇部に長い鋸歯状装飾体を有するものである。52には沈線文も施されている。54は刺突文を施した環状突起を有する個体である。55~80は大木6式に相当するものと考えられる土器である。竪穴住居跡出土資料とは異なり、器形全体を復元できる資料は確認できなかった。55~57は口唇部分を肥厚させ、太い沈線文を施している。58・59は同一個体の可能性が高い資料で、口縁部から頸部にかけて半載竹管を用いて、鋸歯状・波状・平行沈線文を施している。60~64も半載竹管を用いた沈線文を施している。鋸歯状・波状・平行・斜行沈線が見られる。65は太い鋸歯状沈線文を縦位に施文している。66・67は半載竹管を用いて、重層的な沈線文を施している。68~70はボタン状貼付が施され、沈線による文様が施されている。71~75は隆帯が巡るものである。71にはボタン状貼付も施される。81~96は地文のみのものである。本包含層の出土遺物の傾向から大木5式~大木6式に相当するものと考えられる。81・82は多軸絡条体、83は非結束羽状縄文が施されている。

**時期不明遺構出土遺物**(97~115・123・157・163~174) 97・98・123は時期の特定できない土坑から出土したものである。3点とも大木6式に相当するもので、97・98は沈線による文様が施されている。99~115は柱穴から出土したものである。概ね大木5式~大木6式に相当する。99は細い粘土紐が貼り付けられており、大木5式に近いものと考えられる。文様は沈線によるものが主体的である。157・163・164は時期の特定できなかった溝跡から出土したものである。157は鋸歯状の太い沈線文

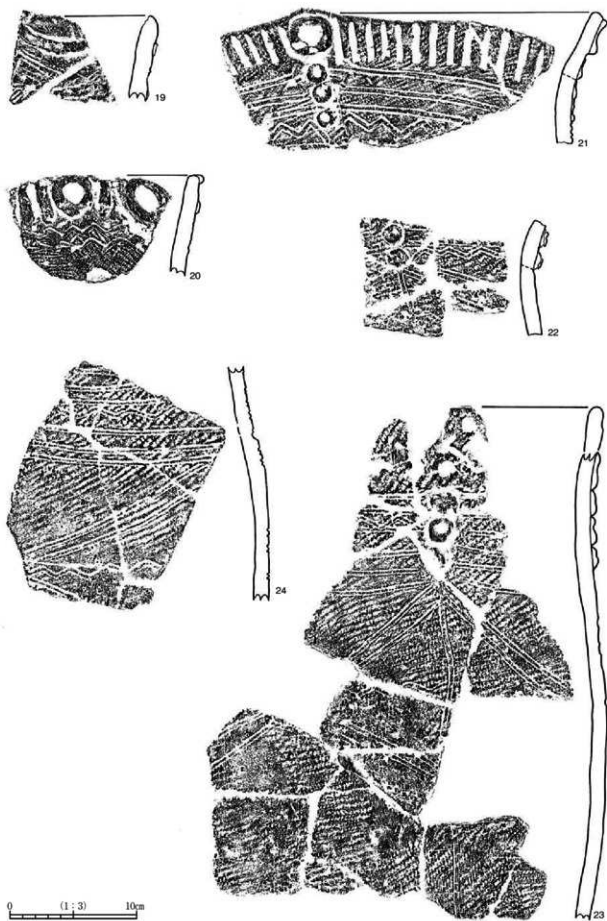




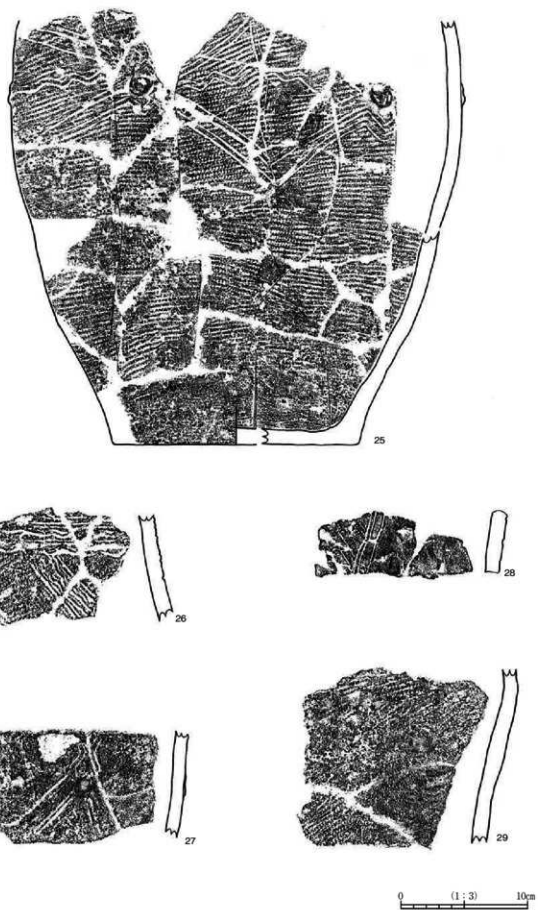
第85図 土器（縄文時代1）



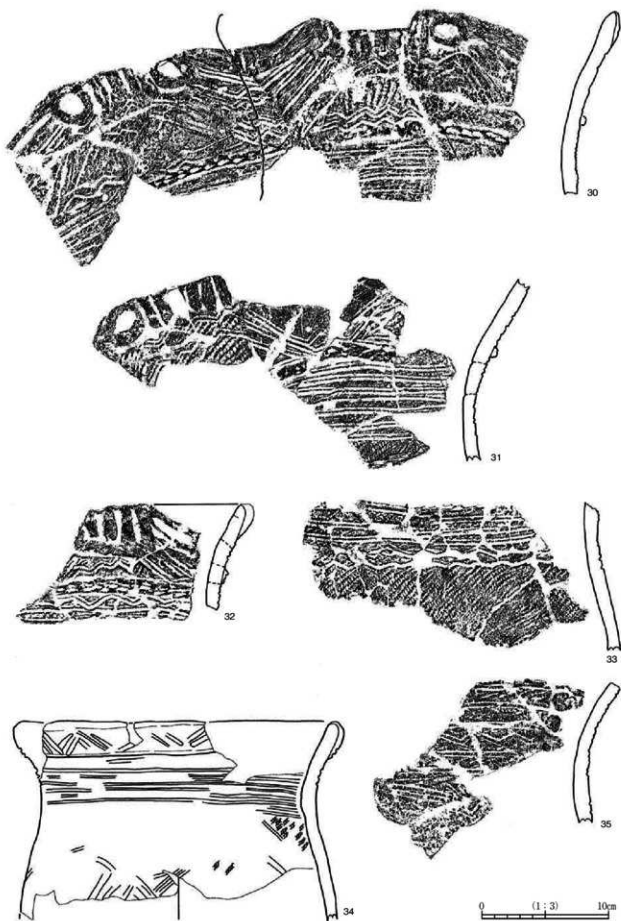
第86圖 土器（縄文時代2）



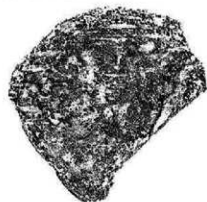
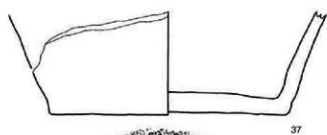
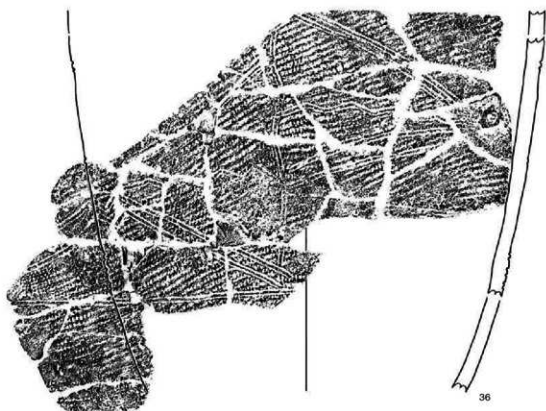
第87図 土器（縄文時代3）



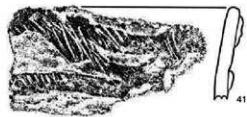
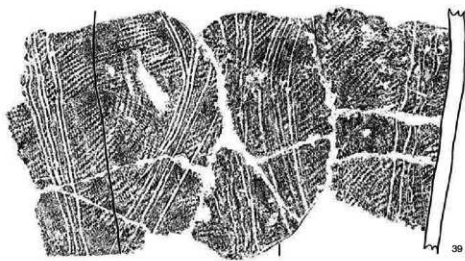
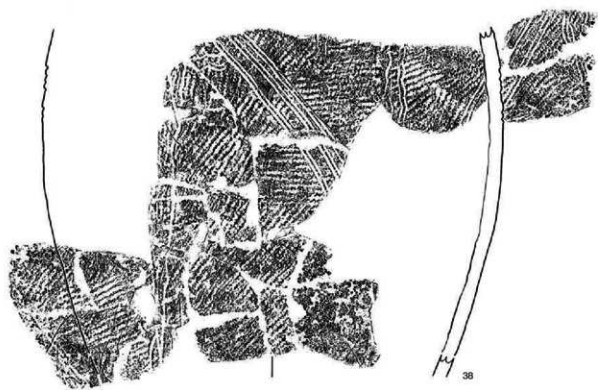
第 88 圖 土器 (縄文時代 4)



第89図 土器（縄文時代5）

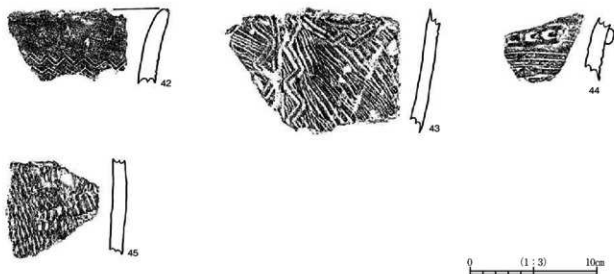


第90圖 土器（縄文時代6）



0 (1:3) 10cm

第91図 土器（縄文時代7）



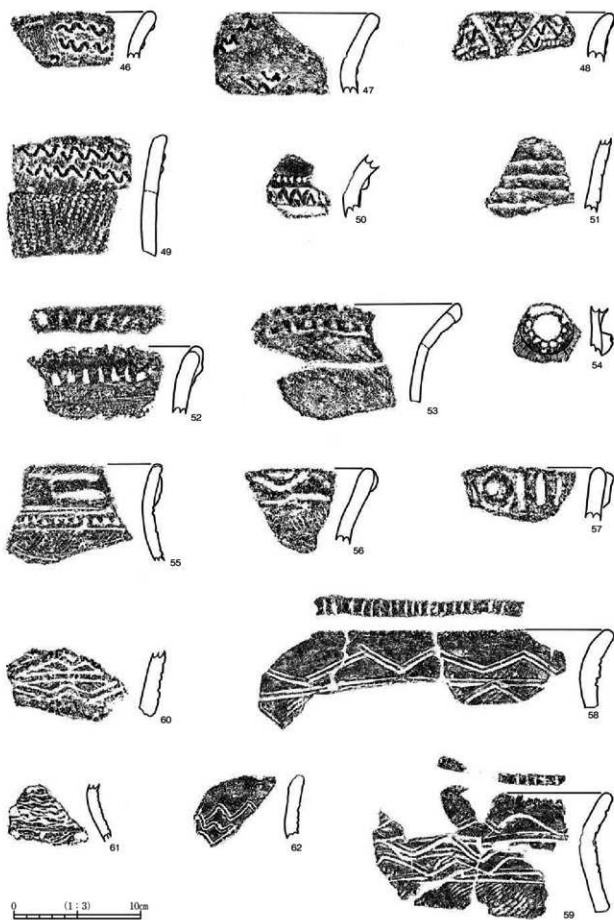
第92図 土器（縄文時代8）

が施されている。164は口縁部の区画に鋸歯状の粘土紐が貼り付けられており、大木4式～大木5式に相当するものと考えられる。165～174は不明遺構から出土したものである。165は鋸歯状の細い粘土紐が貼り付けられており、大木4式～大木5式に相当するものと考えられる。166～170・174は半載竹管による沈線文を主体とする。重層するもの（166・167）、波状を呈するもの（168）、渦巻き状を呈するもの（174）等多様な沈線文が施されている。大木6式に相当するものと考えられる。173は口縁部～頸部に細い粘土紐を用いて、文様を施している。大木5式に相当するものと考えられる。

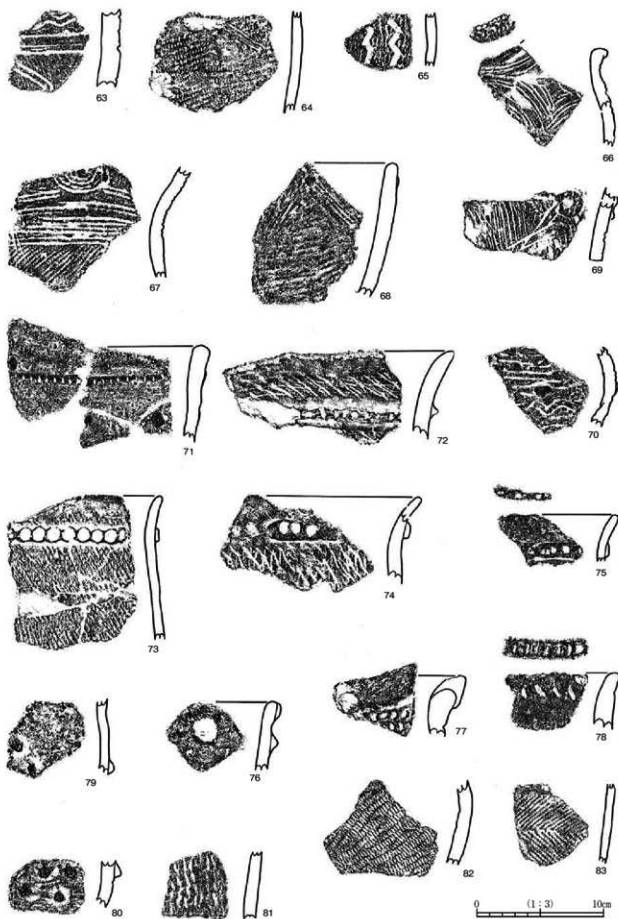
**古代以降の遺構出土遺物**（116～122・124～156・158～162） 116～121は中世の掘立柱建物跡から出土したもので、概ね大木6式に相当する。118と119は同一個体のもので、円筒形を呈する鉢である。地文のみであるため、詳細な型式を判断できなかったが、同時期の資料と考えられる。122・124は中世の土坑から出土したものである。124は半載竹管による鋸歯状の沈線が施されている。大木5b式～大木6式に相当するものである。125～156・158～162は中世の堀跡・溝跡から出土したもので、SD28からの出土量が圧倒的に多い。126～128は鋸歯状の装飾体が口縁部を巡っており、大木5b式に相当するものである。129～132は口唇部が肥厚するものである。沈線による文様を施すものが多い。131・132には円形の押圧がなされている。133～135は太い粘土紐貼付が施されるものである。137～148は沈線による文様が施されている。137・140・143の体部・144の体部等では鋸歯状、145・146・148等は平行もしくは波状の沈線が半載竹管によって施文されている。概ね大木6式に相当するものと考えられる。150は頸部には2条の平行する刺突列、体部には山形の刺突列を施文している。153～156は縄文のみのものである。158は157と同一個体のもので、鋸歯状の太い沈線文が施されている。

**遺構外出土遺物**（175～189） 上記以外から出土したものを一括した。175・176・183・185・188・189は沈線文が施されている。177は口縁部に太い短沈線、竹管による刺突、頸部に重層する波状沈線が施文されている。178は重層する刺突列が施されている。179・182・186・187は地文のみのものである。184は口唇にM字状の鋸歯状装飾体が施されている。以上、これらの遺物は、概ね大木5式から大木6式に相当するものと考えられる。

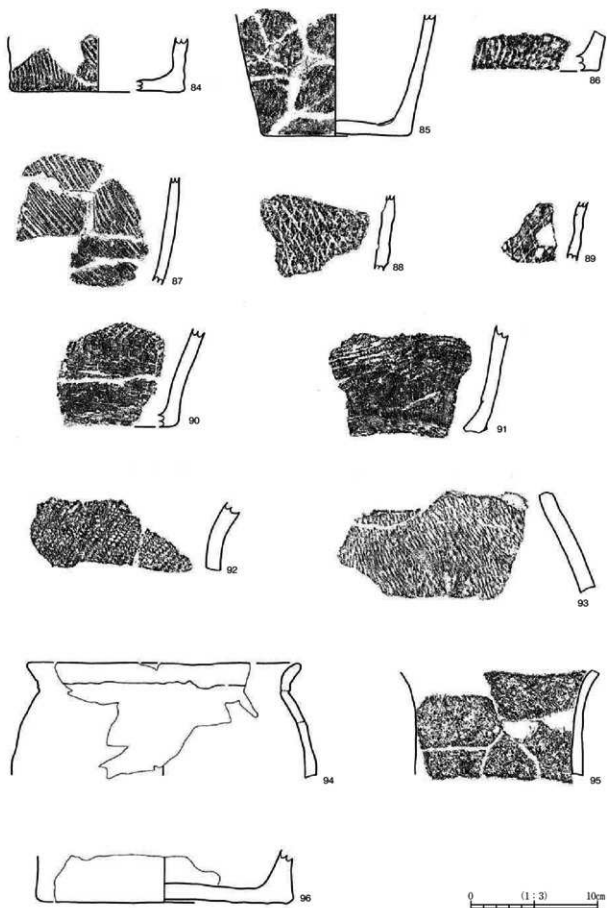




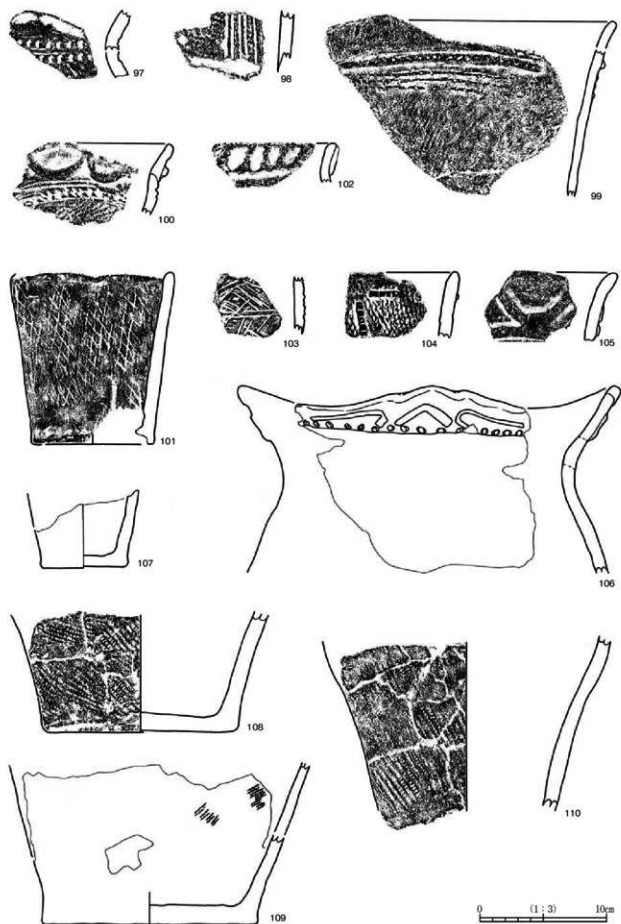
第93図 土器（縄文時代9）



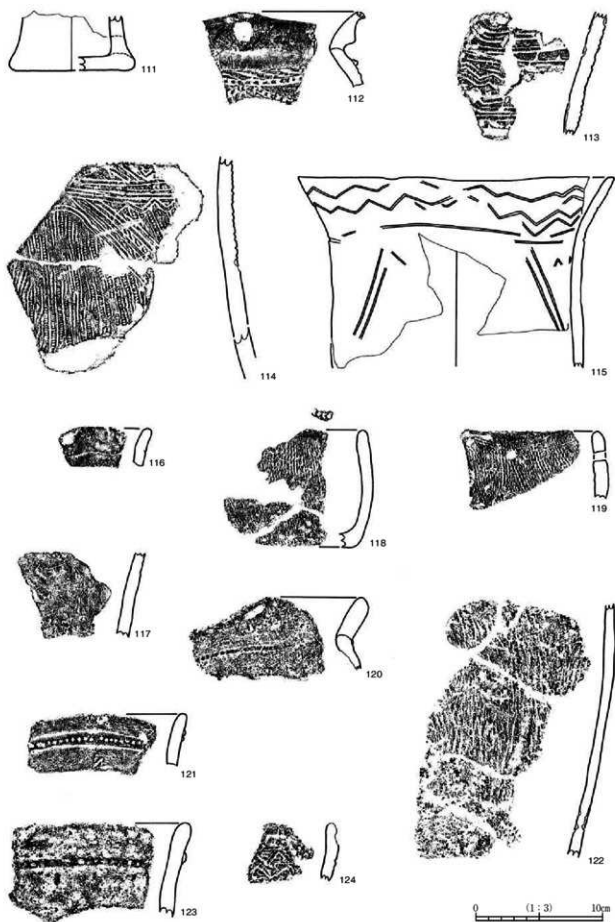
第94圖 土器（繩文時代10）



第95図 土器（縄文時代11）

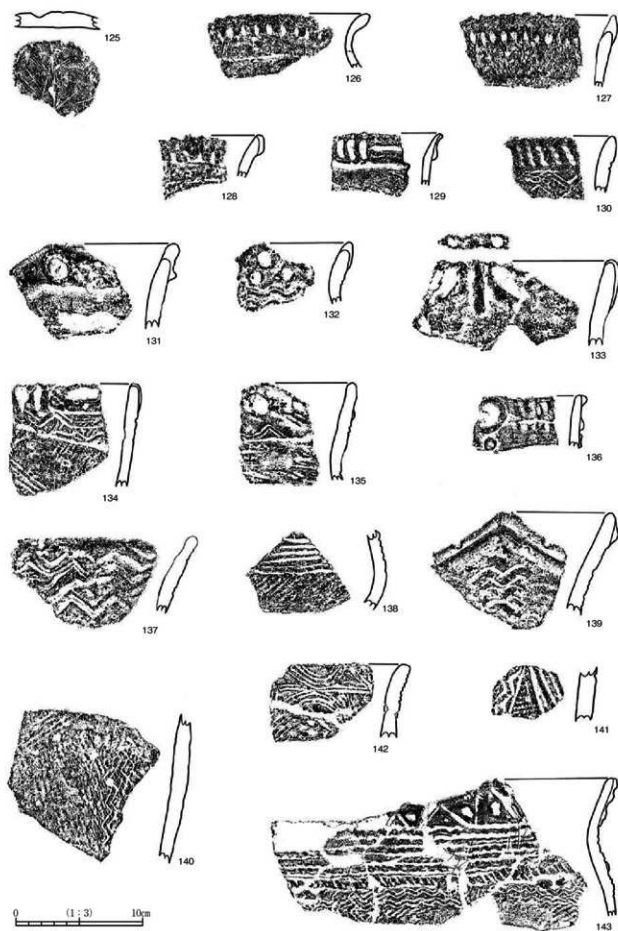


第96図 土器 (縄文時代12)

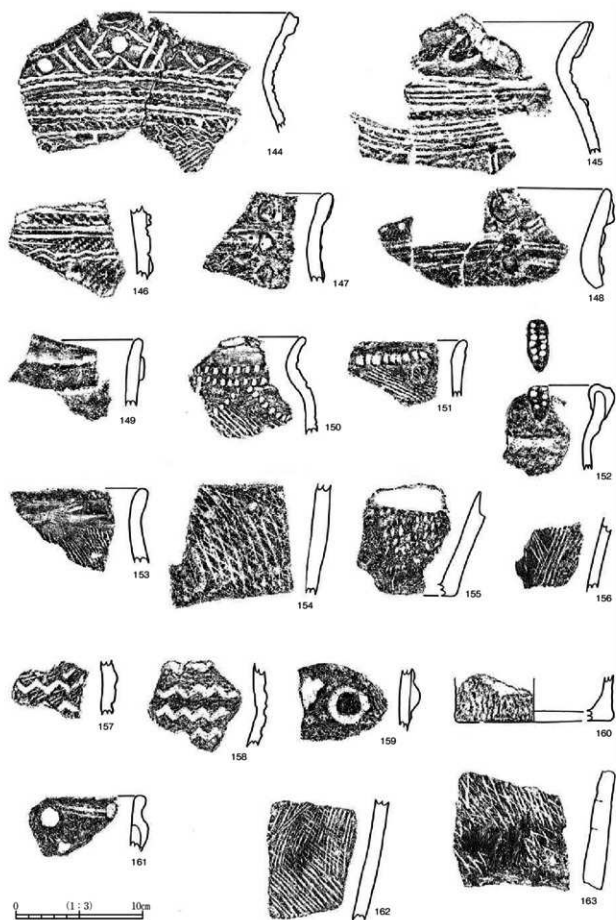


第97図 土器 (縄文時代13)

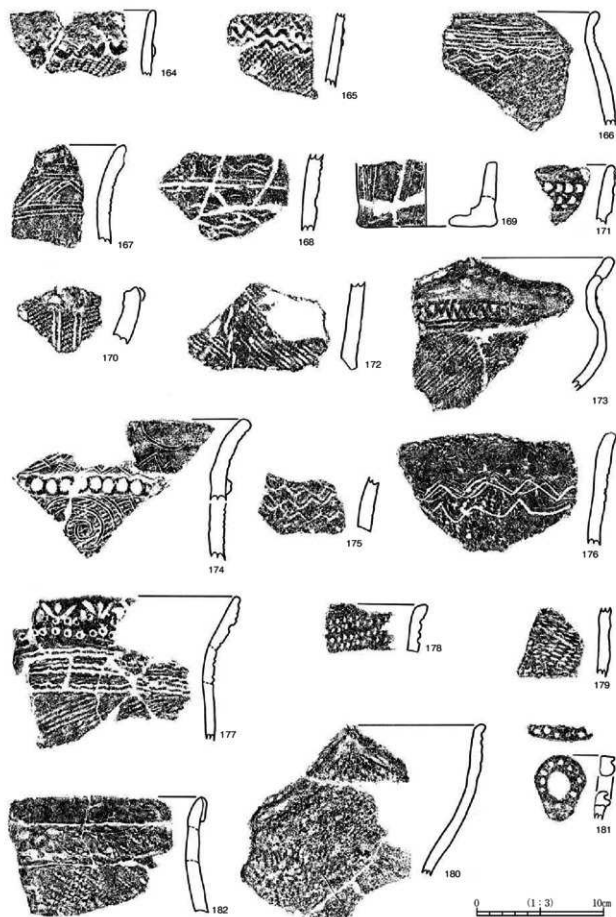
3 出土遺物



第98圖 土器(縄文時代14)

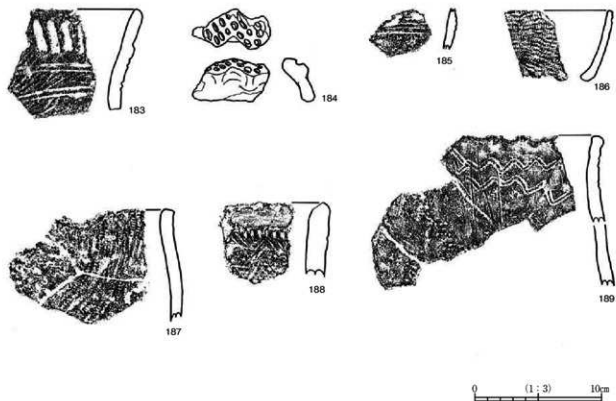


第99図 土器(縄文時代15)

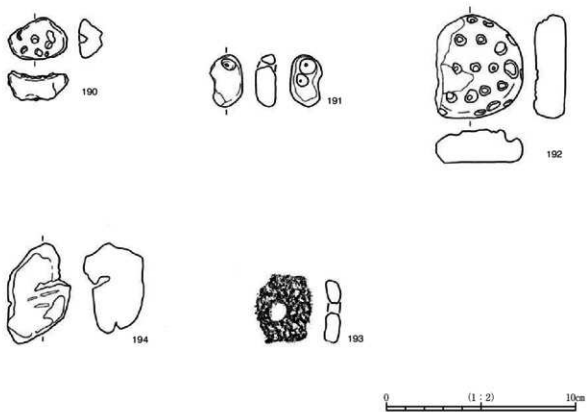


第100圖 土器(縄文時代16)





第101図 土器（縄文時代17）



第102図 土製品・粘土塊

## (2) 土製品・粘土塊 (第102図、写真図版79)

190はSI02から出土した不明土製品である。上面に刺突が施されている。191・192はSD35から出土したものである。191の一端には両面から貫通孔が穿たれている。192は片面に竹管による刺突が施されている。193はSK53から出土した円盤状土製品である。単節縄文が施文されている。194はP182から出土した粘土塊である。190～193は縄文時代、194は時代不明のものである。

## (3) 石器 (縄文時代) (第103～148図、写真図版80～97)

**石鏃** (195～261・537) 195～199はI類の石鏃である。195～198は両面とも入念な二次加工が施されている。199は本類では大形のもので、両面に素材剥片の剥離面を残置している。基部の二次加工が他の部位と比較すると粗雑でやや丸みを帯びている。200・201はII類の石鏃である。2点とも二次加工は縁辺部中心に行われ、両面の中央部に素材剥片の剥離面を残置している。202～225はIII類の石鏃である。欠損しているものも多いため、詳細な分離は難しいが、明らかにIIIb類となるのは214・216・218の3点である。211・212・214・215・217・220・225は両面とも入念な二次加工が施されている。219は両面とも縁辺部のみ二次加工が施されており、広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。その他についても範囲の広さに差があるものの、片面もしくは両面に素材剥片の剥離面が残置している。素材剥片の剥離面を観察すると、横長剥片を素材とする傾向が強い。226～251・537はV類の石鏃である。226・227がa類のもので、器幅に対して器長が長い。226は両面に素材剥片の剥離面が残置するが、細かな二次加工が施されている。一方、227の二次加工は縁辺部が中心で、両面の広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。228～246はb類のものである。素材剥片の剥離面が残置しないものは231・233・238・241のわずか4点である。228や229などの片面には広範囲にわたって素材剥片の剥離面が残置している。本類は多様なものを含んでおり、基部の形状だけでも、228のように基部の挟りが鋭角で、縁辺が直線的であるため、基部全体としてはW字状を呈するもの、229・231のように、脚部間の幅が広く、挟りが鈍角なもの、237のように基部の挟りが非常に深いもの、等がある。また、231や237のように側縁が直線的なものや、240のように変化点を持ち、角ができるもの、241のように挟れ気味になるもの、等があり、更なる細分が可能である。239の両側縁上半に長軸方向の擦痕が観察される。247はc類のものである。両面とも入念な二次加工が施されている。248～250はd類のものである。3点と少ないが、素材剥片の剥離面を残置するものは見られない。器長が長いものが多い。537は凝灰岩製のもの、全面が風化により、剥離面の観察が困難となっている。252～254はVI類の石鏃である。252・254は両面とも入念な二次加工が施されている。253も細かな二次加工が施されているが、両面の中央部には素材剥片の剥離面が残置している。255～258はVII類の石鏃である。前述のものと比較すると小形のものが多い。256には素材剥片の剥離面が残置しているが、相対的に調整は丁寧である。259～261はVIII類の石鏃である。3点とも裏面の広範囲に素材剥片の剥離面を残置している。261は裏面の基部の一部に欠損と考えられる剥離面とその面への二次加工が観察でき、欠損後の再調整が行われたものと推察される。

**尖頭器** (263～265) 263は細身の尖頭器の基部と考えられる。裏面の調整は縁辺部に細部調整を施すのみである。264は両面とも調整が粗雑である。未製品の可能性が考えられる。265は両面とも入念な二次加工が施されている。尖頭部は欠損している。

**スクレイパー類** (267～295) 267・269・271・272・276・277・279・282・284・288～290はI類のものである。267はやや粗い調整で素材剥片の一部を挟り、刃部を作出している。実測図右側縁下部

には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察でき、この部分も刃部として機能していた可能性が高い。269は横長剥片を素材とし、素材剥片の左側縁に刃部を作出している。刃部と接する二側縁の裏面側にも調整が施されている。全体の形状を整える調整と考えられる。271は素材剥片の右側縁上部を大きく括るように調整を施し、刃部を作出している。272は縦長剥片を素材とする。素材剥片左側縁のほぼ全面に調整を施し、刃部を作出している。裏面側には微細な剥離痕が観察される。276・277は横長剥片を素材とする。276は素材剥片端部に細かな調整を施して刃部を作出している。277は素材剥片端部のほぼ全縁に入念な調整を施して刃部を作出している。279は折居産黒曜石製で、小形の剥片を素材とする。素材剥片左側縁下半に連続的な調整を施して刃部を作出している。282は台形状の剥片を素材としたもので、素材剥片左側縁に連続的な調整を施して刃部としている。284は素材剥片右側縁下部にやや粗雑な調整で刃部を作出している。288は縦長基調の剥片を素材とし、素材剥片右側縁に細かな調整を施して刃部を作出している。刃部と相対する縁辺にも微細な剥離痕が観察される。289は素材剥片左側縁に刃部を作出している。刃部には微細な剥離痕も観察される。290は縦長剥片を素材とする。素材剥片右側縁に連続的な調整が施されている。裏面下端には桶状の細長い剥離面が観察でき、その周辺の側縁の稜は摩滅している。268・291～295はⅡ類のもので、全点縦長剥片を素材とする。268は表裏から行うことにより、二側縁のほぼ全体に調整が施されている。292は素材剥片左側縁には粗い調整で、素材剥片右側縁下部には細かな調整で刃部を作出している。二辺とも微細な剥離痕が観察される。293の素材剥片右側縁はほぼ全縁に調整が施されるが、素材剥片左側縁は断続的な調整が施されている。また、バルブの除去も行われている。294は確認できる部分では全縁に規則的な調整を施し、刃部を作出している。295は両側縁全縁に調整を施し、刃部を作出している。270・273・274・280はⅢ類のものである。270は縦長基調の剥片を素材とする。刃部には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。273は縦長基調の剥片を素材とし、バルブ周辺を除去するように調整を施し、素材剥片の打面側に刃部を作出している。典型的な搔器である。274は横長剥片を素材とし、末端の縁辺のほぼ全部に細かな調整を施して、刃部を作出している。281は粗い調整で尖状の刃部を作出している。刃部には微細な剥離痕が観察できる。275・278・281・283・285～287はⅣ類のものである。275は横長剥片を素材とし、素材剥片の右側縁と端部に約2cm幅の規則的な調整で刃部を作出している。278はほぼ全周に調整が施されている。刃部には微細な剥離痕も観察できる。281は寸詰まりの剥片を素材とする。打面以外の縁辺に調整が施され、刃部が作出されている。283は縦長基調の剥片を素材とし、素材剥片端部及び右側縁の一部に刃部を作出している。刃部の裏面側には、使用に伴うと考えられる剥離痕が観察される。285は素材剥片の打面から右側縁の一部及び左側縁を大きく切り取るように調整を施し、刃部を作出している。286・287は縦長基調の剥片を素材とする。286は粗雑であるが、ほぼ全周に調整を施している。287は主に素材剥片の両側縁に調整を施して、刃部を作出している。

**挟入石器** (296・297) 296は素材剥片右側縁下部に数回の調整で刃部を作出している。297は横長剥片を素材とし、素材剥片左側縁裏面側に細かな調整を施して刃部を作出している。

**籠形石器** (298～307) 298～300はⅠ類のものである。298は両面とも入念な調整が施されている。299・300は小形のものである。299の調整は縁辺部に止まり、両面には広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。300は素材剥片の剥離面は確認できないが、調整が粗く、粗雑な印象を受ける。301～305はⅡ類のものである。301は大形のもので、側縁の調整が顕著である。刃部には使用に伴うと考えられる刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。302は裏面の一部に素材剥片の剥離面が残存するが、両面との入念な調整が施されている。左側縁の稜が摩滅している。303は全体的に調整が断

統的である。両面とも広範囲に素材剥片の剥離面が残置しており、未製品の可能性も考えられる。304は大形の横長剥片を素材とする。表面は入念な調整が施されるが、裏面は縁辺部の一部に調整が施されるのに止まる。305は滴状を呈する。刃部には使用に伴うと考えられる刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。306・307は上記以外のものである。306は両面に素材剥片の剥離面が広く残置している。刃部の調整は部分的であるのに対して、基部の調整は入念に行われている。307は中間部に最大幅があるものである。素材剥片の剥離面が広範囲に残置しており、未製品の可能性が考えられる。

**錐形石器** (308~319) 308・309はI類、310・311はII類、312~319はIII類の錐形石器である。308は裏面の一部に素材剥片の剥離面を残置しているが、全体的に入念な調整が施されている。309は不定形の剥片を素材とし、素材剥片左側縁下部に両面からの調整により錐部を作出している。310・311とも、両側面からの入念な調整が施されている。311の上部には摘まみ状のわずかな突起が確認できる。312~317は両面とも縁辺部に調整が集中しており、広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。錐部は両面からの調整により作出している。312の刃部の稜側縁には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。319は全体的に調整が粗く、未製品の可能性がある。

**石匙** (320~339) 320~329はI類の石匙である。320~324は細身のもので、摘まみ部以外の調整が表面のみのものが多い。324は小形のもので、下半部を大きく欠損している。325~327は幅広いもので、両面に素材剥片の剥離面を広く残置している。325は摘まみ部と右側縁に調整が集中し、その他の縁辺には微細な剥離痕が観察される。326は小形のもので、325と同様、摘まみ部と右側縁に調整が集中している。327は横長剥片を素材とし、摘まみ部以外は、素材剥片背面の縁辺のみに調整を施している。非常に粗雑で未製品の可能性が想定される。328は寸詰まりのもので、調整は両面とも縁辺部のみである。329は矩形基調のもので、素材剥片背面の縁辺と摘まみ部周辺の腹面に調整が施される。両面の広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。330~332はIb類の石匙である。330は摘まみ部が右側縁側に斜めに作出されている。調整は両面の縁辺部に施される。331・332は摘まみ部が左側縁側に斜めに作出されている。表面のほぼ全周と裏面の摘まみ部周辺に調整が施される。331の左側縁下部の稜は摩耗している。333~337はII類の石匙である。調整は基本的に縁辺部のみである。334は両面からの調整により摘まみ部の作出は丁寧に行われているが、刃部の調整は素材剥片の極縁辺部に止まっている。礫面も広範囲に残置しており、未製品の可能性が高い。336は全体的に調整が粗く、未製品の可能性が非常に高い。338・339はIIb類の石匙である。2点とも右側面側に摘まみ部が斜めに作出されている。表面の調整は入念に行われているが、裏面の調整は摘まみ部周辺に限られている。

**楔形石器** (340~347) 340~346は小形の楔形石器である。相対する縁辺に特徴的な微細な剥離痕が観察される。347は大形のものである。直交する方向にも相対する剥離面が観察され、打撃方向を転移しながら利用している。

**RF** (266・348~393) 266・348~358・385~387・389~392はI類、359~380・388・393はII類、381~384はIII類のRFである。266は一個縁に連続する細かな調整が施されており、スクレイバーの一部と考えられるが、両端とも欠損している断片的な資料であるため本類に含めた。348は上半を欠損している。素材剥片右側縁に両面からの調整が施されている。349は実測図右側縁に連続する調整が施されている。350は横長剥片を素材とし、素材剥片背面の打面側に連続する調整を施している。また、腹面側はバルブを除去する調整を施している。調整の施されていない相対する縁辺には刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。351は剥片剥離行程初期の縦長剥片を素材とする。素材剥片左側縁腹面側に調整を施している。352は縦長剥片を素材とし、素材剥片右側縁に調整を施している。

353は寸詰まりの横長剥片を素材とし、打面側を切断している。素材剥片端部には細かな調整が断続的に施される。354は縦長剥片を素材とし、素材剥片左側縁に細かな調整を施している。355は実測図表面左側縁に調整が施されている。356は小赤沢産の黒曜石製のRFである。一側縁に連続的な調整が施されている。357は縦長基調の剥片を素材とし、素材剥片左側縁に連続的な調整が施され、上面観が鋸歯状を呈している。右側縁には微細な剥離痕が観察される。358は縦長剥片を素材とする。素材剥片端部に連続する細かな調整が施されている。359は上半部を大きく欠損している。主に背面側に断続的な調整が施されている。360は上半を欠損している。残存する二側縁には連続する調整が施されているのが確認できる。361の尖状を呈する端部には連続する微細な剥離痕が観察され、稜は摩耗している。362は大きく欠損しており、全容は不明である。実測図表面の側縁には急斜度な調整が施されている。363は縦長基調の剥片を素材とする。バルブを除去する調整が施され、両側縁には微細な剥離痕が観察される。364は矩形の剥片を素材とする。素材剥片端部の一部と相対する縁辺にノッチ状の調整が施されている。365は両面の縁辺部に調整が施されている。367は端部を切断し、切断面から素材剥片腹面へ部分的な調整を施している。368は両面の縁辺に調整が施され、尖頭状の端部の作出が行われている。369は横長剥片を素材とする。素材剥片端部背面側と素材剥片左側縁腹面側に調整が施されている。370は素材剥片のバルブを除去する調整が素材剥片腹面側に施されている。371は素材剥片背面の広範囲に自然面を残置しており、剥片剥離工程初期段階の横長剥片を素材とすることがわかる。素材剥片上辺にはバルブ周辺の厚みを減じるやや粗い調整を施し、素材剥片背面下辺には細かな調整を施されている。細部調整が施されている部分には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が顕著に観察される。372は縦長剥片を素材とし、バルブを除去する調整が施されている。素材剥片左側縁の腹面側と右側縁の背面側に連続する調整が施されている。373は横長剥片を素材とし、両面に不規則な調整が施されている。374は矩形基調の剥片を素材とし、素材剥片の二辺に細かな調整を施している。375は縦長剥片を素材とし、バルブを除去する調整を両側縁から施している。376は寸詰まりの剥片を素材とし、両側縁に連続する調整を施している。377は横長剥片を素材とし、素材剥片背面に調整を施している。378は黒曜石製のもので、素材剥片背面に断続的な調整が施されている。379は縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな調整が連続して施されている。380は両側縁に調整が施されるが、素材剥片左側縁は深い調整、右側縁は浅い調整と異なる調整を施している。381の右側縁の一部が微細な調整により尖状となっている。稜の一部が摩滅しており、錐として使用された可能性が考えられる。382は両面のほぼ全周に調整が施されているが、素材剥片上部の調整は、一定の厚さになるように、素材剥片のバルブの高まりを除去する調整である。図裏面下部には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が顕著に観察でき、素材剥片腹面の端部に連続する調整が刃部作出の調整と考えられる。384は縦長基調の剥片を素材とする。素材剥片左側縁に連続する調整が施されている。また、打面側も急斜度な調整が施されている。385は矩形の剥片を素材とし、素材剥片の打面を切断するように調整を施している。実測図上辺には刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。388は横長剥片を素材とする。素材剥片端部及び左側縁に細かな調整が施されている。

**異形石器 (262)** 上部が捩りで欠損しているため、詳細な形状は不明であるが、平面形が二等辺三角形を呈する石鏃の先端部が広がり、上部の一部に摘まみ部状の持ち手を有する石器である。上部の持ち手部分は両面からの二次加工によって形成されている。両面とも入念な二次加工が施されている。

**剥片 (394~436)** 全て黒曜石製の剥片で、産地同定の試料としたものである。礫面が残存する確率が高く、期待を持って接合を試みたが、接合するものは皆無である。掌に取まるサイズのものが多く考えられる。

**碎片** (437・438) 2点とも黒曜石製の碎片で、産地同定の試料としたものである。

**石核** (439・440) 439は掌に取まるサイズの河原石を、440は掌大の河原石を素材とし、作業面に頻繁に転移しながら小形の不定形剥片を剥離している。

**接合資料** (441) 387と388が接合したものである。背面及び打面に礫面が残存しており、剥片剥離行程初期段階の剥片が接合したものと考えられる。打面は同一の礫面で、調整は全く行われていない。

**打製石斧** (442~452) 442~444は片面に素材礫の礫面を残置している。444の基部は裏面も粗い調整を施している。445は短冊形を呈する。両面の中央部には素材礫の礫面が残置している。446は片面に素材礫の礫面をそのまま残置している。礫面側の側縁及び中央部には器長と直交する線条痕が、基部側は斜行する線条痕が観察される。447は刃部作出の調整は剥離調整が主であるため、打製石斧としたが、両側縁の広範囲に敲打による調整痕が、表裏面の中央部に研磨痕が観察できるため、磨製石斧の未製品の可能性が高い。448・449は短冊形を呈するもので、片面に素材礫の礫面を広く残置している。450は縦長剥片素材の石斧である。全体的に調整は粗い。451は撥形を呈する打製石斧である。両面とも粗い調整が施されている。452は短冊形を呈するものである。調整は縁辺部に施され、両面との広範囲に素材礫の礫面が残置している。実測図右側縁中央の稜は潰れている。

**磨製石斧** (453~460) 453は頁岩製の小形の磨製石斧である。454は頁岩製の大型の磨製石斧で基部側を大きく欠損している。455は頁岩製の細身の磨製石斧である。研磨痕が顕著に観察される。刃部には剥離痕が観察される。456は頁岩製の短冊形の磨製石斧である。刃部右側縁側が欠損後のリダクションが行われているが粗い。457は頁岩製の細身の磨製石斧である。非常に脆く刃部周辺しか残存していない。458は頁岩製の細身の磨製石斧である。刃部周辺には研磨痕が顕著に観察される。459は頁岩製の磨製石斧で、刃部を欠損している。剥離調整や敲打調整が残っており、未製品の可能性が考えられる。460は頁岩製の磨製石斧で、非常に厚みがないものである。刃部及び側面に研磨痕が顕著に観察される。

**礫器** (461) ホルンフェルス製の礫器である。片面は礫面を除去している。刃部は両面からの調整が施されている。

**磨石** (462~507) 462~485はI類の磨石である。462~471は片面のみに使用面が観察される。462・463・466~470は楕円形基調、464は円形基調である。470の裏面には黒色の付着物が周縁の約3/4に観察される。471の使用面は表面の中央部の限られた範囲に観察される。472~480は表裏の平坦な広い面に使用面が観察される。472・476~478・480は円形基調、473~475は楕円形基調、479は長楕円形基調である。474の使用面は両面とも部分的である。475の使用面は器長に対して右下がり、幅3~4cmの範囲の帯状に観察される。476の表面は使用面の範囲を覆うように黒色の付着物が観察される。また、裏面の使用面は部分的である。481は表裏面及び右側面の一部に使用面が観察される。円形基調である。482は不定形の河原石を利用したもので、表面及び平坦な2面の計3面に使用面が観察される。483は楕円形基調で、表面及び裏面の右側縁側上部の一部に使用面が観察される。484は楕円形基調で、表面、下面、側面から裏面の一部に使用面が観察される。485は楕円形基調で、表面及び下面に使用面が観察される。486~488はII類の磨石である。486は楕円形基調で、表面・左側面・上面に使用面、下面に敲打に伴う剥離痕が観察される。487は三角形基調のもので、上面に使用面、下面に敲打に伴う剥離痕が観察される。488はブロック状の河原石を利用したもので、表裏2面に使用面、右側面下部に敲打に伴う剥離痕が観察される。489~493はIII類の磨石である。489は円形基調で、表面の一部に使用面、表裏面の中央部に凹部が観察される。表面の凹部は回転運動によるもので、磨面より新しい。490は楕円形基調で、表面に使用面と凹部が観察される。凹部が

新しい。491・492は不定形の河原石を利用したもので、491は表裏2面に使用面と凹部が観察される。両面とも磨面が新しい。492は側面の4箇所を使用面、表面に凹部が観察される。側面の使用面は部分的である。493は卵形の河原石を利用したもので、片面に使用面、相対する面に凹部が観察される。494～507はIV期の磨石である。494は一側面に細い使用面とともに使用に伴うと考えられる剥離痕が観察される。また、裏面の一部に敲打痕も観察される。495は一側面と接する広い2面に使用面が観察される。496は一側面に本遺跡では中間的な幅(1.5～2cm)の使用面が観察される。497は一側面に使用面が観察され、それ以外の縁辺は剥離による調整が施されている。使用面に接する両面の一部にも磨面が観察できる。498は断面形が三角形を呈する河原石を利用し、3面ある細い平坦面のうち、2面を使用面にしてある。それぞれの使用面で剥離痕も観察される。499は一側面と表裏2面に使用面、表面に凹部が観察される。側面の使用面は中央部のみである。500は一側面と接する2面に使用面が観察される。表面には磨面より新しい凹部が観察される。501は一側面と表面に使用面が観察される。502～504は2.5cm以上の幅広な使用面が観察されるものである。503は側面の使用面が2箇所認められる。また、接する広い2面にも使用面が観察される。505はスタンプ形を呈するもので、一側面と下面に使用面が観察される。506は大部分を欠損しているため、側面の使用面を確認できなかったが、形状や調整痕と考えられる剥離痕が観察できることから本類に含めた。507は側面への剥離調整が観察され、その細い平坦面が使用面となっている。また、相対する面にも帯状の磨面が観察できる。上端にも剥離痕が観察でき、その後は潰れており、ハンマーとしての使用も想定される。

**凹石** (508～510) 3点とも掌に収まるサイズの楕円形の河原石を利用したもので、508・510は片面の中央部に、509は両面に凹部が観察される。509の凹部は両面とも回転運動によるものである。

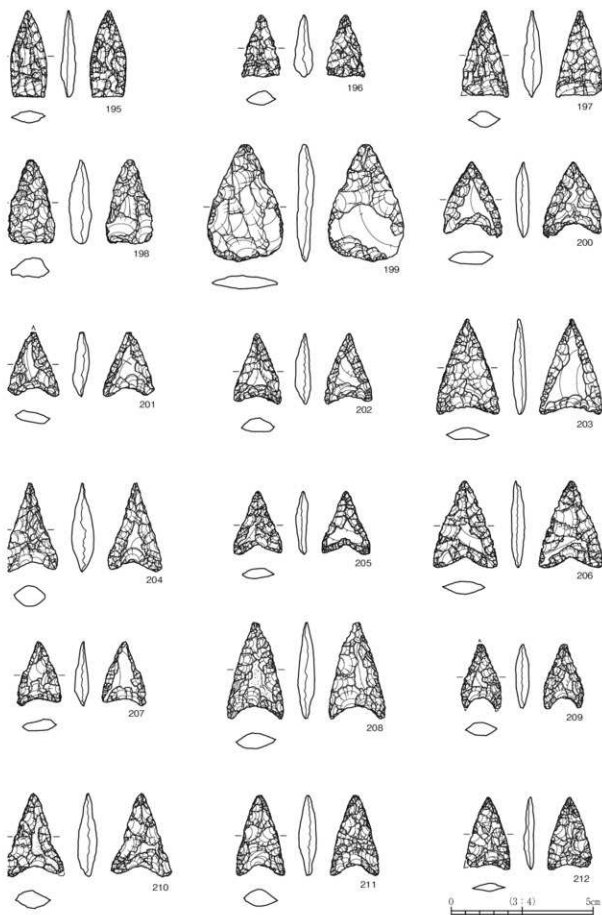
**敲打石** (511～516) 511は楕円形の河原石を利用したもので、一端に敲打痕と剥離痕が観察される。512～514・516は棒状の河原石を利用したもので、一端に敲打痕とともに剥離痕が観察される。517は断面形が四角形を呈する河原石を利用したもので、両端に剥離痕が観察される。

**石皿** (517～529) 517は扁平な礫を利用したもので、使用面は表裏面である。縁い縁が確認できる。518は楕円形の礫を利用したもので、一面に使用面が観察される。使用面はくぼんでおり、有縁状になっている。縁部分にも使用面が観察される。裏面には凹部が認められる。519・520・526は扁平な礫を利用したもので、519・526は片面、520は両面に使用面が観察される。521は大形の楕円形の礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。522は大形の不定形の礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。523はブロック状の礫を利用したもので、広い片面と幅の狭い側面の一部に使用面が観察される。524はブロック状の礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。一端には剥離痕が観察される。525は大形の扁平な礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。527・528は厚手の礫を利用したもので、表裏2面に使用面が観察される。529は扁平な礫を利用したもので、表裏2面のほぼ全面を使用面としている。実測図右側面には切筋と考えられる剥離面が認められ、その剥離面を切る器長方向の線条痕も観察される。

**台石** (530) 扁平な礫を利用したデイスイト製の台石である。使用面は2面である。

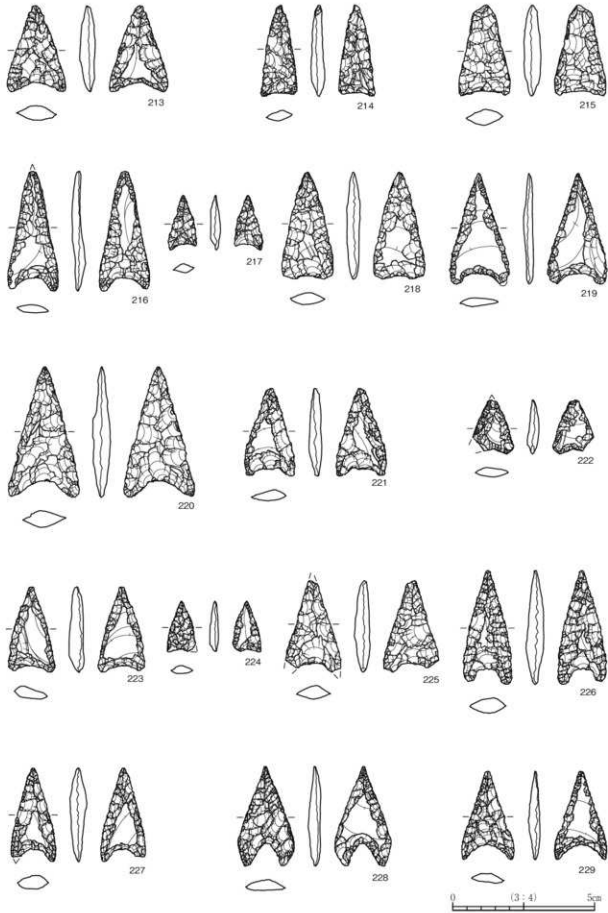
**砥石** (531～534) 531は平坦な礫を利用したホルンフェルス製の砥石である。使用面は片面である。532は扁平な小形の礫を利用した砂岩製の砥石である。両面とも使用による平滑な面とともに、溝状の使用痕が観察される。533は大形の円形基調の礫を利用した安山岩製の砥石である。片面の2箇所平滑な面が形成されている。534はブロック状の礫を利用したデイスイト製の砥石である。表面と右側面に平滑な面が観察される。

**石錘** (535・536) 535・536は楕円形の礫を利用した安山岩製の石錘で、素材礫の短軸の両端を打ち

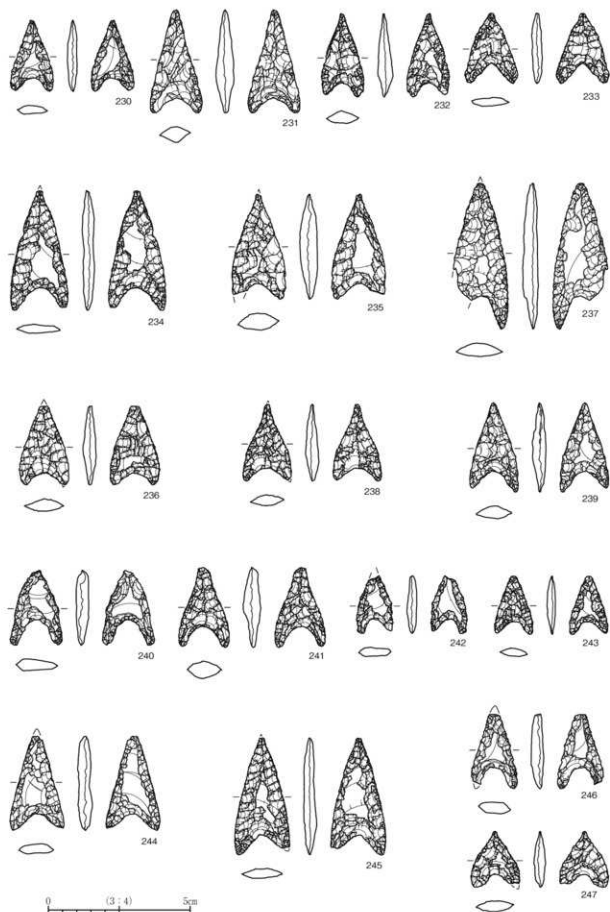


第 103 圖 石器 (縄文時代 1)

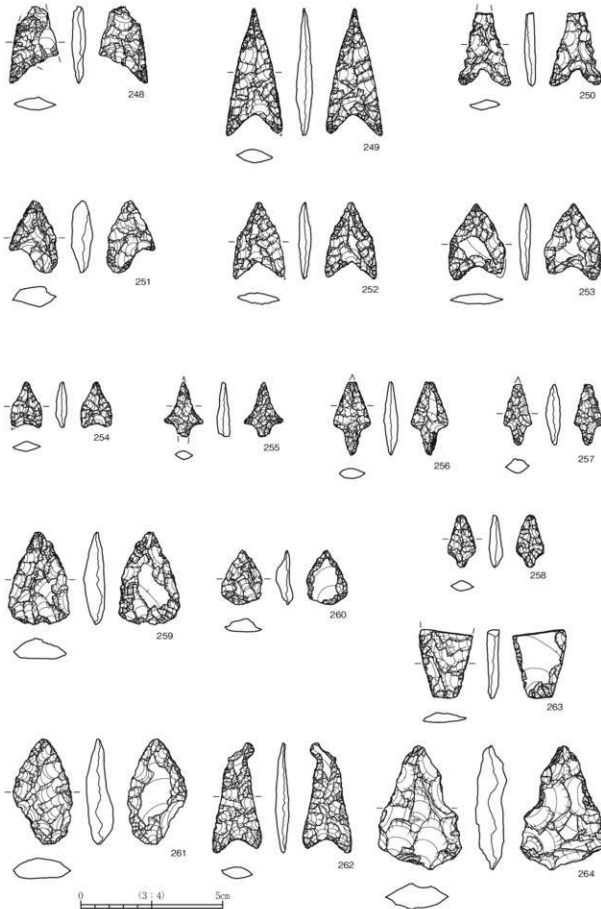




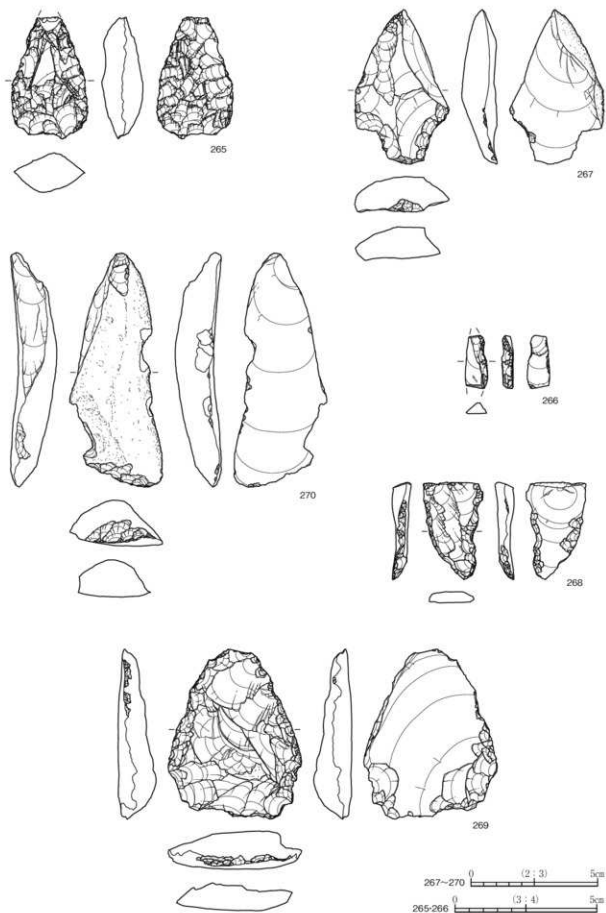
第104図 石器 (縄文時代2)



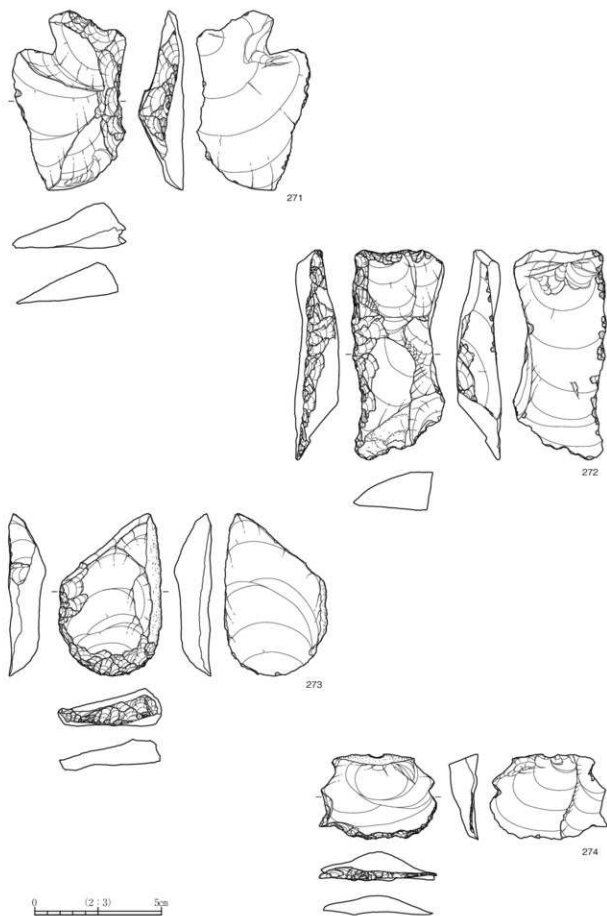
第105圖 石器(縄文時代3)



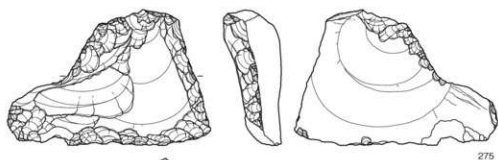
第106図 石器（縄文時代4）



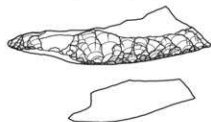
第 107 圖 石器 (縄文時代 5)



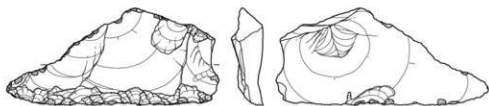
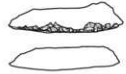
第108図 石器（縄文時代6）



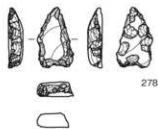
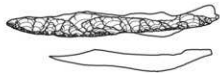
275



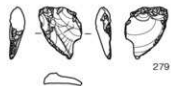
276



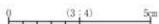
277



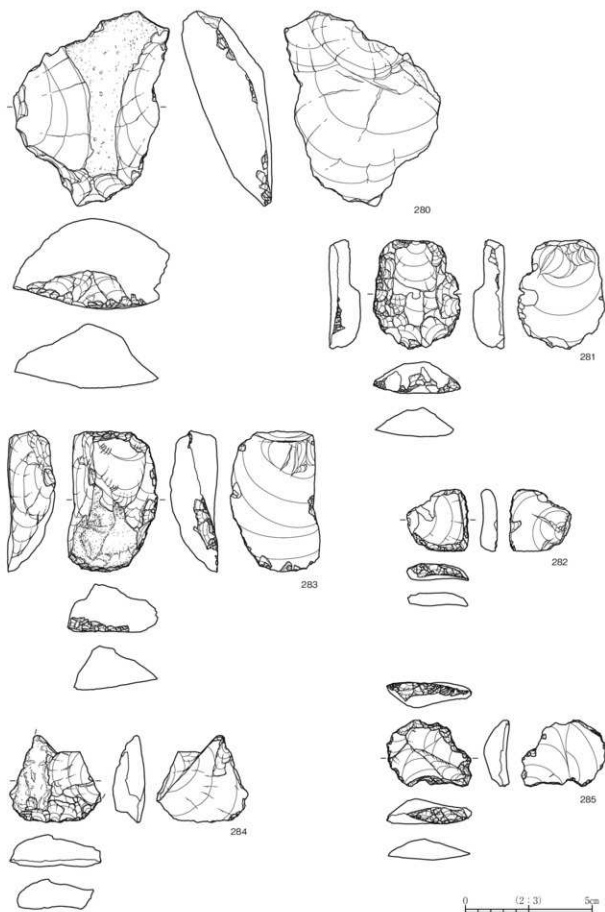
278



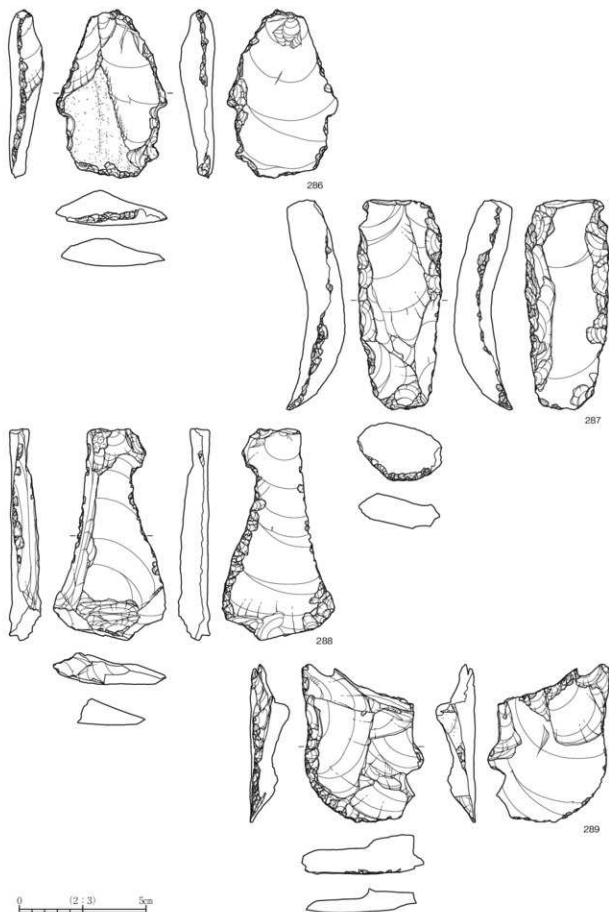
279



第109圖 石器(縄文時代7)

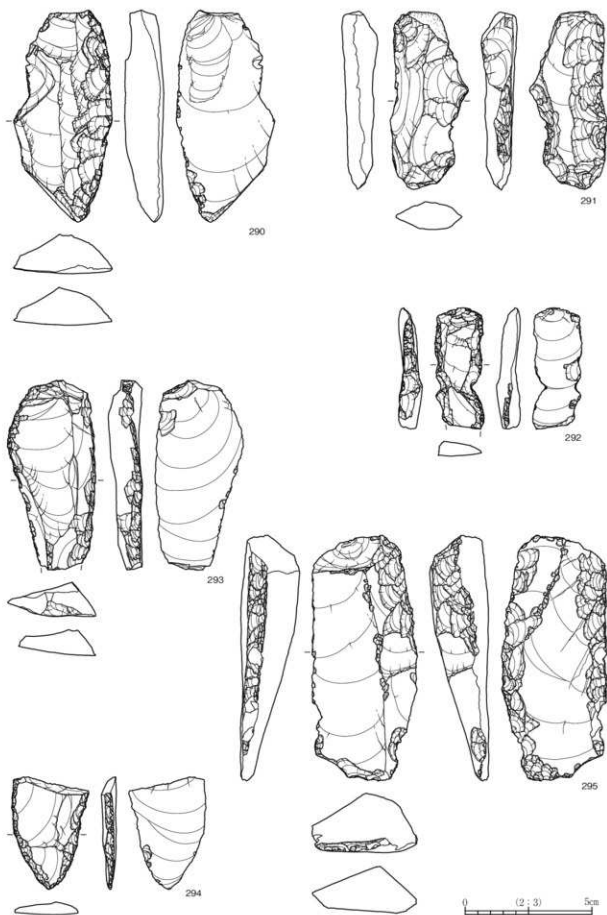


第110図 石器（縄文時代8）

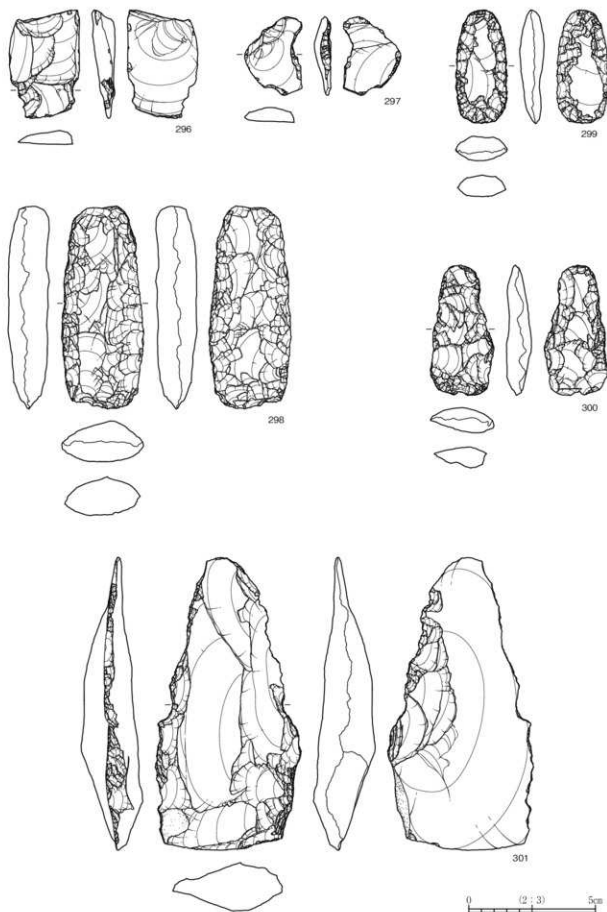


第111圖 石器（縄文時代9）

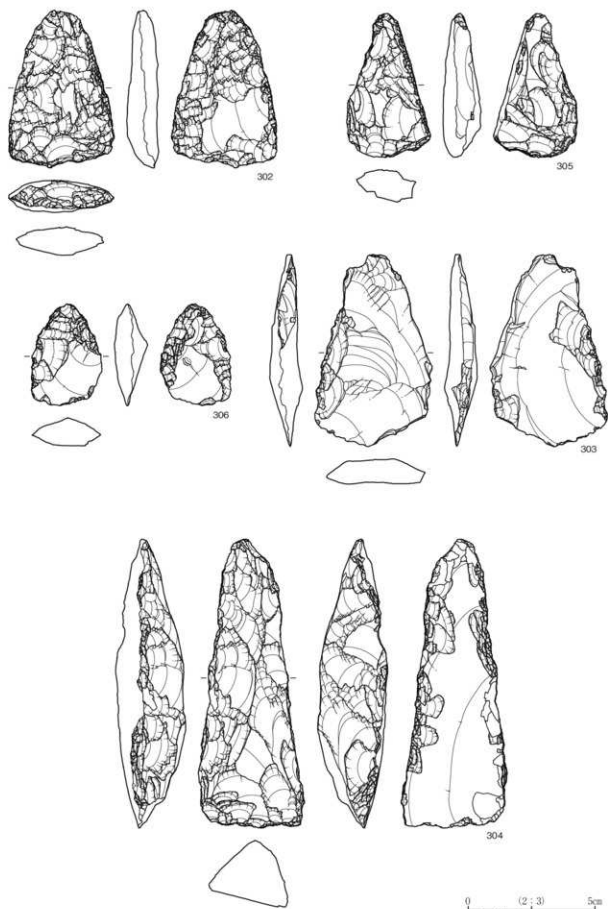




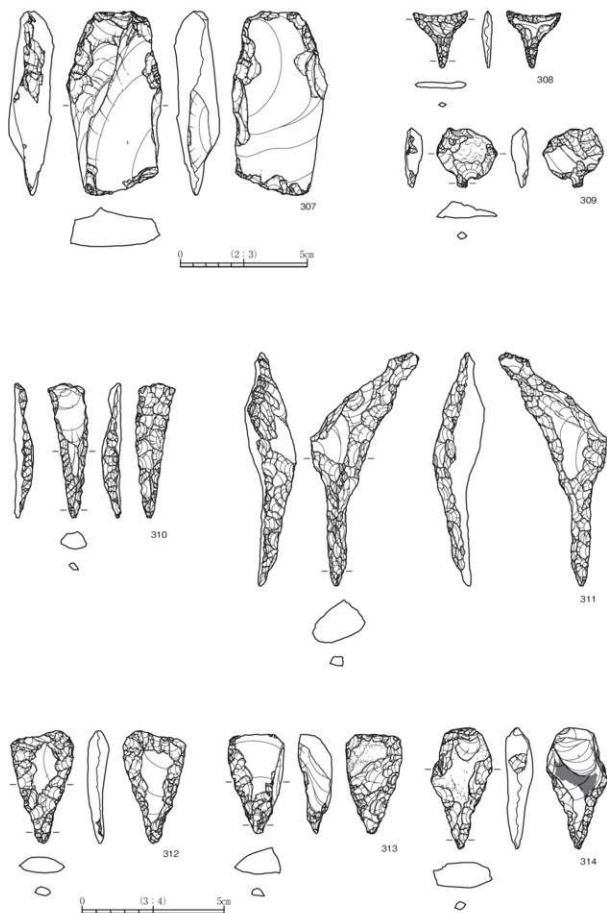
第112図 石器（縄文時代10）



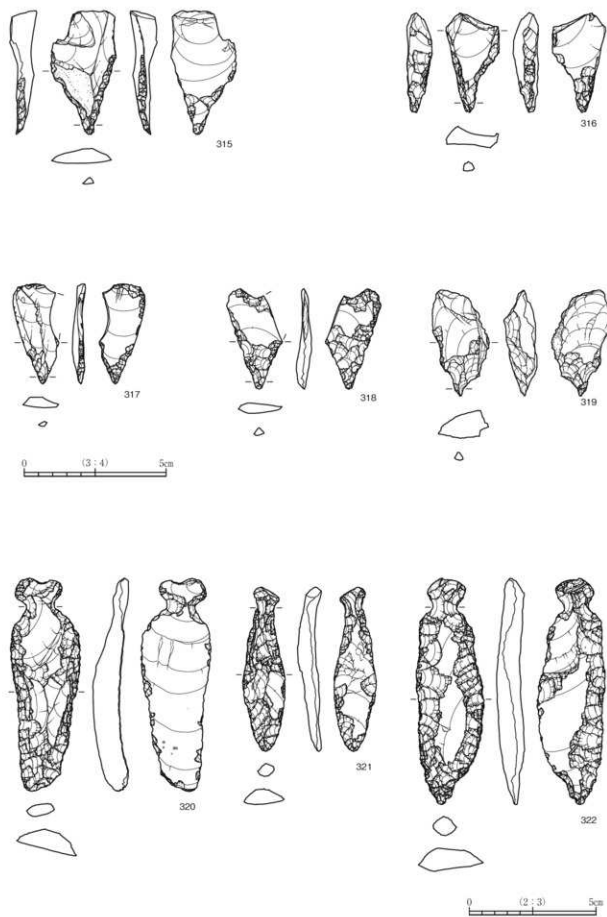
第113圖 石器（縄文時代11）



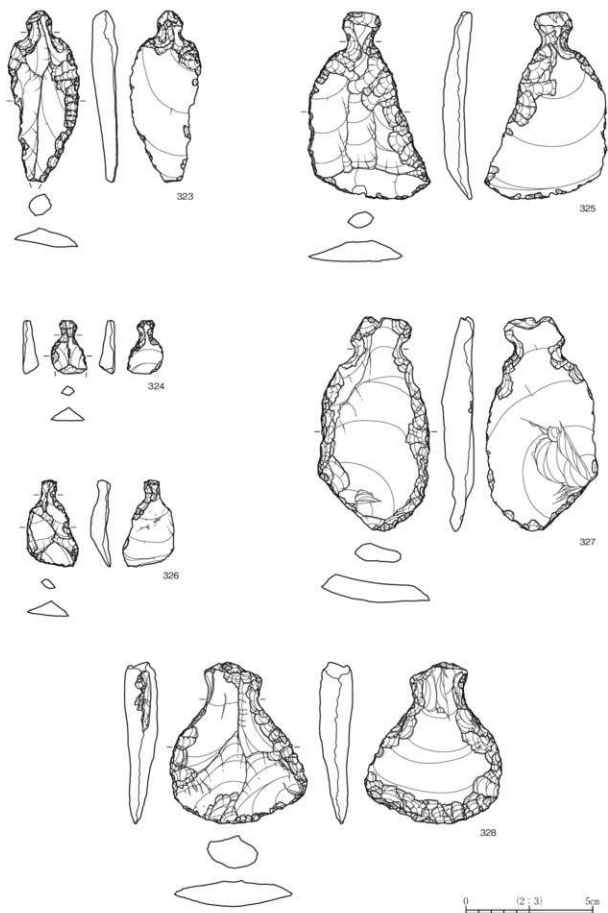
第114図 石器（縄文時代12）



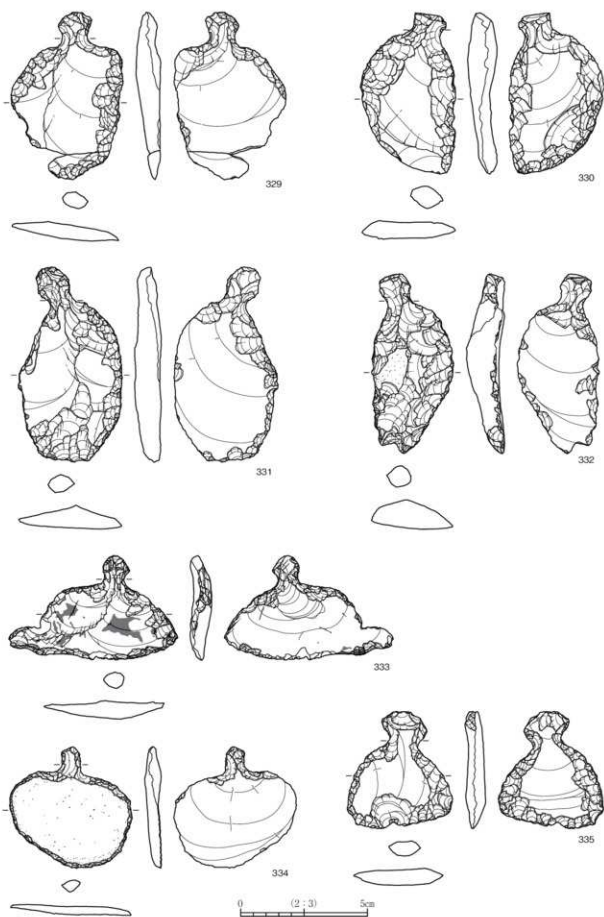
第115圖 石器（繩文時代13）



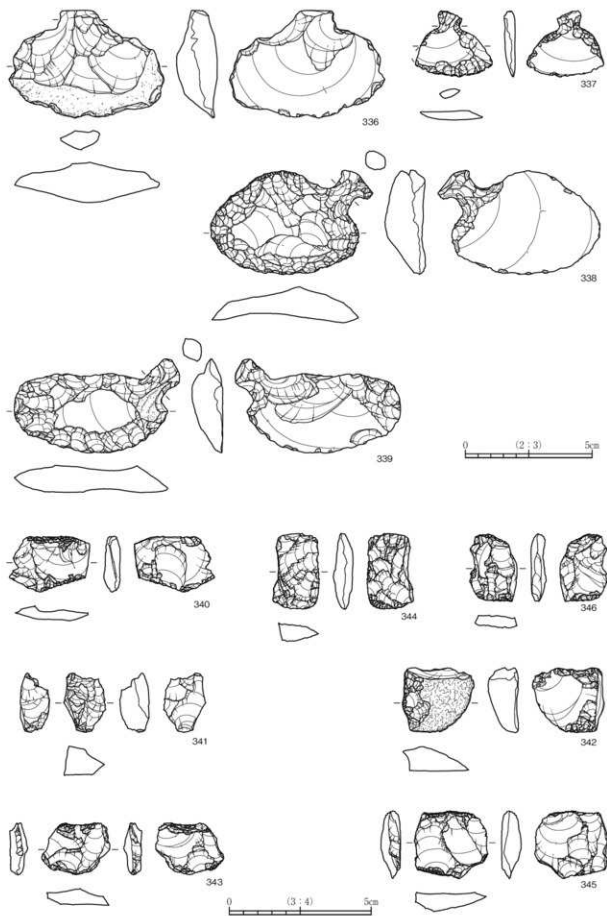
第116図 石器（縄文時代14）



第117圖 石器（繩文時代15）

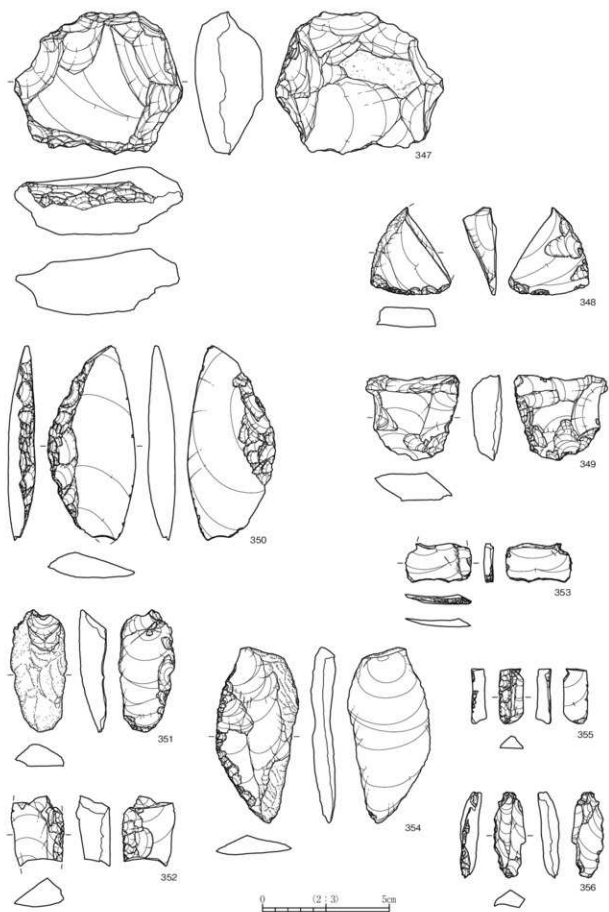


第118図 石器（縄文時代16）

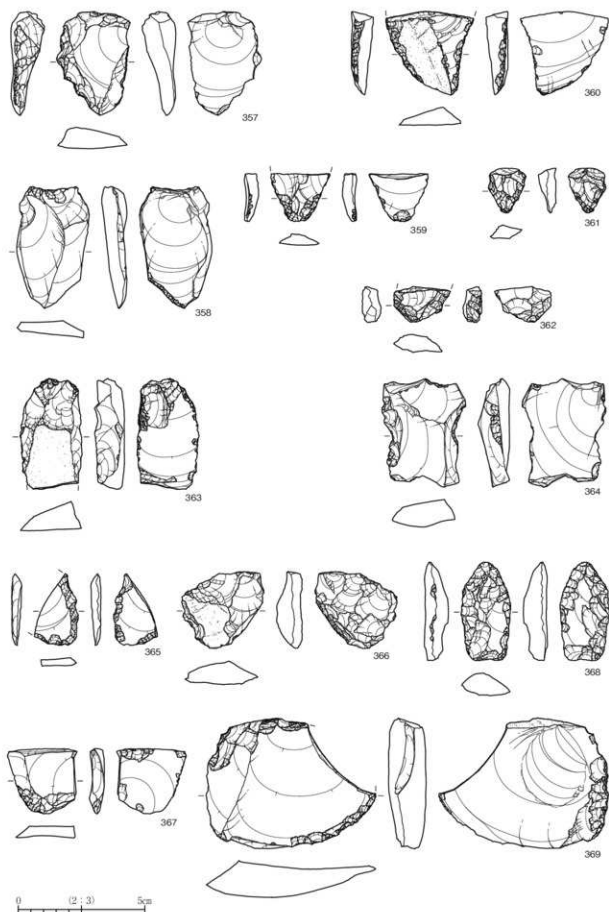


第119圖 石器（縄文時代17）

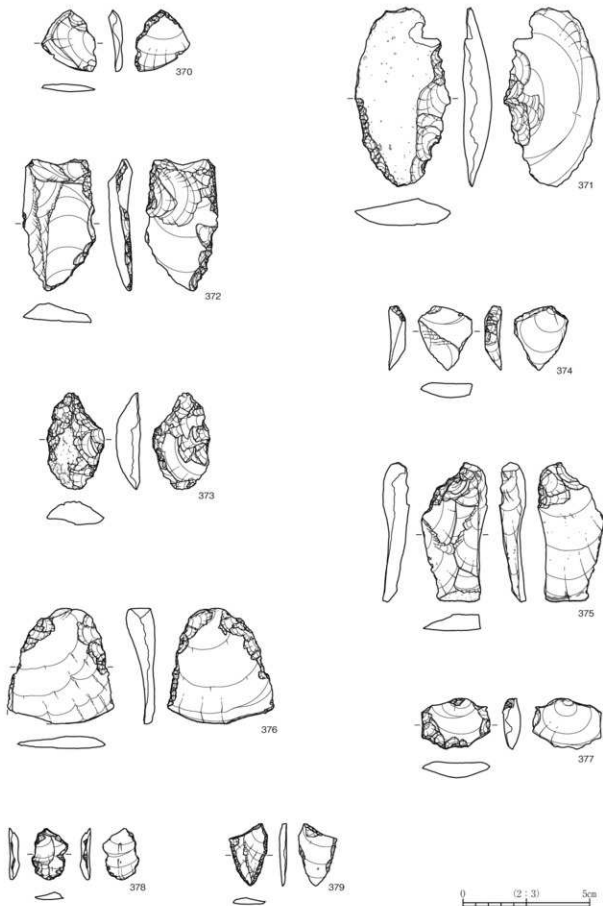




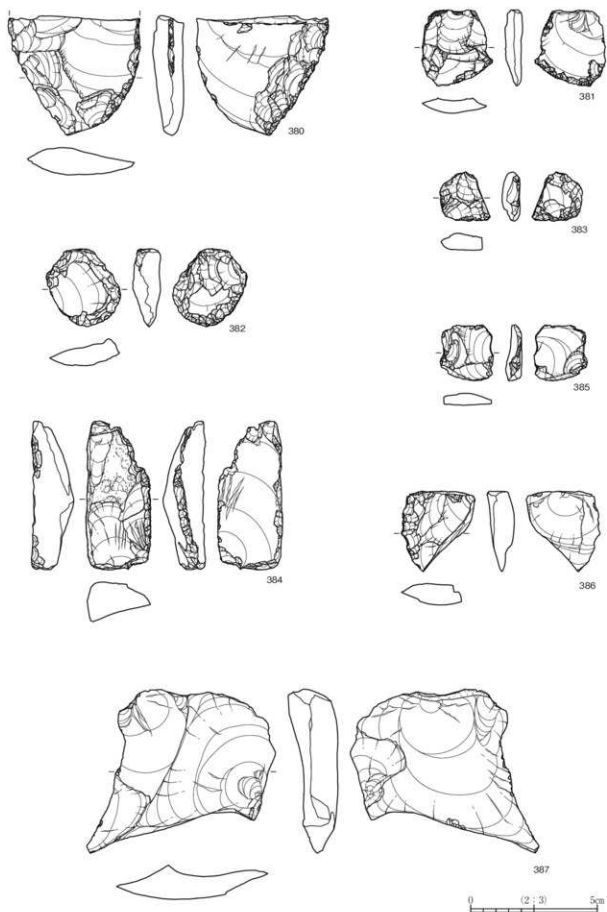
第120図 石器（縄文時代18）



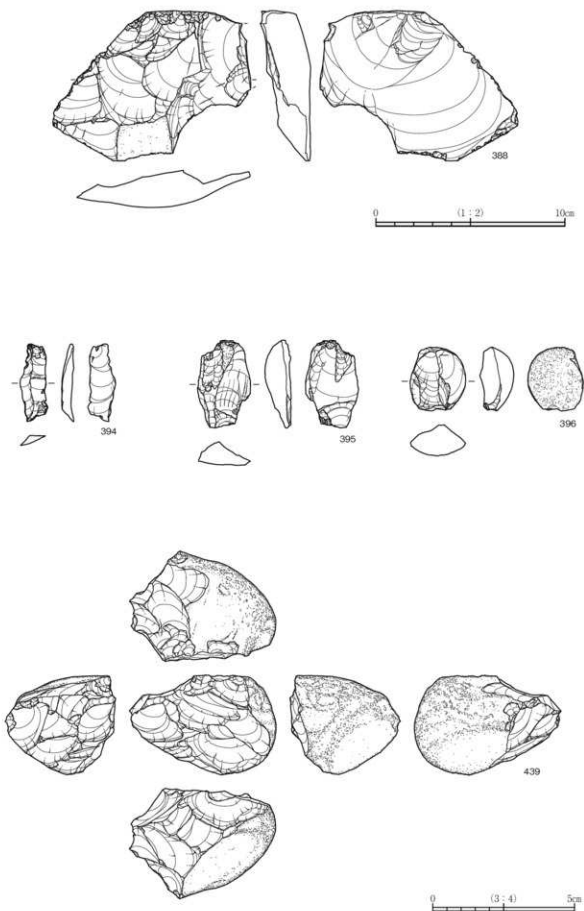
第121圖 石器（繩文時代19）



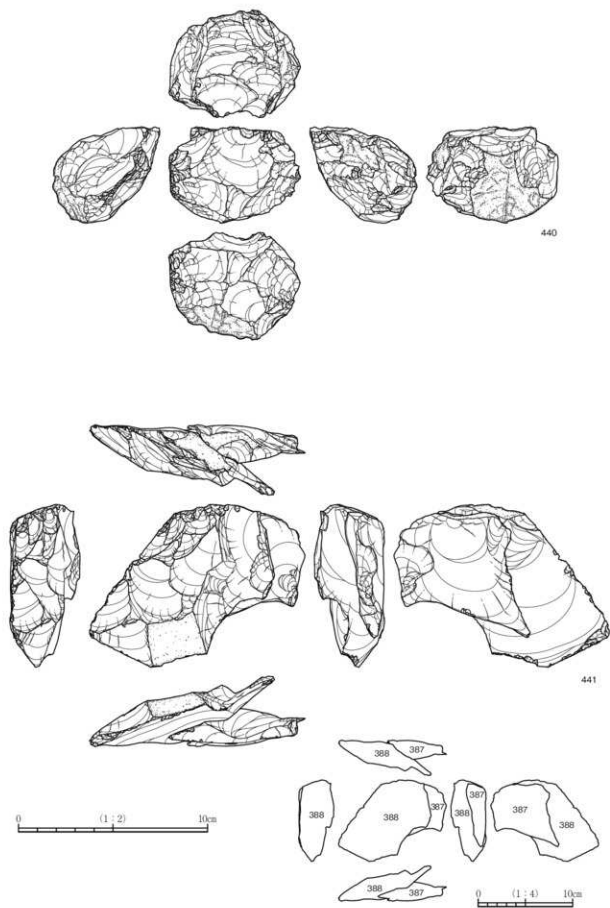
第122図 石器（縄文時代20）



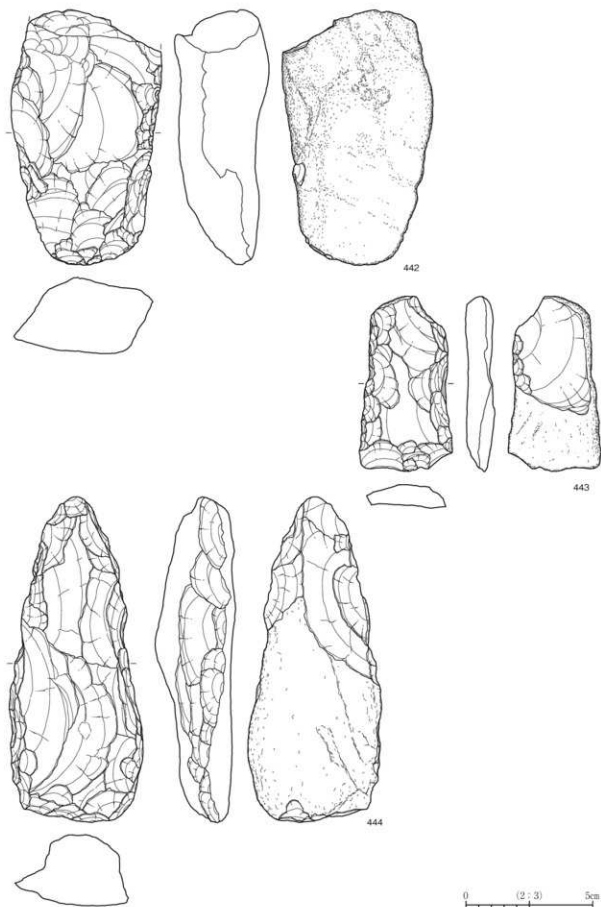
第123圖 石器（縄文時代21）



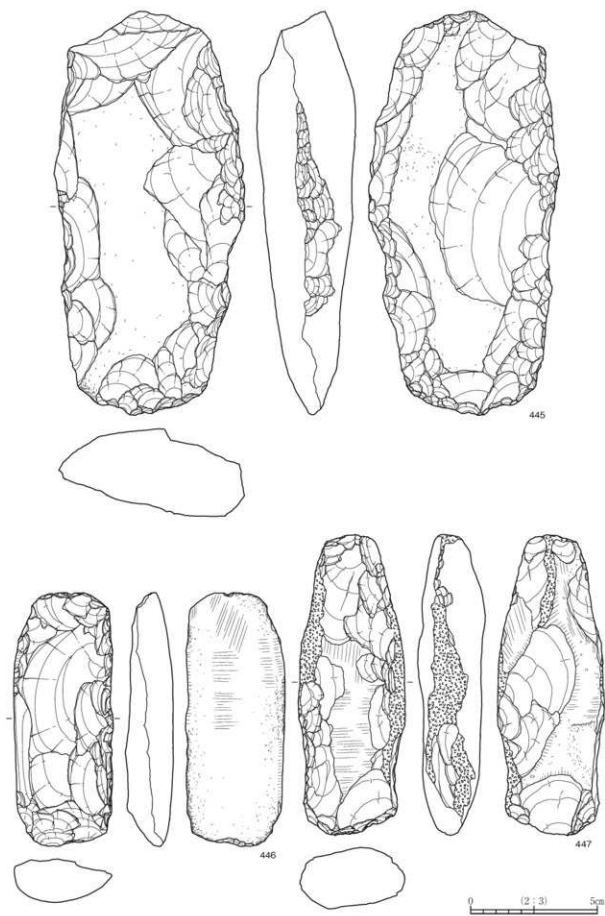
第124図 石器（縄文時代22）



第125圖 石器（縄文時代23）

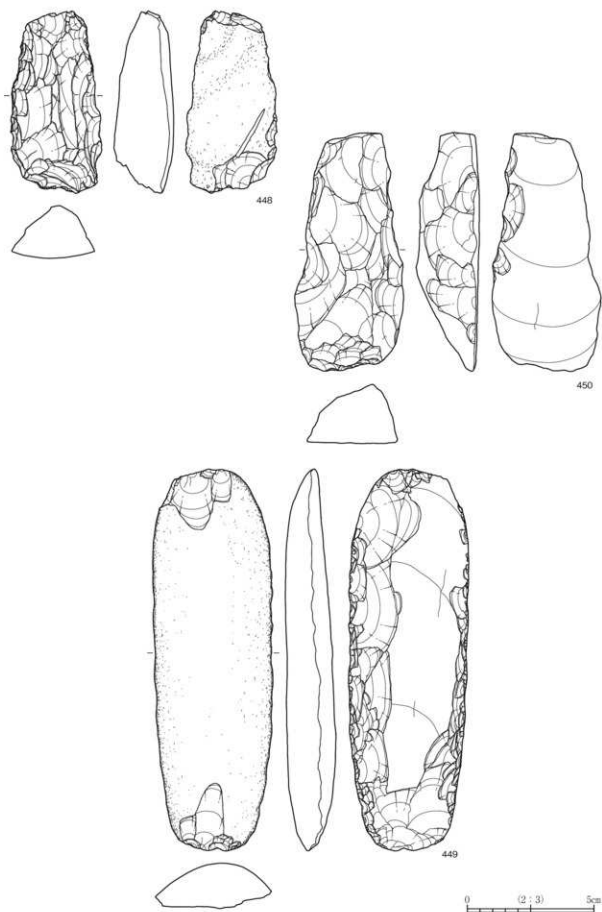


第126図 石器（縄文時代24）

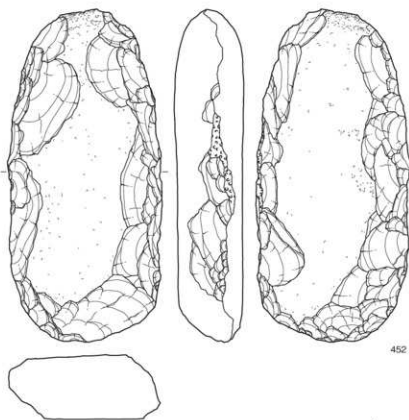
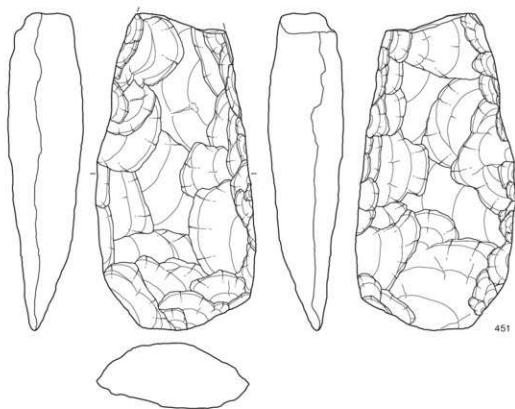


第127圖 石器（縄文時代25）



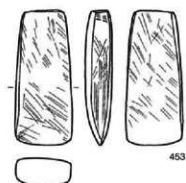


第128図 石器（縄文時代26）

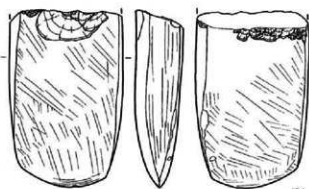


0 (2; 3) 5cm

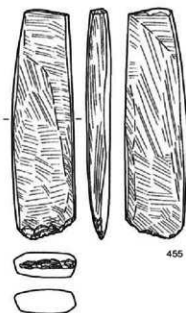
第129圖 石器（縄文時代27）



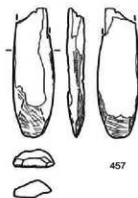
453



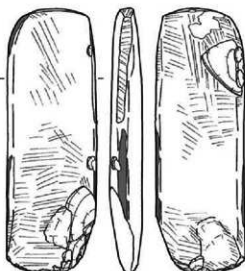
454



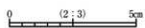
455



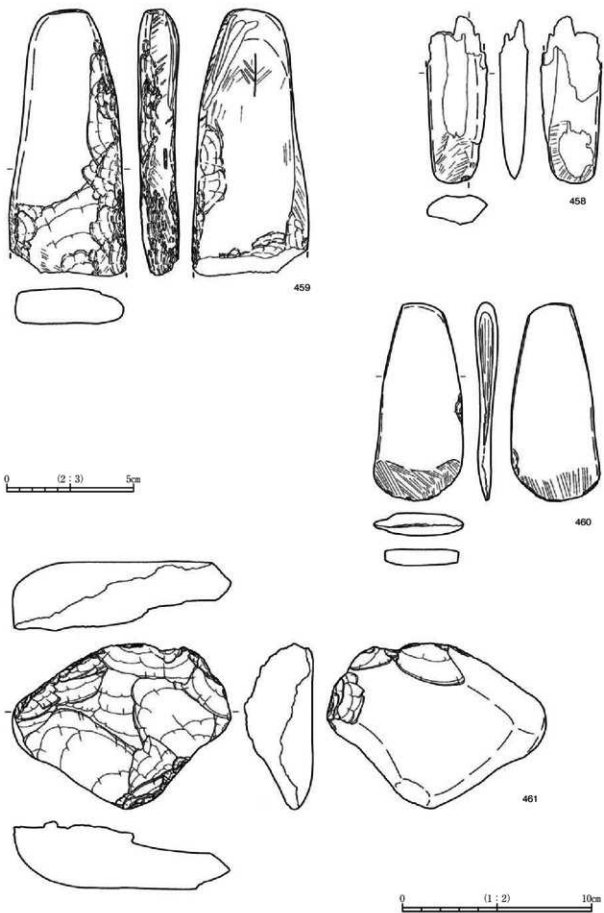
457



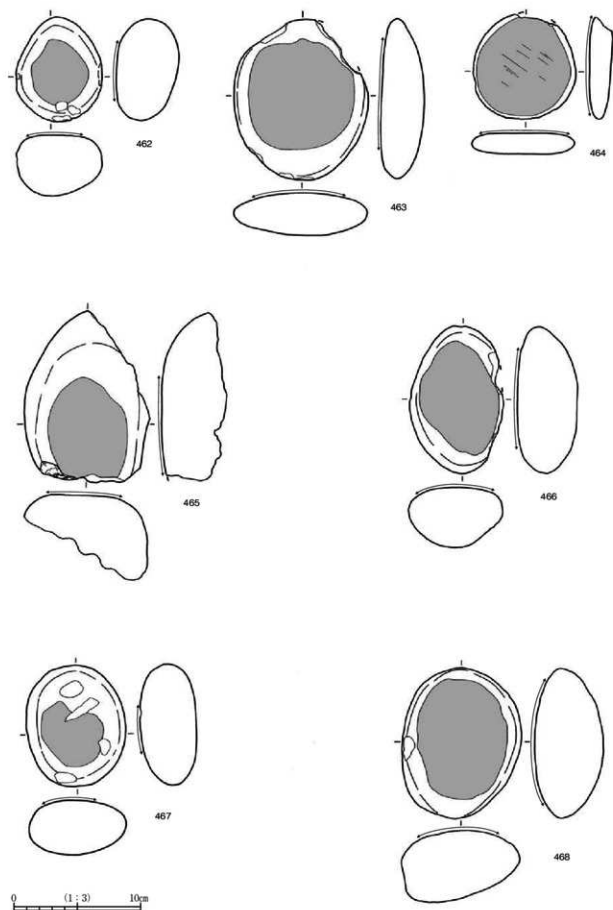
456



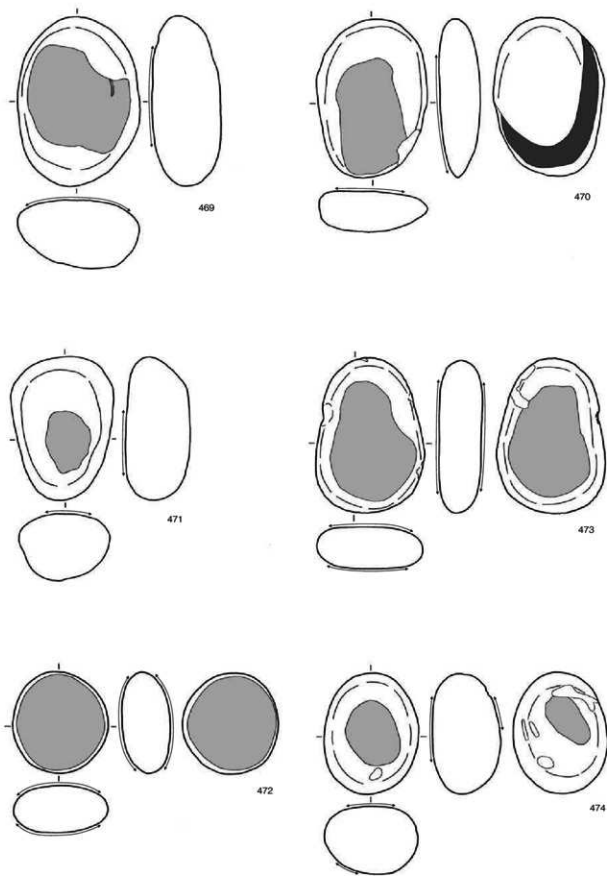
第130図 石器(縄文時代2B)



第131圖 石器(縄文時代29)

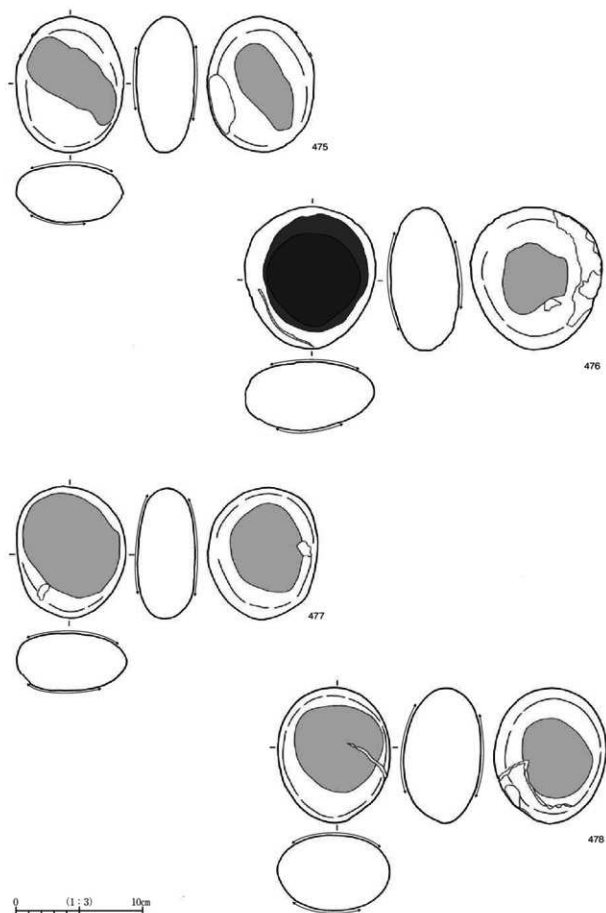


第132図 石器（縄文時代30）

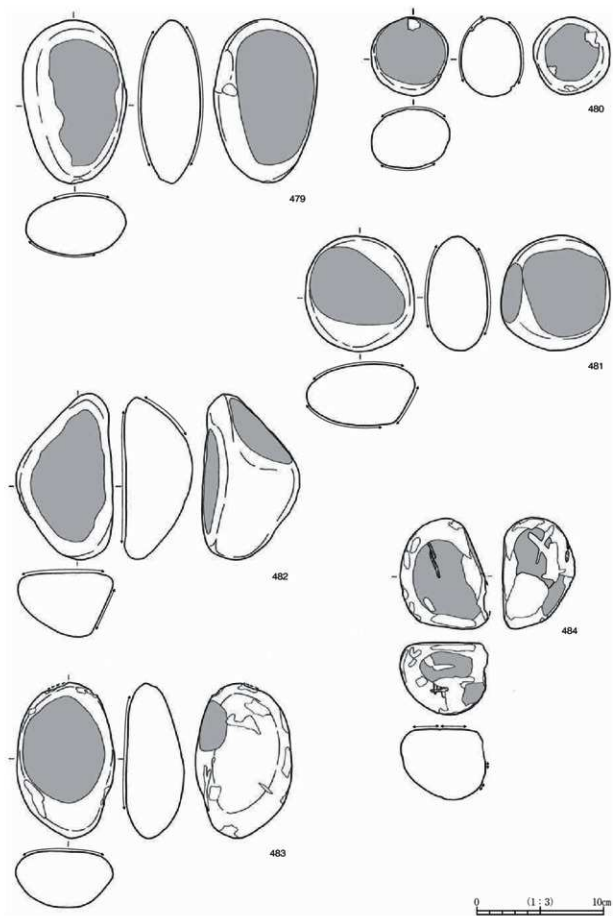


0 (1:3) 10cm

第133圖 石器（縄文時代31）

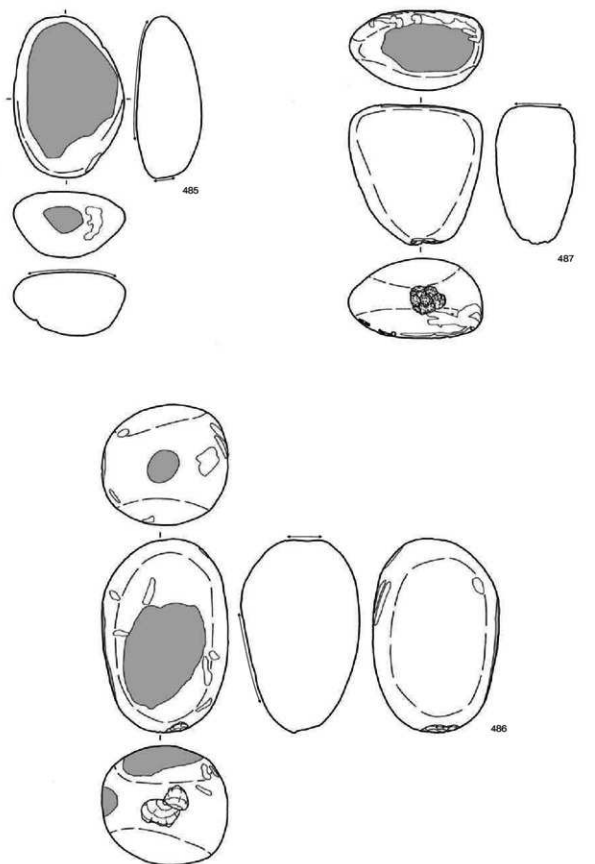


第134図 石器（縄文時代32）



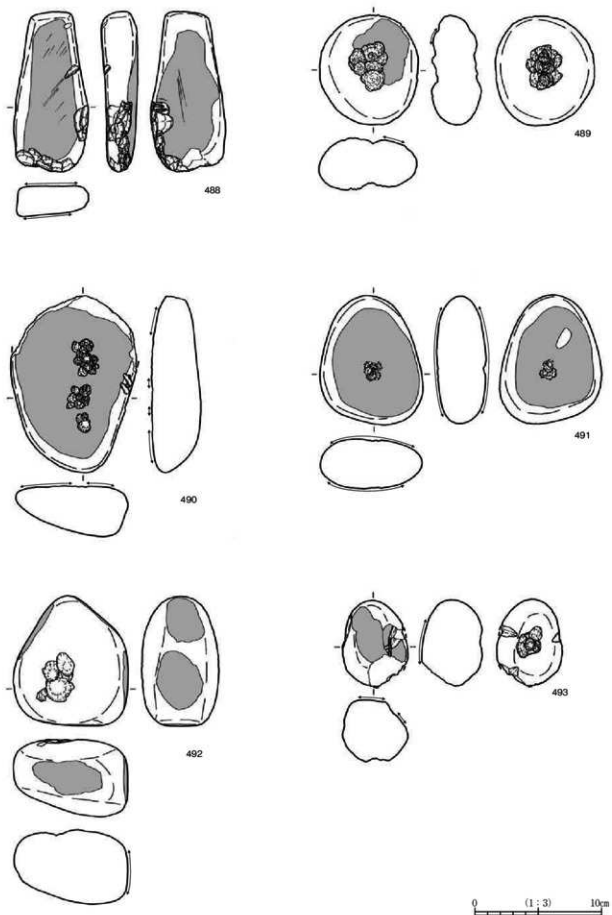
第135圖 石器（縄文時代33）



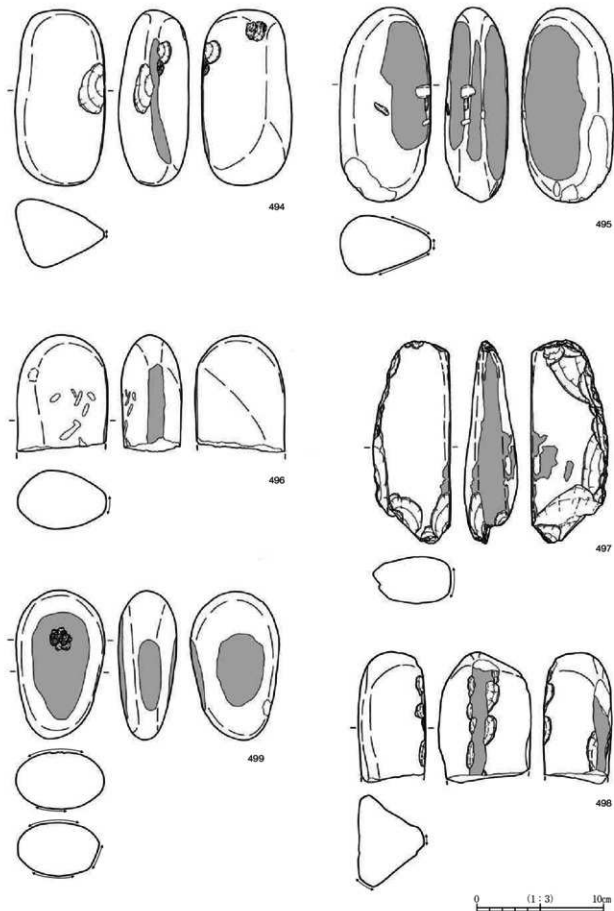


0 (1:3) 10cm

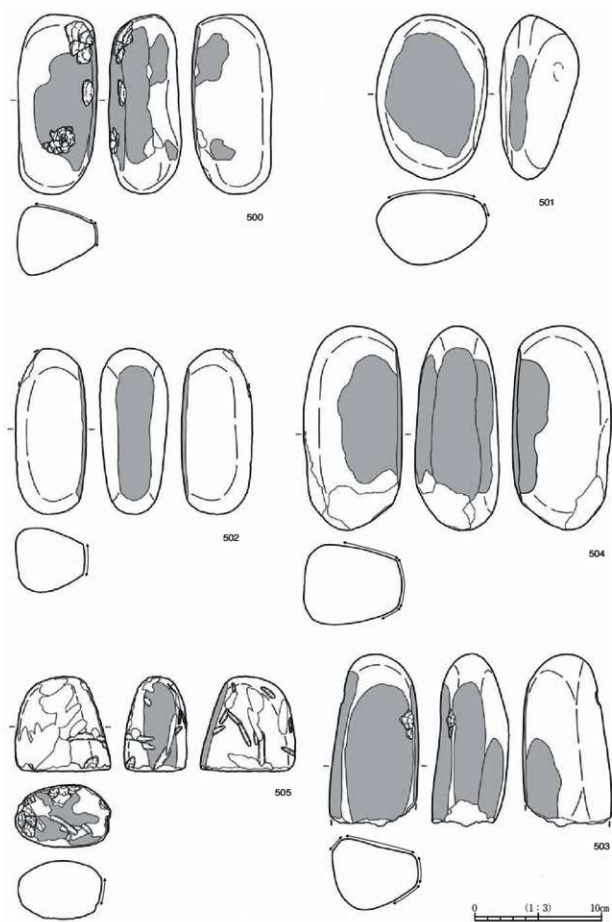
第136図 石器（縄文時代34）



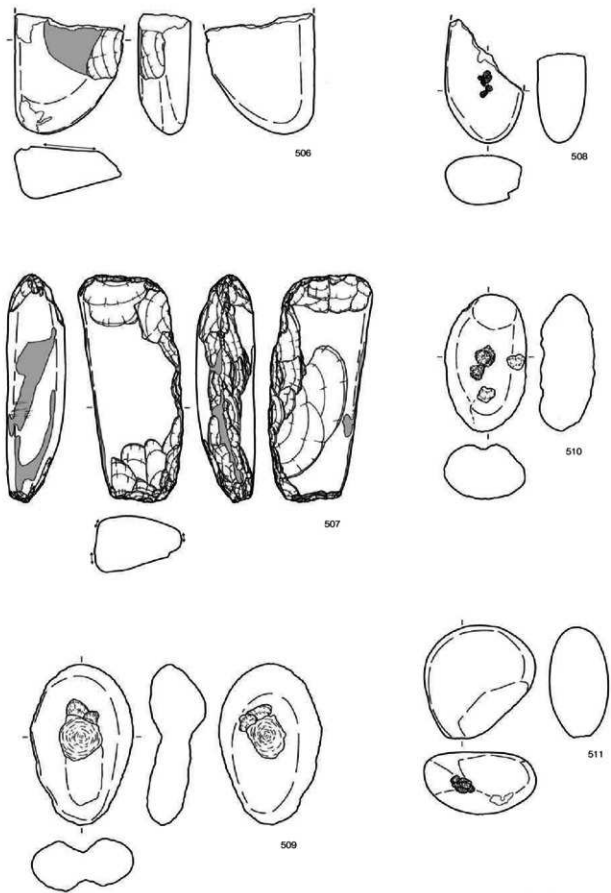
第137圖 石器（縄文時代35）



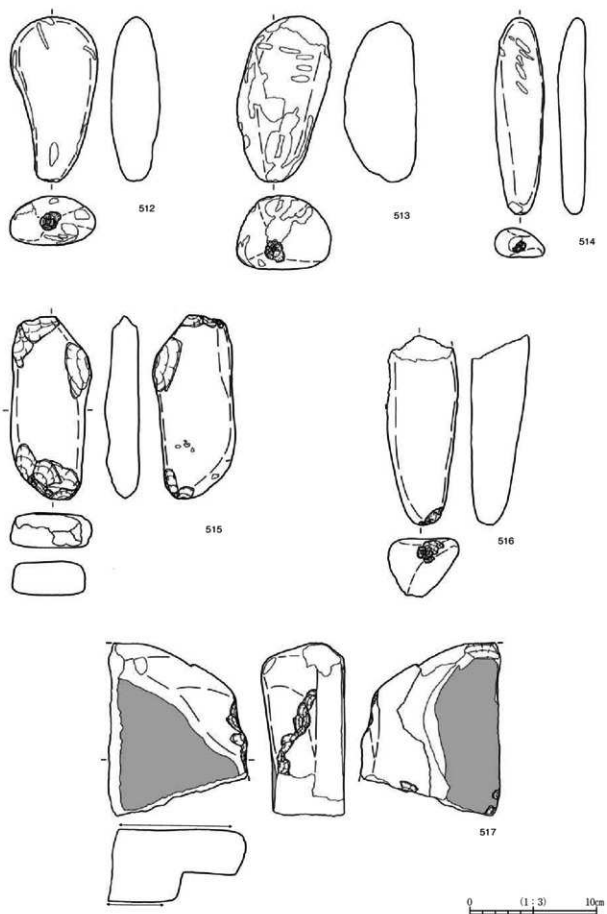
第138図 石器（縄文時代36）



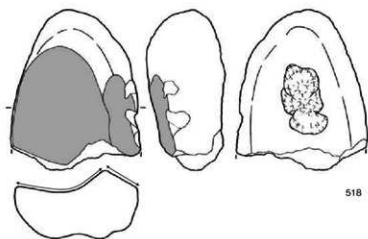
第139圖 石器（縄文時代37）



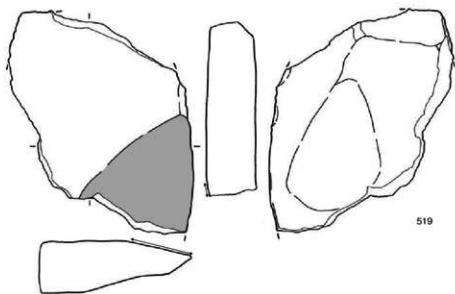
第140図 石器（縄文時代38）



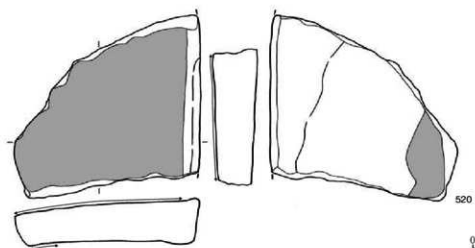
第141圖 石器（縄文時代39）



518



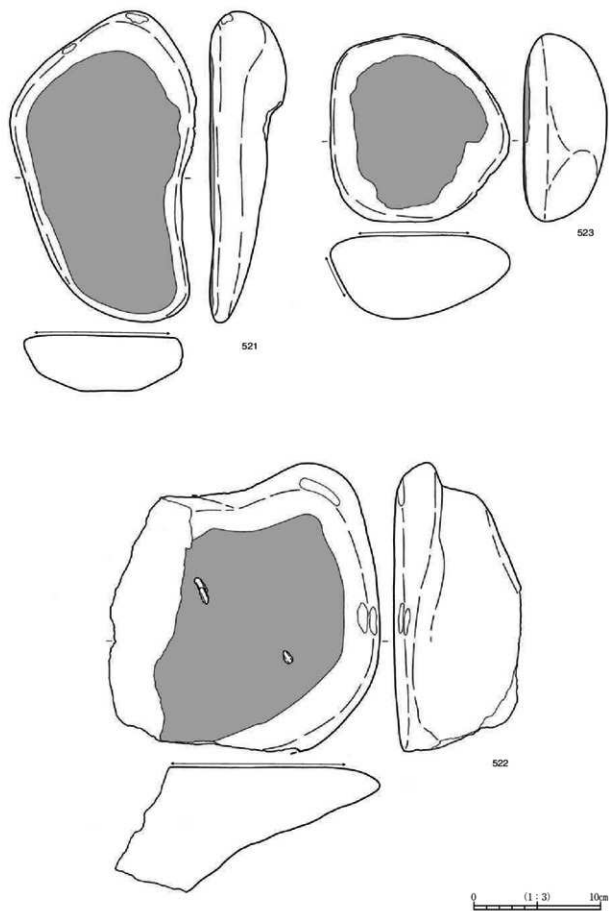
519



520

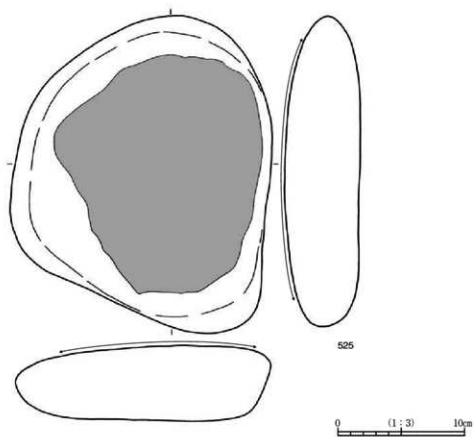
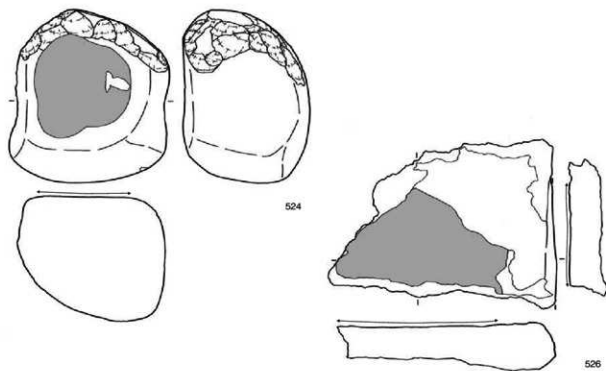
0 (1:3) 10cm

第142図 石器（縄文時代40）

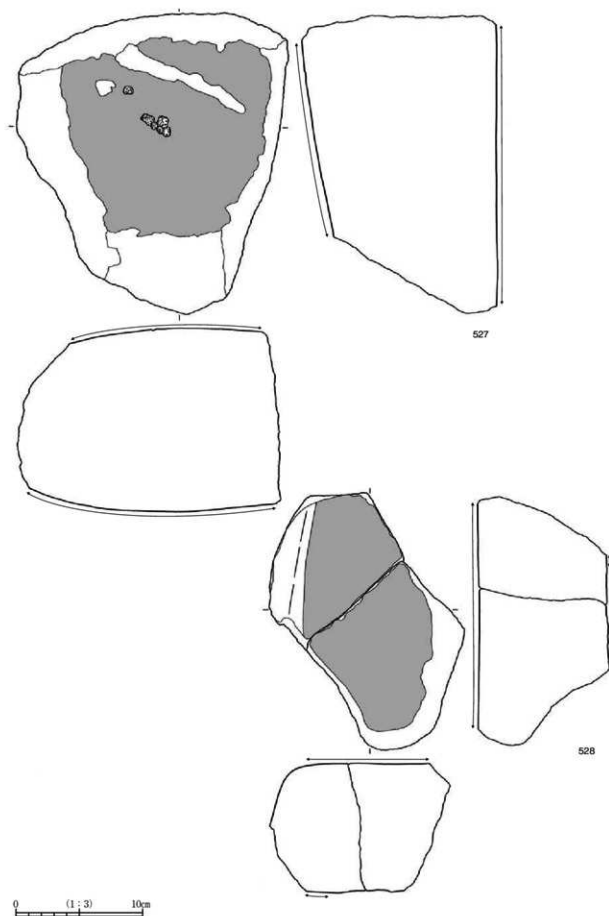


第 143 図 石器 (縄文時代 41)

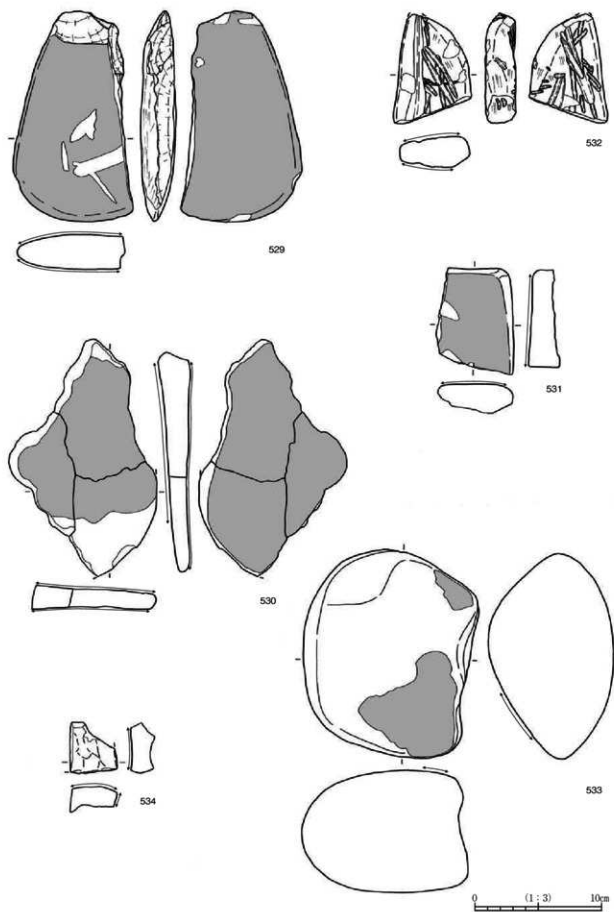




第144図 石器（縄文時代42）



第145圖 石器（縄文時代43）



第146図 石器（縄文時代44）

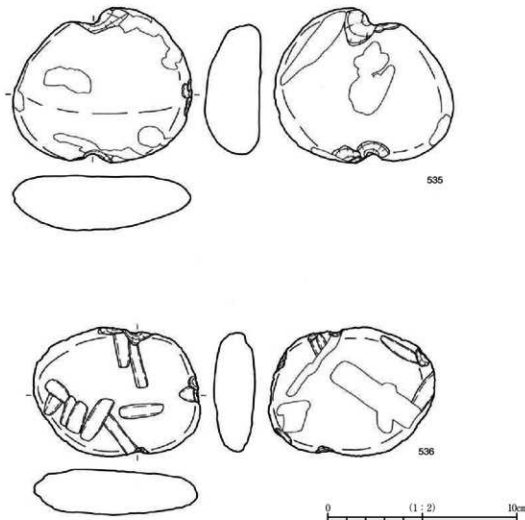
欠いて石錘としている。536の打ち欠きは535と比べると浅い。

(4) 石製品(縄文時代)(第148~152図、写真図版98・99)

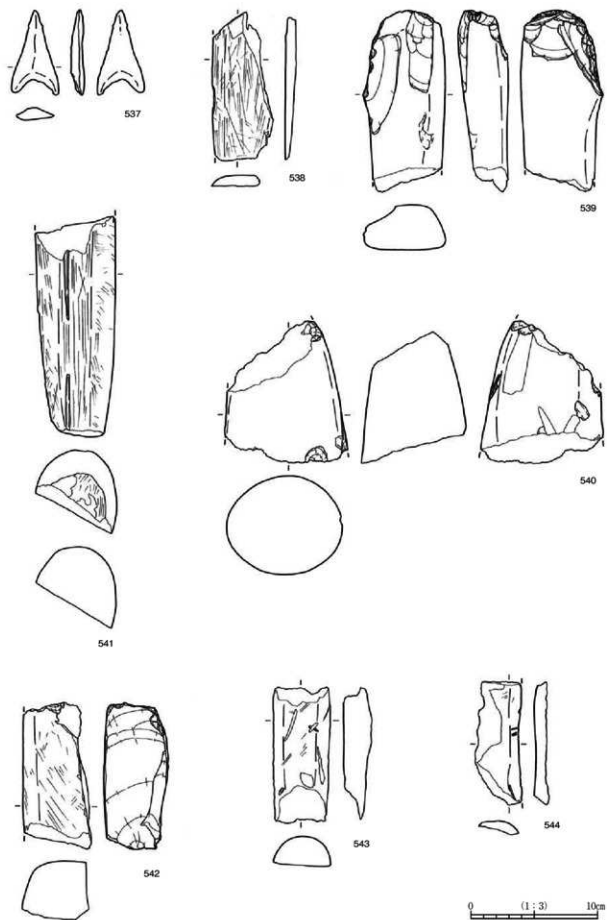
**石棒類**(538~545) 欠損しているものが多く、研磨調整の観察できる棒状のものもしくは棒状を呈すると考えられるものを一括した。538は頁岩製のもので一部しか残存しない。断面形は緩やかな弧を呈しており、扁平な楕円形状を呈するものと考えられる。539は頁岩製のもので、一端を大きく欠損している。端部には剥離調痕が残存しており、未製品の可能性がある。540は安山岩製のもので、断面形が丸みを帯び、やや大形のもの可能性が高い。541・542は凝灰岩製のもので、同一個体の可能性が高い。541は端部が残存しており、研磨により平滑になっている。543~545は頁岩製のものである。断面形は、543が円形状、544・545が扁平な楕円形状を呈するものと考えられる。

**玉類**(546) 滑石製の玉類である。器長方向に両端からの貫通する孔が穿たれている。管状の工具により孔が穿たれているようで中央に段が残置している。

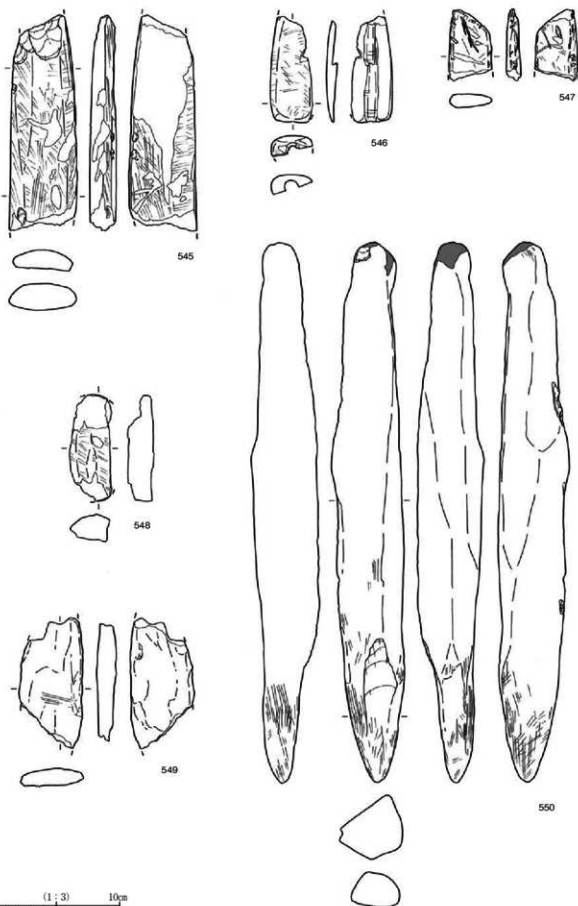
**不明石製品**(547~556) 547~549は滑石製のもので、断片的にしか残存していないため、本類としたが、石器石材を考慮すると、玉類やペンダント等の装飾品が想定される。548・549は研磨調整が顕著ではなく、未製品の可能性がある。550は頁岩製のもので、一端に研磨調整を施して尖状に整形している。一部には剥離痕も観察できる。相対する端部には敲打痕が観察できる。551は滑石製のも



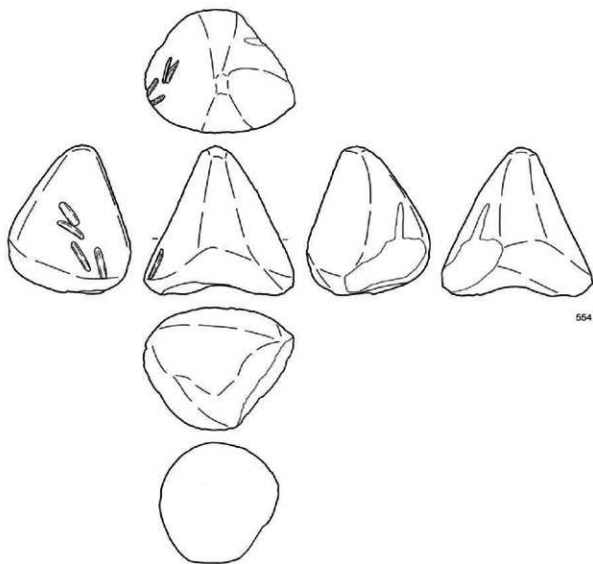
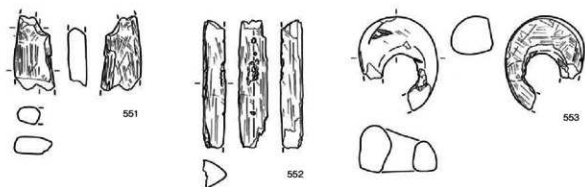
第147図 石器(縄文時代45)



第148図 石器（縄文時代46）・石製品（縄文時代1）



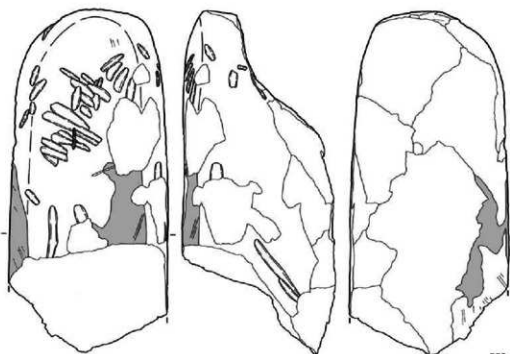
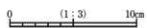
第149図 石製品（縄文時代2）



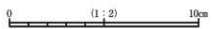
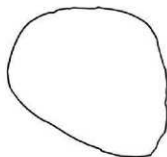
第150図 石製品 (縄文時代3)



555

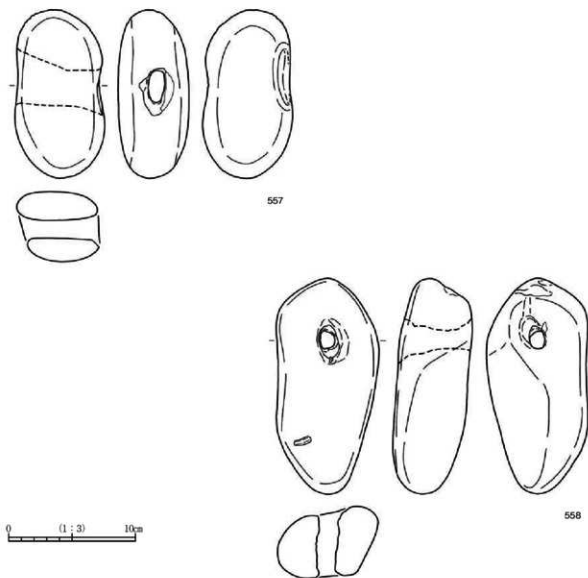


556



第151図 石製品(縄文時代4)

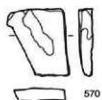
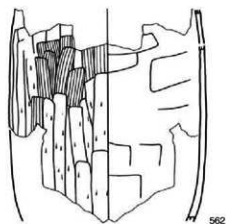
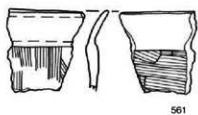
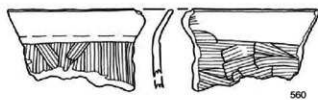




第152図 石製品（縄文時代5）

のである。一部しか残存しないため、断定はできないが、孔部と思われる弧状に研磨された面と器長方向に切り込みと考えられる面があり、袂状耳飾りの一部である可能性が高い。552は頁岩製のもので、極一部しか残存していない。研磨痕が顕著に観察される。553は凝灰岩製で、中央に大きな孔が穿たれている。片面が研磨により平滑になっている。554は砂岩製のもので、角錐状を呈する。他の石製品より研磨痕は不明瞭である。555は安山岩製で、ブロック状を呈する。広範囲に太い線条痕が観察される。556は安山岩製で、大形のブロック状のものを素材としている。部分的であるが、研磨調整により平滑になった面と太い線条痕が観察される。

**有孔石器**（557・558） 557・558は凝灰岩製の貫通孔を有する石製品である。557は扁平な楕円形の礫を素材とし、素材礫の短軸方向に両側面から貫通する孔を穿っている。558はやや厚みのある不定形の礫を素材とし、素材礫の端部寄った部分に貫通する孔を穿っている。



第153図 土器 (平安時代)

## (5) 土器 (平安時代) (第153図、写真図版100)

**土師器** (559~563) 559は甕の体部片である。縦方向のヘラナデが観察される。SX01から出土した。560・561は甕の口縁部~体部の同一個体の資料である。口縁部は横ナデ、体部は縦方向のハケが施される。562は甕の体部片である。主に上部はハケ、下部はヘラケズリが施される。561~562はSX21から出土した。563は甕の口縁部片である。横ナデが施されていると考えられるが、器面が摩滅しており、はっきりとしない。SX22から出土した。

**須恵器** (564~570) 564は外面にタタキ痕が観察され、甕と思われる資料の体部片である。SD36から出土した。565は数少ない坏の底部資料である。SD37から出土した。566は壺甕類の体部片である。不明瞭で調整痕が観察できない。567は甕の体部片である。外面にはタタキ痕、内面には当て具痕が観察される。566・567はSX26から出土した。568は壺甕類の体部片である。遺構外の出土である。569は甕を、570は瓶類を靦に転用したものと考えられる資料である。2点とも中央部は平滑になっている。墨などの付着物は確認できなかった。569はSD102から、570は④のⅡ層から出土した。

## (6) か わ ら け (第154図、写真図版101)

571はSD21から出土した高台付皿である。高台を欠損している。572~574はSD51から出土したてづくねのかわらけである。572は約1/4、573は口縁部から底部の一部、574は口縁部から体部の一部が残存する。575は東区南の排土で確認したもので、てづくねの大皿の底部片と考えられる。

## (7) 陶器 (中近世) (第155・156図、写真図版101・102)

576~582は常滑産の陶器である。576は甕の体部片で、内外面に自然軸が見られる。肩の部分はなだらかである。部分的に輪積み痕も観察できる。SK121から出土した。577・578は壺甕類の体部上半の資料である。外面に自然軸が見られる。577はSD101から、578はSX26から出土した。579は大甕の体部上半の資料である。外面には自然軸が見られる。③のⅡ層から出土した。580・581は壺甕類の体部上半の資料である。外面に自然軸が見られる。2点とも遺構外出土である。582は壺甕類の頭部片である。外面に自然軸が見られる。遺構外出土である。

583・584は渥美産の陶器である。583は甕類の体部上半の資料で、外面に押印文が見られる。SD51からてづくねかわらけとともに出土している。584は甕類の体部下半の資料である。外面に押印文が見られる。②のⅡ層から出土した。

585は珠洲系の陶器で、甕類の体部下半資料である。外面に押印文が見られる。SD27から出土した。

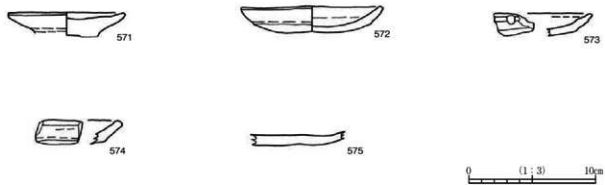
586~588は瀬戸美濃産の陶器である。586は瓶類の体部片である。GのⅠ層から出土した。587は丸皿の口縁部片である。CのⅡ層から出土した。588は志野皿と呼ばれるもので、口縁部~底部が残存している。内面には鉄銹が施されている。

589は産地不明の陶器である。甕類の体部下半の資料である。外面に鉄軸が施されている。

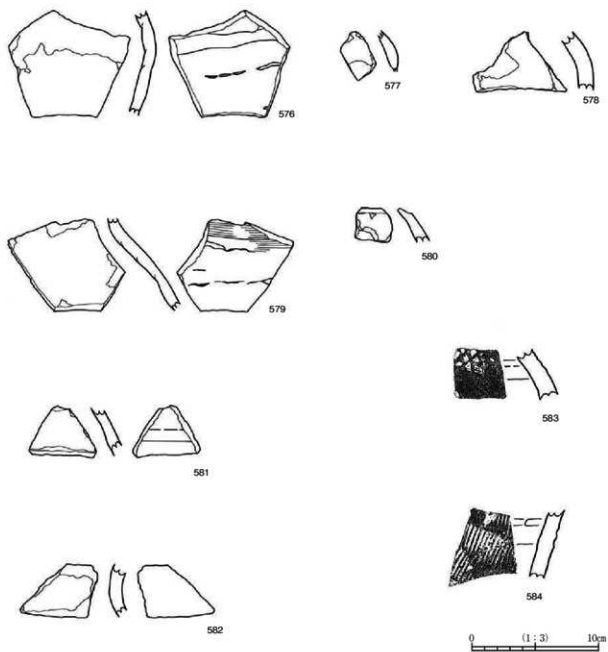
## (8) 磁器 (中近世) (第157図、写真図版102)

590・591は龍泉窯系の青磁皿である。590は底部片で、内面に草花文と考えられる文様が描かれている。591は高台部のみのもので資料である。2点とも遺構外出土である。

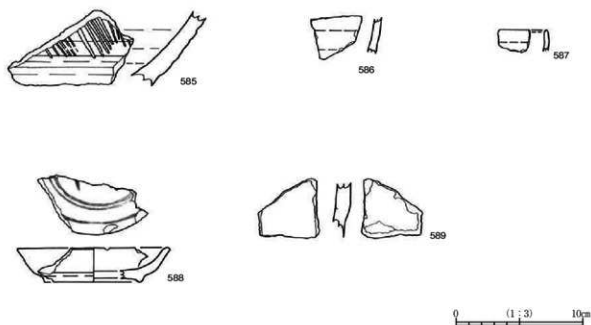
592~595は肥前産の磁器である。592は碗の口縁部片で、雪輪梅樹文と考えられる文様が描かれている。SD101から出土した。593はほぼ完形の皿である。見込みに角幅が描かれている。②のⅡ層上



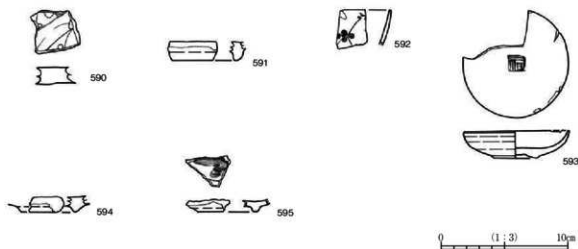
第154図 かわらけ



第155図 陶器 (中近世1)



第156図 陶器 (中近世2)



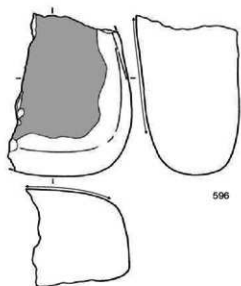
第157図 磁器 (中近世)

部から出土した。594・595は皿の底部片である。595の内面には文様が描かれているが、断片的であるため、詳細は不明である。2点とも遺構外出土である。

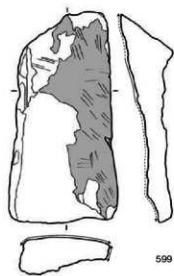
#### (9) 石器 (古代以降) (第158図、写真図版103)

596は石皿である。安山岩製で、片面に使用面が観察される。SD71から出土した。

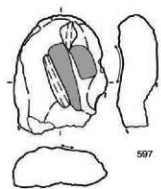
597～602は砥石である。597は安山岩製のもので、片面に使用面とともに、幅1～1.5cmの溝状の使用痕が観察される。SD19から出土した。598はアイサイト製のもので、片面に使用面が観察される。599は安山岩製のもので、表面及び側面に使用面が観察される。600は安山岩製のもので、3面に使用面が観察される。598～600はSD28から出土した。601はアイサイト製のもので、長方形を呈する。



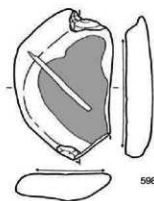
596



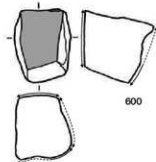
599



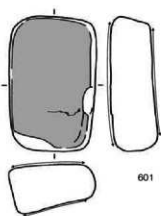
597



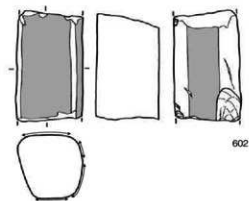
598



600



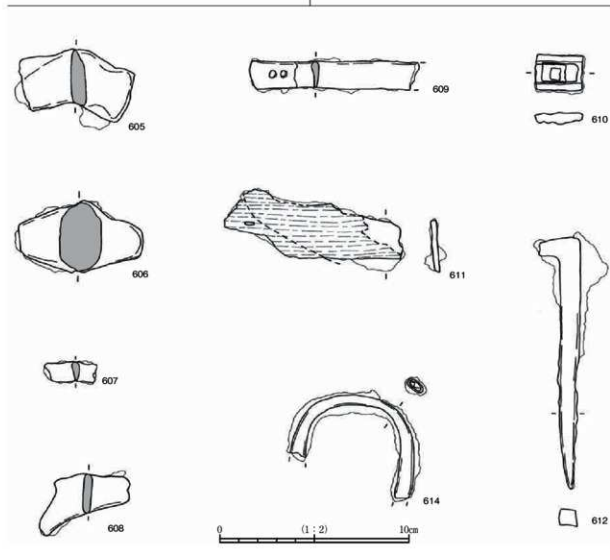
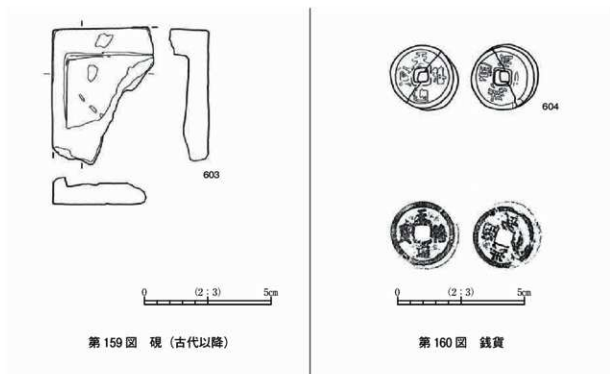
601



602

0 (1:3) 10cm

第158図 石器・石製品(中近世)



第161図 金属製品

表裏2面に使用面が観察される。SK38から出土した。602はダイサイト製で、棒状の礫を利用している。素材礫の長軸方向に3面の使用面が観察される。SD103から出土した。

(10) 硯 (古代以降) (第159図、写真図版103)

603は頁岩製の硯である。残存する面に入念な整形が行われている。

(11) 銭 貨 (第160図、写真図版103)

604はSK29から出土したもので、洪武通寶と天禧通寶の背面同士がついたものである。脆いため、分離はしなかった。

(12) 金 属 製 品 (第161図、写真図版103)

605・607・608は板状の鉄製品である。断面形は扁平な楕円形状を呈し、刃部等の鋭利な縁辺は認められない。606は断面形が六角形を呈する不明鉄製品である。605～608はSD51から出土した。609は小刀の茎部である。目釘穴が2箇所確認できる。①のⅡ層から出土した。610は金具の一部と考えられる。-DのⅡ層から出土した。611は小刀の茎部と考えられる資料である。木質部も残存している。遺構外出土である。612は角釘である。遺構外出土である。613は不明鉄製品である。EのⅡ層から出土した。614は青銅製のもので、板状の銅板を何重にも巻いて筒状にしている。



第6表 土器観察表(縄文時代1)

掲載No.	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写真
1	SI02 b埋土上部	深鉢	口体	口唇鋸歯状裝飾体 (M)、地: 卑粘1R?	5	VⅧ	85	66
2	SI02 b埋土上部	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体 (M)、地: 卑粘1L	5		85	66
3	SI02 b埋土上部	深鉢	口	細粘土結貼付(縦)、地: 卑粘1L?	5		85	66
4	SI02 SE 埋土	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体 地: LR	5		85	66
5	SI02 b埋土上部	深鉢	口体	地: 卑粘1R	5~6		85	66
6	SI02 NE 埋土上~中部	深鉢	口体	地: 卑粘1L	5~6		85	66
7	SI02 SE 埋土上~中部⑥	深鉢	体底	地: 卑粘1R?	5~6		85	66
8	SI02 埋土	深鉢	体底	地: 卑粘1L?	5~6		85	66
9	SI12 壁 埋土	深鉢	口体	口唇肥厚+沈線 頸: 沈線(縦・平; 半竹) 体: B貼、沈線 地: LR	6	Ⅲ	86	67
10	SI12 b1層	鉢?	口体	口: 沈線(横; 半竹)、B貼 地: LR	6		85	66
11	SI12 b1層	深鉢	体	太粘土結貼付(全体を押し)	6		85	66
12	SI12 南側 埋土	深鉢	体	斜行沈線(半竹) 地: LR	6		85	66
13	SI12 北側 埋土	深鉢	体	沈線(縦; 半竹) 地: LR	6		86	66
14	SI12 北側 埋土	深鉢	体底	無文 壱器面等減	(6)	ⅢⅥ	86	67
15	SI13 中央 床面直上	深鉢	口体	口: 太粘土結貼付(縦・斜・横)+沈線(半竹)、斜行沈線(半竹) 体: 鋸歯状沈線(半竹)、重層平行沈線(半竹) 壱16と同一個体	6		86	67
16	SI13 北側 土器集中	深鉢	口	太粘土結貼付(縦・斜・横)、沈線(横・斜・波状) 壱器面等減、15と同一個体	6		86	67
17	SI13 b1層	深鉢	口体	口唇: 環貼、太粘土結貼付(縦・弧) 口: 重層鋸歯状沈線(半竹) 区: 隆帯+刺突(半竹?) 体: 鋸歯状沈線(半竹)、平行沈線(半竹) 地: LR 壱18・19と同一個体	6		86	67
18	SI13 中央 床面直上	深鉢	体	B貼、重層平行沈線(半竹)、重層鋸歯状沈線(半竹)、斜行沈線(半竹) 地: LR? 壱17・19と同一個体	6		86	67
19	SI13 南側 土器集中	深鉢	口	太粘土結貼付(弧)、沈線(半竹) 区: 隆帯 壱17・18と同一個体	6		87	67
20	SI13 南側 土器集中	深鉢	口	口唇: 環貼、太粘土結貼付 口: 鋸歯状沈線(半竹) 地: RL 壱30と同一個体か	6		87	67
21	SI13 b1層	深鉢	口	口唇: 環貼+押し、縦位沈線(太) 口: B貼、平行沈線(半竹)、鋸歯状沈線(半竹) 地: LR	6		87	68
22	SI13 中央 床面直上	深鉢	体	B貼、鋸歯状沈線(半竹)、重層平行沈線(半竹)、沈線(縦・斜; 半竹) 地: LR 壱35と同一個体	6		87	68
23	SI13 南側 土器集中	深鉢	口体	口: B貼、沈線(鋸歯・横; 半竹) 体: 沈線(縦・斜・鋸歯; 半竹) 地: LR 壱24・25と同一個体	6	V	87	68
24	SI13 南側 土器集中	深鉢	体	沈線(鋸歯・横; 半竹) 体: 沈線(斜・鋸歯; 半竹) 地: LR 壱23・25と同一個体	6	V	87	68
25	SI13 南側 土器集中	深鉢	体底	B貼、鋸歯状沈線(半竹)、斜行沈線(半竹) 地: L 壱24・25と同一個体	6	V	88	69
26	SI13 南側 土器集中	深鉢	体	区: 鋸歯状沈線+平行沈線(半載竹管) 体: B貼、沈線(縦・斜・鋸歯; 半竹) 地: LR	6		88	68
27	SI13 中央 床面直上	深鉢	体	B貼、斜行沈線(半竹) 地: LR	6		88	68
28	SI13 南側 土器集中	深鉢	体	斜行沈線(半竹)、卑粘1L	6		88	68
29	SI13 中央 Pit 埋土	深鉢	体	LR	(6)		88	68
30	SI14 埋土最上層 No.1	深鉢	口体	口唇: 肥厚、環貼、太粘土結貼付 口: 重層鋸歯状沈線(半竹)、斜行沈線(半竹) 区: 隆帯+刺突 体: 重層平行沈線(半竹) 地: LR 壱30と同一個体か	6	Ⅱ	89	69
31	SI14 埋土最上層 No.1	深鉢	口体	口唇: 環貼、太粘土結貼付 口: 沈線(鋸歯・斜・横; 半竹) 区: 隆帯+刺突、重層平行沈線(半竹) 体: 斜行沈線(半竹) 地: LR	6	Ⅱ	89	69
32	SI14 埋土最上層 No.2	深鉢	口	口唇: 太粘土結貼付(縦) 口: 隆帯+刺突(半竹)、鋸歯状沈線(半竹)、斜行沈線(半竹)、平行沈線(半竹) 地: LR 壱33と同一個体	6	IⅣ	89	69
33	SI14 NW 埋土最上層 土器集中	深鉢	体	重層平行沈線(半竹)、鋸歯状沈線(半竹) 地: LR 壱32と同一個体	6	IⅣ	89	70
34	SI14 埋土最上層 No.2	深鉢	口体	口唇肥厚+連続斜行沈線 区: 重層平行沈線(半竹) 体: 斜行沈線(半竹) 地: LR	6	IⅣ	89	70

## 3 出土遺物

第6表 土器觀察表(縄文時代2)

掲載No.	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	国取	写真
35	SI14 埋土最上層 No.1	深鉢	体	B貼、鋸齒状沈線(半竹)、重層平行沈線(半竹) 体:斜行沈線(半竹) 地:LR ※22と同一個体	6		89	70
36	SI14 NW 埋土最上層 土器集中	深鉢	体	B貼、沈線(縦・斜・横・鋸齒:半竹) 地:LR	6		90	70
37	SI14 埋土最上層 No.2	深鉢	底	無文	(6)		90	70
38	SI14・I5 b1層	深鉢	体	波状沈線(縦:半竹)、斜行沈線(半竹)、波状沈線(横:半竹) 地:LR	6	IV	91	71
39	SI14・I5 b1層	深鉢	体	沈線(波状・縦:半竹)、X字状沈線(半竹) 地:LR	6		91	71
40	SI16 埋土下部~床面直上	深鉢	口	太粘土結貼付(弧・横) + 単結 1R ※41と同一個体	6		91	71
41	SI16 b埋土	深鉢	口	太粘土結貼付(弧・横) + 単結 1R ※40と同一個体	6		91	71
42	SI16 NE 埋土	深鉢	口	重層鋸齒状沈線(半竹)	6		92	71
43	SI16 埋土下部~床面直上	深鉢	体	鋸齒状沈線(縦・横:半竹) 地:単結 1R	6		92	72
44	SI16 SW 埋土	深鉢	体	隆帯 + 刺突(半竹・斜押)、重層平行沈線(半竹) 地:単結縄文	6		92	72
45	SI21 Pt1 埋土	深鉢	体	地:単結 4孔?	5~6		92	72
46	⑤ II層	深鉢	口	細粘土結貼付(鋸齒) 地:単結 1R?	4~5		93	72
47	② II層	深鉢	口	細粘土結貼付(鋸齒)	5		93	72
48	③ II層	深鉢	口	細粘土結貼付(鋸齒) 地:RL	5		93	72
49	⑦ II層	深鉢	体	細粘土結貼付(鋸齒)	5		93	72
50	⑥ II層	深鉢	体	区:隆帯 + 刺突 体:細粘土結貼付(鋸齒)	5~5b		93	72
51	③ II層	深鉢	体	輪積み痕残寸	5		93	72
52	⑥ II層	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体(長)、沈線	5b		93	72
53	⑨ II層	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体(長) ※器面摩滅	5b		93	72
54	① II層	深鉢	突	環状突起、刺突	5~5b		93	72
55	② II層	深鉢	口体	口唇肥厚・沈線(横) 区:沈線(横)、刺突 体:沈線(弧) 地:縄文(不)	6		93	72
56	④ II層	深鉢	口	口唇肥厚・沈線(波・横)	6		93	72
57	⑤ II層	深鉢	口	B貼、太短沈線(縦:竹管)	6		93	72
58	⑥ II層	深鉢	口	沈線(鋸齒・平行:半竹) 口唇:削み ※59と同一個体小	5b~6		93	72
59	⑥ II層	深鉢	口体	沈線(鋸齒・平行:半竹) 口唇:削み 地:LR ※58と同一個体小	5b~6		93	72
60	① II層	深鉢	体	鋸齒状沈線(半竹)、平行沈線(半竹)	5b~6		93	72
61	③ II層	深鉢	体	区画:波状沈線・平行沈線(半竹) 地:LR?	5b~6		93	72
62	U (SI21内) II層	深鉢	口	波状沈線(半竹)	6		93	72
63	⑥ II層	深鉢	体	鋸齒状沈線(半竹) 区:平行沈線(半竹) 体:斜行沈線(半竹) 地:単結 1R	6		94	72
64	⑩ II層	深鉢	体	斜行沈線(半竹) 地:LR	6		94	73
65	③ II層	深鉢	体	太鋸齒状沈線(縦) 地:RL	6		94	73
66	⑦ II層	深鉢	口	口唇肥厚 + 刺突、重層弧状沈線(半竹)	6		94	73
67	⑥ II層	深鉢	体	重層弧状沈線(半竹)、沈線(半竹) 区:平行沈線(半竹) 地:LR	6		94	73
68	B II層	深鉢	口	B貼、沈線(半竹) 地:LR? ※器面摩滅	6		94	73
69	③ II層	深鉢	体	B貼 + 押圧、斜行沈線(半竹) 地:単結 1R	6		94	73
70	③ II層	深鉢	体	平行沈線 + B貼、鋸齒状沈線 地:LR	6		94	73
71	① II層	深鉢	口	隆帯 + 削み B貼 ※器面摩滅	6		94	73
72	⑤ II層	深鉢	口	隆帯 + 削み 地:単結 4R	6		94	73
73	⑤ II層	深鉢	口	隆帯 + 指頭押圧 地:単結 1L	6		94	73
74	⑨ II層	深鉢	口	区:隆帯 + 指頭押圧 地:単結 5L	6		94	73
75	③ II層	深鉢	口	区:隆帯 + 刺突 口唇:刺突	6		94	73
76	③ II層	深鉢	突	肥厚 + 円形押圧	6		94	73
77	② II層	深鉢	口	口唇肥厚、刺突列(爪形)	(6)		94	73

第6表 土器観察表(縄文時代3)

掲載No.	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	国取	写真
78	C Ⅱ層	深鉢	口	口唇: 削み 口: 刺突列	(6)		94	73
79	⑤ Ⅱ層	深鉢	体	瘤状貼付	(6)		94	73
80	⑥ Ⅱ層	深鉢?	体	瘤状貼付 地: 単絡 1R	(6)		94	73
81	④ Ⅱ層	深鉢	体	多輪絡糸体 (L?)	5~6		94	73
82	D Ⅱ層	深鉢	体	多輪絡糸体 (R?)	5~6		94	73
83	⑥ Ⅱ層	深鉢	体	非結束羽状縄文	(6)		94	73
84	② Ⅱ層	深鉢	底	単絡 1L	5~6		95	73
85	③ Ⅱ層	深鉢	体底	単絡 1? 器面摩滅	5~6		95	73
86	⑧ Ⅱ層	深鉢	底	単絡 1L?	5~6		95	73
87	⑦ Ⅱ層	深鉢	体	単絡 1R	5~6		95	74
88	② Ⅱ層	深鉢	体	単絡 ①L?	5~6		95	74
89	⑤ Ⅱ層	深鉢	体	単絡 5R	5~6		95	74
90	⑥ Ⅱ層	深鉢	体底	LR	5~6		95	74
91	U (S12 内) Ⅱ層	深鉢	体	LR	5~6		95	74
92	① Ⅱ層	深鉢	体	LR	5~6		95	74
93	⑦ Ⅱ層	深鉢	体	縄文 (垂)	5~6		95	74
94	① Ⅱ層	深鉢	口体	無文	5~6	I	95	74
95	③ Ⅱ層	深鉢	体	不明 器面摩滅	5~6		95	74
96	⑤ Ⅱ層	深鉢	底	無文	5~6		95	74
97	SK86 埋土	深鉢	口	刺突列 + 沈線	6		96	74
98	SK89 埋土	深鉢	体	沈線 (縦: 半竹?) 地: LR	6		96	74
99	P248 埋土	深鉢	口体	区: 隆帯 + 刺突 (丸棒) 体: 細粘土紐貼付 + 刺突 (丸棒) 地: RL?	5~6	Ⅷ	96	74
100	P308 埋土	深鉢	口体	太粘土紐貼付 (弧) 区: 沈線 (半竹) + 刺突 (半竹?) 地: LR	6		96	74
101	P327 埋土	深鉢	口底	単絡 5R?	5~6	Ⅷ	96	74
102	P375 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 削み	6		96	74
103	P592 埋土	深鉢	体	沈線 (半竹)	5b~6		96	74
104	P596 埋土	深鉢	口	粘土紐貼付 + 削み 地: 単絡 1L?	6		96	74
105	P706 埋土	深鉢	口	太粘土紐貼付 (弧・横) + 交点押圧	6		96	74
106	P1256 埋土	深鉢	口体	口唇肥厚 + 沈線・刺突 (丸棒) 体: 不明 器面摩滅	6	I II	96	75
107	P1256 埋土	深鉢	体底	無文	5~6		96	75
108	P1256 埋土	深鉢	底	RL 結節	6		96	75
109	P1256 埋土	深鉢	体底	LR 器面摩滅	5~6		96	75
110	P1256 埋土	深鉢	体	LR	5~6		96	75
111	P1561 埋土	深鉢	体底	彫文 器面摩滅	5~6		97	75
112	P1648 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 押圧 器: 隆帯 + 削み, 半竹押引き (横・斜) 地: LR?	6		79	75
113	P1651 埋土	深鉢	体	沈線 (縦・横: 半竹)	5b~6		97	75
114	P1669 埋土	深鉢	体	斜行沈線 (半竹) 区: 重層平行沈線 (半竹) 体: 重層斜行沈線 (半竹)・縦溝状沈線 (半竹)・弧状沈線 (半竹) 地: RL	6		97	75
115	P1704 底割 No.1	深鉢	口体	口: 縦溝状沈線 (半竹) 区: 沈線 (半竹) 体: 斜行沈線 (半竹) 器面摩滅	6		97	75
116	SD06P317 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 押圧	6		97	76
117	SB13P334 埋土上部	深鉢	体	沈線 (縦・横)	(6)		97	76
118	SB14P655 埋土	鉢	口底	単絡 1L 口唇: 削み 器 119 と同一個体	5~6		97	76
119	SB14P655 埋土	鉢	口	単絡 1L 口唇: 削み 器 118 と同一個体, 補修孔有り	5~6		97	76
120	SB46P1488 埋土	深鉢	口	区: 粘土紐貼付 + 削み 器面摩滅	6		97	76
121	SB55P1172 埋土	深鉢	口	隆帯 + 刺突 (縦丸棒状)	6		97	76
122	SK18 6層	深鉢	体	単絡 1R?	5~6		97	76
123	SK30 埋土	深鉢	口	区: 隆帯 + 削み, 太粘土紐貼付 (縦)	6		97	76

## 3 出土遺物

第6表 土器觀察表(續文時代4)

編號No.	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	国取	写真
124	SK38 埋土下部	深鉢	体	鋸齒状沈線(半竹)	5b~6		97	76
125	SD08 埋土	深鉢	底	木葉痕	5~6		98	76
126	SD28 埋土	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体(長)	5b		98	76
127	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体(長)	5b		98	76
128	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体(長)	5b		98	76
129	SD28 埋土	深鉢	口	口唇肥厚+沈線(縦・横)	6		98	76
130	SD28 埋土	深鉢	口	口唇肥厚・筋条体任前(R?)・鋸齒状沈線(半竹)	6		98	76
131	SD28 東側 埋土下部	深鉢	口	口唇肥厚+凹形押圧	6		98	76
132	SD28 中央 埋土上部	深鉢	口	口唇肥厚+凹形押圧、押圧 区:波状沈線(半竹)	6		98	76
133	SD28 東側 埋土下部	深鉢	口	太粘土継貼付、沈線	6		98	76
134	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口体	太短粘土継貼付(縦・横) 区:鋸齒状沈線(半竹) 体:斜行沈線	6		98	76
135	SD28 埋土下部	深鉢	口体	環貼+凹形押圧、太短粘土継貼付、波状沈線(半竹) 区:沈線(半竹) 地:LR	6		98	76
136	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	環貼、B貼	6		98	76
137	SD28 西側 埋土中	深鉢	口	鋸齒状沈線(半竹)	5b~6		98	76
138	SD28 東側 埋土	深鉢	面体	頭:平行沈線、鋸齒状沈線 体:縄文(不)	5b~6		98	76
139	SD28 西側 埋土中	深鉢	口	口唇肥厚、波状沈線	6		98	76
140	SD28 埋土	深鉢	体	鋸齒状沈線(半竹:縦)	6		98	77
141	SD28 中央 埋土上部	深鉢	体	区:鋸齒状沈線(縦) 体:斜行沈線(半竹) 地:LR	6		98	77
142	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	重層弧状沈線(半竹)、平行沈線(半竹)	6		98	77
143	SD28 埋土	深鉢	口体	口:沈線(斜)+押圧 頭:鋸齒状沈線、陰帯+刺突 体:鋸齒状沈線(半竹)、太短粘土継貼付(横) 地:RL 縦? ※144上同一個体	6		98	77
144	SD28 埋土	深鉢	口体	口:沈線(斜)+凹形押圧 頭:鋸齒状沈線、陰帯+刺突 体:鋸齒状沈線(半竹)、太短粘土継貼付(横) 地:RL 縦? ※143上同一個体	6		99	77
145	SD28 東側 埋土上部	深鉢	口体	口唇肥厚 頭:平行沈線、陰帯+刺突 体:B貼、沈線(縦:半竹)	6	I II	99	77
146	SD28 東側 埋土下部	深鉢	体	区:平行沈線(半竹)、陰帯+角棒状刺突 体:波状沈線(半竹)、B貼 地:LR	6		99	77
147	SD28 東側 埋土下部	深鉢	口体	B貼 区:沈線 体:斜行沈線 ※器面摩滅	6		99	77
148	SD28 東側 埋土	深鉢	口体	B貼 区:平行沈線(半竹) 体:鋸齒状沈線(半竹)	6		99	77
149	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	陰帯 ※器面摩滅	6		99	77
150	SD28 東側 埋土	深鉢	口体	区:平行刺突例(へつ状) 体:山形刺突(へつ状)、單跡 1L	6		99	77
151	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	刺突例、單跡 1R	6		99	77
152	SD28 西側 埋土上部	深鉢	口	口唇粘土帯貼付+刺突(丸棒) ※器面摩滅	(6)		99	77
153	SD28 東側 埋土	深鉢	口	單跡 1R?	5~6		99	77
154	SD28 中央 埋土下部	深鉢	体	單跡 5R?	5~6		99	77
155	SD28 東側 埋土下部	深鉢	体或	RLR?	5~6		99	77
156	SD35 埋土	深鉢	体	單跡 1L	5~6		99	77
157	SD36 埋土	深鉢	体	鋸齒状沈線(横) 地:單跡 1L ※ 158上同一個体	5~6		99	77
158	SD37 北側 埋土	深鉢	体	鋸齒状沈線(横) ※ 157上同一個体	5~6		99	77
159	SD37 北端 B埋土	深鉢	口	凹形貼付	(6)		99	77
160	SD37 埋土上部	深鉢	底	單跡 1L	5~6		99	77
161	SD43 埋土	深鉢	口	口唇肥厚+凹形押圧 ※器面摩滅	6		99	78
162	SD65 埋土	深鉢	体	斜行沈線 地:單跡 1R?	6		99	78
163	SD68 埋土	深鉢	体	單跡 5R?	5~6		99	78
164	SD59 埋土	深鉢	口	粘土継貼付(鋸齒) 地:RL	4~5		100	78
165	SX27 B埋土	深鉢	体	細粘土継貼付(鋸齒)	4~5		100	78
166	SX27 埋土	深鉢	口体	口唇押圧 口:重層平行沈線(半竹)、波状沈線(半竹) 地:LR? ※器面摩滅	6		100	78
167	SX27 埋土	深鉢	口	重層平行沈線(半竹)、斜行沈線(半竹)	6		100	78

第6表 土器観察表(縄文時代5)

掲載No.	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写真
168	SX27 埋土	深鉢	体	B胎、平行沈線(半竹)・波状沈線(半竹)・垂器面厚減	6		100	78
169	SX27 埋土	深鉢	体底	沈線(縦:半竹)	6		100	78
170	SX27 埋土	深鉢	体	瘤状貼付、沈線(縦:半竹) 地:RL	6		100	78
171	SX27 埋土	深鉢	口	重層刺突列(D字状)、沈線(横)	6		100	78
172	SX27 埋土	深鉢	体	LR結跡	6		100	78
173	SX28 埋土	深鉢	口体	口唇肥厚 口頸:縷粘土結貼付(縷歯・横) 地:RL? 垂器面厚減	5	II III	100	78
174	SX28 B埋土	深鉢	口体	口:沈線(弧・縷歯:半竹) 区:隆帯+指頭押圧 体:渦巻き状沈線(半竹) 地:LR	6		100	78
175	III J15g III層上面	深鉢	体	縷歯状沈線(横)	5b~6		100	78
176	-C III層上面	深鉢	口	重層波状沈線(半竹) 地:LR	6		100	78
177	東区南 II~III層上面	深鉢	口体	口:太短沈線(斜・縦)、刺突列(竹管) 頸:重層波状沈線(半竹) 地:L	6		100	78
178	東区南 II~III層上面	深鉢	口	重層刺突列(D字状)	6		100	78
179	西側 II層	深鉢	体	多輪結条体	5~6		100	78
180	西側 II層(重観)	深鉢	口体	沈線? 垂器面厚減	5b~6		100	79
181	西道路 1層	深鉢	突	環状突起+刺突(丸)	6		100	79
182	西道路 1層	深鉢	口	口唇肥厚, LR	6		100	79
183	北区東 排土一括	深鉢	口	太沈線(縦)、沈線(横:半竹) 地:LR	6		101	79
184	東側 攪乱	深鉢	口	口唇縷歯状裝飾体(M字状)、刺突	5		101	79
185	東側 攪乱	深鉢	体	平行沈線 赤褐色顔料付着	5b~6		101	79
186	東側 攪乱	浅鉢?	体	LR	5~6		101	79
187	西側 攪乱	深鉢	口体	RL	5~6	V	101	79
188	西区 攪乱	深鉢	口	刺突列、重層縷歯状沈線(半竹)・平行沈線(半竹)	5b~6		101	79
189	西区 攪乱	深鉢	口体	口唇押圧 口:重層波状沈線(半竹) 地:LR?	6	V	101	79

【出土地点・層位】b:ベルト

【文様等】B胎:ボタン状貼付 環貼:環状貼付 半竹:半截竹管 単結1:単輪結条体第1類  
単結4:単輪結条体第4類 単結5:単輪結条体第5類

第7表 土製品・粘土塊観察表

掲載No.	出土地点・層位	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写真
190	S02 NW 埋土	不明	-	2.2・3.1・(1.5)	上面に丸棒状工具による刺突	102	79
191	SD35 埋土	不明	-	(2.8)・(1.7)・(1.1)	貫通孔	102	79
192	SD35 埋土	円盤	-	5.4・(4.6)・(1.7)	上面面に竹管による刺突	102	79
193	SK53 埋土	円盤	-	(4.1)・(3.5)・(0.8)	貫通孔、単脚縄文	102	79
194	PI82 埋土	粘土塊	-			102	79

【法量】器長・器幅・器厚 ( ):残存値

## 3 出土遺物

第8表 石器観察表（縄文時代1）

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写真
195	SAR	- O 西	Ⅱ層 上面	sh	I		103	80
196	SAR	南東区南	I 層	sh	I		103	80
197	SAR	SD105	埋土最上部	sh	I		103	80
198	SAR	SD28 西側	埋土上部	ob5	I		103	80
199	SAR	P538	埋土	sh	I		103	80
200	SAR	(5)	Ⅱ層	sh	Ⅱ		103	80
201	SAR	(2)	Ⅱ層	sh	Ⅱ		103	80
202	SAR	P1216	埋土	sh	Ⅱa		103	80
203	SAR	P1392	埋土	sh	Ⅱa		103	80
204	SAR	J	Ⅱ層	sh	Ⅱa		103	80
205	SAR	C	Ⅱ層	sh	Ⅱa		103	80
206	SAR	R	Ⅱ層	sh	Ⅱa		103	80
207	SAR	(5)	Ⅱ層	sh	Ⅱa		103	80
208	SAR	SD28 中央	埋土下部	sh	Ⅱa		103	80
209	SAR	西側	I ~ Ⅱ層	sh	Ⅱa		103	80
210	SAR	U	Ⅱ層	sh	Ⅱa		103	80
211	SAR	SD114	埋土	sh	Ⅱa		103	80
212	SAR	西側	攪乱	sh	Ⅱa		103	80
213	SAR	西側	I ~ Ⅱ層	sh	Ⅱa		104	80
214	SAR	(5)	Ⅱ層	sh	Ⅱb		104	80
215	SAR	U	Ⅱ層	tuf1	Ⅲ		104	80
216	SAR	U	Ⅱ層	sh	Ⅱb		104	80
217	SAR	P1003	埋土	sh	Ⅲ		104	80
218	SAR	P1418	埋土	sh	Ⅱb		104	80
219	SAR	(8)	Ⅱ層	sh	Ⅱa		104	80
220	SAR	(6)	Ⅱ層	sh2	Ⅱa		104	80
221	SAR	(1)	Ⅱ層	sh	Ⅱa		104	80
222	SAR	(3)	Ⅱ層	ob4	Ⅲ	礫面有	104	80
223	SAR	T	Ⅱ層	sh	Ⅱa		104	80
224	SAR	P1394	埋土	sh	Ⅱa		104	80
225	SAR	(2)	Ⅱ層	wetuf1	Ⅲ		104	80
226	SAR	SI02 NE	埋土	sh	V a		104	80
227	SAR	東側	攪乱	sh1	V a		104	80
228	SAR	P1488	埋土	sh	V b		104	80
229	SAR	(2)	Ⅱ層	sh1	V b		104	80
230	SAR	V	Ⅱ層	sh	V b		105	81
231	SAR	SD35・37	埋土上部	sh2	V b		105	81
232	SAR	西側	I ~ Ⅱ層	sh	V b		105	81
233	SAR	P1527 東小穴	埋土	sh	V b		105	81
234	SAR	ⅢJ15g	ⅡC層	sh1	V b		105	81
235	SAR	ⅢJ13A	攪乱	sh1	V b		105	81
236	SAR	U	Ⅱ層	sh	V b		105	81
237	SAR	P1167	埋土	sh	V b		105	81
238	SAR	P1488	埋土	sh	V b		105	81
239	SAR	M	Ⅱ層	sh	V b	両側縁上半に長軸方向の擦痕	105	81
240	SAR	SX28	埋土	sh	V b	難に転用か	105	81
241	SAR	(4)	Ⅱ層	sh1	V b	難に転用か	105	81
242	SAR	09	Ⅱ層	sh	V b		105	81
243	SAR	西側	Ⅱ層	sh	V b		105	81
244	SAR	西側	攪乱	sh	V b		105	81
245	SAR	P1488	埋土	sh	V b		105	81
246	SAR	SD114	埋土	sh	V b		105	81
247	SAR	V	Ⅱ層	sh	V c		105	81
248	SAR	西側	I ~ Ⅱ層	ob5	V d		106	81
249	SAR	C	Ⅱ層	sh	V d		106	81
250	SAR	南東区	Ⅱ層	sh	V d		106	81
251	SAR	西道路	攪乱	ob4	V		106	81
252	SAR	西区	攪乱	sh	Ⅵa		106	81
253	SAR	SB14P288	埋土上部	sh1	Ⅵb		106	81
254	SAR	SK53	埋土	sh	Ⅵ		106	81
255	SAR	SD11 中央	埋土	sh	Ⅵa		106	81
256	SAR	西道路	Ⅱ層	sh	Ⅵb		106	81

第8表 石器観察表(縄文時代2)

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写真
257	SAR	L	I層	sh4	Ⅴb		106	81
258	SAR	BM トレンチ	I～II層(再)	rsh	Ⅴb		106	81
259	SAR	北西区	II層	sh	Ⅴb		106	81
260	SAR?	SI14・15 重SW	埋土	sh	Ⅴb偏		106	81
261	SAR	SD59	埋土	sh	Ⅴb偏		106	81
262	異形	(7)	II層	rsh			106	82
263	PO?	SI12	b1層	sh			106	81
264	PO	(9)	II層	sh			106	81
265	PO	SD28	埋土	sh			107	81
266	RF	SI16	埋土最上部	sh	I		107	82
267	SCR類	SK53	埋土下部	sh	Ia		107	82
268	SCR類	P182	埋土	sh	Ⅱc		107	82
269	SCR類	P658	埋土	sh	Ia		107	82
270	SCR類	P1442	埋土	sh	Ⅲa		107	82
271	SCR類	R	II層	sh	Ia		108	82
272	SCR類	SD28 中央	埋土下部	sh	Ia		108	82
273	SCR類	U	II層	sh	Ⅲa		108	82
274	SCR類	(5)	II層	sh	Ⅲb		108	82
275	SCR類	SD28	埋土	sh	Ⅳa		109	82
276	SCR類	北東区	I～II層(再)	sh	Ia		109	82
277	SCR類	SD28	埋土	sh	Ia		109	82
278	SCR類	09	II層	ob4	Ⅳa		109	82
279	SCR類	SX26 西側北半	埋土	ob4	Ia		109	82
280	SCR類	(2)	II層	dac3	Ⅲa		110	82
281	SCR類	-U	II層	sh	Ⅳa		110	82
282	SCR類	-A	I層	sh	Ia		110	82
283	SCR類	東区南端	I～II層	sh2	Ⅳa		110	82
284	SCR類	P186	埋土	sh	Ia		110	82
285	SCR類	SD28 西側	埋土	sh	Ⅳa		110	82
286	SCR類	西側	II層	sh	Ⅳc		111	82
287	SCR類	SD28 西側	埋土	sh	Ⅳc		111	83
288	SCR類	SK38	埋土	sh	Ib		111	83
289	SCR類	P1516	埋土	sh	Ia		111	83
290	SCR類	東区南	排土一括	sh	Ia		112	83
291	SCR類	SI16 SE	埋土	sh	Ⅱb		112	83
292	SCR類	P1444	埋土	sh	Ⅱa		112	83
293	SCR類	13	II層	sh	Ⅱa		112	83
294	SCR類	SD28	埋土	sh	Ⅱa		112	83
295	SCR類	北東区	I～II層	sh	Ⅱc		112	83
296	NO	(7)	II層	sh			113	83
297	NO	1	II層	sh			113	83
298	SSP	西側	II層(重機)	sh	I		113	83
299	SSP	Q	II層	sh	I		113	83
300	SSP	SD37	埋土上部	sh1	I		113	83
301	SSP	南西区	排土一括	sh	Ⅱ		113	83
302	SSP	南東区北	排土一括	sh	Ⅱ		114	83
303	SSP	西側	II層	sh2	Ⅱ		114	83
304	SSP	SX26 西側中央	埋土	sh	Ⅱ		114	83
305	SSP	(9)	II層	sh	Ⅱ(満)		114	84
306	SSP	13	II層	sh	Ⅲ		114	84
307	SSP	SK38	埋土	sh	Ⅲ		115	84
308	SAW	SD36	北壁埋土	sh1	I		115	84
309	SAW	SD114	埋土	ob4	I		115	84
310	SAW	T	II層	sh	Ⅱ		115	84
311	SAW	V	II層	sh	Ⅱ		115	84
312	SAW	(2)	II層	sh	Ⅲ		115	84
313	SAW	(3)	II層	sh	Ⅲ		115	84
314	SAW	J	II層	sh	Ⅲ		115	84
315	SAW	SD28 西側	埋土下部	sh	Ⅲ		116	84
316	SAW	P1116	埋土	sh	Ⅲ		116	84
317	SAW	P528	埋土上部	sh	Ⅲ		116	84
318	SAW	西区	攪乱	sh	Ⅲ		116	84
319	SAW	SD36	埋土	rsh	Ⅲ		116	84

第8表 石器観察表(縄文時代3)

掲載 No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	国版	写真
320	TSS	SB15P365	埋土	sh1	Ia		116	84
321	TSS	T	II層	rsh	Ia		116	84
322	TSS	東区北	I ~ II層	sh	Ia		116	84
323	TSS	P1435	埋土	sh	Ia		117	84
324	TSS	SD37	埋土	sh4	Ia		117	84
325	TSS	⑥	II層	sh	Ia		117	84
326	TSS	西側	I ~ II層	rsh	Ia		117	84
327	TSS	西側	I ~ II層	sh	Ia		117	85
328	TSS	SD28 西側	埋土上部	sh	Ia		117	85
329	TSS	T	II層	sh2	Ia		118	85
330	TSS	SK142	埋土	sh	Ib		118	85
331	TSS	西区	攪乱	sh	Ib	左側縁下部摩耗	118	85
332	TSS	SB13P334	埋土	sh1	Ib		118	85
333	TSS	T	II層	sh	IIa		118	85
334	TSS	SD28 西側	埋土	sh	IIa		118	85
335	TSS	SD19	埋土	sh	IIa		118	85
336	TSS	⑨	II層	sh	IIa		119	85
337	TSS	西側	I ~ II層	sh	IIa		119	85
338	TSS	SK86	埋土	sh	IIb		119	85
339	TSS	P372	埋土	sh	IIb		119	85
340	PA	SI11 北側	埋土	sh			119	85
341	PA	P1151	埋土	sh			119	85
342	PA	北東区	III層上面	ob4			119	85
343	PA	②	II層	sh			119	85
344	PA	U	II層	sh			119	85
345	PA	P1597	埋土	sh			119	85
346	PA	SK85	埋土	sh			119	85
347	PA	D	II層	tuf2			120	85
348	RF	SK59	埋土	sh	I		120	86
349	RF	SK65	埋土	sh	(I)		120	86
350	RF	SK67	埋土	sh	I		120	86
351	RF	SK38	埋土下部	sh	I		120	86
352	RF	SK86	埋土	sh	I		120	86
353	RF	SB05P230	埋土上部	sh4	I		120	86
354	RF	P1413	埋土下部	sh	I		120	86
355	RF	⑥	II層	sh	I		120	86
356	RF	⑤	II層	ob1	I		120	86
357	RF	B	II層	sh	I		121	86
358	RF	東区南端	I層下部	sh	I		121	86
359	RF	SI02	埋土	sh	II		121	86
360	RF	SI11 南側	埋土	sh	II		121	86
361	RF	SI11 南側	埋土	sh	(II)		121	86
362	RF	SI14・15	b1層	sh	(II)		121	86
363	RF	SK53	埋土	sh	II		121	86
364	RF	SK53	埋土	sh	II		121	86
365	RF	SK38	埋土	sh	II		121	86
366	RF	SK87	埋土	sh	(II)		121	86
367	RF	SB08P221	埋土	sh	II		121	86
368	RF	P1581	埋土	sh4	II		121	86
369	RF	P1671	埋土	sh	II		121	86
370	RF	②	II層	sh	II		122	86
371	RF	②	II層	sh	II		122	86
372	RF	M	II層	sh	II		122	86
373	RF	P	II層	ob5	II		122	86
374	RF	SD36	埋土	sh	II		122	86
375	RF	SX27	埋土	sh	II		122	86
376	RF	SX28	埋土	sh	II		122	86
377	RF	東区北端	排土一括	sh	II		122	86
378	RF	SD51 東側	埋土	ob4	II		122	86
379	RF	SD28 東側	埋土下部	sh	(II)		122	87
380	RF	SD28 中央	埋土上部	sh	II		123	87
381	RF	SI16 SE	埋土	sh	III		123	87
382	RF	S	II層	sh	III		123	87



第8表 石器観察表(縄文時代4)

掲載 No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写真
383	RF	南東区南	Ⅲ層上面	ob4	Ⅲ			123 87
384	RF	L	I層	sh	Ⅲ			123 87
385	RF	③	Ⅱ層	ob4	I	礫面有		123 87
386	RF	SK38	埋土	sh	I			123 87
387	RF	P1290	埋土	sh	I			123 87
388	RF	P1290	埋土	sh	Ⅱ			124 87
389	RF	SX26 西側北端	b埋土	ob2	I	礫面有		- 87
390	RF	SD51	埋土下部	ob2	I	自然面有		- 87
391	RF	不明	Ⅲ層上面	ob2	I	自然面有		- 87
392	RF	北東区	排土一括	ob3	I	礫面有		- 87
393	RF	- I	Ⅱ層	ob2	Ⅱ	礫面有		- 87
394	F	SI12	b1層	ob5				124 88
395	F	SI14・15 重SW	埋土	ob4				124 88
396	F	⑥	Ⅱ層	ob4		礫面有		124 88
397	F	SI12	b1層	ob4		礫面有		- 88
398	F	SK53	I層	ob4		礫面有		- 88
399	F	SK53	I層	ob4		礫面有		- 88
400	F	SK55	埋土	ob4		礫面有		- 88
401	F	SK58	埋土	ob4		礫面有		- 88
402	F	⑤	Ⅱ層	ob1		礫面有		- 88
403	F	09	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
404	F	04	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
405	F	04	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
406	F	A	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
407	F	A	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
408	F	D	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
409	F	H	Ⅱ層	ob5		礫面有		- 88
410	F	N	Ⅱ層	ob4		礫面有		- 88
411	F	P	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
412	F	R	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
413	F	T	Ⅱ層	ob4		礫面有		- 88
414	F	T	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
415	F	U	Ⅱ層	ob2		礫面有		- 88
416	F	O	Ⅲ層上面	ob2		礫面有		- 88
417	F	SK18	埋土	ob1		礫面有		- 89
418	F	SK82	埋土	ob5		礫面有		- 89
419	F	SX26 西側北半	埋土	ob5		礫面有		- 89
420	F	SD08	埋土	ob2		礫面有		- 89
421	F	SD28 東側	埋土下部	ob2		礫面有		- 89
422	F	SD29	埋土	ob4		礫面有		- 89
423	F	SD59	埋土	ob4		礫面有		- 89
424	F	SD114	埋土	ob2		礫面有		- 89
425	F	P131	埋土	ob2		礫面有		- 89
426	F	SB09P159	埋土	ob2		礫面有		- 89
427	F	P1475	埋土	ob4		礫面有		- 89
428	F	P1666	埋土	ob2		礫面有		- 89
429	F	西側	I~Ⅱ層	ob2		肌理面有		- 89
430	F	西側	I~Ⅱ層	ob2		礫面有		- 89
431	F	北西区	I~Ⅱ層	ob3		礫面有		- 89
432	F	T2	I層	ob2		礫面有		- 89
433	F	ⅢJ12ab	攪乱	ob2		被熱		- 89
434	F	ⅢJ13a	攪乱	ob3		礫面有		- 89
435	F	西区	攪乱	ob2		礫面有		- 89
436	F	不明	不明	ob2		礫面有		- 89
437	C	SI11 南側	埋土下部	ob4				- 89
438	C	SB41P1005	埋土	ob6				- 89
439	CO	SD28	埋土	sh				124 87
440	CO	SD08 東側	埋土	rsh1				125 87
441	RFM	P1290	埋土	sh				125 87
442	AxC	SI12 北側	埋土	hor1				126 90
443	AxC	SI14・15 重SW	埋土	hor				126 90
444	AxC	SK55	埋土	hor1				126 90
445	AxC	SB14P402	埋土	hor1				127 90

## 3 出土遺物

第8表 石器観察表(縄文時代5)

掲載No.	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	国版	写真
446	AXC	P1664 西側	埋土	hor1				127 90
447	AXC	④	Ⅱ層	dac3				127 90
448	AXC	O	Ⅱ層	hor1				128 90
449	AXC	Q	Ⅱ層	sh2				128 90
450	AXC	- Q	Ⅱ層	hor1				128 91
451	AXC	SD71	埋土	san2				129 91
452	AXC	T18	Ⅰ層	hor1				129 91
453	AXP	P121	埋土	sh1				130 91
454	AXP	P	Ⅱ層	sh2				130 91
455	AXP	P1290	埋土	sh2		刃部に剥離痕		130 91
456	AXP	I	Ⅱ層	sh2				130 91
457	AXP	SB15P370	埋土	sh2				130 91
458	AXP	⑥	Ⅱ層	sh3				131 91
459	AXP	P1248	埋土	sh2				131 91
460	AXP	K	Ⅱ層	sh2				131 91
461	PT	SK73	埋土上部	hor1				131 92
462	GS	SI14・15 重SW	埋土	an1	I			132 92
463	GS	SK64	埋土	an1	I			132 92
464	GS	SK66	底面直上 S1	an1	I			132 92
465	GS	SK69 Pit1	埋土	an1	I			132 92
466	GS	P1259	埋土	an1	I			132 92
467	GS	③	Ⅱ層	an1	I			132 92
468	GS	Q	Ⅱ層	an1	I			132 92
469	GS	西区	攪乱	an1	I			133 92
470	GS	SD28	埋土	an1	I			133 92
471	GS	SD37	埋土下部	an1	I	部分使用		133 92
472	GS	SH2 NE	埋土	an1	I			133 92
473	GS	SI14 SW	埋土	an1	I			133 92
474	GS	SD51 西側	埋土下部	an1	I	裏面部分使用		133 92
475	GS	P074	埋土	an1	I	部分使用		134 92
476	GS	P277	埋土	an1	I	中央部使用		134 92
477	GS	P1415	埋土下部	an1	I			134 92
478	GS	A	Ⅱ層	an1	I			134 93
479	GS	SD28 東側	埋土下部	an1	I			135 93
480	GS	SD36	埋土	an1	I			135 93
481	GS	P620	埋土	an1	I	側面部分使用		135 93
482	GS	SK36	埋土	an1	I			135 93
483	GS	⑬	Ⅱ層	an1	I	側面部分使用		135 93
484	GS	⑭	Ⅱ層	an1	I	側面下部使用		135 93
485	GS	SD37	埋土上部	an1	I	端部部分使用		136 93
486	GS	⑬	Ⅱ層	an1	Ⅱ	上端部分側面使用		136 93
487	GS	A	Ⅱ層	an1	Ⅱ	上端磨面、下端に敲打痕		136 93
488	GS	SB15P414	埋土	an1	Ⅱ			137 93
489	GS	⑬	Ⅱ層	an1	Ⅲ	表面回転運動の凹部(磨面より新しい)		137 93
490	GS	M	Ⅱ層	an1	Ⅲ	凹部が新しい		137 93
491	GS	SK87	埋土	an1	Ⅲ	表裏面とも磨面が新しい		137 93
492	GS	SK27	埋土	an1	Ⅲ	側縁に部分的な磨面が4箇所、磨面と凹部の新旧不明		137 93
493	GS	SK26 西側北半	埋土	an2	Ⅲ	相対する面に凹部		137 93
494	GS	SK53	Ⅰ層	an1	Ⅳ	裏面の一部に敲打痕		138 94
495	GS	P1509	埋土	an1	Ⅳ	表裏使用		138 94
496	GS	SK57	埋土	dac2	Ⅳ			138 94
497	GS	④	Ⅱ層	hor1	Ⅳ	側面部分使用		138 94
498	GS	P276	埋土	an1	Ⅳ	2個縁使用		138 94
499	GS	P276	埋土	an1	Ⅳ	表裏使用、片面に凹部(磨面が新しい)		138 94
500	GS	②	Ⅱ層	an1	Ⅳ	表裏使用、片面に凹部(磨面が古い)		139 94
501	GS	SD37 北端	埋土	an1	Ⅳ	表使用		139 94
502	GS	P1300	埋土	an1	Ⅳ			139 94
503	GS	P1561	埋土	an1	Ⅳ	表裏使用		139 94
504	GS	D	Ⅱ層	an1	Ⅳ	表裏使用		139 94
505	GS	SD28 東側	埋土上部	an1	Ⅳ	スタンプ形、下面使用		139 94

第8表 石器観察表(縄文時代6)

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
506	GS	SI16	b埋土	an1	IV	表使用	140	94
507	GS	SB46P1488	埋土	hor1	IV	対側面使用、上端使用(敲打)?	140	94
508	SWI	SK55	3・4層	an1			140	94
509	SWI	P1561	埋土	an2		側面とも回転運動	140	94
510	SWI	SD28 東側	埋土下部	an1			140	94
511	HS	SB13P342	埋土	figradiol	I		140	94
512	HS	④	II層	an1	I		141	95
513	HS	- S	II層	an1	I		141	95
514	HS	SD28 東側	埋土下部	an1	I	端部平坦化	141	95
515	HS	SD08	埋土	an3	II		141	95
516	HS	SB46P1488	埋土	an1	-		141	95
517	GRSL	SI11	埋土最上部	an1	II	縦い縁有り	141	95
518	GRSL	SX27	埋土	an2	I	縁に使用面	142	95
519	GRSL	SD28 東側	埋土上部	an	I		142	95
520	GRSL	⑥	II層	dac2	II	片面に細い縁有り	142	95
521	GRSL	SI12	b1層	an1	I	断面図有り	143	95
522	GRSL	SI12 南側	埋土	an1	I		143	96
523	GRSL	SI21 周溝1	埋土	an1	I	側面部分使用	143	96
524	GRSL	SK57	嵌面 SI	an1	I		144	96
525	GRSL	SK86	埋土	an1	I		144	96
526	GRSL	SX26 東側	埋土	an1	I		144	96
527	GRSL	SI21 周溝1	埋土	figradiol	II		145	96
528	GRSL	P578	埋土	an1	II		145	97
529	GRSL	⑤	II層	an1	II		146	97
530	AS	SX26 東側中央	埋土	dac2	II		146	97
531	WS	西区	攪乱	hor1	II		146	97
532	WS	西側	I~II層	san1	IV	溝状の使用痕	146	97
533	WS?	P1273	埋土	an1	IV	片面部分使用2箇所	146	97
534	WS	N	II層	dac1	IV	少なくとも2面使用	146	97
535	SSIN	SD37	埋土	an1			147	97
536	SSIN	SD28 中央	埋土上部	an1			147	97
537	SAR	SK142	埋土	tuf	Vd	全面風化	148	97

第9表 石製品観察表(縄文時代)

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	分類	備考	図版	写図
538	石棒類	SB15P414	埋土上部	sh2			148	98
539	石棒類?	P1476	埋土	sh2		未製品?	148	98
540	石棒類	⑤	II層	an1			148	98
541	石棒類	SD08	南側埋土	tuf2		542と同一個体か	148	98
542	石棒類	SD25	埋土	tuf2		541と同一個体か	148	98
543	石棒類	東道路	I層	sh2			148	98
544	石棒類	西区	風倒木	sh2			148	98
545	石棒類	西側	I~II層	sh2			149	98
546	玉類	U	II層	tal1			149	98
547	不明石製品	SK131	埋土	tal1			149	98
548	不明石製品	P1259	埋土	tal1		未製品?	149	98
549	不明石製品	P1260	埋土	tal1		未製品?	149	98
550	不明石製品	P661	埋土	sh2		端部に敲打調整が残る	149	98
551	不明石製品	SD37	埋土下部	tal1		塊状耳飾り未製品?	150	98
552	不明石製品	SX27	b埋土	sh2			150	98
553	不明石製品	東道路	I層	tuf3		片面平滑	150	98
554	不明石製品	P1551	埋土	san1			150	99
555	不明石製品	SD28 中央	埋土上部	an1		全体に太い線条痕	151	99
556	不明石製品	SD28 東側	埋土下部	an1		太い線条痕	151	99
557	有孔石器	SI02	b埋土上部	tuf3		楕円形の貫通孔	152	99
558	有孔石器	⑦	II層	tuf3		楕円形の貫通孔	152	99

## 3 出土遺物

第10表 石器計測表(縄文時代1)

種別	図柄 (cm)	図柄 (cm)	図柄 (cm)	打角 (°)	打角内 (°)	重量 (g)
195	3.03	1.27	0.51			1.51
196	2.16	1.33	0.64			1.30
197	3.02	1.61	0.67			2.18
198	2.96	1.66	0.79			2.96
199	4.11	2.65	0.59			5.15
200	2.66	2.54	0.45			3.08
201	2.25	1.78	0.56			1.45
202	2.46	1.66	0.54			1.61
203	3.32	2.18	0.44			2.46
204	3.10	1.88	0.77			2.91
206	2.21	1.67	0.41			0.96
206	3.03	2.23	0.46			2.21
207	2.22	1.52	0.46			1.18
208	3.28	1.98	0.39			2.75
209	2.28	1.42	0.48			1.16
210	2.91	2.11	0.66			2.41
211	2.81	1.69	0.61			1.86
212	2.51	1.52	0.35			0.94
213	3.01	2.05	0.54			2.39
214	3.19	1.27	0.47			1.48
215	3.16	1.79	0.58			2.40
216	4.20	1.78	0.46			2.03
217	1.91	0.99	0.34			0.44
218	3.74	1.78	0.40			2.52
219	3.90	2.00	0.34			2.08
220	4.56	2.46	0.59			4.01
221	3.06	1.77	0.44			1.85
222	1.87	1.41	0.39			0.75
223	2.99	1.64	0.52			2.12
224	1.76	0.80	0.30			0.46
225	3.18	1.91	0.52			2.12
226	3.99	1.71	0.61			3.08
227	3.28	1.57	0.80			1.94
228	3.48	1.98	0.43			2.14
229	3.09	1.84	0.41			1.30
230	2.49	1.50	0.33			0.93
231	3.61	1.81	0.62			2.35
232	2.92	1.48	0.53			1.55
233	2.46	1.86	0.36			1.14
234	4.19	2.01	0.42			2.76
235	3.69	1.88	0.62			3.51
236	2.76	1.73	0.46			1.58
237	5.13	1.94	0.50			4.36
238	2.69	1.69	0.46			1.28
239	3.12	1.71	0.47			1.65
240	2.62	1.81	0.44			1.59
241	2.81	1.78	0.61			1.70
242	2.01	1.27	0.33			0.73
243	2.04	1.34	0.29			1.60
244	3.28	1.89	0.50			2.21
245	4.10	1.93	0.44			2.63
246	2.61	1.61	0.42			1.35
247	1.94	1.72	0.39			0.87
248	2.89	1.70	0.60			1.44
249	4.47	1.90	0.50			3.06
250	2.58	1.81	0.50			1.25
251	2.52	1.70	0.70			2.00
252	2.68	1.81	0.42			1.45
253	2.67	1.98	0.38			1.74
254	1.59	1.08	0.27			0.52
255	1.91	1.33	0.43			0.64
256	2.54	1.26	0.47			0.92
257	2.13	0.96	0.51			0.72
258	1.81	0.90	0.46			0.56
259	3.25	2.14	0.74			4.52
260	1.90	1.42	0.58			0.99
261	3.70	2.08	0.94			5.43
262	3.87	1.72	0.46			2.41
263	2.41	1.67	0.43			2.03
264	4.36	2.91	1.08			9.90
265	4.20	2.68	1.44			14.81
266	1.86	0.79	0.30		54	0.57
267	6.12	3.75	1.40	111	66	24.02
268	3.84	2.35	0.72	106	L68374	5.90
269	6.70	5.27	1.48		66	48.13
270	9.30	3.69	1.81		56	48.79
271	7.12	4.51	1.79		69	32.59
272	8.30	3.68	1.74	121	53-70	52.69
273	6.44	4.10	1.48		69	31.90
274	3.36	4.64	1.14	90	59	13.58
275	5.38	8.07	2.31		E72963	60.48
276	2.97	4.52	1.19		64	14.63
277	3.87	8.42	1.25	106	46	22.80
278	2.11	1.26	0.52		L74996	1.48
279	1.82	1.49	0.52		66	0.95
280	7.71	6.18	3.56		70	103.27
281	4.32	3.46	1.25	101	63	18.28
282	2.44	2.41	0.64	107	78	3.98
283	3.59	3.56	1.80	121	74	35.75
284	3.42	3.59	1.24		53	13.14
285	2.62	3.34	0.98		E71049	7.57
286	6.65	4.38	1.39	105	E5074981	28.64
287	8.33	3.34	1.29		E7176672	30.79
288	3.38	4.44	1.25	111	47	31.62
289	6.25	4.82	1.53		30	39.23
290	8.39	3.90	1.53	92	51	47.44
291	7.03	3.09	1.41		L76932	27.06
292	4.79	1.94	0.93	106	L74842	8.65
293	7.51	3.30	1.34		L36356	29.84
294	4.43	3.06	0.50		L50949	7.05
295	9.72	4.17	2.34		L50950	81.86
296	4.28	2.79	0.90	117	76	10.44
297	3.10	2.26	0.65	110	81	3.43
298	8.02	3.24	1.60		65	48.10
299	4.49	2.04	0.95		55	9.37
300	5.14	2.51	0.98		61	11.51
301	11.59	5.78	2.44		57	111.91
302	6.22	4.17	1.26		60	32.68
303	7.59	4.63	1.28		26	36.72
304	11.42	4.20	2.77		44	105.09
305	5.69	3.32	1.49		67	21.56
306	4.01	2.79	1.30		38	10.88
307	7.28	3.77	1.78		45	43.07
308	1.99	1.92	0.34		0.73	
309	2.09	1.13	0.60		1.90	
310	4.74	2.39	0.68		3.03	
311	8.22	3.81	1.80		16.87	
312	3.95	2.23	0.74		4.56	
313	3.48	1.97	1.17		6.30	
314	4.23	2.13	0.93		7.52	
315	4.34	2.29	0.93	109	5.23	
316	3.49	1.86	0.88		4.30	
317	3.49	1.59	0.43		1.69	
318	3.52	1.95	0.52		2.94	
319	3.73	2.03	1.18		4.63	
320	8.42	2.77	1.40	120	L47847	15.09
321	6.49	1.67	0.92		L43557	6.79
322	8.96	2.68	1.09		L64933	22.08
323	6.77	2.81	1.01		43	13.44
324	2.11	1.40	0.60			1.33
325	7.42	4.86	1.15		40	28.24
326	3.42	2.02	0.76		53	2.93
327	8.61	4.41	1.26	102	L37850	36.75
328	6.38	5.42	1.30		E50145	
329	32.51					
329	6.64	4.45	0.99		46	19.31
330	6.35	3.75	1.14		L50839	22.12
331	7.72	4.12	1.05		E45141	
332	7.10	3.25	1.50		L65843	20.87
333	4.11	6.09	0.85		63	14.03
334	4.79	4.86	0.66		62	10.58
335	4.62	4.17	0.81		54	13.71
336	4.26	6.14	1.60		53	31.07

第10表 石器計測表(縄文時代2)

検出地	品名 (cm)	品名 (cm)	品名 (cm)	品名 (°)	品名 (°)	重量 (g)
327	(2.60)	(3.01)	(4.10)		30	2.32
338	4.13	6.43	1.59		51	28.66
339	3.71	6.54	1.21		36	26.49
340	1.94	2.82	0.57			2.51
341	2.08	1.47	1.03			2.74
342	2.27	3.52	1.05			5.26
343	1.81	2.39	0.62			2.52
344	(2.64)	(1.62)	(0.68)			3.01
345	(2.36)	(2.57)	(0.67)			4.03
346	(2.36)	(1.65)	(5.10)			2.11
347	5.65	6.65	2.87			94.40
348	(3.45)	(3.18)	(1.30)		64	8.52
349	(3.26)	(3.69)	(1.17)		61	14.25
350	(7.69)	3.48	1.05		51	20.15
351	4.82	2.22	1.96	127	64	11.46
352	(2.74)	(2.07)	(1.32)			6.32
353	(1.52)	(2.61)	(0.37)		89	1.61
354	6.95	3.25	0.96	111	46	16.26
355	(2.16)	(9.60)	(5.90)			1.34
356	3.39	1.24	0.82		75	2.49
357	4.89	2.89	1.31	116	51	11.27
358	1.81	2.87	0.98	97	86	11.52
359	(1.89)	(2.33)	(0.54)			1.93
360	(3.30)	(3.47)	(0.86)		L40950	7.86
361	(1.76)	(1.48)	(0.69)			1.36
362	(1.40)	(2.24)	(7.40)			2.15
363	3.28	2.45	1.18			12.80
364	(4.29)	(3.31)	(1.24)		L40R76	15.96
365	(2.83)	(1.54)	(0.36)			1.64
366	(3.04)	(3.27)	(1.02)			8.43
367	(2.57)	(2.74)	(0.58)		43	4.56
368	3.89	1.97	0.94			7.30
369	(5.15)	(6.72)	1.49	109	56	49.52
370	2.42	2.16	0.53			1.86
371	7.08	3.76	1.13		67	25.64
372	5.20	2.88	0.94		61	12.09
373	3.80	2.38	0.94		66	6.25
374	2.54	2.14	0.66			3.00
375	5.50	2.59	1.02			11.32
376	(4.57)	(4.21)	(1.12)	94		13.50
377	(2.60)	(2.70)	(0.70)		49	3.59
378	(2.01)	(1.41)	(0.39)		71	0.88
379	(2.43)	(1.49)	(0.26)			0.86
380	(4.73)	(5.23)	(1.23)		L40R64	29.12
381	(3.01)	(2.79)	(0.60)	105	31	13.26
382	3.06	2.93	1.08		65	7.99
383	(1.92)	(1.97)	(0.69)			2.52
384	5.87	2.56	1.66		E30R72	24.66
385	2.21	2.10	0.62		44	2.93
386	(3.16)	(2.89)	(1.03)	95	63	8.63
387	6.48	7.48	1.96	111		54.69
388	7.94	10.47	2.45	104	41	124.15
389	(2.96)	(2.11)	(1.21)		53	1.75
390	3.07	1.87	1.24	117	60	5.71
391	1.27	2.10	0.80		102	1.43
392	1.82	1.38	0.44	--	56	1.02
393	(2.22)	2.19	0.54		L40E102	2.29
394	2.71	0.96	0.42	--		0.54
395	(3.08)	(1.87)	(0.92)			3.82
396	(2.24)	1.95	1.18			1.86
397	(1.60)	(2.34)	(0.72)			1.32
398	(2.42)	(1.86)	(1.22)			2.66
399	(1.40)	(1.24)	(0.30)			0.32
400	(1.61)	(1.23)	(0.79)			1.09
401	1.20	2.30	0.52	--		0.92
402	(2.13)	(1.29)	(0.37)			1.49
403	(2.75)	0.62	(1.01)			1.10
404	(2.65)	(2.37)	(1.23)			1.41
405	(1.89)	(1.80)	(1.03)			1.69
406	3.31	1.57	0.79	--		2.52
407	(1.39)	(1.37)	(1.03)			1.62
408	(2.00)	1.27	(0.43)	--		0.66
409	(2.20)	(1.92)	(0.82)			1.78
410	(2.40)	(1.92)	(1.06)			4.64
411	(2.54)	(1.96)	(0.69)			2.74
412	2.02	1.18	0.80	--		1.75
413	(3.83)	(2.20)	(0.94)			4.24
414	(3.00)	2.32	1.02			4.53
415	(2.62)	(1.33)	(0.81)			2.85
416	(2.70)	(1.26)	(0.92)			2.64
417	(2.25)	1.92	0.75			1.76
418	1.83	2.14	0.70	80		2.36
419	(1.14)	(0.86)	(0.26)	86		0.18
420	2.08	0.97	0.37			0.39
421	(2.44)	1.58	(0.36)			1.18
422	(2.14)	(0.80)	(1.09)			1.49
423	(2.11)	(1.55)	(1.11)			3.65
424	0.90	1.23	0.29	--		0.18
425	(1.73)	(3.25)	(1.09)			4.47
426	(2.78)	(1.64)	(0.93)			4.38
427	(1.64)	(2.46)	(0.63)	85		1.87
428	(1.07)	(1.97)	(0.30)	--		0.53
429	(1.74)	(2.84)	(1.07)			4.97
430	(2.25)	(1.58)	(0.89)			1.68
431	(1.91)	(1.92)	(0.64)			1.81
432	(1.99)	(1.62)	(0.75)			1.44
433	2.84	(3.92)	1.21	--		9.12
434	1.20	(2.42)	(0.62)	82		0.68
435	(2.59)	(1.73)	(0.68)			0.93
436	(2.55)	(1.37)	(0.66)			1.69
437	(0.40)	(0.59)	(0.67)			0.88
438	(0.78)	(0.90)	(0.16)	88		0.88
439	3.50	5.16	3.88			67.74
440	5.08	6.95	5.68			196.69
441	8.59	11.39	3.71			
442	(10.10)	(5.97)	(3.74)			232.57
443	6.96	3.69	1.16			36.34
444	12.88	5.29	3.15			216.48
445	(16.01)	(7.56)	(3.93)			333.89
446	10.04	3.94	1.86			106.41
447	11.90	4.22	2.66			172.83
448	7.20	3.58	2.34			69.33
449	15.10	4.76	1.97			172.56
450	9.46	4.30	2.49			106.57
451	(12.56)	(6.34)	(2.97)			275.12
452	(13.18)	6.12	2.72			341.27
453	5.30	2.25	1.10			37
454	7.00	(4.50)	(1.90)			78
455	9.10	2.45	1.00			37
456	10.50	3.55	1.30			30
457	(5.10)	(1.60)	(0.70)			36
458	(6.60)	(2.60)	(1.10)			37
459	(10.45)	(4.60)	(1.60)			119.28
460	7.75	3.50	0.90			23
461	8.45	11.45	3.60			69
462	8.29	6.85	4.95			386.72
463	(12.60)	(0.50)	3.50			593.86
464	(8.30)	8.10	1.85			165.16
465	(13.40)	(9.90)	(6.80)			717.30
466	11.50	7.40	4.70			550.90
467	9.50	7.80	4.40			473.53
468	11.90	9.40	5.70			814.83
469	13.30	9.70	5.40			970.18
470	12.60	8.70	3.35			517.92
471	11.20	8.20	5.30			700.50
472	8.00	7.50	3.80			299.44
473	12.20	8.55	3.50			542.60
474	9.55	7.40	5.45			551.47
475	10.80	8.40	4.50			583.31
476	11.20	10.30	5.40			727.53
477	10.30	8.60	4.50			598.71
478	10.70	8.80	6.15			788.58
479	(12.90)	8.20	4.75			679.09
480	6.30	6.00	4.60			229.51

## 3 出土遺物

第10表 石器計測表(縄文時代3)

掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
881	9.10	8.50	4.80			539.00
882	13.00	7.65	5.30			640.01
883	12.20	7.70	4.55			580.71
884	8.85	6.90	5.65			459.01
885	12.70	8.70	5.20			779.19
886	15.25	9.80	9.45			2405.75
887	11.00	10.55	6.30			1039.56
888	12.60	5.85	2.85			339.32
889	8.65	7.80	4.10			338.49
890	(13.90)	(9.85)	4.00			738.03
891	10.15	8.05	3.90			446.27
892	10.20	9.05	6.10			829.73
893	6.80	5.20	4.90			81.14
894	13.85	7.05	5.35			727.88
895	15.30	7.15	4.95			757.90
896	9.10	(7.15)	(4.75)			377.65
897	(15.90)	6.00	4.15			303.57
898	(10.30)	(5.25)	(7.30)			541.76
899	11.70	7.00	4.35			505.92
900	14.15	6.20	5.60			783.87
901	13.00	8.20	4.30			602.90
902	13.00	5.55	5.35			528.55
903	(13.50)	(7.50)	(6.00)			752.49
904	16.00	7.75	6.40			1288.93
905	7.50	7.50	4.90			335.06
906	9.50	8.50	(4.60)			417.33
907	17.85	8.20	4.45			907.00
908	9.70	6.15	(3.85)			297.51
909	12.00	8.10	4.75			383.13

掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
910	10.85	6.40	4.50			335.58
911	8.90	8.75	4.90			527.43
912	13.00	6.90	3.85			412.96
913	13.00	7.40	5.80			690.33
914	15.50	3.90	2.30			179.37
915	14.40	6.55	2.70			447.88
916	14.90	5.55	(4.60)			411.72
917	(13.60)	(11.00)	(6.50)			1509.14
918	(12.60)	(10.40)	(6.30)			410.98
919	(17.60)	(14.50)	(4.30)			1335.45
920	(14.45)	(14.60)	(3.85)			1137.27
921	24.60	14.60	6.00			2292.11
922	22.70	(21.35)	(16.00)			2600.90
923	14.70	14.20	6.60			1903.23
924	13.70	12.65	9.95			2589.91
925	25.20	20.50	6.00			4500.00
926	(13.40)	(17.90)	(3.80)			1099.82
927	(23.80)	(21.40)	(15.30)			11200.00
928	(20.30)	(15.30)	(10.50)			1840.30
929	(16.70)	9.50	2.80			595.74
930	(18.60)	(11.60)	(2.60)			255.78
931	8.45	(6.15)	(2.50)			181.80
932	9.60	6.20	2.40			143.42
933	16.50	13.80	9.80			3000.60
934	(4.05)	(3.75)	(2.00)			32.01
935	8.20	9.35	2.90			288.59
936	6.80	8.75	2.40			184.84
937	3.35	1.85	0.55			2.04

( ): 残存値、| |: 推定値、- : 計測不可 L: 左側縁 R: 右側縁 E: 端部

第11表 石器計測表(縄文時代)

掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
538	(5.95)	(2.40)	(0.45)	7.48
539	(7.15)	(3.25)	(2.00)	60.60
540	(5.60)	(4.85)	(4.10)	111.10
541	(8.75)	(3.15)	(3.30)	111.38
542	(5.80)	(2.70)	(2.55)	64.57
543	(5.35)	(2.30)	(1.20)	18.61
544	(4.90)	(1.85)	(0.70)	4.46
545	(8.50)	(2.65)	(1.05)	32.54
546	(4.20)	(1.65)	(0.80)	5.19
547	(2.80)	(1.70)	(0.60)	3.70
548	(4.20)	(1.65)	(1.10)	10.14

掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
549	(5.15)	(2.50)	(0.80)	12.04
550	21.25	2.85	2.70	158.97
551	(2.95)	(1.60)	(0.75)	4.87
552	(5.05)	(0.90)	(1.15)	5.47
553	(3.70)	3.10	1.85	13.75
554	5.85	(5.90)	4.85	129.04
555	(5.70)	(5.60)	(5.75)	241.78
556	(18.00)	(8.35)	(8.15)	1431.56
557	6.70	3.55	2.80	73.35
558	8.50	4.05	3.10	90.91

【法量】( ): 残存値

第12表 石器・石製品計測表(古代以降)

掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
596	(12.80)	(9.80)	(8.00)	1281.70
597	(9.40)	(7.40)	(3.20)	114.79
598	(11.80)	(7.80)	(2.25)	14.48
599	(16.80)	8.60	(4.60)	494.69

掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
600	(5.80)	(4.45)	(5.60)	182.64
601	10.70	6.80	4.05	504.75
602	(8.80)	(5.30)	(5.00)	391.23
603	(5.40)	(4.00)	(1.65)	35.90

【法量】( ): 残存値

第13表 土器観察表 (平安時代)

掲載No	出土地点・層位	種別	器種	部位	調整	備考	図版	写真
559	SX01 埋土	土師	甕	体	ハケ→ヘラナデ 内:ハケ		153	100
560	SX21 埋土	土師	甕	口体	口:横ナデ 体:ハケ 内:ハケ	561と同一個体	153	100
561	SX21 東側 埋土	土師	甕	口	口:横ナデ 体:ハケ 内:ハケ	560と同一個体	153	100
562	SX21 東側 埋土	土師	甕	体	ヘラケズリ・ハケ 内:ヘラナデ	内面摩滅	153	100
563	SX22 埋土	土師	甕	口	横ナデ?	器面摩滅	153	100
564	SD36 埋土中	須恵	甕?	体	タタキ 内:ナデ		153	100
565	SD37 北側 埋土上部	須恵	坏	底	回転糸切り		153	100
566	SX26 東側中央 埋土	須恵	壺甕	体	内:横ナデ?		153	100
567	SX26 東側中央 埋土	須恵	甕	体	タタキ 内:当て具痕		153	100
568	Ⅲ J13ab 攪乱	須恵	壺甕	体	内:横ナデ、ナデ	自然釉	153	100
569	SD102 b埋土	須恵	転用甕?	-		甕の転用	153	100
570	④ Ⅱ層	須恵	転用甕?	-		瓶類の転用	153	100

第14表 かわらけ観察表

掲載No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写真
571	SD21 埋土	かわらけ	高台付皿	口底	9.4・・・・(1.9)	柱状高台欠、11C代	154	101
572	SD51 b2層	かわらけ	皿	口底	[11.2]・・・・2.1	てづくね、12C後	154	101
573	SD51 埋土	かわらけ	皿	口底	・・・(1.8)	てづくね、12C後	154	101
574	SD51 b1層	かわらけ	皿	口胴	・・・(1.9)	てづくね、12C後	154	101
575	東区南 排土一括	かわらけ	大皿	底	・・・	てづくね、12C代	154	101

【法量】口径・底径・器高、( ):残存値、[ ]:推定値

第15表 石器・硯観察表 (古代以降)

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	分類	備考	図版	写真
596	GRSL	SD71	埋土	an1	I	被熱	158	103
597	WS	SD19	埋土	an2	I	荒砥、溝状の使用痕	158	103
598	WS	SD28	埋土	dac1	II	荒砥	158	103
599	WS	SD28	埋土	an3	IV	中砥?	158	103
600	WS	SD28	埋土	an1	IV	中砥?	158	103
601	WS?	SK38	埋土下部	dac1	II	中砥?	158	103
602	WS	SD103	b埋土	dac1	IV	中砥?	158	103
603	IS	Ⅳ J11~14st	I層	sh2			159	103

## 3 出土遺物

第16表 陶磁器観察表(中近世)

掲載No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写真
576	SK121 1~2層	陶器	甕	体	- - - -	常滑産、内外面自然釉、外面軸流孔、12C後	155	101
577	SD101 埋土最上部	陶器	甕	体上	- - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
578	SX26 西側北半 埋土	陶器	甕	体上	- - - -	常滑産、外面自然釉、12~15C	155	101
579	③ II層	陶器	大甕	体上	- - - -	常滑産、外面自然釉、内面ヨコナデ、12C後	155	101
580	地点不明 III層上面	陶器	甕	体上	- - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
581	- R I層下部	陶器	甕	体上	- - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
582	東道路 I層	陶器	甕	頸	- - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
583	SD51 東側 埋土	陶器	甕類	体上	- - - -	渥美産、外面押印文・自然釉、12C前	155	101
584	② II層	陶器	甕類	体下	- - - -	渥美産、外面押印文、12C前	155	101
585	SD27 埋土最上部	陶器	甕類	体下	- - - - (6.0)	珠洲系、外面押印文、14~15C	156	102
586	G I層	陶器	瓶類	体	- - - -	瀬戸美濃産、灰釉13C代?	156	102
587	C II層	陶器	丸皿	口	- - - - (1.8)	瀬戸美濃産、灰釉、16C代	156	102
588	西側西 I~II層	陶器	皿	口底	[12.0]・[7.6]・2.7	瀬戸美濃産、志野釉、内面鉄絵、大窯4期	156	102
589	西側 I~II層	陶器	甕類	体下	- - - -	不明、外面鉄釉、不明	156	102
590	V J9・10Rs I~II層	青磁	皿	底	- - - - (1.4)	龍泉窯系、草花文?、14~15C	157	102
591	④ I~II層	青磁	皿	高台	- - - - (1.4)	龍泉窯系、14~15C	157	102
592	SD101 埋土	磁器	碗	口	- - - - (3.0)	肥前産、雪輪梅樹文?、18C後	157	102
593	② II層上部	磁器	皿	略完	8.4・3.4・2.2	肥前産、見込み角福、17C代	157	102
594	- V I層下部	磁器	皿	底	- - [4.4]・(1.3)	肥前産、17C後	157	102
595	北東区 I~II層	磁器	皿	底	- - - - (0.9)	肥前産、染付、17C後	157	102

【法量】口径・底径・器高、( ) : 残存値、[ ] : 推定値

第17表 銭貨・金属製品観察表

掲載No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写真
604	SK29 埋土一括	銭貨			天・洪:径2.5・厚0.1	天緒通寶(1017)と洪武通寶(1368)	160	103
605	SD51 埋土下部	鉄	板状	不明	(6.1)・(3.8)・(0.8)		161	103
606	SD51 西側 埋土下部	鉄	不明	不明	(6.6)・(3.8)・(2.2)		161	103
607	SD51 b3~5層	鉄	板状	不明	(2.8)・(1.1)・(0.4)		161	103
608	SD51 b2層	鉄	板状	不明	(4.7)・(3.3)・(0.45)		161	103
609	① II層	鉄	小刀	茎	(8.9)・(1.6)・(0.35)		161	103
610	- D II層	鉄	金具?		(1.9)・(2.5)・(0.6)		161	103
611	不明 I~II層	鉄	小刀?	茎?	(8.5)・(4.3)・(0.35)	木質部残	161	103
612	東道路 I層	鉄	角釘		13.2・-・1.1		161	103
613	E II層	鉄	不明		(6.6)・(4.3)・(3.2)		-	103
614	SD73 埋土	青銅	不明		- - - - (0.9)		161	103
615	SD51 埋土下部	鉄滓			- - - -		-	104
616	SD51 西側 底直	鉄滓			- - - -		-	104

【法量】器長・器高・器厚・径、( ) : 残存値、[ ] : 推定値

【出土地点・層位】b: ベルト 底直: 底面直上



## VI ま と め

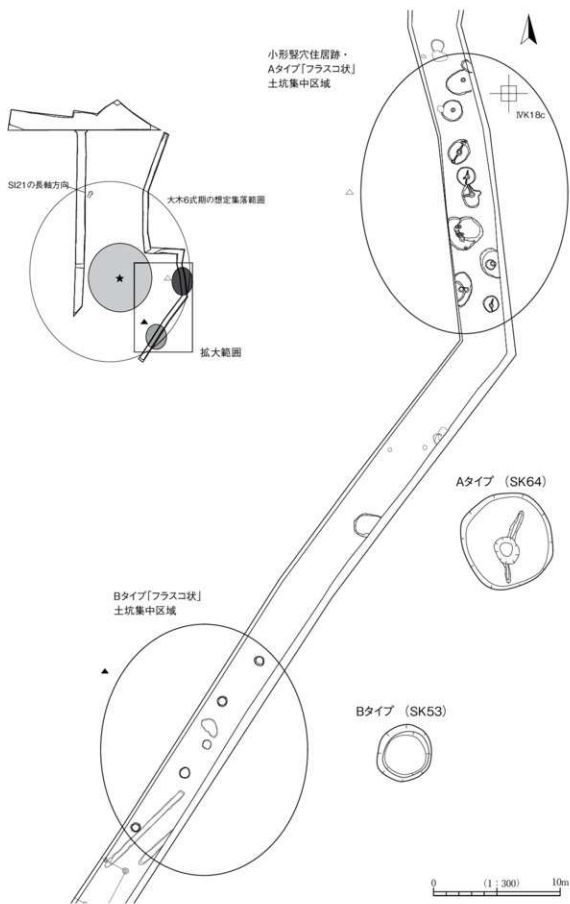
### 縄 文 時 代

今回の調査で確認された遺構・遺物のなかで、主となる時代の一つである。縄文時代前期の大木4式～6式の遺物が出土したが、その大半は大木6式である。今回確認された遺構の大半も同時期のものと捉えている。確認された遺構は竪穴住居跡、貯蔵穴、陥し穴等である。

竪穴住居跡は8棟検出された。SI02はH22年度調査区中央と北西区の境で検出された。平面形は歪な楕円形で、柱穴が2個確認できたが、炉は検出されなかった。出土した遺物から大木5式期に存在していた可能性が高い。SI11は南東区南で検出された。炉・柱穴とも持たないが、床面の硬化が確認された。時期の特定できる遺物が伴わないため、詳細な検討は困難であるが、本遺跡から出土する遺物を勘案すると、縄文時代前期後葉に帰属するものと考えられる。その他の6棟は出土遺物から、大木6式期に存在していた可能性が高い。SI21は周溝と柱穴が確認されたにすぎないが、その形状から、大形住居の可能性が想定される。その他の5棟は、南東区北でまとまって検出された。長軸は約2～3m、短軸は約2mの楕円形で、中央付近に1個の柱穴が伴うのが基本の小形竪穴住居跡である。残存する深さは20～30cmとあまり深くなく、決して残存状態が良好という状態ではないが、多くの土器が出土する傾向が見られる。この類似する小形竪穴住居跡は県内では奥州市胆沢区の大清水上遺跡、県外では山形県寒河江市の高瀬山遺跡で確認されている。

貯蔵穴と考えられるいわゆるフラスコ状土坑は2種類確認された。ひとつは前述の小形竪穴住居跡と同じ区域で確認されたものである。SK64～67・69の5基が該当する。規模は開口部で、長軸約1～2m、短軸約1～1.5mの円形もしくは楕円形で、中央に1個のPitが伴うのを基本とし、そのPitから溝が延びるものも大半で確認される。残存する深さは10～20cmと浅い。前述の小形住居跡と共通する部分も多いが、小形竪穴住居跡よりは小形であること、溝が構築されていること、土器が伴わないこと、等の相違点が見られる。壁のオーバーハングは確認できないが、底面付近のみが残存したものと考えているため、「フラスコ状」土坑と捉えた。こちらをAタイプとする。もう一方は、南東区南、Aタイプが密集する部分より40m程南で確認されたものである。SK53・55・56・58・59の5基が該当する。直径約0.6～0.8mの円形で、壁の全体もしくは一部がオーバーハングしている。残存する深さは40～80cmと深い。こちらをBタイプとする。本タイプはAタイプより、小形で、円形基調を呈する、底面にPitが伴わない等の違いが確認できる。相違点の由来を現段階では指摘できないが、集落内における占地の違いがはっきりしており、用途の違いがあることは想像に難くない。

これら個別の遺構を総合すると、第162図の★の範囲が集落の中心部で、SI21はその一部を構成するものと考えられる。長軸方向を第162図に示したが、中心部へとは向いていない。集落の縁辺部である△に小形竪穴住居、Aタイプのフラスコ状土坑、▲にBタイプのフラスコ状土坑が配置される集落の構造が想定される。県内南部において、当該期の遺構・遺物が確認された調査遺跡は、大館町遺跡（盛岡市）、上八木田I遺跡（盛岡市）、塩ヶ森I遺跡（雫石町）、小日谷地I B遺跡（雫石町）、久田野II遺跡（花巻市）、山の神遺跡（花巻市）、高畑遺跡（花巻市）、峠山牧場I遺跡B地区（西和賀町）、白木野I遺跡（西和賀町）、清水ヶ野遺跡（西和賀町）、蟹沢館遺跡（北上市）、新平遺跡（北上市）、鳩岡崎上の台遺跡（北上市）、煤孫遺跡（北上市）、滝ノ沢遺跡（北上市）、鹿島館遺跡（北上市）、横町遺跡（北上市）、樺山遺跡（北上市）、和光6区遺跡（金ヶ崎町）、中島遺跡（奥州市水沢区）、



第162図 縄文時代の遺構配置

新田遺跡（奥州市江刺区）、宝生寺跡（奥州市江刺区）、大中田遺跡（奥州市江刺区）、浅野遺跡（奥州市胆沢区）、大清水上遺跡（奥州市胆沢区）、庄司合遺跡（一関市）、清田台遺跡（一関市）がある。これらの遺跡との比較も必要となろう。今後、集落の中心部及び縁辺部の範囲の調査が行われる機会を待って、詳細な検討を行いたいと考えている。

## 平安時代

焼土遺構 1 基と不明遺構としたカマド状遺構が当該期の遺構である。遺構数・遺物量とも少なく、詳細な内容は不明である。

## 12 世紀

てづくねかわらけが出土した溝跡 1 条が該当する遺構である。一部しか確認できないため、詳細な内容は不明である。しかし、本遺跡の周辺でも当該期の遺構・遺物が散見され、当地域に奥州藤原氏の影響が及んでいることを裏付ける貴重な資料と言えよう。

## 中世

当該期に帰属する遺構は掘立柱建物跡 36 棟、堀跡 3 条、溝跡 24 条、土坑 9 基、道路状遺構 1 条、柱穴 1002 個である。これらの遺構の中心は環濠屋敷が構築された 14～15 世紀と考えられる。

確認された掘立柱建物跡 36 棟を平面形態と桁行きの柱間寸法から 3 類 11 種に分類した。

掘立柱建物 I a 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 200cm (6.6 尺) 以下のもの。SB45・52 の 2 棟である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は 230cm (7.6 尺) である。

掘立柱建物 I b 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 220cm (7.3 尺) 以上 270cm (8.9 尺) 以下のもの。SB06・07・10・53・54・58 の 6 棟である。桁行きは、基本的に 4 間である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は SB06・54・58 が 220cm (7.3 尺)、SB07 が 230cm (7.6 尺)、SB53 が 240cm (7.9 尺)、SB10 が 350cm (11.5 尺) である。確認できる遺構の面積は SB10 の 22.5 坪が最大で、SB06 の 13.2 坪が最小である。

掘立柱建物 I c 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 300cm (9.9 尺) 以上のもの。SB15・43・44 の 3 棟である。桁行きは 4 間である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は SB15 が 200cm (6.6 尺)、SB44 が 220cm (7.3 尺)、SB43 が 250cm (8.3 尺) である。確認できる遺構の面積は 15～20 坪である。

掘立柱建物 I d 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。使用される桁行きの柱間寸法に規則性が見いだせないもの。SB13・20・46 の 3 棟である。桁行きは、基本的に 4 間である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は SB13 が 220cm (7.3 尺)、SB20 が 230cm (7.6 尺)、SB46 が 320cm (10.6 尺) である。確認できる遺構の面積は 13～18 坪である。

掘立柱建物 II a 類 身舎の梁間が 1 間の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 200cm (6.6 尺) 以下のもの。SB19・41・42・55 の 4 棟である。桁行きは、基本的に 4 間である。梁間の柱間寸法は SB19・41 が 380cm (12.5 尺)、SB55 が 420cm (13.9 尺)、SB42 が 470cm (15.5 尺) である。確認で

きる遺構の面積は9～10坪である。

掘立柱建物Ⅱb類 身舎の梁間が1間の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が220cm(7.3尺)以上270cm(8.9尺)以下のもの。SB02・04・08・11・16・56・60・61の9棟である。桁行きはSB04が3間、SB02・16が4間、SB08・11が5間と様々である。梁間の柱間寸法はSB60が340cm(11.2尺)、SB02・56が420cm(13.9尺)、SB16が470cm(15.5尺)、SB03が530cm(17.5尺)、SB08が540cm(17.8尺)、SB11が700cm(23.1尺)である。確認できる遺構の面積はSB11の28.6坪が最大で、SB02の11.7坪が最小である。

掘立柱建物Ⅱc類 身舎の梁間が1間の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が300cm(9.9尺)以上のもの。SB14の1棟である。桁行きは4間である。梁間の柱間寸法は360cm(11.9尺)である。面積は13.5坪である。

掘立柱建物Ⅱd類 身舎の梁間が1間の建物。使用される桁行きの柱間寸法に規則性が見いだせないもの。SB05・09の2棟である。桁行きはSB09が5間である。梁間の柱間寸法はSB05が350cm(11.5尺)、SB09が580cm(19.1尺)である。確認できる遺構の面積はSB09が25.5坪と規模の大きな部類に含まれる。

掘立柱建物Ⅲa類 身舎の梁間が不明の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が200cm(6.6尺)以下のもの。SB17の1棟である。桁行きは4間である。

掘立柱建物Ⅲb類 身舎の梁間が不明の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が220cm(7.3尺)以上270cm(8.9尺)以下のもの。SB01・12・18の3棟である。桁行きはSB01・12が4間、SB18が6間である。

掘立柱建物Ⅲc類 身舎の梁間が不明の建物。使用される桁行きの柱間寸法に規則性が見いだせないもの。SB51・59の2棟である。

桁行き方向を建物の主軸線と捉え、その傾きについてみると、座標北から東に振れるものは14棟、西に振れるものは20棟、判断できないものが2棟である。前述の分類をもとに、主軸線の分布を示したのが第164図である。全体を概観すると、N60～89°W、N20～30°E、N55～89°Eの3箇所を集約される。環濠屋敷を構成する堀(大溝)は北辺がN65°W前後(直交するとN25°E前後)、東辺がN25°E前後(直交するとN65°W前後)である。N60～89°Wの一部とN20～30°Eの2箇所に集中する掘立柱建物は、この堀による占地の制約があるものと考えられる。分類別では、Ⅰa類は堀の制約をほとんど受けていない。Ⅰb類・Ⅰd類は、一部が制約を受けているが、大半は受けていない。Ⅰc類・Ⅱd類は堀の影響を大きく受けており、堀と同時に存在していたか、堀の存在が意識下にある時期の遺構の可能性が高い。Ⅱa類は、影響下にあるものと、ないものが半々である。Ⅱb類の多くは、影響を受けているが、影響下でないものも存在する。

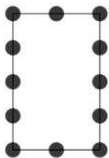
これらの掘立柱建物跡の多くは、道路状遺構であるSX26とも重複している。大半はプラン上での重複であるが、SB06とSB09を構成する柱穴がSX26と切り合っており、その新旧関係はSB09掘立柱建物跡(旧)→SX26道路状遺構→SB06掘立柱建物跡(新)である。また、掘立柱建物跡間でも重複している。こちらも、SX26道路状遺構との関係と同じであるが、SB13掘立柱建物跡とSB14掘立柱建物跡を構成する柱穴が切り合っており、SB14掘立柱建物跡が新しい。これらのことから、今回の調査で確認された掘立柱建物の大きな傾向としては、環濠屋敷を構成する堀(環濠)の影響を大きく受けた一群(掘立柱建物Ⅰc類・掘立柱建物Ⅱd類)→(掘立柱建物Ⅱa類・掘立柱建物Ⅱb類)→(掘立柱建物Ⅰb類・掘立柱建物Ⅰd類)→堀(環濠)の制約をほとんど受けない一群(掘立柱建物Ⅰa類・掘立柱建物Ⅱc類)へと移り変わっていくと考えられる。しかし、環濠屋敷が構築される

以前については、不明であるため、これらの掘立柱建物に、最古段階とも言うべきものが存在している可能性は否定できない。

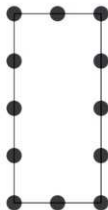
## 総括

平成8年度及び平成14年度の調査結果から、縄文時代前期、平安時代、12世紀、中世と断続的に利用されてきた場所であることが想定されていたが、今回の調査で、そのことをさらに裏付けるものとなった。平成23年度の調査区は幅数メートルの細長い調査区であり、各時期の様相を解明するためには、今後の調査を待たねばならないが、当地域に貴重な資料を提供できたものと考えられる。判明したことを列挙すると次のようになる。①縄文時代前期には集落として利用された時期と符號の場として利用された時期がある。集落の縁辺部に2種類の貯蔵穴と小形の竪穴住居跡が見られる。②平安時代の居住域は確認できなかったが、焼土遺構や土師器が確認でき、調査区以外の場所もしくは隣接地に集落が存在する可能性が高い。③12世紀に帰属する遺構・遺物が少量であるが、確認された。④14～15世紀を中心とする環濠屋敷が存在し、その環濠(堀)の外側にも多数の建物跡が確認された。詳細な変遷を追うことはできなかったが、堀(環濠)やSX26道路状遺構を中心に考えると、少なくとも3時期の変遷があるものと考えられる。

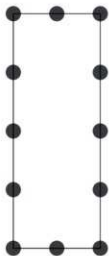
掘立柱建物Ia類



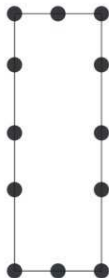
掘立柱建物Ib類



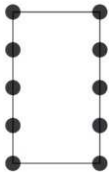
掘立柱建物Ic類



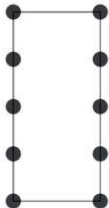
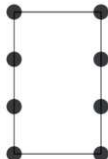
掘立柱建物Id類



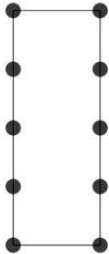
掘立柱建物IIa類



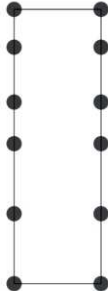
掘立柱建物IIb類



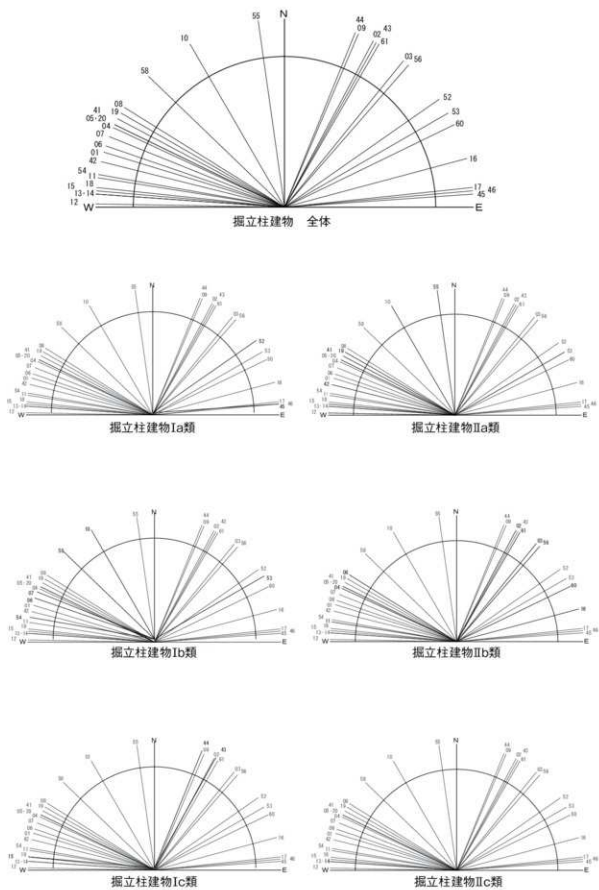
掘立柱建物IIc類



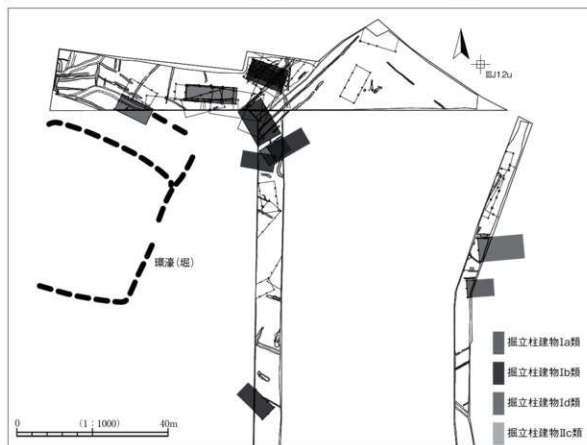
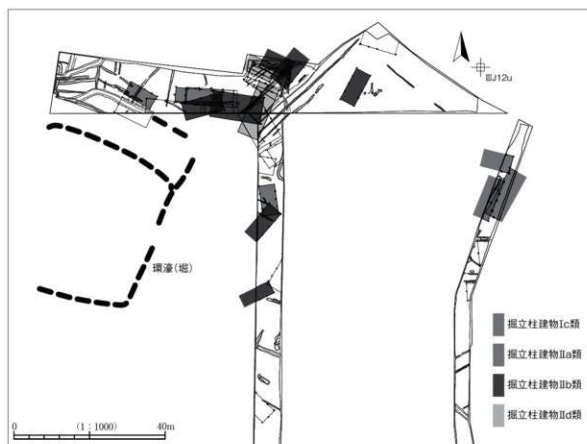
掘立柱建物IId類



第 163 図 掘立柱建物分類図



第 164 図 据立柱建物主軸方向分布



第 165 図 掘立柱建物分布図



## 引用・参考文献（編著者姓の五十音順）

- (若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩文埋報第〇集と表記している)
- 赤羽一郎 1987 「常滑」『日本やきもの集成2 東海甲信越』新装版第一刷 平凡社
- 胆沢町教育委員会 1985 「大清水上遺跡発掘調査報告書」胆沢町埋蔵文化財報告書第15集
- 伊藤博幸 1998 「北上盆地南部」『東北地方の古代集落』第3分冊  
第24回古代城権官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
- 稲野彰子 1991 「大木式土器にみられる球形形深鉢について」『北上市立博物館研究報告』第8号 北上市立博物館
- 井上喜久男 1987 「瀬戸の中世窯」『日本やきもの集成3 瀬戸美濃飛騨』新装版第一刷 平凡社
- 井上雅孝 1997 「陸奥における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号
- 若手県教育委員会 1986 「若手県中世城館跡分布調査報告書」若手県文化財調査報告書第82集
- 若手県立博物館 1982 「若手の土器」
- 及川真紀 2000 「若手県前沢町田高Ⅱ遺跡の再検討」『館研究』第2号 若手の館研究会
- 大川 清・鈴木公雄・工業善道編 1996 『日本土器事典』雄山閣出版
- 小笠原好彦 1968 「東北地方南部における前期末から中期初頭の縄文式土器」  
『仙台湾周辺の考古学的研究 宮城県の地理と歴史』第3集 宮城県教育大学歴史研究会編
- 小野田勝一 1987 「瀧美」『日本やきもの集成2 東海甲信越』新装版第一刷 平凡社
- 北上市教育委員会 1983 「滝ノ沢遺跡(1977～1982年度調査)」北上市文化財調査報告第33集  
1990 「滝ノ沢遺跡Ⅱ(1989年度)」北上市文化財調査報告第60集  
1991 「滝ノ沢遺跡Ⅲ(1984・86・87・88・90年度調査)」北上市文化財調査報告第63集
- 興野義一 1968 「大木式土器理解のために(Ⅳ)」『考古学ジャーナル』№24 ニューサイエンス社  
1969 「大木式土器理解のために(Ⅴ)」『考古学ジャーナル』№32 ニューサイエンス社  
1970 「大木式土器理解のために(Ⅵ)」『考古学ジャーナル』№48 ニューサイエンス社  
1970 「大木5b式土器の提唱」『古代文化』第141号(財)古代学協会  
1984 「大木式土器について」『宮城の研究』第1巻 考古学誌 清文堂  
1996 「山内清男先生供与の大木式土器写真セットについて」『画龍点睛』山内先生没後25年記念論集刊行会
- (公財) 若手県文化振興事業団  
2012 「滝ノ沢遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第590集
- 小林達雄 1994 『縄文土器の研究』小学館  
1996 『縄文人の世界』朝日選書  
2008 『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- (財) 若手県文化振興事業団  
1983 「上里遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第55集  
1987 「和光6区遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第114集  
1994 「煤孫遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第196集  
1996 「菊岡崎上の台遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第240集  
1996 「牧田貝塚発掘調査報告書」岩文埋報第241集  
2000 「川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第317集  
2000 「鈴山牧場1遺跡B地区発掘調査報告書」岩文埋報第320集  
2001 「清水ヶ野遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第351集  
2003 「新田遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第405集  
2004 「大中田遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第429集  
2004 「宝性寺跡発掘調査報告書」岩文埋報第441集  
2005 「滝ノ沢地区遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第456集  
2006 「大清水上遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第475集  
2008 「道上遺跡第2次発掘調査報告書」岩文埋報第518集  
2008 「六日市場・細田・接待館遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第523集  
2009 「鶴ノ木遺跡発掘調査報告書」岩文埋報第527集

- 2009 「道土遺跡第3次・合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書」 岩文埋報第544集
- 2011 「下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩文埋報第564集
- 2011 「台太郎遺跡第66次発掘調査報告書」 岩文埋報第579集
- 2011 「水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡発掘調査報告書」 岩文埋報第587集
- (財)山形県埋蔵文化財センター 2004 「高瀬山遺跡(1期)第1~4次発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第121集
- 白鳥良一 1989 「前明大木式土器様式」『縄文土器大観』小学館
- 杉沢昭太郎 2003 「(3)陸奥北部1-岩手県- 2)13世紀~16世紀のかわらけ」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編
- 鈴木道之助 1990 「石器入門事典 縄文」柏書房
- 田口昭二 1987 「美濃の中世窯」『日本やきもの集成3 瀬戸美濃飛騨 新装版第一刷』平凡社
- 永井久美男 1996 「日本出土銭総覧」1996年版 兵庫埋蔵銭調査会
- 中川久夫ほか 1963 「北上川上流沿岸の第四系および地形」『地質学雑誌』69
- 橋崎彰一 1990 「日本の陶磁古代中世篇 5 越前珠洲」中央公論社
- 丹羽 茂 1981 「大木式土器」『縄文文化の研究』2 雄山閣出版
- 野上建紀 2000 「磁器の福年」『九州陶磁の福年』九州近世陶磁学会
- 林 謙作 1965 「東北地方」『日本の考古学Ⅱ』河出書房新社
- 前沢町 1974 「前沢町史 上巻」
- 前沢町教育委員会 1977 「明後沢遺跡第3次発掘調査概報」
- 1978 「明後沢遺跡第4次発掘調査概報」
- 1998 「町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ 古城・白山地区」岩手県前沢町文化財調査報告書第6集
- 1999 「町内遺跡発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第7集
- 2000 「前沢町遺跡地区」岩手県前沢町文化財調査報告書第11集
- 2004 「田高Ⅱ遺跡第2次発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第15集
- 2004 「川岸場Ⅰ遺跡第2次発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第16集
- 前沢町農業協同組合・前沢町教育委員会
- 1997 「田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第4集
- 松田光太郎 2003 「大木6式土器の変遷とその地域性-縄文時代前期末葉の東北地方中・南部の土器編年-」『神奈川考古』第39号
- 宮石宗弘 1987 「瀬戸の近世窯」『日本やきもの集成3 瀬戸美濃飛騨 新装版第一刷』平凡社
- 盛岡市教育委員会 1978 「岩手県盛岡市大館町遺跡-昭和51年度発掘調査概報-」盛岡市文化財調査報告書第20集
- 八木光則ほか 1998 「馬淵川流域」『東北地方の古代集落』第1分冊 第24回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
- 山本忠尚・松井 章 1988 「Japanese-English Dictionary of Japanese Archaeology (日本考古学用語英訳辞典(稿本))」奈良国立文化財研究所